

2023年度

シラバス

岐阜保健大学

看護学部

2023年度 看護学部 シラバス目次

番号	科目区分	授業コード	授業科目の名称	配当年次	単位	担当教員	頁
1	基本教育科目-思考力の養成	111001	基礎ゼミナール	1年 前期 必修	1	専任教員全員	1
2	基本教育科目-思考力の養成	111002	情報科学	1年 前期 必修	1	高久道子	3
3	基本教育科目-思考力の養成	111003	情報科学の実践	1年 前期 選択	1	高久道子, 國澤英雄	5
4	基本教育科目-思考力の養成	111004	基礎統計学	1年 前期 必修	1	國澤英雄	7
5	基本教育科目-思考力の養成	111005	問題解決法	1年 後期 選択	1	小野悟	9
6	基本教育科目-表現力の養成	111006	英語Ⅰ	1年 前期 必修	1	高久道子, Mandziak	11
7	基本教育科目-表現力の養成	111007	英語Ⅱ	1年 後期 必修	1	高久道子	13
8	基本教育科目-表現力の養成	111008	英語Ⅲ	3年 前期 選択	1	高久道子	15
9	基本教育科目-表現力の養成	111009	英語Ⅳ	4年 後期 選択	1	高久道子	17
10	基本教育科目-表現力の養成	111010	日本語Ⅰ	1年 前期 必修	1	伊藤亜希子	19
11	基本教育科目-表現力の養成	111011	日本語Ⅱ	2年 前期 選択	1	伊藤亜希子	21
12	基本教育科目-表現力の養成	111012	手話	1年 後期 選択	1	亀井明子	23
13	基本教育科目-表現力の養成	111013	中国語Ⅰ	2年 前期 選択	1	干海	25
14	基本教育科目-表現力の養成	111014	中国語Ⅱ	2年 後期 選択	1	干海	26
15	基本教育科目-人間力の育成	111015	自己管理と社会規範（性教育含む）	1年 前期 必修	2	石井英子、野田みや子 高久道子、吉崎純夫	27
16	基本教育科目-人間力の育成	111016	哲学	2年 前期 選択	1	鷺見コト江	29
17	基本教育科目-人間力の育成	111017	他者理解と信頼関係	2年 後期 必修	2	井上真人	30
18	基本教育科目-人間力の育成	111018	地域活動と社会貢献（ボランティア含む）	1年 後期 必修	2	高久道子、小萱康徳	31
19	基本教育科目-人間の理解	111019	現代の倫理	1年 前期 必修	2	鷺見コト江	33
20	基本教育科目-人間の理解	111020	心理と行動	1年 後期 選択	2	野田みや子、小野 悟	34
21	基本教育科目-人間の理解	111021	学習と行動	1年 前期 選択	2	稲葉政徳	36
22	基本教育科目-人間の理解	111022	健康と生活	1年 前期 選択	2	稲葉政徳	37
23	基本教育科目-人間の理解	111023	岐阜県の歴史と文化	1年 後期 選択	2	野田みや子、高久道子	39
24	基本教育科目-人間の理解	111024	多文化と多様性の理解	1年 前期 必修	2	内藤直子、高久道子	41
25	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解	111025	人体構造機能学Ⅰ	1年 前期 必修	1	永井博弼	43
26	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解	111026	人体構造機能学Ⅱ	1年 後期 必修	1	小萱康徳	45
27	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解	111027	人体構造機能学Ⅲ	2年 前期 必修	1	小萱康徳	47
28	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解	111028	生体防御学	2年 前期 必修	1	永井博弼 太田美智男	49
29	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解	111029	医療薬理学	2年 後期 必修	1	永井博弼	51
30	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解	111030	病理学	2年 前期 必修	1	佐藤 勝	53
31	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解	111031	疾病治療論Ⅰ（成人A）	1年 後期 必修	1	河田美紀	54
32	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解	111032	疾病治療論Ⅱ（成人B）	1年 後期 必修	1	河田美紀	56
33	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解	111033	疾病治療論Ⅲ（精神・高齢者）	2年 前期 必修	1	河田美紀、井上真人	58
34	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解	111034	疾病治療論Ⅳ（小児・母性）	2年 前期 必修	2	尾藤長雄、近藤直実	60
35	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解	111035	栄養治療学（健康へのアプローチ）	2年 前期 必修	2	藤原奈佳子	61
36	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解	111036	健康と運動	1年 後期 必修	1	青井俊久	63
37	専門教育関連科目-社会と環境の理解	111037	公衆衛生学	2年 前期 必修	1	船橋香緒里	64
38	専門教育関連科目-社会と環境の理解	111038	保健統計学	1年 後期 必修	1	高久道子、國澤英雄	65
39	専門教育関連科目-社会と環境の理解	111039	社会保障論	2年 前期 必修	1	船橋香緒里	67
40	専門教育関連科目-社会と環境の理解	111040	日本国憲法（法と人権・含看護関係法規）	2年 前期 必修	2	市川 季夫	68
41	専門教育関連科目-社会と環境の理解	111041	家族看護論	2年 後期 必修	1	野田みや子	69
42	専門教育関連科目-社会と環境の理解	111042	保健看護情報学	2年 前期 必修	1	永坂和子、吉崎純夫	70
43	専門看護教育科目-基礎看護学	111043	看護学概論	1年 前期 必修	2	山本澄子	71
44	専門看護教育科目-基礎看護学	111044	看護援助方法論Ⅰ	1年 前期 必修	1	山本澄子、原田英子	73
45	専門看護教育科目-基礎看護学	111045	看護援助方法論Ⅱ	1年 後期 必修	1	山本澄子、原田英子	75
46	専門看護教育科目-基礎看護学	111046	看護援助方法論Ⅲ	1年 後期 必修	1	山本澄子、原田英子	77
47	専門看護教育科目-基礎看護学	111047	看護過程演習	2年 前期 必修	2	山本澄子、原田英子	79
48	専門看護教育科目-基礎看護学	111048	フィジカルアセスメント	2年 前期 必修	1	原田英子、山本澄子	82
49	専門看護教育科目-基礎看護学	111049	看護マネジメント	3年 前期 必修	1	平岡翠、永坂和子	85
50	専門看護教育科目-基礎看護学	111050	看護理論	1年 後期 必修	1	山本澄子、内藤直子、野田みや子	87
51	専門看護教育科目-基礎看護学	111051	看護倫理	1年 前期 必修	1	平岡翠、内藤直子	89
52	専門看護教育科目-基礎看護学	111052	基礎看護学実習Ⅰ	1年 前期 必修	1	山本澄子、原田英子、水木幸子	91
53	専門看護教育科目-基礎看護学	111053	基礎看護学実習Ⅱ	2年 後期 必修	2	原田英子、山本澄子、水木幸子	93

番号	科目区分	授業コード	授業科目の名称	配当年次	単位	担当教員	頁
54	専門看護教育科目-地域・在宅看護学	111054	地域・在宅看護学概論	1年 後期 必修	2	鈴木岸子	95
55	専門看護教育科目-地域・在宅看護学	111055	地域・在宅看護援助論Ⅰ	2年 後期 必修	2	鈴木岸子、栗津昌枝	97
56	専門看護教育科目-地域・在宅看護学	111056	地域・在宅看護援助論Ⅱ	2年 後期 必修	1	鈴木岸子、栗津昌枝、石井英子	99
57	専門看護教育科目-地域・在宅看護学	111057	地域包括ケア・多職種連携論	3年 前期 必修	2	鈴木岸子	101
58	専門看護教育科目-地域・在宅看護学	111058	岐阜県の地域医療	4年 後期 必修	1	石井英子・青木成広、渡邊芳久、 豊田雅孝、瀧瀬正浩、玉木ひとみ	103
59	専門看護教育科目-地域・在宅看護学	111059	地域・在宅看護学実習Ⅰ (予防的家庭訪問・地区診断)	3年 前期 必修	1	鈴木岸子、栗津昌枝	104
60	専門看護教育科目-地域・在宅看護学	111060	地域・在宅看護学実習Ⅱ	3年 後期 必修	1	鈴木岸子、栗津昌枝	106
61	専門看護教育科目-精神看護学	111061	精神看護学概論	2年 前期 選択	1	多喜田恵子	107
62	専門看護教育科目-精神看護学	111062	精神看護援助論Ⅰ	2年 後期 必修	2	多喜田恵子、小野 悟	109
63	専門看護教育科目-精神看護学	111063	精神看護援助論Ⅱ	3年 前期 必修	1	多喜田恵子、小野 悟	111
64	専門看護教育科目-精神看護学	111064	精神看護学実習	3年 後期 必修	1	多喜田恵子、小野 悟	113
65	専門教育科目 -成人・老年看護学	111065	成人・老年看護学概論	1年 後期 必修	1	永坂和子、梶原志保子	114
66	専門教育科目 -成人・老年看護学	111066	成人・老年看護援助論Ⅰ (成人・老年期の保健活動)	2年 前期 必修	3	永坂和子、梶原志保子	116
67	専門教育科目 -成人・老年看護学	111067	成人・老年看護援助論Ⅱ (疾患別健康援助看護Ⅰ)	2年 前期 必修	2	梶原志保子、吉崎純夫	118
68	専門教育科目 -成人・老年看護学	111068	成人・老年看護援助論Ⅲ (疾患別健康援助看護Ⅱ)	2年 後期 必修	1	永坂和子、梶原志保子、吉崎純夫	120
69	専門教育科目 -成人・老年看護学	111069	成人・老年看護援助論Ⅳ (健康障害-がん・終末と周手術期看護)	2年 後期 必修	1	梶原志保子、吉崎純夫	123
70	専門教育科目 -成人・老年看護学	111070	成人・老年看護援助論Ⅴ (機能障害の看護)	3年 前期 必修	2	永坂和子、梶原志保子、吉崎純夫	125
71	専門教育科目 -成人・老年看護学	111071	成人・老年看護援助論Ⅵ (老年期による看護)	3年 前期 必修	2	永坂和子、梶原志保子、吉崎純夫	127
72	専門教育科目 -成人・老年看護学	111072	成人・老年看護学演習 (成人・老年看護技術)	3年 前期 必修	1	永坂和子、梶原志保子、吉崎純夫	129
73	専門教育科目 -成人・老年看護学	111073	成人・老年看護学実習Ⅰ (看護過程と看護技術) 学内	3年 後期 必修	1	永坂和子、梶原志保子、吉崎純夫	131
74	専門教育科目 -成人・老年看護学	111074	成人・老年看護学実習Ⅱ (急性期・慢性期・施設)	3年 後期 必修	2	永坂和子、梶原志保子、吉崎純夫	132
75	専門教育科目 -母性看護学	111075	母性看護学概論	2年 前期 必修	1	野田みや子	133
76	専門教育科目 -母性看護学	111076	母性看護援助論Ⅰ	2年 後期 必修	2	野田みや子、近藤邦代、石田美知、 高木由美	135
77	専門教育科目 -母性看護学	111077	母性看護援助論Ⅱ	2年 後期 必修	1	野田みや子、近藤邦代、石田美知、 高木由美	139
78	専門教育科目 -母性看護学	111078	母性看護学実習Ⅰ 学内 (妊娠～分娩期保健管理)	3年 後期 必修	1	野田みや子、近藤邦代、石田美知、 高木由美	143
79	専門教育科目 -母性看護学	111079	母性看護学実習Ⅱ	3年 後期 必修	2	野田みや子、近藤邦代、 石田美知、高木由美	145
80	専門教育科目 -小児看護学	111080	小児看護学概論	2年 前期 必修	1	平岡翠、野田みや子	147
81	専門教育科目 -小児看護学	111081	小児看護援助論Ⅰ	2年 後期 必修	2	平岡翠、水木幸子	149
82	専門教育科目 -小児看護学	111082	小児看護援助論Ⅱ	2年 後期 必修	1	平岡翠、水木幸子	151
83	専門教育科目 -小児看護学	111083	小児看護学実習Ⅰ 学内 (乳幼児・周手術期管理)	3年 後期 必修	1	平岡翠、水木幸子	153
84	専門教育科目 -小児看護学	111084	小児看護学実習Ⅱ	3年 後期 必修	1	平岡翠、水木幸子	155
85	専門教育科目 -看護の統合と実践	111085	災害看護論	4年 後期 必修	1	船橋香緒里、野田みや子	157
86	専門教育科目 -看護の統合と実践	111086	薬物療法と看護	3年 前期 選択	1	永井博式、高木由美、 小野悟、吉崎純夫	159
87	専門教育科目 -看護の統合と実践	111087	チームワークとリーダーシップ	4年 後期 選択	1	平岡 翠	160
88	専門教育科目 -看護の統合と実践	111088	感染看護論	3年 前期 選択	1	平岡 翠	162
90	専門教育科目 -看護の統合と実践	111089	医療安全管理論	4年 後期 選択	1	藤原奈佳子	163
91	専門教育科目 -看護の統合と実践	111090	国際保健医療活動論	2年 後期 必修	2	高久道子	165
92	専門教育科目 -看護の統合と実践	111091	国際看護活動実践看護	4年 前期 選択	2	高久道子、小萱康德	167
93	専門教育科目 -看護の統合と実践	111092	医療的ケア実践看護 (小児・母性)	4年 前期 選択	1	野田みや子、近藤邦代、石田美和 高木由美、平岡翠	168
94	専門教育科目 -看護の統合と実践	111093	災害看護活動実践看護 (公衆衛生・小児)	4年 後期 選択	1	野田みや子、船橋香緒里	169
95	専門教育科目 -看護の統合と実践	111094	シミュレーション実践看護 (基礎)	3年 前期 選択	1	原田英子、水木幸子、吉崎純夫	170
96	専門教育科目 -看護の統合と実践	111095	健康と運動実技 (市民スポーツ教室実習) 成人・老年	3年 前期 選択	1	永坂和子、梶原志保子、吉崎純夫	171
97	専門教育科目 -看護の統合と実践	111096	癒やしとタッチケア	3年 前期 選択	1	野田みや子、石田美知	172
99	専門教育科目 -看護の統合と実践	111097	公衆衛生看護概論	2年 後期 必修	1	船橋香緒里	173
100	専門教育科目 -看護の統合と実践	111098	統合実習Ⅰ	3年 後期 必修	2	平岡翠、水木幸子	175
101	専門教育科目 -看護の統合と実践	111099	統合実習Ⅱ	4年 前期 必修	4	看護教員全員	176
102	専門教育科目 -看護の統合と実践	111100	看護の統合と実践	4年 通年 必修	2	看護教員全員	177
103	専門教育科目 -看護の統合と実践	111101	看護研究Ⅰ	3年 前期 必修	1	多喜田恵子	179
104	専門教育科目 -看護の統合と実践	111102	看護研究Ⅱ	4年 通年 必修	2	専任教員全員	181

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す	人間力	○
科目区分	基本教育科目-思考力の養成				ケア・スピリット	
授業コード	111001				実践的理解	
授業科目名	基礎ゼミナール				プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期		単位数	1		多職種連携	
担当教員	石井英子, 野田みや子, 山本澄子, 内藤直子, 夢喜田恵子, 船橋香緒里, 藤原奈佳子, 小萱康德, 鈴木岸子, 栃本千鶴, 永坂和子, 平岡翠, 粟津昌枝, 小野悟, 石田美和, 近藤邦代, 梶原志保子, 吉崎純夫, 高久道子, 高木由美, 水木幸子, 原田英子, 安田仁代 【全員実務家該当教員】					

講義概要			
本科目は、本学での導入科目であり、大学における学修の基本的な技術や態度、学修方法を身につけることを目的とする。少人数グループで、教員との直接対話を通じて学修意欲を啓発するとともに、学生同士の親睦と連帯意識を育み、大学生として必要な基礎的技能を修得する。医療・保健・看護のトピックスを用いたセミナー形式の授業で、文献検索、意見発表、意見交換、プレゼンテーション、レポート作成等を行い、大学で学ぶための必要なアカデミックスキルズを修得し、看護学に対する学びの意欲を高めるとともに、SDGsへの関心を深める。			
授業内容（到達目標を含む）			
1. 大学で学ぶ目的を理解し、大学生としての基本的な知識・技術や態度、学修方法を説明できる。 2. 少人数グループで教員との直接対話を通じて学習意欲を啓発すると共に、学生相互の親睦と連帯意識を高める。 3. 保健・医療・看護に関連するテーマ、SDGs関連の内容で、討論を通して、関心あるテーマへの理解を深める。 4. 自分の考えを人に伝えることができ、また各自の考えとは異なる意見を受け止め、自分の考えを深める。 5. この科目での学びをレポートにまとめることができる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
1. この科目は本学での導入科目であり、主体的に学修する態度を身につけるためには積極的に参加する。 2. テーマは、学生の希望を優先するが、人数のアンバランスが生じたときには各担当教員の指示に従う。 3. 演習成果発表のためのプレゼンテーション等の資料作成は、グループメンバーが協力して行う。 4. グループ討論や、発表等に関するフィードバックはその都度講義時間内に行うことを原則とする。			
教材			
テキスト「知へのステップ 大学生からのスタディ・スキルズ」(第5版)学習技術研修会編、くろしお出版、1,980円(税込) 参考図書「スタディスキルズ・トレーニング(改訂版)大学で学ぶための25のスキル」吉原恵子他、実教出版、1,320円(税込)			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内 容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	科目ガイダンス、自己紹介 スタディスキルとは何か SDGsについて 大学生活、社会生活におけるマナー (教務委員)	【予習】第1章(pp3～14)、第2章（pp17～28）を読み、大学生として何をどのように学修するのかを200字程度にまとめ、更に2分程度の自己紹介文を作成する。 【復習】配布資料を見直し、講義時に課した課題を400字程度にまとめる。	可
第2回	①図書館の利用方法（図書館司書） ②文献検索方法、情報処理室利用方法（教務委員） ①②は半分ずつの人数庭から手実施する	【予習】第5章(pp57～75)図書館利用方法、第6章(pp76～101)文献検索方法を読み、内容を200字程度にまとめる。 【復習】配布した資料を見直し、講義時に課した課題を400字枚程度にまとめる。	可
第3回	担当教員ごとのグループに分かれ、関心のある保健・医療・看護に関連するテーマについて発表し、意見交換 (各担当教員)	【予習】第3章（pp29～41）を読み、興味・関心のあるテーマについて自己学習し、200字程度にまとめる。グループで取り組むテーマを決定する。 【復習】意見交換で出された内容を踏まえ、関心のあるテーマに関する内容を充実させる。	可

第4回 ～ 第7回	選択したテーマについて、ゼミナール形式でディスカッションを重ねる。毎回の進め方は、学生主体で進め、決定したテーマについて深く探求していく。 1. 文献検索・文献の整理 2. 文献の整理・要約 3. ワードプロソフトの活用 4. レポートの作成 5. 表計算ソフトの活用 6. プレゼンテーションソフトの活用 7. カンファレンスの進め方 (各担当教員)	【予習】第4回;レポート作成の基本、第5回;Wordによる文書作成、第6回;Excelの使用方法とWordとの連携、第7回;Power Pointの活用方法について、自己学習した内容を毎回200字程度にまとめる。 【復習】演習によって新たに学んだ内容を、毎回200字程度にまとめる。 ※演習によって新たに学んだ内容を各自の担当発表資料に盛り込む。
第8回	各グループ別学びの成果発表会 (1) (各担当教員)	【予習】第12章を読み、プレゼンテーションの方法を工夫し、各グループの学びを発表する。発表内容は所定の様式に沿って評価(自己評価・他者評価)する。なお、配布資料を予め読み込む。発表会の司会、書記、タイムキーパー等は、発表以外のグループがその役割を担当する。 【復習】各発表グループ発表の評価(長所・短所)をそれぞれ200字程度にまとめる。
評価方法・ 評価基準	講義・演習への参加状況(文献検索、討論、まとめ、発表): 50%、課題レポート50%により評価する。	
オフィスアワー		
各教員ごとに指示します。第3回目の講義で各教員より説明を受けてください。		

講義科目					る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	基本教育科目-思考力の養成					人間力	○
授業コード	111002					メディア・スピリット	○
授業科目名	情報科学					実践的理解	
配当学年/ 学期	1年 前期 必修	単位数	1			プロフェッショナリズム	
担当教員	高久 道子【実務家該当教員】					多職種連携	

講義概要			
情報通信における技術発達によって、私たちが日々アクセス、または受け取る情報の質が、私たちの選択や行動を大きく左右している。表現の自由や知る権利を享受しつつ、適切に情報を収集、選択し、取り扱うことが重要である。講義ではメディア・情報リテラシー（Media Information Literacy: MIL）の概念を学び、事例研究や協働学習を通して理解を深める。また医療従事者として個人情報とプライバシーの取り扱いについて学ぶ。			
以下の項目を到達目標としてMILと、医療従事者として個人情報の取り扱いに関する講義とグループワークを行う。 1) メディア・情報リテラシーについて基本的な理解を獲得する。 2) 情報モラルやマナーの知識を獲得し、実践できるようになる。 3) 医療情報としての個人情報の取り扱いを理解し、実践できるようになる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
この科目の単位習得には約30時間の授業時間以外の学習が必要である。講義で出した課題は、講義期間中に完成し、グレксаに提出すること。2/3以上の出席がない場合は課題レポート提出の権利がなく、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。			
教材			
参考図書：講義プリント、参考書は適宜紹介する			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	情報科学：授業の進め方、メディア・情報リテラシーの考え方	復習180分：講義のまとめを300字程度にまとめる。	可
第2回	インターネットリテラシー、デジタルリテラシー①	予習60分：友達と食事をする店を探します。ネットはどう探索するか考えをまとめる。 復習120分：講義を踏まえて情報検索の注意や対策を300字程度にまとめる。	可
第3回	インターネットリテラシー、デジタルリテラシー② 著作権、肖像権	復習180分：SNSで著作権と肖像権の扱いについてそれぞれ300字程度にまとめる。	可
第4回	インターネットリテラシー、デジタルリテラシー② 表現の自由、ヘイトスピーチ	復習180分：SNSで著作権と肖像権の扱いについてそれぞれ300字程度にまとめる。	可
第5回	ライブラリーリテラシー	復習180分：講義のまとめを300字程度にまとめる。	可
第6回	医療従事者としての個人情報の取り扱い	復習180分：講義で視聴したテーマについて、個人情報の漏洩と自分の対策を500字程度にまとめる。	可
第7回	医療従事者としての個人情報の取り扱い グループワーク	復習180分：グループワークした内容について、それぞれ200字程度にまとめる。	可
第8回	医療従事者としての個人情報の取り扱い③ グループワーク発表、講義の総括	復習180分：他のグループワークの内容について、それぞれ200字程度にまとめる	可

キーワード	メディア・情報リテラシー(MIL)、著作権、肖像権、個人情報の取り扱い	
評価方法・ 評価基準	参加態度(20%)、復習課題の提出(30%)と課題レポートの提出(50%)により評価する。	
オフィスアワー		
木曜以外（研究日）以外の平日。昼休み対応可。連絡先 m-takaku@gifuuoken.ac.jp		

講義科目						要 を デ イ 能 成 プ ル マ た ポ め リ に シ 必	人間力	○
科目区分	基本教育科目-思考力の養成						ゲ・スピリット	○
授業コード	111003						実践的理解	
授業科目名	情報科学の実践						プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	1年 前期 選択			単位数	1		多職種連携	
担当教員	高久道子【実務家該当教員】，國澤英雄【実務家該当教員】							

講義概要			
汎用ソフトウェアの基本機能を利用し、ソフトウェア相互のデータ変換ができるように情報リテラシーを向上する。リスク管理や情報倫理を理解しつつインターネット環境でのデータ処理ができるようにする。講義と演習により、ワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの操作方法を習得し、汎用ソフトウェア間のデータの変換や移動、課題に即して必要となる情報を収集、整理、加工して結果を表現するための情報活用能力を身につける。PCを用いた情報通信技術（Information and Communication Technology: ICT）の修得を基本目的とする。			
授業内容（到達目標を含む）			
情報処理演習室（7号館3階）でコンピューター(PC)の使い方を演習する。受講生は実際にPCを使用しながら文章作成ソフト(Word)による文書やレポートの作成、表計算ソフト（Excel）を用いた表計算やデータ集計、表やグラフの作成、プレゼンテーションソフト(Power Point)を使ったスライドの作成を演習する。保健統計や医学検査等のデータを活用して集計・グラフ作成に取り組み、各自がレポート課題を完成させることを目指す。 到達目標： 1)「読み、書き、計算」の道具としてPCを操作することができる。 2)情報通信ネットワークやマルチメディアを活用できる（メディアリテラシー能力）。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
この科目の単位習得には約15時間の授業時間以外の学習が必要である。講義ごとに課題を提示するので、講義期間中に課題を完成し、提出すること。2/3以上の出席がない場合は評価を受ける権利が得られず、単位取得が不可となる。20分以上の遅刻は欠席とみなす。			
教材			
参考図書：講義プリント、参考書は適宜紹介する			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	オリエンテーション：演習室の使い方、授業の進め方などの説明（高久）	本学での情報処理に関するガイダンスを行う。 演習室のPCやインターネットの利用方法について学ぶ。 予習60分：学生便覧の施設の利用：情報科学演習室使用ルールについて熟読する。	可
第2回	コンピューターとネットワークの基本機能と操作（高久）	PCのオペレーションシステム（OS）やインターネットの仕組み等、基本機能と操作を学ぶ。	可
第3回	学修支援ツール：グレксаの活用説明（高久）	本学で学生の学修支援ツールとしているグレксаの使用・活用方法を学習する。 復習60分：グレксаのメールから担当教員にメールを送信する。	可
第4回	ワープロソフトの演習1（高久）	Wordの基本機能を学ぶ。復習120分 日本語や英語で文字入力、図や表の作成・挿入等基本操作を用いる。予習・復習時間を使って課題を作成し、完成物をグレксаに提出する。	不可
第5回	ワープロソフトの演習2（高久）		不可
第6回	プレゼンテーションソフトの演習1（高久）	Power Pointの基本機能を学ぶ。復習120分 保健医療情報データをもとに、アニメーション機能や特殊効果などを用いて、スライド(文章・表・グラフの挿入)を作成し、完成物をグレксаに提出する。	不可
第7回	プレゼンテーションソフトの演習1（高久）		不可

第8回	データ分析の準備（國澤）	データの収集、標本数と標本サイズ。グラフによる可視化、ピボットテーブルの利用。グレксаによる課題の送付する。復習60分	不可
第9回	データの特質の分析（分布と代表値）（國澤）	Excelを使った度数分布表計算。順序尺度と名義尺度。平均値・中央値・最頻値とその性質。グレксаにより課題を送付する。復習60分	不可
第10回	データの特質の分析（散布図）（國澤）	Excelを使った分散と標準偏差計算。四分位数・四分位範囲、箱ひげ図・外れ値、平均情報量。グレксаにより課題を送付する。復習60分	不可
第11回	変数どうしの関係（相関係数）（國澤）	Excelを使った相関係数の計算。相関係数を求める計算式の意味。順位相関の計算とその意味。グレксаにより課題を送付する。復習60分	不可
第12回	変数どうしの関係（回帰分析）（國澤）	Excelを使った単回帰分析・重回帰分析の計算。決定係数、多重共線性の意味。グレксаにより課題を送付する。復習60分	不可
第13回	母集団の特質（國澤）	Excelを使った確率分布の計算。二項分布・正規分布・超幾何分布・ポアソン分布・他の理解。グレксаにより課題を送付する。復習60分	不可
第14回	根拠ある分析について（國澤）	Excelを使った統計的検定。二項検定・平均値の検定・分散の検定・分散の差の検定。グレксаにより課題を送付する。復習60分	不可
第15回	順序尺度や名義尺度の検定（國澤）	Excelを使った中央値の検定、 χ^2 検定、独立性の検定、正規性の検定。グレксаにより課題を送付する。復習60分	不可
キーワード	ICT、グレкса（学習支援ツール）		
評価方法・評価基準	Word、Power Point、Excelの各演習課題の提出により評価する。		
オフィスアワー			
高久：研究日以外の平日、昼休みも対応します。連絡先 m-takaku@gifuhoken. ac. jp 國澤：メールで対応します。連絡先 h-kunisawa@gifuhoken. ac. jp			

講義科目				データ ため に必 要な ポリ シー を達 成す		
科目区分	専門教育関連科目-社会と環境の理解				人間力	
授業コード	111004				ケア・スキル	
授業科目名	基礎統計学				実践的理解	
配当学年/ 学期	1年 前期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	國澤英雄【実務家該当教員】				多職種連携	

講義概要

統計学の基本的な理論を理解し、実用性を重視したデータの整理、基本統計量の求め方、グラフなどを用いた表現方法を修得する。将来、看護師としてのステップアップ研修に役立つように、様々な医療に関する事例をもとに、その統計的な解析方法を学ぶ。これらを通じて統計解析の重要性を知るとともに、データの統計分析が自力でできることを目的とする。

授業内容（到達目標を含む）

医療の分野ではデータをもとにして、その治療が効果が有るかどうかを検証すること大切なことである。データを取得しても、統計的方法を知らなければ、治療の有意性を証明することはできない。そこで本講座では、データ集計の仕方、確率の概念、確率分布、標本分布、母平均、分散の推定、母平均の信頼区間、仮説検定、相関と回帰、カイ二乗検定、平均値に対する推定等の分析手法を学習する。そして、「2つの病院の患者の血清クレアチン濃度の違いはあるか?」「透析患者は健常者より免疫グロブリンのIgG値は高いか?」など、多くの医療分野での事例を示すとともに、各単元毎に、演習問題を解き理解を深める。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

課題に対して、解析方法は違って来る。そこで様々な演習問題を経験し、解析能力を高めることが大切である。積極的に様々な事例への取り組みを期待する。

教材

配布資料：大学のポータルサイトに必要な資料を載せるので、それを参考としてほしい
参考図書：医療への統計学、朝倉書店、5000円＋税

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	医療データの整理 1（平均、標準偏差、分散）	予習：大学の掲示板（ポータルサイト）に出される講義内容の理解 復習：データを使った計算と内容の理解 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第2回	医療データの整理 2（散布図、相関係数、回帰式）	予習：大学の掲示板（ポータルサイト）に出される講義内容の理解 復習：データを使った計算と内容の理解 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第3回	統計的推論の基礎 1（正規分布、正規性の確認、二項分布、ポアソン分布）	予習：大学の掲示板（ポータルサイト）に出される講義内容の理解 復習：データを使った計算と内容の理解 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第4回	統計的推論の基礎 2（仮説検定の考え方、片側検定、両側検定、検定統計量と有意水準）	予習：教科書 第2編第2章を熟読する。 復習：日本の男女の主要死因について300字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第5回	平均値に関する推論（正規母集団 μ に関する推定、2つの母平均の差の検定）	予習：大学の掲示板（ポータルサイト）に出される講義内容の理解 復習：データを使った計算と内容の理解 予習時間：120分、復習時間：120分	可

第6回	頻度の関する推論 1 (proportionとrate、母比率 p に関する推論)	予習：大学の掲示板（ポータルサイト）に出される講義内容の理解 復習：データを使った計算と内容の理解 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第7回	頻度の関する推論 2 (二つの母比率の差の検定、信頼区間)	予習：大学の掲示板（ポータルサイト）に出される講義内容の理解 復習：データを使った計算と内容の理解 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第8回	頻度の関する推論 3 (2×2 分割表、カイ二乗検定)	予習：大学の掲示板（ポータルサイト）に出される講義内容の理解 復習：データを使った計算と内容の理解 予習時間：120分、復習時間：120分	可
評価方法			
出席率20%、最終試験80%により評価する。			
オフィスアワー			
メールで対応します。H-kunisawa@gifuuoken.ac.jp			

講義科目				る た め に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	基本教育科目-思考力の養成				人間力	○
授業コード	111005				ケア・スピリット	
授業科目名	問題解決法				実践的理解	
配当学年/ 学期	1年 後期 選択	単位数	1		プロフェッショナルリズム	
担当教員	小野悟【実務家該当教員】				多職種連携	

講義概要

現代社会はモデルのない時代であるといわれるが、そのような中で自らのキャリアをどのように描いていくのか、壁にぶつかった時にどのように課題を乗り越えて行くのかなど、主体的に考え、決断し、行動していくための思考力の養成が鍵となる。問題解決法では、課題や問題を解決していくための具体的な思考法や行動、技法を取り扱い、課題の整理と分析、解決に向けたプランの作成と実践と評価、逆境からの回復法などについて教授する。また、さまざまな実践例、ワークを通して自己の思考の傾向を理解し、効果的な問題解決法について考えていく。

授業内容（到達目標を含む）

心理学における自己理解のあり方、問題解決技法について講義し、個人ワークを通して自己理解を深め、問題解決能力を高めていくための思考のあり方について考える。本科目の到達目標は以下の内容とする。

1. 古典的心理学者たちの自己の在り方について理解することができる
2. 問題解決能力を高めていくための思考法、行動について理解することができる
3. 人生の中で遭遇する課題や問題を特定し、解決に向けた思考法を理解することができる

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

本講義については主体的に参加し、考えることが望まれる。この科目の単位を修得するにあたり、予習及び復習して臨むこと。講義時に配布するリアクションペーパーには意見や質問等を記述して提出する。内容のフィードバックは講義時間内に行う。振り返りレポート課題は次の講義時に提出すること。

教材

指定しない。必要な資料は講義内に提示する。

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	自己とは何か：フロイト、ユング、アドラーの考える自己	予習：事前に資料内容を確認する。 復習：学修振り返りレポート①を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第2回	問題解決能力：問題解決とは何か、問題や課題の概念、問題の明確化	予習：事前に資料内容を確認する。 復習：学修振り返りレポート②を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第3回	問題解決思考：問題解決に必要な思考、問題解決のプロセス、現状分析や問題意識	予習：事前に資料内容を確認する。 復習：学修振り返りレポート③を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第4回	情報収集と分析①：ゼロベース思考と仮説思考、批判的思考、課題分析	予習：事前に資料内容を確認する。 復習：学修振り返りレポート④を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第5回	情報収集と分析②：ロジカルシンキング、意思決定	予習：事前に資料内容を確認する。 復習：学修振り返りレポート⑤を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第6回	情報収集と分析③：ロジカルシンキング、意思決定	予習：事前に資料内容を確認する。 復習：学修振り返りレポート⑥を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第7回	目標設定と課題解決手段の検討：目標・仮説設定、問題解決策を検討するための手段、発想法	予習：事前に資料内容を確認する。 復習：学修振り返りレポート⑦を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第8回	問題解決法の実践と結果の評価：目標と解決策、結果とプロセスの評価	予習：事前に資料内容を確認する。 復習：学修振り返りレポート⑧を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可

第9回	組織での問題解決の方法①	予習：事前に資料内容を確認する。 復習：学修振り返りレポート⑨を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第10回	組織での問題解決の方法②	予習：事前に資料内容を確認する。 復習：学修振り返りレポート⑩を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第11回	逆境に強くなる力：レジリエンストレーニング、人生曲線による自己理解	予習：事前に資料内容を確認する。 復習：学修振り返りレポート⑪を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第12回	認知行動療法による問題解決、自己実現	予習：事前に資料内容を確認する。 復習：学修振り返りレポート⑫を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第13回	アサーションと問題解決、自己実現	予習：事前に資料内容を確認する。 復習：学修振り返りレポート⑬を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第14回	カウンセリングと問題解決、自己実現	予習：事前に資料内容を確認する。 復習：学修振り返りレポート⑭を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第15回	不安や欲求、まとめ	予習：事前に資料内容を確認する。 復習：学修振り返りレポート⑮を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
評価方法			
振り返り課題レポート（30%）、最終試験（70%）により評価する。			
オフィスアワー			
火曜～金曜の12:30～17:00までで、事前にアポイントメントを取ってください。連絡先：s-ono@gifuuoken.ac.jp			

					要を な達 能成 力す るプ ロマ たポ めリ にシ 必		
科目区分	基本教育科目-表現力の養成					人間力	○
授業コード	111006					ケア・スピリット	
授業科目名	英語Ⅰ（基礎）					実践的理解	
配当学年/ 学期	1年 前期 必修	単位数	1			プロフェッショナリズム	
担当教員	高久道子【実務家該当教員】，Mandziak				多職種連携		

講義概要			
グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語については、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語 I」では、日常生活及び将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。医療英語（Medical Term）をはじめとして、専門的な語彙力を高めることを目標とする。具体的には医療の専門用語の覚え方やそれを用いた会話や文献の読み方を学ぶ。			
授業内容（到達目標を含む）			
英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。 現場ですぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。 英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。 現場ですぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
積極的に授業に参加することが望まれる。なお、この科目の単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修(学修課題(予習・復習)に示されている内容の学修)が必要である。講義時のプレゼン、確認テスト、課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。			
教材			
テキスト「英語で学ぶプライマリーケア」（講談社）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	オリエンテーション、自己紹介	自己紹介、他己紹介の英語	可
第2回	Emergency and Vital signs	救急とバイタルサインの英語	可
第3回	Emergency and Vital signs	前回の復習と応用問題	可
第4回	At the Radiology	レントゲンと診断に関する英語	可
第5回	At the Radiology	前回の復習と応用問題	可
第6回	X-ray and bones	骨に関する英語	可
第7回	X-ray and bones	前回の復習と応用問題	可
第8回	Preparation for an operation	体の部位が英語で言える	可
第9回	Preparation for an operation	前回の復習と応用問題	可
第10回	operation	臓器が英語で言える	可
第11回	operation	前回の復習と応用問題	可
第12回	Post-operative care	術後と入院中のケアに関する英語	可
第13回	Post-operative care	前回の復習と応用問題	可
第14回	Taking madicine	投薬に関する英語	可
第15回	Taking madicine	前回の復習と応用問題	可

キーワード		
評価方法・ 評価基準	筆記テスト40%、課題20%、授業態度40%	
オフィスアワー		
月曜日から木曜日9：00－17：00（講義、昼休憩除く）		

講義科目						要を な 達 イ 能 成 プ 力 す る マ た ポ め リ に シ ー 必	人間力	○
科目区分	基本教育科目-表現力の養成						ケア・スピリット	
授業コード	111007						実践的理解	
授業科目名	英語Ⅱ（応用・医学英語）						プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	1年 後期 必修	単位数					多職種連携	
担当教員	高久道子【実務家該当教員】							

講義概要			
グローバル社会に生きる現代人にとって、外国語は必須のコミュニケーションの手段である。今や国際語となっている英語については、「読む・書く・聴く・話す」の4技能について各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語Ⅰ」に引き続き、日常生活及び将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。医療英語（Medical Term）をはじめとして、専門的な語彙力を高めることを目標とする。具体的には医療の専門用語の覚え方やそれを用いた会話や文献の読み方を学ぶ。			
授業内容（到達目標を含む）			
英文を読みその文化を深く理解するとともに、英語で自分の意見、感想を発表する技能を養う。 現場ですぐに使える英語力、コミュニケーション力を養う。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
積極的に授業に参加することが望まれる。なお、この科目の単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修(学修課題(予習・復習))に示されている内容の学修が必要である。講義時のプレゼン、確認テスト、課題レポートのフィードバックはできるだけ講義時間内に行うが、個別に時間外に設定する事もある。			
教材			
テキスト「英語で学ぶプライマリーケア」（講談社）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	Nutrition and allergies	栄養とアレルギーに関する英語	可
第2回	Nutrition and allergies	前回の復習と応用問題	可
第3回	Maternity Outpatient	妊産婦外来の英語	可
第4回	Maternity Outpatient	前回の復習と応用問題	可
第5回	Pediatric out patients	小児科外来での英語	可
第6回	Pediatric out patients	前回の復習と応用問題	可
第7回	Out of hospital	退院の英語	可
第8回	Out of hospital	前回の復習と応用問題	可
第9回	Palliative care	緩和ケアの英語	可
第10回	Palliative care	前回の復習と応用問題	可
第11回	Visitor	面会、海外の病院	可
第12回	Visitor	前回の復習と応用問題	可
第13回	Making Suggestions and experiences	経験と提案の英語	可
第14回	Making Suggestions and experiences	前回の復習と応用問題	可
第15回	Future plans	まとめ、テスト	可

キーワード		
評価方法・ 評価基準	筆記テスト40%、課題20%、授業態度40%	
オフィスアワー		
基本月曜日から木曜日9：00－17：00（講義、昼休憩除く）		

講義科目						要 を デ イ 能 成 プ 力 す る マ た ポ め リ に シ 必	人間力	○
科目区分	基本教育科目-表現力の養成						ケア・スピリット	
授業コード	111008						実践的理解	
授業科目名	英語Ⅲ（実践）						プロフェッショナリズム	
担当教員	高久道子【実務家該当教員】						多職種連携	
配当学年/ 学期	3年 前期 選択	単位数	1					

講義概要			
グローバルな現代社会において事実上の国際語となっている英語のコミュニケーション能力を養う。「読む・書く・聴く・話す」の4技能について、各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語Ⅲ」では、将来的に看護の現場において役立つであろう様々な場面を想定した教材を用いる。専門性の高い語彙や臨床ベッドサイドの英会話など、看護職に関連する高度な語彙力、コミュニケーション能力を向上させる。それまで学んだ英語の知識をもとに会話し、医療に関する課題について意見交換ができることを目指す。			
授業内容（到達目標を含む）			
到達目標 1) 医療系の英語とともに、実践的な英語力（リスニング、読解）を身につける。 2) TOEIC450点以上（英検2級）を目指す。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
事前の文法テストで80点以上、または、履修前のTOEIC試験で350点以上（または英検で準2級以上）あることが望ましい。授業以外でも各自で自主的に学修することを目指す。この科目の単位習得には約60時間の授業時間以外の学修（学習課題、予習・復習に示されている内容の学修）が必要であり、シラバスを熟読して学習を進めること。2/3以上の出席がない場合は、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。			
教材			
テキスト「やさしいメディカル英語」（高木久代 編著）講談社、2090円（税込み） TOEICの演習については、講義で適宜資料を配布する。			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	Cells and DNA, TOEIC preparation	予習:テキストの「細胞とDNA」について熟読する。 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:120分	可
第2回	Blood, TOEIC preparation	予習:テキストの「血液」について熟読する。 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:120分	可
第3回	The Cardiovascular System, TOEIC preparation	予習:テキストの「心臓血管系」について熟読する。 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:120分	可
第4回	The Respiratory System, TOEIC preparation	予習:テキストの「呼吸器系」について熟読する。 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:120分	可
第5回	The Digestive System, TOEIC preparation	予習:テキストの「消化器系」について熟読する。 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:120分	可
第6回	The Urinary System, TOEIC preparation	予習:テキストの「泌尿器系」について熟読する。 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:120分	可
第7回	The Immune System, TOEIC preparation	予習:テキストの「免疫系」について熟読する。 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:120分	可
第8回	TOEIC preparation（高久）	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:120分	可
第9回	TOEIC preparation（高久）	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:121分	可
第10回	TOEIC preparation（高久）	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:122分	可
第11回	TOEIC preparation（高久）	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:123分	可

第12回	TOEIC preparation (高久)	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:124分	可
第13回	TOEIC preparation (高久)	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:125分	可
第14回	TOEIC preparation (高久)	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:126分	可
第15回	TOEIC preparation (高久)	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:127分	可
キーワード			
評価方法・ 評価基準	筆記テスト45%、課題25%、授業態度30%より評価する。		
オフィスアワー			
高久道子:木曜以外の9:00-17:00、昼休み対応可。 連絡先:m-takaku@gifuhoken.ac.jp			

講義科目						要 を デ イ 能 成 ブ 力 す る た ポ め リ に シ 必 !	人間力	○
科目区分	基本教育科目-表現力の養成						ケア・スピリット	
授業コード	111009						実践的理解	
授業科目名	英語Ⅳ（英語文献購読）						プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	4 年	後期	選択	単位数	1			
担当教員	高久道子【実務家該当教員】						多職種連携	

講義概要			
グローバルな現代社会において事実上の国際語となっている英語のコミュニケーション能力を養う。「読む・書く・聴く・話す」の4技能について、各自の能力に応じた効果的な学修によりそのスキルの向上を図り、外国の文化や社会に対する認識を深めるとともに、医療現場でも役立つ英語の修得を目標とする。「英語Ⅳ」では、保健医療や看護関係の英文の文献や記事を教材とし、それらの基本的な知識と基礎的な読解力を育む。専門性の高い英語文献に触れることで、将来の看護の研究にも役立てる。			
授業内容（到達目標を含む）			
到達目標 1) 医療系の英語とともに、実践的な英語力（リスニング、読解）を身につける。 2) TOEIC550点以上（英検準1級）を目指す。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
事前の文法テストで80点以上、または、履修前のTOEIC試験で400点以上あることが望ましい。授業以外でも各自で自主的に学修することを目指す。この科目の単位習得には約60時間の授業時間以外の学修（学習課題、予習・復習に示されている内容の学修）が必要であり、シラバスを熟読して学習を進めること。2/3以上の出席がない場合は、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。			
教材			
TOEICの演習については、講義で適宜資料を配布する。			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	TOEIC preparation	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:121分	
第2回	TOEIC preparation	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:122分	
第3回	TOEIC preparation	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:123分	
第4回	TOEIC preparation	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:124分	
第5回	TOEIC preparation	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:125分	
第6回	TOEIC preparation	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:126分	
第7回	TOEIC preparation	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:127分	
第8回	TOEIC preparation	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:121分	
第9回	TOEIC preparation	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:122分	
第10回	TOEIC preparation	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:123分	

第11回	TOEIC preparation	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:124分	
第12回	TOEIC preparation	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:125分	
第13回	TOEIC preparation	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:126分	
第14回	TOEIC preparation	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:127分	
第15回	TOEIC preparation	予習:配布資料を行う 復習:講義資料の復習、ポイントをまとめる。 予習時間:120分、復習時間:127分	
キーワード			
評価方法・ 評価基準	筆記テスト45%、課題25%、授業態度30%より評価する。 S (100～90点) : 学習目標をほぼ完全に達成している。 A (89～80点) : 学習目標を相応に達成している。 B (79～70点) : 学習目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。 C (69～60点) : 学習目標の最低限は満たしている。 D (60点未満) : Cのレベルに達していない。		
オフィスアワー			
高久道子:木曜以外の9:00-17:00、昼休み対応可。 連絡先:m-takaku@gifuhoken.ac.jp			

講義科目						
科目区分	基本教育科目-表現力の養成			る デ イ た め プ ロ マ ポ リ シ ー を 達 成 す	人間力	○
授業コード	111010				ケア・スピリット	
授業科目名	日本語Ⅰ（作文、論文、発表）				実践的理解	
配当学年/ 学期	1年 前期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	伊藤亜希子				多職種連携	
講義概要						
日頃は無意識に使っている日本語であるが、果たして正しい日本語を使って話していたのか、また、文書を作成していたのかを振り返り、正しい日本語の使い方について学ぶことがこの科目の目的である。その一連のプロセスを通して日本語を客観的に分析することができることを目指す。国際人になるためには、まず求められることは母国語である日本語を正しく話し、正しい文書を作成し、発表することができることである。その全過程を通して、正しい日本語の使い方ができることを目指す。						
授業内容（到達目標を含む）						
日本語の発音、語彙、文法、文字、歴史の分野から日本語の特徴を概説し、日本語について理解を深める。普段使っている自分の言葉について意識を高め、看護学生としての必要なコミュニケーション能力の基礎を身につける。さまざまなテーマの分析を通して運用力を高める。						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
この科目の単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。3回の小レポートの課題がある。						
教材						
テキスト：なし 参考図書：渡辺実「日本語概説」岩波書店						
授業計画及び学習課題（予習・復習）						
回	内容		学習課題（予習・復習）			遠隔授業
第1回	日本語概説、授業内容の説明		配付資料を読み直す、自分自身の使う日本語について振り返る、小レポート（2時間）			可
第2回	日本語の発声と発音 1 発声のしくみ		配付資料を読み直す（2時間）			可
第3回	日本語の発声と発音 2 IPA		配付資料を読み直す（2時間）			可
第4回	日本語の語彙と表現 1 語彙のしくみと運用		配付資料を読み直す、自分の使う語彙について振り返る（2時間）			可
第5回	日本語の語彙と表現 2 敬語と意識		配付資料を読み直す、自分の敬語、言葉遣いについて考える（2時間）			可
第6回	日本語の語彙と表現 3 話し言葉と書き言葉		配付資料を読み直す、普段の話すときの言葉と書くときの言葉の違いについて考える（2時間）			可
第7回	日本語の語彙と表現 4 やさしい日本語		配付資料を読み直す、相手に簡単に説明するということについて考える（2時間）			可
第8回	まとめ、小レポート		配付資料を読み直す（2時間）			可
第9回	日本語の語彙と表現 5 非言語による表現		配付資料を読み直す、言葉以外の表現について振り返る（2時間）			可
第10回	日本語の文法 品詞と組み立て、配慮と丁寧さ		配付資料を読み直す、高校までに学習した品詞、活用について振り返る。普段のLINE、メールの書き方について振り返る（2時間）			可
第11回	日本語の文字 1	表記上の決まり事	配付資料を読み直す、これまでの自分の文章の書き方について振り返る（2時間）			可
第12回	日本語の文字 2	表記上の決まり事	配付資料を読み直す、これまでの自分の文章の書き方について振り返る（2時間）			可

第13回	日本語の歴史的受容 1 音声と文字の歴史 小レポート	配付資料を読み直す、日本語表記の多様さを歴史的に振り返る（2時間）	可
第14回	日本語の歴史的受容 2 日本語の変化	配付資料を読み直す、若者言葉、LINEで使う言葉、ネット用語、方言などについて自分の言語使用を振り返る（2時間）	可
第15回	日本語の発音、語彙、文法、文字、歴史についてのまとめ	配付資料を読み直す（2時間）	可
キーワード	日本語の特性、多様性、表現性、受容性		
教科書	毎回プリントを配付する。		
評価方法・ 評価基準	授業の参加状況20%、小レポート20%、最終試験60%により評価する。 S (100～90点)：日本語の仕組みを理解したうえで、言葉を観察・分析し、適切に運用することができる。 また多彩な表現が使える、歴史的背景を理解している。 A (89～80点)：日本語の仕組みを理解したうえで、自分の言葉を観察・分析し、適切に運用することができる。 B (79～70点)：日本語の構造を理解し、日本語の発音、語彙、文字のしくみを理解したうえで、自分の言葉を客観的に観察・分析することができる。 C (69～60点)：日本語の構造を理解し、日本語の発音、語彙、文字のしくみを理解している。 D (60点未満)：Cのレベルに達していない。		
オフィスアワー			
講義後に対応する。			

講義科目					る た め に 必 要 な 能 力 を 達 成 す		
科目区分	基本教育科目-表現力の養成					人間力	○
授業コード	111011					ケア・スピリット	
授業科目名	日本語Ⅱ（討論、読解、分析）					実践的理解	
配当学年/ 学期	2年 前期 選択	単位数	1			プロフェッショナリズム	
担当教員	伊藤亜希子					多職種連携	

講義概要				
コミュニケーション力の基礎として、自己の考えを論理的に明確に、相手に表現する能力が求められているが、それらの能力の育成のために、問題意識を持つこと、自分の意見を持ち、情報を選択し、整理する能力を高め、論理的にもの考えることが求められている。さらに、相手（他者）の立場に立って考えることができるためにはどのようにすることが必要なのか、幅の広いものの考え方、見方をするようにして、他者の発言を注意深く聞くようになり、ひいては協調性を養うことができることを目指す。				
授業内容（到達目標を含む）				
前半では主に、読解力、表現力を身につけるために縮約・要約文を作成、要点を抑えてメモを取るなどの練習を行う。後半では論理的な文章を書くための小論文作成を行う。文章を書くための基本事項、感想文と小論文の違い、意見を論理的に書くための方法など、適宜解説をする。さまざまな文章を書くことを通して、看護学生として必要な日本語運用力を身につける。また、学生同士で書いたものを読み合い、評価できるようになる。				
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）				
この科目の単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。授業内に作成したものは毎回提出し、翌週の授業内でフィードバックする。				
教材				
テキスト：毎回プリントを配付する。 参考図書：特になし				
授業計画及び学習課題（予習・復習）				
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業	
第1回	授業内容の説明	配付資料を読み直す（1時間）	可	
第2回	文章の書き方 1 語彙と表記、文法と文体	配付資料を読み直す、適切な表記、言葉遣い、 かりにくい文章について考える（2時間）	可	
第3回	要点をおさえる、メモを取る	配付資料を読み直す（1時間）	可	
第4回	縮約・要約とは 縮約・要約文作成 1	配付資料を読み直す（1時間）	可	
第5回	縮約・要約文作成 2	配付資料を読み直す（1時間）	可	
第6回	縮約・要約文作成 3	配付資料を読み直す（1時間）	可	
第7回	縮約・要約文発表	配付資料を読み直す（2時間）	可	
第8回	感想文とは 感想文作成	配付資料を読み直す（1時間）	可	
第9回	言葉を説明する	配付資料を読み直す、（2時間）	可	
第10回	小論文を書くための表現	配付資料を読み直す、次回テーマの内容について考える （2時間）	可	
第11回	小論文 1	配付資料を読み直す、次回テーマの内容について考える （2時間）	可	
第12回	小論文 2	次回テーマの内容について調べる・構想を考える（2時間）	可	
第13回	小論文 3	次回テーマの内容について調べる・構想を考える（2時間）	可	
第14回	小論文発表	配付資料を読み直す、レポートの内容について調べる・考える（3時間）	可	
第15回	コメントする	配付資料を読み直す、人の書いたものを適切に分析・評価するということについて考える（2時間）	可	

キーワード	言葉で説明する、要点をまとめる、読解力をつける、論理的に書く、説得力をつける、コメントする	
評価方法・評価基準	提出物50%、期末レポート30%、授業態度20%により評価する。 S (100～90点)：表記上、文法上の間違いのない文章が書け、自分のことばで縮約・要約文をまとめ、独自の視点による説得的論理的な小論文が書ける。なおかつ、他人の発表、意見をきちんと聞いたり読んだりすることができ、評価することができる。 A (89～80点)：表記上、文法上の間違いのない文章が書け、自分のことばで縮約・要約文をまとめ、論理的な小論文が書ける。なおかつ、他人の発表、意見をきちんと聞いたり読んだりすることができ、評価することができる。 B (79～70点)：表記上、文法上の間違いのない文章が書け、小論文と感想文の違いをよく理解し、自分のことばで縮約・要約文をまとめ、自分の意見を小論文に述べることができる。なおかつ、他人の発表、意見をきちんと聞いたり読んだり、評価することができる。 C (69～60点)：原稿用紙の使い方、漢字や仮名遣い、文法的に間違いのない表現ができ、最低限の縮約・要約文、小論文を作成することができる。他人の発表、意見をきちんと聞いたり読んだりすることができる。 D (60点未満)：Cのレベルに達していない。	
オフィスアワー		
講義後に対応する。		

講義科目					る デ イ た め に 必 要 な 能 力		
科目区分	基本教育科目-表現力の養成					人間力	
授業コード	111012					ケア・スピリット	○
授業科目名	手話					実践的理解	
配当学年/ 学期	1年 後期 選択		単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	亀井明子					多職種連携	

講義概要			
「コミュニケーション」は、情報の伝達、連絡、通信の意味だけでなく、意思の疎通、心の通い合いという側面もあり、互いに理解し合うことでもある。コミュニケーションの障害を持った人との意思の疎通のためにどのようにしたらよいのかを、本科目では手話を通して考える。すなわち、コミュニケーション行動の機能は、たんに情報の伝達にとどまらず、情動的な共感、さらには相手の行動の制御をも幅広く含んでいることを意識することが求められている。コミュニケーションの成立のために、何が必要であるのかを手話を通じて理解を深める。			
授業内容（到達目標を含む）			
手話及び聴覚障害に関する講義			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
授業後はテキスト、DVDで復習すること。本科目は予習及び復習時間として60分を設定している。			
教材			
テキスト 「しくみが身につく手話 1 入門編《DVD付き》」 白水社（2022/8/18）前川和美 下谷奈津子 平英司			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	オリエンテーション／聴覚障害の基礎知識	「聞こえない」ことについて考える	
第2回	1. 自己紹介／聴覚障害者とコミュニケーション	復習 テキスト1.／聴覚障害者とコミュニケーション	
第3回	2. 質問しよう／コミュニケーションと言語	復習 テキスト2.／コミュニケーションと言語	
第4回	3. 人について尋ねる／手話の歴史 1	復習 テキスト3.／手話の歴史 1	
第5回	4. 学年を尋ねる／手話の歴史 2	復習 テキスト4.／手話の歴史 2	
第6回	5. 兄弟について話す／手話言語学	復習 テキスト5.／手話言語学	
第7回	6. 待ち合わせをする／ろう者と文化	復習 テキスト6.／ろう者と文化	
第8回	7. 何をしているのか尋ねる／ろう者とスポーツ	復習 テキスト7.／ろう者とスポーツ	
第9回	8. 否定する／聴覚障害と医療	復習 テキスト8.／聴覚障害と医療	
第10回	9. 日にちを相談する／ろう者と災害	復習 テキスト9.／ろう者と災害	
第11回	10. 「したこと」「していること」を話す／盲ろう者	復習 テキスト10.／ろう者への質問を考える	
第12回	ろう者と話そう	実技復習1. ～5.	
第13回	学んだ手話で自分のことを話そう／実技小テストについて	実技復習6. ～10.	
第14回	実技小テスト	復習	
第15回	学んだ手話で会話しよう・筆記試験について	復習	

キーワード	手話・聴覚障害・言語・コミュニケーション	
評価方法・ 評価基準	授業の参加状況10%、手話実技30%、最終試験60%により評価する。	
オフィスアワー		
講義後に対応する。		

講義科目						る デ イ ブ た め に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す	人間力	○
科目区分	基本教育科目-表現力の養成						ケア・スピリット	
授業コード	111013						実践的理解	
授業科目名	中国語Ⅰ						プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	2年 前期 選択			単位数	1		多職種連携	
担当教員	干海							
講義概要								
中国語の基礎について学修する。中国語で読む、書く、話すなどの総合コミュニケーションの能力の養成を目標とする。まず発音記号であるピンインを学び、その後、中国語の表現の仕組みを理解し、簡単な日常会話ができるようにする。中国語の基礎として、音節の構造、声調練習、母音、子音から始め、しっかり発音を練習する。挨拶や自己紹介から始め、簡単な会話ができるように、多くの会話練習ができるような講義を目指す。								
授業内容（到達目標を含む）								
中国語の表現の特徴を日本語及び英語のそれと比較しながら解説するとともに、表現のパターンを提示して、医療の現場で役立つ表現が習得できるように享受する。								
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）								
この科目の単位修得には、約30時間の授業時間以外の学習が必要である。								
教材								
テキスト プリント配布 参考図書 随時紹介する。								
授業計画及び学習課題（予習・復習）								
回	内容				学習課題（予習・復習）			遠隔授業
第1回	中国語概論				中国語の特性を概説する			可
第2回	中国語の表現				正書法の決りを説明する			可
第3回	中国語の音声①				中国語のメロディーを詳説する			可
第4回	中国語の音声②				単母音、そり舌音と複母音を詳説する			可
第5回	中国語の音声③				鼻母音、子音と声調変化を詳説する			可
第6回	中国語の語順				語順の3原則を詳説する			可
第7回	中国語の表現の骨組				日本語との共通点及び相違点を提示する			可
第8回	中国語の表現の構造				基本単語（1）を説明する			可
第9回	中国語の表現①				命題とモダリティーについて詳説する			可
第10回	中国語の表現②				あいさつ言葉について説明する			可
第11回	中国語の表現③				人称代名詞と名詞述語文を詳説する			可
第12回	中国語の表現④				指示代名詞と形容詞述語文を詳説する			可
第13回	中国語の表現⑤				疑問詞疑問文と省略疑問文を詳説する			可
第14回	中国語の表現⑥				副詞、助動詞と連動文を詳説する			可
第15回	中国語の表現⑦				動詞述語文、「有」、「的」を詳説する			可
キーワード								
評価方法・ 評価基準	授業態度30%、筆記試験70%により評価する。							
オフィスアワー								
講義後に対応する。								

講義科目						る デ イ ブ に 必 要 な ボ リ ン グ を 達 成 す	人間力	○
科目区分	基本教育科目-表現力の養成						ケア・スピリット	
授業コード	111014						実践的理解	
授業科目名	中国語Ⅱ						プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	2年 後期 選択		単位数	1			多職種連携	
担当教員	干海							
講義概要								
「中国語Ⅰ」の続編として、「中国語Ⅰ」で学んだ発音、会話、読み書きについて、より発展的に学修する。コミュニケーション能力養成では、中国を旅行する場合の会話、来日中国人観光客との会話について練習する。また、来日中国人観光客が、病気等で日本の医療機関に受診する際の会話についても学ぶ。語学の学修と同時に、中国語の基盤となっている中国の社会や文化についても理解を深める。								
授業内容（到達目標を含む）								
中国語の表現の特徴を日本語及び英語のそれと比較しながら解説するとともに、表現のパターンを提示して、医療の現場で役立つ表現が習得できるように享受する。								
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）								
この科目の単位修得には、約30時間の授業時間以外の学習が必要である。								
教材								
テキスト プリント配布 参考図書 随時紹介する。								
授業計画及び学習課題（予習・復習）								
回	内容				学習課題（予習・復習）			遠隔授業
第1回	中国語の表現⑧				基本単語（2）と簡単な会話文①			可
第2回	中国語の表現⑨				基本単語（3）と簡単な会話文②			可
第3回	中国語の表現⑩				基本単語（4）と簡単な会話文③			可
第4回	中国語の表現⑪				基本単語（5）と初診時の会話文			可
第5回	中国語の表現⑫				基本単語（6）と健康診断時の例文			可
第6回	中国語の表現⑬				基本単語（7）と臨床用の例文①			可
第7回	中国語の表現⑭				基本単語（8）と臨床用の例文②			可
第8回	中国語の表現⑮				基本単語（9）と臨床会話文①			可
第9回	中国語の表現⑯				基本単語（10）と臨床会話文②			可
第10回	中国語の表現⑰				基本単語（11）と臨床会話文③			可
第11回	中国語の表現⑱				基本単語（12）と臨床会話文④			可
第12回	中国語の表現⑲				基本単語（13）と臨床会話文⑤			可
第13回	中国語の表現⑳				基本単語（14）と臨床会話文⑥			可
第14回	中国語の表現㉑				基本単語（15）と臨床会話文⑦			可
第15回	中国語の表現㉒				まとめ			可
キーワード								
評価方法・ 評価基準	授業態度30%、筆記試験70%により評価する。							
オフィスアワー								
講義後に対応する。								

講義科目				た め に プ ロ マ ポ リ シ ー を 達 成 す る		
科目区分	基本教育科目-人間力の養成				人間力	○
授業コード	111015				ケア・スピリット	
授業科目名	自己管理と社会規範（性教育含む）				実践的理解	○
配当学年/ 学期	1年 前期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	石井英子【実務家該当教員】，野田みや子【実務家該当教員】， 高久道子【実務家該当教員】，吉崎純夫【実務家該当教員】				多職種連携	

講義概要			
日々の生活全般で、様々な場面における善悪や正誤を判断する基準としての社会規範やモラルの成り立ち、機能 について理解し、人間社会のルールやモラルに従って行動するために必要な自己管理方法について学習する。また、自分が置かれている立場において、人々との共存に必要な社会規範の理解を深めるとともに、具体的な自己管理のあり方を考える。			
授業内容（到達目標を含む）			
1. 大学生における自身を見極めることができる。 2. 社会人・職業人としての将来像を描き個性を伸展させることができる。 3. 大学生として、医療従事者として、性教育についての知識を深め、実践ができる。 4. より豊かに、より高度に、一貫性をもって創造的に自分を完成させる生き方の出来るスキルを磨くことを目標とする。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
看護学の学習行動能力の向上には、本科目は重要である。履修学生は、本科目の基礎知識を理解するよう予習と復習が大切である。この科目の単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題；予習・復習に示された内容の学修）が必要である。2/3以上の出席がない場合は課題レポート提出の権利がなく、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。			
教材			
随時、講義資料を配布する。			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	自己理解・自己管理能力の開発Ⅰ（看護職としての事例から自己管理を理解する） （石井）	予習120分：初等・中等教育を通じた自分自身のふりかえりを通じて、今までの目標や夢、考え方や大切にしてきたことなどを再考する。 復習120分：高校までの将来目標を再考し5項目の記述をする。	可
第2回	大学生のための性教育① 身体の仕組みを知る（野田）	予習120分：性的発達に伴う身体の仕組みについてまとめる。 復習120分：講義の学びをまとめる(500字程度)	可
第3回	大学生のための性教育② 性に関わる関係、暴力、人権（野田）	予習120分：避妊、デートDV、ジェンダー役割などについてまとめる。 復習120分：講義の学びをまとめる(500字程度)	可
第4回	大学生のための性教育③ 性の多様性と性行動（高久）	予習120分：高校まで学んだ性教育について振り返り、知識をまとめ記述する（300字程度）。 復習120分：講義の学びをまとめる(300字程度)	可
第5回	大学生のための性教育④ 性行動と性感染症の予防行動 （高久）	 予習120分：左のQRコードにアクセスし読む。 復習120分：4回と5回を通して自分の性に対する考え方がどう変わったかまとめて課題レポートする（2000字程度）	不可
第6回	大学生のためのネットリテラシー SNSの情報自己管理 SNS等を活用した相談事業（吉崎）	予習120分：SNSで話題となった事例を調べて、何が問題だったのかを考察する。（200字程度） 復習120分：SNSの上手な活用について、考えを課題レポート（800字程度）にまとめる。	可

第7回	大学生のための社会人マナー 討議における他者への理解（吉崎）	予習120分：配布資料を熟読する。 復習120分：ネットリテラシーと社会人マナーの 学びを、課題レポート（2000字程度）にまとめ る。	可
第8回	自己管理能力：クレジットカード破産につい て 講義の総括（石井）	復習120分：クレジットカード破産と自己管理能 力について課題レポート（2000字程度）を作成す る。	可
キーワード	自己管理能力、ジェンダー、人権、セクシュアリティ、性感染症予防、ネットリテラシー		
評価方法・ 評価基準	各担当教員の課題レポートを総合して評価する。課題レポートはグレクサに提出する。		
オフィスアワー			
石井：事前にアポイントメントを取ってください。 連絡先 e-mail h-ishii@gifuhoken.ac.jp 野田：火、木、金の16:00～17:00 連絡先 m-noda@gifuhoken.ac.jp 高久：木曜以外の平日、昼休み対応可。 連絡先 m-takaku@gifuhoken.ac.jp 吉崎：木曜以外の平日、昼休み。 連絡先 s-yoshizaki@gifuhoken.ac.jp			

講義科目						要 を デ イ 能 成 ブ 力 す る マ た め に シ 必 し	人間力	○
科目区分	基本教育科目-思考力の養成						ケア・スピリット	○
授業コード	1110016						実践的理解	
授業科目名	哲学						プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	2年 前期 選択	単位数	1				多職種連携	
担当教員	鷺見コト江							

講義概要			
西洋哲学、東洋哲学についての基本的な概念を学び、日常的なテーマを使った発表や議論を通じて、哲学を実践的に学ぶ。看護は実践の科学であると共に、看護の対象となる人との相互関係においては、哲学的な思考が有用となる場合もある。哲学と哲学的思考法を、演習形式を通じて身につけることを目的とする。			
授業内容（到達目標を含む）			
フランスの哲学者アンリ・ベルクソンは、「科学と哲学を結び付け、それを次第に発展させることで、存在そのものを、我々はその深みにおいてとらえることができる」と言い、科学と哲学は対立するのではなく、互いに認め合い協力することによって、真理に近づくことができると考えている。このベルクソンの考え従って、現代の科学の発見も踏まえて、「命とは何か」「人間とは何か」を考えていきたい。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
ノートを準備しておくこと。ノートや資料を読み返し、学習課題について自分でよく考えること。			
教材			
テキスト：指定しない。 参考図書：講義中に指示します。			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	哲学誕生	哲学とは	可
第2回	愛智学としての哲学	愛智学とは	可
第3回	哲学と方法	思考方法とは	可
第4回	科学と哲学	科学と哲学の違い	可
第5回	ベルクソンの存在論	存在とは	可
第6回	現代の宇宙論	宇宙とは	可
第7回	ベルクソンの生命論	生命とは	可
第8回	生命の進化と人類誕生	ホモ・サピエンスとは	可
第9回	ベルクソンの人間論	人間とは	可
第10回	心的存在者としての人間	心の構造	可
第11回	エリクソンの人間論	社会的人間とは	可
第12回	エリクソンの発達理論	心の発達とは	可
第13回	障害とは	障害者と健常者	
第14回	発達障害とは	発達障害について	
第15回	医学と看護	看護とは	可
キーワード			
評価方法・評価基準	授業の参加状況10%、学習課題40%、最終試験またはレポート50%により評価する。		
オフィスアワー			
講義後 10～15分間 非常勤講師控室			

講義科目				能達力 成す るた めポ にリ 必シ ーな を	人間力	○
科目区分	基本教育科目-人間力の養成				ケア・スピリット	
授業コード	111017				実践的理解	
授業科目名	他者理解と信頼関係				プロフェッショナリズム	○
配当学年 / 学期	2年 後期 必修	単位数	1		多職種連携	
担当教員	井上真人					
講義概要						
人との信頼関係を構築するには自己理解と共に他者理解が必要となる。自己理解には自分自身を客観的に評価して、その自分を受け入れると共に、他者を知りたいという姿勢を持ち、自分とは違う考え方や見方をする他者という存在を認めること、世の中にはさまざまな価値観や性格、そして生き方もさまざまであることを認識し、それらを受け入れることが大切であること、他者理解を深める具体的な方法を学修する。						
授業内容（到達目標を含む）						
（井上真人／8回） 1．保健医療福祉の支援を必要とする当事者とその家族に対して全人的に対応、合理的配慮ができる。 →当事者・家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握できる。 2．被援助者、および、他の援助者との関係形成の必要性と方法を理解する。 →対象者との関係構築の必要性について述べるができる。 →自己のコミュニケーションや対人関係の傾向を知ることができる。 →被援助者、および、他の援助者とのコミュニケーションスキルを身につけることができる。 3．医療チームの構成員としての役割を理解し、保健医療福祉の幅広い職種からなる他のメンバーと協調、信頼関係を構築することができる。 →関係機関や諸団体の担当者とコミュニケーションがとれる。						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
他者配慮と信頼関係のプロセスについて具体的に理解するため、教科書及び授業で紹介する資料などで自己学習を行う。						
教材						
テキスト：保健・医療・福祉教育にいかす簡易型認知行動療法実践マニュアル。大野裕・田中克俊（著／監修），きずな出版, 2017年 参考図書：マインドフルネスを医学的にゼロから解説する本 医療者のための臨床応用入門。佐渡充洋・藤澤大介（編著），日本医事新報社, 2018（その他, 適宜紹介する）						
授業計画及び学習課題（予習・復習）						
回	内容			学習課題（予習・復習）		遠隔授業
第1回	対話，協働的パートナーシップ ：What is important for you? (Wify) 対話からの健康教育・ヘルスプロモーション 看護過程における協働的パートナーシップ			予習:既習の看護過程における、健康教育・ヘルスプロモーションをふり返る。 復習:対話と協働的パートナーシップを通して他者配慮と信頼関係構築のプロセスを理解する。		可
第2回	看護過程に活かす他者配慮と信頼関係 ：メンタルヘルス・ファースト・エイド			メンタルヘルス・ファースト・エイドの実践例を通して、他者配慮と信頼関係の構築のプロセスを理解する。		可
第3回	ペプロウ：人間関係の看護論、ウィーデンバック，オーランド等に学ぶプロセス・レコードによるリフレクション（省察）			人間関係の看護論，プロセス・レコードを通して他者配慮と信頼関係構築のプロセスを理解する。		可
第4回	カリスタ・ロイ：適応看護論より ・自己概念様式, 相互依存様式, 役割機能様式			適応看護論のアセスメントを通して，他者配慮と信頼関係構築のプロセスを理解する。		可
第5回	対人関係療法より，対人関係のアセスメント			対人関係療法の技法を通して、他者配慮と信頼関係構築のプロセスを理解する。		可
第6回	自己理解と他者理解 ：認知療法・認知行動療法：行動活性化			認知療法・認知行動療法の行動活性化の技法を通し自己理解と他者理解のプロセスを理解する。		可
第7回	自己理解と他者理解 ：認知療法・認知行動療法：認知再構成法			認知療法・認知行動療法の認知再構成法を通して自己理解と他者理解のプロセスを理解する。		可
第8回	自己理解と他者理解 ：認知療法・認知行動療法：問題解決スキル			認知療法・認知行動療法の問題解決のスキルを通し自己理解と他者理解のプロセスを理解する。		可
評価方法						
試験（50%），受講課題に関する提出物（50%）により評価する。						
オフィスアワー						
授業前後に、質問を受け付けます。						

講義科目						要 を デ イ 能 成 プ 力 す ろ る マ た ポ め り に シ 必	人間力	○
科目区分	基本教育科目-人間力の養成						ケア・スピリット	
授業コード	111018						実践的理解	
授業科目名	地域活動と社会貢献（ボランティア含む）						プロフェッショナリズム	○
配当学年/ 学期	1年 後期 必修	単位数	1				多職種連携	
担当教員	高久道子【実務家該当教員】，小萱康德【実務家該当教員】							

講義概要			
社会貢献は、その活動が他者に強制されたものではなく、自発的・自主的な活動である。なかでも地域活動としての社会貢献活動は、その活動自体が公共的、社会的であり、自己実現欲求の充足などが活動の意義や要素と考えられる。社会貢献活動を通じて、地域住民の様々な意向やニーズを把握し、社会的な課題として顕在化させ、社会に反映させていく役割が期待されている。履修者は、質の高い看護活動をさらに深化させることにつながることを理解する。			
授業内容（到達目標を含む）			
変動する社会の中で、さまざまな地域活動の実際を通して、生命と健康を守る仕事の大切さを学ぶ。履修学生は地域で活動している団体を検索し、ボランティア活動を体験する機会としている。到達目標は以下とする。 1) 東海地域で活動している様々な団体の活動と活動内容を通して自分のできる社会貢献を考える。 2) 東海地域のニーズを把握して、積極的に社会貢献活動に取り組む。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
この科目の単位習得には約30時間の授業時間以外の学習が必要である。講義で出した課題は、講義期間中に完成し、グレクサに提出すること。2/3以上の出席がない場合は課題レポート提出の権利がなく、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。			
教材			
随時講義資料を配布する。			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	講義の進め方、ボランティアとの定義（高久）	復習180分：講義の学びを300字程度にまとめる。	可
第2回	グループワーク① ニーズのある地域・社会貢献活動の探索	グループになり、関心のあるボランティア活動先を検索する。 復習180分：ボランティア活動先の関心动機、何をしたいか、何が学べるか500字程度にまとめる。	不可
第3回	グループワーク②	復習180分：グループごとのリサーチワークについての進捗状況を300字程度にまとめる。	不可
第4回	グループワーク③	復習180分：グループの取り組みをパワーポイントにまとめていく。グループごとのリサーチワークについての進捗状況を300字程度にまとめる。	不可
第5回	グループワーク④	復習180分：グループごとの活動状況について300字程度にまとめる。グループワークのまとめをパワーポイント等にまとめる	不可
第6回	グループ発表① (高久、小萱)	復習180分：他グループの発表について300字程度にまとめる。	可
第7回	グループ発表② (高久、小萱)	復習180分：他グループの発表について300字程度にまとめる。	可
第8回	総括（高久、小萱）	グループ発表について履修学生と講師で話し合う。	可

キーワード	ボランティア、地域活動、社会貢献	
評価方法・ 評価基準	参加態度20%、グループワーク30%、課題レポート50%で評価する	
オフィスアワー		
高久：研究日以外の平日、昼休みも対応します。連絡先 m-takaku@gifuuoken.ac.jp 小萱：メールで対応します。連絡先 y-kogaya@gifuuoken.ac.jp		

講義科目						
科目区分	基本教育科目-人間の理解			る デ イ ブ に 必 要 な 能 力 を 達 成 す	人間力	○
授業コード	111019				77・スピリット	○
授業科目名	現代の倫理				実践的理解	
配当学年/ 学期	1年 前期 必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	鷲見コト江				多職種連携	
講義概要						
現代社会における様々な倫理の問題について、具体的なテーマを使って考察し理解を深める。現代社会のジレンマや難問に直面したとき、どのように考えるのがよいのか、その示唆を与えてくれる考え方を学修し、看護の対象となる人の理解につなげることが科目の目的である。						
授業内容（到達目標を含む）						
倫理学あるいは道徳哲学は、特に価値と規範の基礎付けにかかわる哲学の一部であり、古代ギリシアから始まる哲学の先人たちが、「人間はいかに生きるべきか、人生はいかにあるべきか」という問いに答えようとした学問である。価値すなわち善悪、規範すなわち義務と禁止の意味を考えながら、現代の問題に自分なりの答えを出す方法を学びます。						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
ノートを準備しておくこと。ノートや資料を読み返し、学習課題についてよく考えること。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。						
教材						
テキスト 指定しない。 参考図書 講義中に指示します。						
授業計画及び学習課題（予習・復習）						
回	内容			学習課題（予習・復習）		遠隔授業
第1回	倫理と道徳			倫理とは		
第2回	論理的判断			価値判断の方法		可
第3回	現代の倫理的課題			SDGsと感染症		可
第4回	ホセ・ムヒカの倫理観			発展と幸福		
第5回	アリストテレスの倫理学			善と幸福		可
第6回	デカルトの道徳論			学問と道徳		可
第7回	スピノザの倫理学 I			人間とは		可
第8回	スピノザの倫理学 II			徳とは		可
第9回	カントの道徳論 I			義務と欲望		可
第10回	カントの道徳論 II			道徳と幸福		可
第11回	生命と倫理			医療倫理とは		可
第12回	認知症と人権			アルツハイマー型認知症とは		
第13回	ユマニチュードの倫理観			看護と人権		
第14回	育児と人権			虐待とは		
第15回	人体と健康			人体とは		
評価方法						
授業の参加状況10%、学習課題40%、最終試験またはレポート50%により評価する。						
オフィスアワー						
講義後 15分間 非常勤講師控室						

講義科目					る デ イ ブ に 必 要 な 能 力 シ ー を 達 成 す		
科目区分	基本教育科目-人間の理解					人間力	○
授業コード	111020					ケア・スピリット	
授業科目名	心理と行動					実践的理解	
配当学年/ 学期	1年 後期 選択	単位数	2			プロフェッショナリズム	
担当教員	野田みや子【実務家該当教員】，小野 悟【実務家該当教員】					多職種連携	

講義概要			
心理学は、人の心や行動のメカニズムを研究する学問であり、また行動科学はその心理学の手法を応用して、現代社会における人の行動を広く研究する学問である。この科目では、社会の中で人がとる行動のメカニズムや対人関係、集団心理などの社会的行動などを心理的側面から分析し、人間の理解を深めることが目的である。			
授業内容（到達目標を含む）			
社会生活に応用できる心理学の基本概念を学び、現場の事象を心理学的にとらえ、人の理解や対応に活かす力を身につける。鍵概念は、「発達」「動機づけ」「学習」「知的能力」「社会性」「不適応」「障害」等である。他にも、評価や集団等の重要な概念も学ぶ。これらは単なる知識だけではなく、自分自身の振り返り、将来の職場での自分のあり方のイメージ作り等、自分の内面の豊かさに結び付く。必要に応じて視聴覚教材を取り入れて進めていく。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
授業中に発表を求めます。分からないことがあれば積極的に質問すること。確認テストはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。			
教材			
テキスト 特に指定しない（授業ごとに、必要な資料を配布する） 参考図書「生涯人間発達論」（第3版）服部祥子著、医学書院、2020年、2,310円（税込） 「系統看護学講座-基礎分野-、心理学」（第6版）山村豊著、医学書院、2017年、2,530円（税込）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	オリエンテーション 対人援助職が心理学を学ぶ意義 心理学の概念と歴史 (小野)	予習：指定参考図書に目を通す 復習：心理学を学ぶ意義についてまとめる 予習時間：30分、復習時間60分	可
第2回	学習の定義とその仕組み 行動の特性と行動分析学の基本的理解 (小野)	予習：指定参考図書に目を通す 復習：学習の定義と仕組みについてまとめる 予習時間：30分、復習時間60分	可
第3回	オペラント条件付けの4つの基本パターン 行動随伴性の理解、随伴性ダイアグラムを用いた行動分析の実践 (小野)	予習：指定参考図書に目を通す 復習：随伴性ダイアグラムを用いた行動分析を行う 予習時間：30分、復習時間60分	可
第4回	記憶の理解 記憶の定義、記憶のプロセスと分類 記憶の特徴と忘却、記憶の重要性 (小野)	予習：指定参考図書に目を通す 復習：記憶の分類、プロセスについてまとめる 予習時間：30分、復習時間60分	可
第5回	動機づけ：理論と実際 (野田)	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：2つの動機づけ理論について、理解する ※授業開始時 5minutes test 予習時間：30分、復習時間60分	可
第6回	パーソナリティの心理学的定義 パーソナリティの理論 パーソナリティの病理、心理検査 (小野)	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：パーソナリティ理論についてまとめる 予習時間：30分、復習時間60分	可
第7回	外界を理解する心の働き：知覚 外界を知覚するプロセス 感覚、知覚の特徴①視覚②聴覚 (小野)	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：知覚の特徴についてまとめる 予習時間：30分、復習時間60分	可

第8回	思考・言語・知能 思考と問題解決、言語とコミュニケーション、知能検査と知的障害 (小野)	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：思考と言語の特徴についてまとめる 予習時間：30分、復習時間60分	可
第9回	感情の諸相 感情の定義とその要素 感情のメカニズム (小野)	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：感情と言語の特徴についてまとめる 予習時間：30分、復習時間60分	可
第10回	適応①不登校 (野田)	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：不登校の問題について、理解する ※授業開始時 5minutes test 予習時間：30分、復習時間60分	可
第11回	適応②いじめ (野田)	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：いじめのメカニズムと防止方法を、理解する ※授業開始時 5minutes test 予習時間：30分、復習時間60分	可
第12回	発達障害①：発達障害とは、事例 (野田)	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：発達障害の諸相について、理解する ※授業開始時 5minutes test 予習時間：30分、復習時間60分	可
第13回	発達障害②：発達障害への援助 (野田)	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：発達障害のアセスメントと、支援方法について、理解する ※授業開始時 5minutes test 予習時間：30分、復習時間60分	可
第14回	社会と集団 組織・集団の構造と機能 社会現象と集団心理 (小野)	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：集団心理の特徴についてまとめる 予習時間：30分、復習時間60分	可
第15回	医療・看護と心理 患者の心理、医療・看護職の心理特性 まとめ (小野)	予習：指定された参考図書に目を通す 復習：患者心理の特徴についてまとめる 予習時間：30分、復習時間60分	可
評価方法			
授業態度10%、レポート10%、最終試験80%により評価する。			
オフィスアワー			
野田：月曜・水曜・木曜・金曜の16:10分から17:00まで、研究室（2） 事前にアポイントメントを取ってください。連絡先 e-mail m-noda@gifuhoken.ac.jp 小野：月曜・火曜・水曜・金曜の12:30分から17:00まで 事前にアポイントメントを取ってください。連絡先 e-mail s-ono@gifuhoken.ac.jp			

講義科目						
科目区分	基本教育科目-人間の理解			る デ イ ブ に 必 要 な 能 力 を 達 成 す	人間力	○
授業コード	111021				ケア・スピリット	
授業科目名	学習と行動				実践的理解	
配当学年/ 学期	1年 前期 選択	単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	稲葉 政徳【実務家該当教員】				多職種連携	
講義概要						
人の行動は実に多種多様であり、行動を引き起こす動機や欲求は周囲の環境が大きく影響する。とくに問題行動については患者など対象者の尊厳を維持しつつ望ましい行動へと変容していくスキルが必要となる。本講義では、応用行動分析学の観点から多様な学習と行動のプロセスを学び、人間理解へとつなげていくことを目的とする。						
授業内容（到達目標を含む）						
心理学のうちの行動療法のひとつである「応用行動分析学」をベースとして、人の行動を観察し、分析する思考を養う。また、レポート作成を通して各々が学びを総括していく。						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
講義内容の難易度が高めのため、日々の自己学習による復習が必要となる。						
教材						
テキスト「リハビリテーション効果を最大限に引き出すコツ」山崎 裕司，山本 淳一 三輪書店 第3版 参考書「リハビリテーションのための脳・神経科学入門」、森岡周、協同医書出版、2016年 3,024円						
授業計画及び学習課題（予習・復習）						
回	内容			学習課題（予習・復習）		遠隔授業
第1回	行動と行動分析学の基礎			人の行動とは何か？行動を分析することとは		
第2回	学習とは、行動とは何か			人が行動しながら学習していくことについて		
第3回	応用行動分析学の基礎			応用行動分析学とは何か		
第4回	行動への働きかけ			行動分析における3項関係とは何か？		
第5回	好子と嫌子			人の行動を左右する好子、嫌子とは？		
第6回	刺激的制御、行動への働きかけ			いかに望ましい行動には働きかけるか？		
第7回	発達障害児の問題行動①行動定着と原因分析			場面にそぐわない行動の原因とは？		
第8回	発達障害児の問題行動②日常生活場面			問題行動を分析し、適切な対応を検討する		
第9回	強化子(ごほうび)			人の行動を強化する因子とは		
第10回	セルフ・マネジメント行動ほか			本人に自らの行動を意識させるということ		
第11回	日常生活活動の練習場面での行動分析			リハビリ練習に伴う問題を観察し、分析していく		
第12回	日常生活動作練習への介入			リハビリ練習で本人にやる気が出ないのは？		
第13回	動作学習の行動分析的考察			障害や受傷後の動作練習をどう考え介入するか		
第14回	認知症患者への応用			認知症患者への応用行動分析的アプローチ		
第15回	認知症事例から学ぶ			認知症患者の問題行動をいかに分析するか		
評価方法						
授業の参加状況10%、、最終レポート作成90%により評価する。						
オフィスアワー						
水曜日から金曜日の16時20分から17時						

講義科目						
科目区分	基本教育科目-人間の理解			ディ ブ に 必 要 な 能 力	人間力	○
授業コード	111022				ケア・スピリット	
授業科目名	健康と生活				実践的理解	
配当学年/ 学期	1年 前期 選択	単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	稲葉政徳【実務家該当教員】				多職種連携	

講義概要				
近年、「人生100年時代」と世間ではいわれている。たしかに、毎年敬老の日に政府から発表されている「100歳以上の人口」は増加数も過去最多で、令和年度は初の9万人を突破した。しかし、平均寿命と健康寿命との比較では、相変わらず「差(健康に生活することが難しい時期)」がある。本講義では、国民の健康推進を担う医療従事者として、「健康寿命を延ばしていくため」に必要な生活習慣の知識と工夫を学んでいきたいと思います。				
授業内容（到達目標を含む）				
地域、社会、家庭において「健康」をどうとらえるか。受講者自身の生活習慣を省みながら受講していただくことをお勧めいたします。また毎回の講義では、知識の単なるインプットだけでなく考える力とその発表をする機会をつくっていきます。				
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）				
復習やテキストなどによる予習を推進する。				
教材				
テキスト：「テキスト健康科学」改訂第2版 竹内康浩、田中豊(監修)、南江堂、2,860円(税込) 参考図書：健診・健康管理専門職のための新セミナー生活習慣病 第2版 日本医事新報社 (税込3,456円)				
授業計画及び学習課題（予習・復習）				
回	内容	学習課題（予習・復習）		遠隔授業
第1回	現代の健康問題概観	ニュース記事などで健康問題、医療福祉についての話題を閲覧しておくこと		
第2回	メンタルヘルスについて	現代人とストレスについて考えてみましょう		
第3回	薬物依存	人はなぜ違法薬物に手を染めるのか		
第4回	栄養・健康に関する社会的諸問題	栄養過多と栄養不足について考えてみましょう		
第5回	肥満について	肥満の発症メカニズムとその予防、改善方法		
第6回	糖尿病について	糖尿病の発症メカニズムと予防方法		
第7回	高血圧・動脈硬化について	高血圧、動脈硬化の発症メカニズムと改善方法		
第8回	脂質異常症について	脂質異常症の発症メカニズムと改善方法		
第9回	認知症と向き合う	認知症とどう向き合うか？		
第10回	ロコモティブシンドローム、フレイル	ロコモティブシンドローム、フレイルの予防		
第11回	生活に取り入れる筋トレ	筋トレ持久力を意識した生活の工夫を考えよう		
第12回	デジタル社会を見つめる	デジタル社会が人に与える健康面の問題とは？		
第13回	クルマ社会を見つめる	高齢者の運転についてなど		
第14回	独居者の健康維持増進について	独居高齢者急増の社会への健康上の発信		
第15回	人生100年時代の健康と生活	人生を100年のスパンで考えると。		

評価方法
授業参加態度など10%、最終レポート作成90%により評価する。
オフィスアワー
水曜日から金曜日の16時20分から17時

講義科目				る デ イ め プ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す	人間力	○
科目区分	基本教育科目-人間の理解				ケア・スピリット	
授業コード	111023				実践的理解	
授業科目名	岐阜県の歴史と文化				プロフェッショナルリズム	
配当学年/ 学期	1年 後期 選択	単位数	2		多職種連携	
担当教員	野田みや子【実務家該当教員】，高久道子【実務家該当教員】					

講義概要			
学外のフィールド調査を通じて、岐阜県の郷土の歴史、祭りや受け継がれる伝統、自然環境や生活を理解することで、岐阜県の歴史と文化について学び、地域の特性、長所や課題についても理解する。授業ではアクティブラーニング的手法を重視し、学生自身による調査、研究、発表により授業を進める。			
授業内容（到達目標を含む）			
グループごとに岐阜県内の市・町のフィールド調査（地域診断）を行うことで、その市・町の統計や社会的資源、歴史、文化、自然環境、生活習慣を調べ、岐阜県で暮らす人々の暮らし、または課題について学ぶ。 到達目標： 1) 地域診断についての手法を学び、理解する。 2) 地域診断で選んだ市・町を訪問・観察・考察し、他の人に説明することができる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
講義内で、グループで地域診断する市・町を訪問する日を設けている。この科目の単位修得には約60時間の授業時間以外の学修（学習課題、予習・復習に示されている内容の学修）が必要であり、シラバスを熟読して学習を進めること。講義内容についての考察を講義時間内に行う。2/3以上の出席がない場合は課題レポート提出の権利がなく、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。			
教材			
教科書は特に指定しない。随時講義資料を配布する。 参考図書：岐阜県ホームページ、岐阜県の概要、https://www.pref.gifu.lg.jp/page/109.html			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	オリエンテーション	予習30分：地域診断（配布資料）を熟読する。 復習60分：講義資料の復習、ポイントをまとめる。	可
第2回	岐阜県の歴史と文化を調べる： 地域診断の手法	予習30分：地域診断（配布資料）を熟読する。 復習60分：講義資料の復習、ポイントをまとめる。	可
第3回	地域診断の確認、地区視診の手法、グループ分け、地域診断場所決め	予習30分：地域診断を行う場所について調べる。 復習60分：講義資料の復習、ポイントをまとめる。	不可
第4回	各グループの地域診断の準備	予習30分：地域診断を行う場所について調べる。 復習60分：講義資料の復習、ポイントをまとめる。	不可
第5回	岐阜県内の地域診断①	予習各30分：地域診断を行う場所について調べる。 復習各60分：訪問市町村の量的データ（保健統計、社会資源、観光地候補）を収集、まとめる。	不可
第6回	岐阜県内の地域診断②		不可
第7回	岐阜県内の地域診断③		不可

第8回	岐阜県内の地域診断④	予習各30分：地域診断を行う場所について調べる。 復習各60分：訪問先の状況（質的データ）をまとめる。	不可
第9回	岐阜県内の地域診断⑤		不可
第10回	岐阜県内の地域診断⑥		不可
第11回	地域診断のまとめ①	予習各30分：グループ発表データをまとめる。 復習各60分：グループ発表データをまとめる。	不可
第12回	地域診断のまとめ②		不可
第13回	地域診断のまとめ③		不可
第14回	地域診断の結果グループ発表①	予習30分：グループ発表の準備を行う。 復習60分：グループ発表データから課題レポートを作成する。	不可
第15回	地域診断の結果グループ発表②、講評と総括		不可
評価方法			
グループ発表30%、課題レポート70%より評価する。			
オフィスアワー			
事前にメールでアポイントを取ってください。 野田みや子：火、木、金の16:00～17:00 連絡先 m-noda@gifuhoken.ac.jp 高久道子：木曜以外の平日、昼休み対応可。 連絡先 m-takaku@gifuhoken.ac.jp			

講義科目					る デ イ ブ に 必 要 な 能 力 を 達 成 す		
科目区分	基本教育科目-人間の理解					人間力	○
授業コード	111024					ケア・スピリット	○
授業科目名	多文化と多様性の理解					実践的理解	
配当学年/ 学期	1年 前期 必修	単位数	2			プロフェッショナリズム	
担当教員	内藤直子【実務家該当教員】，高久道子【実務家該当教員】					多職種連携	

講義概要

医療の場では、国籍や人種、文化、宗教、生活習慣、ジェンダー、セクシュアリティ等、個々の患者の多様性を看護職者として理解し、信頼関係を構築して看護ケアを実践することが求められる。この科目では、異文化理解や異文化コミュニケーションに関連する文献等を通じて異なる文化を理解し、多文化社会に触れる機会を持ち、実際に看護の現場で起こる課題に対応できる知識や非言語コミュニケーションスキル等を学修し、多様な文化背景を持つ人を受け入れる人間力を養う。

授業内容（到達目標を含む）

多文化と多様性、異文化コミュニケーションに関する文献を読み解く。
履修学生は、講義で実施されるグループワークやディスカッションに対して積極的に参加する。
履修学生は、想像力・考察力を高めるためにレポート課題を提出する。
到達目標：
1. 「多文化と多様性の理解」について説明できる。
2. 異なる文化を尊重しようとする寛容性を獲得すると同時に、自己のもつ文化とアイデンティティを認識する。
3. 異なる文化・宗教・言語等を有する人々に対する看護の在り方「異文化看護」理論の基礎的知識を獲得する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

国際社会の今日、在日外国人の医療アクセスも増加し、多文化を理解した看護実践を行うために、本科目は重要である。履修学生は、この科目の単位修得には約15時間の授業時間以外の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要であり、シラバスを熟読して学習を進めること。講義内容についての考察を講義時間内に行う。2/3以上の出席がない場合は課題レポート提出の権利がなく、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。

教材

教科書1：「知って考えて実践する 国際看護」、近藤麻里、医学書院（1,800円+税）
教科書2：「母性看護学概論」、森恵美他、医学書院（2,400円）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	オリエンテーション、 「多文化と多様性の理解」のイントロダクション（高久）	予習30分：教科書1：第1章2を熟読する。 復習30分：ハラル認証と食品、製品について300字程度にまとめ、グレクサに提出する。	可
第2回	日本で暮らす外国籍の人々の背景1： 「東・中央アジア地域」（高久）	予習30分：教科書1：第1章5を熟読する。 復習60分：アルマアタ宣言、プライマリヘルスケアについて各200字程度にまとめ、グレクサに提出する。	可
第3回	日本で暮らす外国籍の人々の背景2： 「東南アジア地域」（高久）	予習30分：教科書1：第2章1を熟読する。 復習60分：講義内容について200字程度にまとめ、グレクサに提出する。	可
第4回	日本で暮らす外国籍の人々の背景3： 「中南米地域」（高久）	予習30分：教科書1：第2章3を熟読する。 復習60分：難民の定義と難民支援を行う国際機関について各300字程度にまとめ、グレクサに提出する。	可
第5回	日本で暮らす外国籍の人々の背景4： 「北米、ヨーロッパ、オセアニア地域」（高久）	予習30分：教科書1：第1章1を熟読する。 復習60分：講義内容について200字程度にまとめ、グレクサに提出する。	可

第6回	日本で暮らす外国籍の人々の背景5： 「中東、アフリカ地域」（高久）	予習30分：教科書1：第2章6を熟読する。 復習60分：講義内容について200字程度にまとめ、 グレксаに提出する。	可
第7回	自己とアイデンティティ（高久）	予習30分：教科書1：第2章5を熟読する。 復習60分：講義内容について200字程度にまとめ、 グレксаに提出する。	可
第8回	ステレオタイプとスティグマ（高久）	予習30分：教科書1：第3章を熟読する。 復習60分：講義内容について200字程度にまとめ、 グレксаに提出する。	可
第9回	ジェンダー、セクシュアルマイノリティ (LGBTQ)（高久）	予習30分：教科書1：第2章4を熟読する。 復習60分：講義内容について200字程度にまとめ、 グレксаに提出する。	可
第10回	セクシュアルマイノリティの健康課題 (高久)	予習30分：教科書1：第2章2を熟読する。 復習60分：講義内容について200字程度にまとめ、 グレксаに提出する。	可
第11回	母子保健の国際化、現状と看護課題、 異文化にみる出産と子育て（内藤）	国際化社会で異文化看護の意義や課題を考える。 課題レポートは2週間後に提出 予習60分・復習60分	可
第12回	日本で暮らす外国籍住民の理解： グループワーク1（高久）	予習30分・復習60分：教科書1：第4章を熟読して まとめ、グレксаに提出する。 グループワーク課題：グループワークで選定した 国について、文化、生活習慣、価値観、保健医療 に関する考え方等の情報収集・整理・まとめを行 い、パワーポイント等で発表の準備を行う。	不可
第13回	日本で暮らす外国籍住民の理解： グループワーク2（高久）		不可
第14回	日本で暮らす外国籍住民の理解： グループ発表1（高久）		不可
第15回	日本で暮らす外国籍住民の理解：グループ発表 2、講評と総括（高久）	予習30分：グループ発表・課題レポートを準備す る。 復習60分：他のグループ発表から得た理解につい て300字程度にまとめる。	可
評価方法			
復習課題の提出20%、課題レポート50%、グループワーク30%より評価する。 *課題レポート（50%）の配分については、高久（40%）、内藤（10%）とする。 S（100～90点）：「多文化と多様性」について説明し、異文化に対する寛容性を獲得し、異文化看護の実践力を獲得する。 A（89～80点）：「多文化と多様性」について説明し、異文化に対する寛容性を獲得し、異文化看護の知識を得る。 B（79～70点）：「多文化と多様性」について説明し、異文化に対する寛容性を獲得する。 C（69～60点）：「多文化と多様性」について説明できる。 D（60点未満）：Cのレベルに達していない。			
オフィスアワー			
内藤直子：n-naitoh@gifuuoken.ac.jp 高久道子：m-takaku@gifuuoken.ac.jp			

講義科目				る デ イ プ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す	人間力	○
科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解				ケア・スピリット	○
授業コード	111025				実践的理解	
授業科目名	人体構造機能学Ⅰ				プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	1年 前期 必修	単位数	2		多職種連携	
担当教員	永井博弐【実務家該当教員】					

講義概要			
人体の構造と機能を細胞・組織・器官・器官系の順に学び、体の基本単位と生命活動の基本を理解する。生理学の基礎として細胞の構造と機能を学ぶことにより生命現象の本質を理解し、次いで各器官の基本的な働きと、さらに各器官の機能調節のための器官間での情報伝達について、神経および内分泌の働きを中心に分子生物学的なレベルまで理解する。各器官の個別の機能分担を理解すると同時に、各器官間の相互作用の結果生じるホメオスタシスの生理学的意義を理解する。			
授業内容（到達目標を含む）			
人体を構成する各器官の基本的な構造とはたらき（機能）について、特に各器官の機能分担を学習し、体内環境の恒常性が維持されるしくみを理解する。講義と単元テストに基づく知識確認を行いながら、対面講義を中心とするが、機会を見て参加型講義を随時に取り入れていく。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
解剖生理学によく出る単語と概念を理解するために教科書を読み込むこと			
教材			
テキスト	新体系 看護学全書 人体の構造と機能①	解剖生理学	
参考図書	人体機能生理学（南江堂）		
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	解剖生理学のための基礎知識	人体の階層性・細胞の基本構造と機能、細胞分裂と分化について指定された教科書を読んで予習し、講義時に配布されたプリントを読み返し、問題を解いて復習する。以下の各講義についても同様に予習復習する。	可
第2回	細胞の代謝と機能	代謝、異化作用、同化作用 エネルギー代謝	可
第3回	細胞の分裂と機能	遺伝と遺伝子、DNA、体細胞分裂、減数分裂、卵割、胚葉	可
第4回	組織とホメオスタシス	上皮組織、結合・神経・筋組織、ホメオスタシス	可
第5回	栄養の消化と吸収－消化器系：	食物の消化、吸収、運搬	可
第6回	呼吸器系のはたらき	呼吸運動、ガス交換、呼吸機能測定、呼吸調節	可
第7回	血液のはたらき	血液の機能、血球・血漿のはたらき	可
第8回	血液の循環とその調節	心臓、刺激伝導系、血管系、大循環、動脈血、静脈血	可
第9回	体液の調節と尿生成	腎、尿生成、腎のホメオスタシスにおける役割	可
第10回	内臓機能の調節－神経・中枢神経・末梢神経（自律神経）	神経概論、神経細胞、中枢神経、機能分担、	可

第11回	情報の受容と処理－神経・中枢・末梢神経 (感覚神経)	自律神経、感覚神経（特殊感覚、体性感覚、 内臓感覚）	可
第12回	情報の受容と処理－神経・中枢神経・末梢神 経（運動神経）	運動神経、筋の種類、筋収縮	可
第13回	内分泌器官のはたらき	内分泌器官、ホルモン	可
第14回	皮膚の機能	生体防御機能、ホメオスタシス	可
第15回	生殖と発生、老化	発生、老化	可
評価方法			
授業への積極性 10%、レポート・単元テスト 10%、最終試験80%により評価する。 S (100～90点)：人体の器官系を有機的に結びつけた構成を説明できる。 A (89～80点)：人体を構成する各器官の基本的なはたらき（機能）について説明できる。 B (79～70点)：人体を構成する各器官の基本的なはたらき（機能）について説明できる。 C (69～60点)：人体を構成する各器官の基本的な働きについてわかる。 D (60点未満)：Cのレベルに達していない。			
オフィスアワー			
月曜日から水曜部の午後（13時から17時まで）			

講義科目					る デ イ プ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す	人間力	
科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解					ケア・スピリット	
授業コード	111026					実践的理解	○
授業科目名	人体構造機能学Ⅱ					プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	1年 後期 必修	単位数	2			多職種連携	
担当教員	小萱康德【実務家該当教員】						

講義概要				
人体構造機能学Ⅱ(解剖学)を学修し正常な人体の構造を理解することは、その機能、疾病および病態、その他の臨床科目を学ぶ上での基礎となる。本科目では肉眼解剖学的及び顕微解剖学的(組織学的)に人体を構成する各器官系(骨格系、筋系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系)について学修する。				
授業内容(到達目標を含む)				
授業ではパワーポイント資料と板書を基軸とするが、人体を構成する各器官の解剖学的及び組織学的視覚素材を学生と共有し(ポータルサイト等)、必要に応じて授業の補助教材とする。授業内容に関連した国家試験問題を中心とした練習問題を、各授業ごとに提示するので、授業後これら練習問題を解くことで授業理解度を確認する。				
留意事項(履修条件・授業時間外の学修)				
2/3以上の出席がない場合は定期試験の受験資格を失う。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。各授業ごとに練習問題をポータルサイトにアップするので、問題を解いて授業理解度を確認する。すべての問題の正答が分かり、さらに誤答肢が何故間違いなのかも調べその結果を課題レポートとして提出する。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している				
教材				
テキスト:解剖生理学 人体の構造と機能 ① 坂井建雄・岡田隆夫・宇賀貴紀著(医学書院)				
授業計画及び学習課題(予習・復習)				
回	内容	学習課題(予習・復習)	遠隔授業	
第1回	人体の構造の概要	人体の形状(体幹と体肢の各部位の名称)及び方向と位置を示す用語について説明できる。人体内部の腔所(頭蓋腔、脊柱管、胸腔、腹腔、骨盤腔)を説明できる。	○	
第2回	全身の骨と関節	人体の骨格(頭部、体幹、上肢、上肢帯、下肢および下肢帯の骨)の構成並びに各骨間の関節について説明できる。		
第3回	骨格筋の構造と働き	骨格筋の構造(形状による分類、起始と停止)と上肢の屈筋と伸筋、下肢の屈筋と伸筋、背部と胸腹部の筋、腸腰筋、殿筋を説明できる。		
第4回	呼吸器系	上気道(鼻腔、咽頭、喉頭)と下気道(気管、気管支、肺胞)を説明できる。喉頭の声門を開閉する筋を説明できる。左右の気管支の構造の違い及び肺胞を構成する細胞について説明できる。		
第5回	消化器系	消化管の基本構造と各部位での粘膜上皮の形態的特徴を説明できる。口腔、食道、胃、十二指腸。空腸、回腸、大腸の構造と機能を説明できる。付属消化腺(唾液腺、膵臓、胃底腺、肝臓)の組織構造とその働きを説明できる。		
第6回	血管系とリンパ管系、心臓	血管系とリンパ管系の関係、心臓の内部構造と出入りする血管、冠状動静脈、心膜を説明できる。動脈と静脈の血管壁の構造の違いを説明できる。		

第7回	全身の動脈系と静脈系	体循環の動脈（上行大動脈、大動脈弓、胸大動脈及び腹大動脈）の主な枝を説明できる。体循環の主な静脈（上・下大静脈、上・下肢の静脈、肝門脈、奇静脈）を説明できる。	
第8回	泌尿器系の組織構造と機能	腎臓、尿管、膀胱、尿道の組織構造を説明できる。腎臓の機能の多様性をその組織構造に基づいて説明できる。	
第9回	生殖器系の発生と性差	男性生殖器と女性生殖器の構造の違いと相同性を説明できる。生殖器系の発生を通して、生殖器の分化と発達過程を説明できる。	
第10回	内分泌器官の組織構造と分泌ホルモン（1）	各内分泌器官（下垂体、甲状腺、上皮小体）の組織構造と分泌ホルモンの働きを説明できる。内分泌と外分泌の違いを説明できる。	
第11回	内分泌器官の組織構造と分泌ホルモン（2）	各内分泌器官（副腎、膵臓、性腺）の組織構造と分泌ホルモンの働きを説明できる。	
第12回	視覚器、聴覚・平衡覚器の組織構造と機能	眼球の組織構造（強膜、角膜、虹彩、毛様体、水晶体、硝子体、網膜、色素上皮、脈絡膜）、蝸牛および半規管の組織構造を説明できる。	
第13回	中枢神経（脳と脊髄）	大脳、間脳、中脳、橋、延髄、小脳、脊髄そして髄膜の位置と構造を説明できる。大脳皮質機能局在、大脳基底核、大脳辺縁系の構造と働きを説明できる。	
第14回	末梢神経（脳神経と脊髄神経）	脳神経12対の線維構成と支配領域を説明できる。各脊髄神経（頸神経、胸神経、腰神経、仙骨神経、尾骨神経）の支配領域と伝導路を説明できる。	
第15回	末梢神経（自律神経、副交感神経と交感神経）	副交感神経（脳仙系）と交感神経の各起始核（節前ニューロンの細胞体）と関連神経節（節後ニューロンの細胞体）並びに各神経の走行経過を説明できる。	
評価方法			
定期試験により評価する。			
オフィスアワー			
毎週木曜日16:20～17:30まで			

講義科目					る デ た め に 必 要 な 能 力 を 達 成 す		
科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解					人間力	
授業コード	111027					ケア・スピリット	
授業科目名	人体構造機能学Ⅲ					実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 前期 必修	単位数	2			プロフェッショナリズム	
担当教員	小萱康德【実務家該当教員】					多職種連携	

講義概要			
人体の各機能とその制御機構について学修する。生物が生存のために常に身体の内環境を一定に保ち、生体の各臓器、各部分がどの様に機能しているのか、またその機能を制御統合している機構について、内分泌器、感覚器及び神経系の形態的特徴とともに理解する。人体の発生、基礎代謝と体温調節、内環境（電解質、酸塩基平衡）、生体内情報伝達（神経系、ホルモン、各種伝達物質等）、中枢神経の構造と機能、脳の統合機能について学修する。また感覚器、自律神経の構造と機能及びそれらの相互作用についても理解を深める。			
授業内容（到達目標を含む）			
1学年で学んだ人体の解剖学的生理学的構成を基礎に、生体が様々な外的及び内的環境の変化に対応して内環境を一定に保って生存を維持する機構について、パワーポイント資料と板書を基軸として授業する。授業で使用する解剖学的及び組織学的視覚素材や関連した練習問題を前もってポータルサイト等に提示するので、予習と復習に活用する。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
2/3以上の出席がない場合は定期試験の受験資格を失う。また、遅刻3回で欠席1回とみなす。各授業ごとに練習問題をポータルサイトにアップするので、問題を解いて授業理解度を確認する。すべての問題の正答が分かり、さらに誤答肢が何故間違いないのかも調べその結果を課題レポートとして提出する。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している			
教材			
テキスト：解剖生理学 人体の構造と機能 1 坂井建雄・岡田隆夫・宇賀貴紀著（医学書院）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	ホメオスタシス（恒常性）とは	生体の恒常性維持機構の概略を説明できる。	○
第2回	人体の発生とホルモン	下垂体性腺刺激ホルモンと卵胞の成熟、排卵、黄体ホルモン、受精から着床とhCG分泌、胎盤完成過程を説明できる	
第3回	上皮組織の発生過程及び形態的特徴と恒常性	外胚葉性、内胚葉性、中胚葉性上皮組織の発生過程を理解し、上皮の形態的特徴と恒常性維持に果たす役割を説明出来る。	
第4回	内分泌系（1）	各内分泌器官と分泌ホルモンを説明できる。負のフィードバック機構と正のフィードバック機構を説明できる。	
第5回	内分泌系（2）	血中Ca ²⁺ 濃度調節におけるカルシトニンとパラトルモンの機能を説明できる。血糖値の調節機構（高血糖時と低血糖時）における関連ホルモン、神経系、肝臓、筋細胞及び脂肪細胞の関わりについて説明できる。	
第6回	ストレス反応と視床下部・下垂体・副腎皮質系及び視床下部・交感神経・副腎髄質系	ストレス反応と視床下部-下垂体-副腎皮質系（HPA軸）及び視床下部-交感神経-副腎髄質系（SAM軸）の関係を説明できる。副腎髄質の発生由来と交感神経系との関係を説明できる。	
第7回	血圧調節機構	血圧上昇及び下降に関わる要因（心拍出量、末梢血管抵抗、循環血液量、血液の粘着度、大動脈の弾力）と神経性調節及び体液性調節機構を説明できる。	
第8回	泌尿器系(1) 腎臓の機能の多様性と恒常性	腎臓の尿生成、代謝産物排泄、酸塩基平衡調節、レニン分泌、エリスロポエチン分泌、ビタミンD3の活性化作用を、腎臓及び関連臓器の組織構造に基づいて説明できる。	
第9回	泌尿器系(2) 酸塩基平衡と浸透圧調節	腎臓による体液の組成を一定に保つ機能を、腎臓の組織構造に基づいて説明できる。代謝性及び呼吸性アシドーシスとアルカローシスを説明できる。	
第10回	リンパ系と免疫系	血管系とリンパ管系との関係を理解し、免疫細胞の循環路とリンパ組織での免疫反応について説明できる。	

第11回	感覚器系と恒常性	平衡聴覚器の組織構造を理解し、身体的位置及び運動の感知と反射的平衡維持機構を説明できる。視覚器に関連した対光反射、角膜反射、輻輳反射を説明できる。	
第12回	自律神経系と恒常性	自律神経の走行経過と節前ニューロン、節後ニューロン及び自律神経節について説明できる。各器官に対する交感神経と副交感神経の働きを説明できる。	
第13回	中枢神経系(1) 大脳皮質の一次野と連合野	大脳皮質機能局在を説明できる。一次野と連合野（前頭連合野、頭頂連合野、側頭連合野）の連携と機能障害による高次脳機能障害を説明できる。	
第14回	中枢神経系(2) 間脳と脳幹における生命維持機構	間脳-視床下部（体温調節中枢、摂食調節中枢、飲水調節中枢、下垂体機能調節）と脳幹-延髄（呼吸中枢、心臓血管中枢、嚥下中枢、嘔吐中枢、唾液分泌中枢）の生命維持機構に果たす役割を説明できる。	
第15回	中枢神経と体性神経	中枢神経（脳と脊髄）内における体性神経（感覚神経と運動神経）の伝導路を、求心性伝導路と遠心性伝導路に分け、様々な刺激に対する反射的な反応を迅速に行う過程を説明できる。	
評価方法			
定期試験により評価する。			
オフィスアワー			
毎週木曜日16:20～18:00まで			

講義科目				る デ イ プ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す	人間力	
科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解				ケア・スピリット	
授業コード	111028				実践的理解	○
授業科目名	生体防御学				プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	2年 前期 必修	単位数	1		多職種連携	
担当教員	永井博弐【実務家該当教員】 太田美智男【実務家該当教員】					

講義概要							
免疫系による生体防御機構について学修する。免疫系は身体を外界の異物から守り、生体の恒常性を保つために必要な機能である。様々な感染症やアレルギー疾患、癌の問題など、現代の医学、医療において免疫系が関わる様々な問題は少なくない。本講義では、免疫学と関連の深い感染症の基礎及び臨床について学び、次いで、免疫系の仕組みを中心に広範な生体防御機構について体系的に学ぶ。							
授業内容（到達目標を含む）							
免疫は、微生物感染に対する生体防御機構として生命の進化とともに発達してきた。本授業では、まず、病原微生物の種類と感染の形態について学び、ついで免疫による生体防御機構について学ぶ。 1. 病原微生物の種類とそれらの相違点を説明できる。 2. 細菌の分類と主な細菌の病原因子と疾患の関係を説明できる。 3. ウイルスの増殖形態を理解し、病原性を説明できる。 4. 主なウイルスの感染症を説明できる。 5. 生体防御と免疫学概論が説明できる 6. 自然免疫と獲得免疫について、その意義、細胞、機能分子による防御機構及び応用面を説明できる 7. アレルギー疾患と自己免疫疾患の発症機序についての基礎と臨床および診断治療法を説明できる 8. 免疫学の臨床応用として診断法およびワクチンなどの治療への応用について説明できる							
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）							
授業の復習として、各章の終わりにある国家試験過去問題および演習問題をその都度学習しておくこと。							
教材							
テキスト 看護学テキスト「微生物学・感染症学」 編集：中野隆史 南江堂 2,800円（税別） 参考図書 成人看護学⑨「感染症／アレルギー・免疫／膠原病」編集：内藤俊夫、伊藤道子 メジカルフレンド 3,900円（税別）							
授業計画及び学習課題（予習・復習）							
回	内容	学習課題（予習・復習）				遠隔授業	
第1回	微生物の種類と特徴（第1章） 原核生物と真核生物の細胞の違いを知る。 ウイルスの特徴と大きさを知る。 細菌の形態・構造と機能（第2章） グラム陰性菌とグラム陽性菌、細菌細胞壁の構造、環境と増殖の関係、細菌の毒力と病原性、常在細菌叢について学ぶ。	予習90分：動物細胞の構造、細胞内小器官について調べる。第1・2章を読む。 復習90分：原核生物、真核生物、ウイルスの増殖について説明する。グラム染色性と細菌細胞壁の構造の関係を説明する。細菌の病原性と病原因子の関係を説明する。感染防御における常在細菌叢の役割を説明する。				可	
第2回	主な細菌（第3章） 細菌の命名法、細菌の分類を理解する。感染症を起こす主な細菌：グラム陽性菌、グラム陰性菌、グラム陰性好気性・通性嫌気性桿菌、グラム陽性桿菌、抗酸菌、嫌気性菌、らせん菌、リケッチア、クラミジアについて学ぶ。	予習90分：好気性細菌と嫌気性細菌の生育環境の違いを調べる。 復習90分：主な病原性細菌の起こす疾患と病原因子を説明する。MRSAの薬剤耐性を説明する。細胞内寄生性細菌について説明する。				可	
第3回	ウイルスの性質（第4章） ウイルスの形態・構造、増殖、遺伝・変異、病原性、発がんについて学ぶ。 主なウイルス（第5章） DNAウイルスに属するウイルスの種類とその感染症を学ぶ。	予習90分：教科書第4章ウイルス総論および第5章のDNAウイルスの項を読む。 復習90分：エンベロープを持つウイルスと持たないウイルスの増殖様式の違いを説明する。ヘルペス、アデノ、パピローマ、ポリオマのそれぞれのウイルス科に属するウイルスの特徴とその感染症を説明する。				可	

第4回	主なウイルス（第5章） RNAウイルスに属するウイルスの種類とその感染症を学ぶ。 肝炎ウイルスの分類と感染の経路、感染症としての特徴を学ぶ。	予習90分：教科書第5章のRNAウイルスの項を読む。 復習90分：ピコルナ（ポリオ、ライノ）、オルトミクソ（インフルエンザ）、パラミクソ（麻疹、ムンプス）、コロナ、トガ（風疹）、カリシ（ノロ）、レトロ（HIV）を中心としたウイルス科のウイルスの特徴とその感染症を説明する。A、B、C、D、E型肝炎ウイルスの感染経路、感染症の特徴を説明する。	可
第5回	生体防御機構 ヒトが持つ生体防御機構の概略と、免疫についての基本的な仕組みについて説明できるように学ぶ。特に自然免疫と獲得免疫の2種類の免疫の特徴とワクチンなどの免疫反応の応用について理解する。 （永井）	予習90分：教科書第8章「1. 免疫の基本的な仕組み」と「人体構造機能学」の教科書「解剖生理学、第9章B 生体防御機構」をよく読んで、免疫学の用語について慣れておく。 復習90分：生体防御の総論と免疫学の全体について説明できるまで復習する	可
第6回	自然免疫系および獲得免疫系の詳細を関与する細胞及び因子を中心に説明できるように学ぶ。（永井）	予習90分：教科書の第8章「2. 自然免疫系」と「3. 獲得免疫系」をよく読んで、両者の違い、実際の臨床での応用面を知っておく。 復習90分：自然免疫系および獲得免疫系の詳細を関与する細胞及び因子を中心に説明できる。加えてガンの発症、老化における免疫機能について説明できるまで復習する	可
第7回	免疫異常疾患とアレルギー疾患および自己免疫疾患について、免疫の異常による疾患の発症とその種類及びアレルギー疾患と自己免疫疾患の種類と検査と治療法について説明ができるように学ぶ。特に急性期及び慢性期の治療について説明できる。 （永井）	予習90分：教科書の第8章「4 アレルギー」と「5 自己免疫疾患」をまず読み、その後「人体構造機能学」の教科書「解剖生理学第9章B 生体防御機構 5 免疫の異常」をよく読んで、アレルギー・自己免疫疾患の概略を知っておく 復習90分：免疫の異常による疾患の発症とその種類及びアレルギー疾患の4型と検査および治療法について説明できるまで復習する。	可
第8回	ワクチンおよび血清療法など免疫学の生体防御における臨床的な応用面の基礎について説明できるように学ぶ。 （永井）	予習90分：教科書の第8章「6 ワクチンと血清療法」と「人体構造機能学」の教科書「解剖生理学第9章B 生体防御機構 第3章C 血液」をよく読んで、免疫の生体防御における役割を知っておく 復習90分：免疫学を応用した検査および治療法について説明できるまで復習する。	可
評価方法			
期末試験（80％）、小テストおよび課題レポート（20％）により評価する。			
オフィスアワー			
永井博式：月、火、水曜日の午後13：00～17：00 事前にアポイントメントを取ってください。 連絡先 e-mail h-nagai@gifuuoken.ac.jp			

講義科目				る た い に ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育関連科目－健康と健康障害の理解				人間力	○
授業コード	111029				ケア・スピリット	○
授業科目名	医療薬理学				実践的理解	
配当学年/ 学期	2年 後期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	永井博弼【実務家該当教員】				多職種連携	

講義概要

疾病の治療に薬物治療は必須である。しかし、薬物は適正使用の範囲を超えると、重篤な副作用を患者に引き起こす恐れがある。各種疾患に応じた投与前の準備から投与後の経過観察までの一連のプロセスについての薬物の適正使用法の詳細を知り、薬物による副作用など患者に不利益とならない投薬について知ることを目的とする。

授業内容（到達目標を含む）

薬理学および薬物治療学の基礎理論ならび臨床応用に役立つ適正使用の基礎的な知識について講述する。薬物の作用は各種疾患別に臨床で使用される医薬品の薬理作用、薬効発現機序、病態との関連および副作用について述べる。そのほか医薬品に関する必須の知識を講義する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

理解できないことはそのままにせず、随時質問して理解してほしい。薬品名は一般名を使って講義する。教科書、プリントおよび液晶プロジェクターを使って講義する。

教材

テキスト ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち ② 臨床薬理学 メディカ出版
参考図書 系統看護学講座 専門基礎「薬理学」医学書院

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題	遠隔授業
第1回	医薬品総論 1	医薬品の分類、関連法律、薬理作用の発現原理についてについて指定された教科書を読んで予習し、講義時に配布されたプリントを読み返し、問題を解いて復習する。以下の各講義についても同様に予習復習する。	可
第2回	感染症治療に使用する薬物	化学療法薬と微生物、作用機序	可
第3回	アレルギー・免疫不全の治療に使用する薬物	アレルギー疾患および自己免疫疾患治療薬	可
第4回	がん・痛みの治療に使用する薬物	がんの薬物治療がん性疼痛治療について	可
第5回	末梢神経系に疾患に使用する薬物	自律神経薬	可
第6回	脳・中枢神経系疾患治療に使用する薬物	中枢神経系の神経伝達物質と疾患発症及び治療薬、てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー認知症治療	可
第7回	循環器系疾患	高血圧、狭心症、心筋梗塞、脳卒中	可
第8回	呼吸器疾患・泌尿器疾患・消化器系に使用する薬物	気管支喘息、鎮咳薬、消化器系疾患の治療薬	可

評価方法
授業態度と小試験20%、最終試験80%により評価する。 S (100～90点)：各種疾患の薬物治療について概説できる。 A (89～80点)：各種疾患の薬物治療について理解できる。 B (79～70点)：各種疾患の薬物治療のあり方について説明できる。 C (69～60点)：各種疾患の薬物治療について、することがわかる。 D (60点未満)：C のレベルに達していない。
オフィスアワー
月曜日から水曜日の午後

講義科目					成 達 す イ る プ た ロ め マ に ポ リ 必 リ 要 シ ー な 能 を 力 達	人間力	
科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解					ケア・スピリット	
授業コード	111030					実践的理解	○
授業科目名	病理学					プロフェッショナリズム	
配当学年 / 学期	2年	前期	必修	単位数		1	多職種連携
担当教員	佐藤 勝						
講義概要							
さまざまな疾病の原因、原因の作用によって生体に生じる病的変化とその経過および最終的な結果を体系的に理解することを目指す。そのために、疾病を循環障害、炎症、代謝障害、先天異状・遺伝性疾患、腫瘍に大別し、それぞれの成立機序と、それらに含まれる個別の疾病について学習する。さらに原因に対する生体の防御機構である炎症反応と免疫反応についても詳しく解説をおこなう。これを通じて医療人として必須の知識の獲得を目標とする。							
授業内容（到達目標を含む）							
講義は教科書を基軸とするが、講義前に配布する整理プリントを中心とし、説明事項や必要事項を書き加えることにより実施する。さらに毎講義ごとに多肢選択方式の問題を練習することにより、知識の定着と拡大を計る。							
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）							
全授業時間数のうち2／3以上の出席を必須条件とする。なお、本科目は予習時間として30分、復習時間として60分を設定している。							
教材							
テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 疾病のなりたちと回復の促進[1] 発行者 医学書院 参考図書 カラーで学べる病理学 Nouvelle Hirokawa							
授業計画及び学習課題（予習・復習）							
回	内容				学習課題（予習・復習）		遠隔授業
第1回	看護学における病理学学習の意義、内因と外因、疾病の分類				看護師における病理学学習の意義、疾病の原因と その分類について理解する。		可
第2回	組織損傷とそれに対する反応、細胞死と変性				有害な刺激に対して組織と細胞に起こる変化、細胞死、変性の定義と種類について理解する。		可
第3回	組織障害に対する炎症反応（炎症の定義、分類、発生機序）				細胞障害に対して生体が起こす炎症反応とは何か、炎症はどのように分類されるか、またそれらは、 どのような機序で起こってくるのかを理解する。		可
第4回	免疫反応とは何か、免疫の種類とその働き				免疫反応とはどのようなもので、どのような種類があるか、それらは何に対して有効なのかを理解する。		可
第5回	免疫反応に関与する臓器・細胞・物質および免疫反応の成立機序				免疫反応が成立するのに、どのような細胞や物質が関与するか、成立までの機序を理解する。		可
第6回	免疫不全、アレルギー反応				免疫不全の種類、アレルギー反応とは何かと、その分類（即時型と遅延型・Ⅰ型～Ⅳ型）について 理解する。		可
第7回	アレルギー反応による疾患、自己免疫疾患の定義と疾患名、自己抗原				各型のアレルギー反応にはどのような疾患があるか、自己免疫疾患とは何でアレルギーとの違いは 何か、自己免疫疾患の種類を理解する。		可
第8回	臓器移植と拒絶反応、MHCクラスⅠ抗原とMHCクラスⅡ抗原				臓器移植にはなぜ拒絶反応が伴うのか、拒絶反応の原因であるMHCクラスⅠ抗原について、なぜ輸血は可能なのかを理解する。		可
第9回	主な病原体と感染症				細菌とウイルスの違い、細菌とウイルスの分類、 感染経路、主要病原体について理解する。		可
第10回	循環障害（浮腫・充血・うっ血・血栓症・梗塞・傍側循環・出血と止血）				循環障害とは何か、循環障害の種類と原因、循環障害による疾患について理解する。		可
第11回	高血圧症・DIC・ショック				高血圧症の分類と原因、DICの定義と原因、ショックの分類と症状、各種ホルモンの特徴と疾患との関係を理解する。		可
第12回	代謝障害（脂質・タンパク質・糖質・プリン体・ビリルビン）				代謝の定義、脂質・タンパク質・糖質・プリン体およびビリルビンの代謝異常によって引き起こされる疾患とその病態について理解する。		可
第13回	先天異常と遺伝性疾患				遺伝子・染色体異常による疾患を理解する。		可
第14回	腫瘍の定義と分類、良性腫瘍と悪性腫瘍の相違点、腫瘍の拡がり方、全身への影響				腫瘍の定義、良性腫瘍と悪性腫瘍のの相違点、発生母組織による分類、悪性腫瘍における転移、全身に及ぼす影響について理解する。		可
第15回	腫瘍の発生機序と発生因子および腫瘍の診断と治療				腫瘍発生に係わる外因と内因（がん遺伝子を含む）、腫瘍の診断法と治療法について理解する。		可
評価方法							
定期試験（95％）と小テストを含む日常点（5％）により評価する。							
オフィスアワー							
講義終了後の40分、講義翌日と翌々日の12時30分からの30分間（いずれも講師控室）							

講義科目					能達 力成 イ す ブ る ロ マ め ポ に リ 必 シ 要 な を	人間力	
科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解						
授業コード	111031					ケア・スピリット	
授業科目名	疾病治療論Ⅰ（成人A）					実践的理解	○
配置学年 / 学期	1年 後期 必修	単位数	2			プロフェッショナリズム	
担当教員	河田美紀【実務家該当教員】					多職種連携	
講義概要							
看護学を学ぶ上で必要な疾患・治療についての基礎的知識を修得することを目的とする。生体・臓器の形態や機能についての知識を深めながら、成人期の代表的な疾病と症状の関係について学修し、症状と関連した検査項目の重要性やデータの読み方、評価法、疾患に対する代表的な治療法について理解し、主要な疾患について症状、成因、検査、治療法の知識を修得する。本科目では、呼吸器、循環器、血液、内分泌、栄養代謝系、腎泌尿器の病態を理解し、適切な対応について理解する。							
授業内容（到達目標を含む）							
疾患をもつ患者への看護を展開するために、臓器別に代表的な疾患について、原因、発症機序、疫学、検査、診断、治療、予後の特徴について理解する。							
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）							
予習や復習を前提としているため、自己学習をしてから授業に臨むこと。							
教材							
テキスト ナーシンググラフィカ 健康の回復と看護⑦ 疾病と治療 参考図書 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学							
授業計画及び学習課題（予習・復習）							
回	内容				学習課題（予習・復習）		遠隔授業
第1回	呼吸器疾患（呼吸器感染症）				予習：呼吸器系の解剖生理の確認と教科書の肺炎、肺結核を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分		可
第2回	呼吸器疾患(気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患)				予習：呼吸器系の解剖生理の確認と教科書の気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分		可
第3回	呼吸器疾患（肺癌、気胸）				予習：呼吸器系の解剖生理の確認と教科書の肺癌、気胸を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分		可
第4回	循環器疾患（虚血性心疾患）				予習：循環器系の解剖生理の確認と教科書の虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分		可
第5回	循環器疾患（心不全、不整脈）				予習：循環器系の解剖生理の確認と教科書の心不全熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分		可
第6回	循環器疾患（弁膜症・心筋症）				予習：循環器系の解剖生理の確認と教科書の弁膜症、心筋症を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分		可
第7回	循環器疾患（大動脈疾患・先天性心疾患）				予習：循環器系の解剖生理の確認と教科書の大動脈解離、ファロー四徴症、心房中隔欠損症を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分		可
第8回	血液疾患（出血性疾患・貧血疾患）				予習：造血器系の解剖生理の確認と教科書の血友病、播種性血管内凝固症候群を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分		可
第9回	血液疾患（造血器腫瘍）				予習：造血器系の解剖生理の確認と教科書の白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分		可
第10回	内分泌疾患（下垂体・甲状腺疾患）				予習：下垂体・甲状腺の解剖生理の確認と教科書のバセドウ病、橋本病を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分		可
第11回	内分泌疾患（副腎疾患）				予習：副甲状腺・副腎の解剖生理の確認と教科書のクッシング症候群、アルドステロン症、アジソン病を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分		可
第12回	代謝性疾患				予習：糖・脂質代謝の解剖生理の確認と教科書の糖尿病を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分		可

第13回	自己免疫疾患・免疫不全	予習：免疫機能の解剖生理の確認と教科書の関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、A I D Sを熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第14回	腎疾患（腎不全、腎炎、ネフローゼ症候群）	予習：腎臓の解剖生理の確認と教科書の腎不全、腎炎、ネフローゼ症候群を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第15回	腎・泌尿器疾患（尿路疾患・前立腺疾患）	予習：泌尿器系の解剖生理の確認と教科書の前立腺肥大、尿管結石、腫瘍疾患を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
評価方法			
定期試験成績（100％）			
オフィスアワー			
毎週月・火・木曜日16：10～17：10 事前にアポイントメントを取ってください。 kawada@gifuhoken.ac.jp			

講義科目					能達 力成 イ す プ る ロ た め ポ に リ 必 シ 要 な を	人間力	
科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解					ケア・スピリット	
授業コード	111032					実践的理解	○
授業科目名	疾病治療論Ⅱ（成人B）					プロフェッショナリズム	
担当教員	河田美紀【実務家該当教員】					多職種連携	
講義概要							
看護学を学ぶ上で必要な疾患・治療についての基礎的知識を修得することを目的とする。生体・臓器の形態や機能についての知識を深めながら、成人期の代表的な疾病と症状の関係について学修し、症状と関連した検査項目の重要性やデータの読み方、評価法、疾患に対する代表的な治療法について理解し、主要な疾患について症状、成因、検査、治療法の知識を修得する。本科目では、成人期にみられる消化器・肝胆膵の代表的な疾患に加え、脳神経疾患、乳腺疾患、皮膚疾患、整形外科疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、口腔外科疾患の病態を理解する。							
（オムニバス方式 全15回） （1 河田美紀/12回） 消化器・肝胆膵疾患、脳神経疾患、乳腺疾患、皮膚疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、口腔外科疾患における代表的な疾患の病因、症状、検査、治療について（45 河田好泰/3回） 運動器疾患（整形外科疾患）における特徴的症候や主な疾患（外傷、脊椎疾患、骨粗鬆症など）の病因、症状、検査、治療と関連した検査項目の重要性やデータの読み方、評価法について							
授業内容（到達目標を含む）							
疾患をもつ患者への看護を展開するために、臓器別に代表的な疾患について、原因、発症機序、疫学、検査、診断、治療、予後の特徴について理解する。							
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）							
予習や復習を前提としているため、自己学習をしてから授業に臨むこと。							
教材							
テキスト ナーシンググラフィカ 健康の回復と看護⑦ 疾病と治療 参考図書 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学							
授業計画及び学習課題（予習・復習）							
回	内容				学習課題（予習・復習）		遠隔授業
第1回	運動器疾患運動器疾患（骨粗しょう症）				予習：骨代謝の解剖生理の確認と教科書の骨粗鬆症、フォルクマン拘縮、廃用症候群を熟読する。 復習：ノートにまとめ整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分		可
第2回	運動器疾患（外傷）				予習：骨の解剖を確認と教科書の大腿骨・腰椎骨折、骨折・捻挫・脱臼を熟読する。 復習：ノートにまとめ整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分		可
第3回	運動器疾患（脊椎疾患）				予習：脊椎・脊髄の解剖生理の確認と教科書の椎間板ヘルニア、脊椎損傷、脊柱管狭窄症、側弯を熟読する。 復習：ノートにまとめ整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分		可
第4回	消化器疾患（食道・胃疾患）				予習：食道・胃の解剖生理の確認と教科書の食道癌、胃炎、潰瘍、胃癌を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分		可
第5回	消化器疾患（小腸・大腸疾患）				予習：小腸・大腸の解剖生理の確認と教科書の虫垂炎、イレウス、炎症性腸疾患、大腸癌を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分		可
第6回	肝胆膵疾患（ウイルス肝炎）				予習：肝臓の解剖生理の確認と教科書のウイルス性肝炎、肝硬変、肝臓癌を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分		可
第7回	肝胆膵疾患（胆嚢・膵臓疾患）				予習：胆のう、膵臓の解剖生理の確認と教科書の胆石症、急性膵炎、膵臓癌を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分		可
第8回	脳神経疾患（脳血管障害①）				予習：脳血管系の解剖生理の確認と教科書の脳出血、クモ膜下出血を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分		可
第9回	脳神経疾患（脳血管障害②）				予習：脳血管系の解剖生理の確認と教科書の脳梗塞を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分		可

第10回	脳神経疾患（腫瘍・てんかん）	予習：脳神経の解剖生理の確認と教科書の脳腫瘍、てんかんを熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第11回	脳神経疾患（感染症、変性疾患）	予習：脳神経の解剖生理の確認と教科書の髄膜炎、パーキンソン病、重症筋無力症を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第12回	乳腺疾患	予習：乳腺組織の解剖生理の確認と教科書の乳癌を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第13回	皮膚疾患 感染症	予習：皮膚組織の解剖生理の確認と教科書の水痘・带状疱疹、麻疹、風疹を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第14回	耳鼻咽喉疾患 口腔外科疾患	予習：耳・鼻・咽頭・喉頭・口腔の解剖生理の確認と教科書の中耳炎、副鼻腔炎、メニエール病を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第15回	眼疾患	予習：眼組織の解剖生理の確認と教科書の白内障、緑内障、網膜剥離を熟読する。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
評価方法			
定期試験（100%）			
オフィスアワー			
毎週月・火・木曜日16：10～17：10 事前にアポイントメントを取ってください。 m-kawada@gifuuoken. ac. jp			

講義科目					す デ イ た プ め に マ ホ ボ リ シ ー を 達 成	人間力	
科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解						
授業コード	111033					ケア・スピリット	
授業科目名	疾病治療論Ⅲ（精神・高齢者）					実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 前期 必修		単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	河田美紀【実務家該当教員】、井上真人【実務家該当教員】					多職種連携	

講義概要			
看護学を学ぶ上で必要な疾患・治療についての基礎的知識を修得することを目的とする。本科目では、前半は代表的な精神疾患の病因、症状、検査、治療について、後半は高齢者に特有な疾患の病因、症状、検査、治療について学ぶ。			
授業内容（到達目標を含む）			
（45井上真人／8回） 精神疾患に関する知識を学習することにより、保健医療福祉の各側面に配慮しつつ、QOL（Quality of Life）を考慮に入れた総合的な管理計画（リハビリテーション、社会参加、在宅医療、介護を含む）に資する精神看護の課題について理解する。 （1河田美紀／7回） 老年医学に加齢による心身の変化の特徴的症状や疾患（認知症を代表とする神経疾患、誤嚥性肺炎を代表とする呼吸器疾患、高血圧を代表とする循環器疾患、逆流性食道炎を代表とする消化器疾患等）の病因、症状、検査、治療を理解する。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
講義時に指定する。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。			
教材			
精神 テキスト 岩崎弥生/渡邊博幸(編)：新体系看護学全書 精神看護学②精神障害を持つ人の看護 第6版. メヂカルフレンド社, 2021 参考図書 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学の基礎 精神看護学① 第6版. 医学書院, 2021 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 第4版. 医学書院, 2022 高齢者 テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 第5版 医学書院 2018 参考図書 新体系看護学全書 老年看護学 健康障害を持つ高齢者の看護 第5版 メディカルフレンド社 2020			
Z			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	総論：精神疾患の分類，精神科リハビリテーション… リカバリー（回復）を支えるための援助方法 ICD10；F2：統合失調症及び関連疾患の診断	予習：既習の精神医学的問題に関する看護過程をふり返る。 復習：リカバリー（回復）のプロセスにおいて、看護職が担う役割と看護目標を理解する。	可
第2回	ICD10；F2：統合失調症及び関連疾患の治療	統合失調症の診断・治療に関する看護過程において、看護職が担う役割と看護目標を理解する。	可
第3回	ICD10；F3：気分（感情）障害：うつ病の診断・治療	気分（感情）障害：うつ病の診断・治療に関する看護過程において、看護職が担う役割と看護目標を理解する。	可
第4回	ICD10；F3：気分(感情)障害：双極性感情障害の診断・治療	気分（感情）障害：双極性感情障害の診断・治療に関する看護過程において、看護職が担う役割と看護目標を理解する。	可
第5回	ICD10；F4:神経症性障害の診断と治療	神経症性障害の診断・治療に関する看護過程において、看護職が担う役割と看護目標を理解する。	可
第6回	ICD10；F4:ストレス関連障害，F5：生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群の診断と治療	ストレス関連障害，生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群の診断・治療に関する看護過程において、看護職が担う役割と看護目標を理解する。	可
第7回	ICD10:F7:知的障害，F8:心理的発達の障害，F9:小児期・青年期に通常発症する行動及び情緒の障害の診断と治療	知的障害, 心理的発達の障害, 小児期・青年期に通常発症する行動及び情緒の障害の診断と治療に関する援助過程において、看護職が担う役割と看護目標を理解する。	可
第8回	ICD10:F0：器質性精神障害の診断と治療，F1:精神作用物質等による精神及び行動の障害，F6：成人のパーソナリティ及び行動の障害の診断と治療	器質性精神障害，精神作用物質等による精神及び行動の障害, 成人のパーソナリティ及び行動の障害の診断と治療に関する援助過程において、看護職が担う役割と看護目標を理解する。	可
第9回	認知・知覚・呼吸循環機能の老化	予習：脳神経・呼吸循環器の解剖生理の確認。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第10回	消化・代謝・排泄・免疫機能の老化	予習：消化・腎・免疫機能の解剖生理の確認。 復習：配布資料を見直しノートに整理する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可

第11回	老年症候群	予習：意識障害、脱水状態の理解。 復習：配布資料を見直し整理し理解する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第12回	高齢者のフィジカルアセスメント（診察方法・検査）	予習：老化にともなう生理学的変化の確認。 復習：配布資料を見直し整理し理解する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第13回	高齢者の疾患の特徴（神経疾患）	予習：パーキンソン病、認知症を熟読する。 復習：配布資料を見直し整理し理解する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第14回	高齢者の疾患の特徴（循環器・呼吸器疾患）	予習：高血圧、肺炎を熟読する。 復習：配布資料を見直し整理し理解する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
第15回	高齢者の疾患の特徴（消化器疾患）	予習：逆流性食道炎、虚血性腸炎を熟読する。 復習：配布資料を見直し整理し理解する。 予習時間：120分 復習時間：120分	可
評価方法			
試験（50%），受講課題に関する提出物（50%）により評価する。			
オフィスアワー			
授業前後に質問を受付ます。 毎週月曜日14：40～17：00 事前にアポイントメントを取ってください。m-kawada@gifuhoken.ac.jp			

講義科目				成 デ イ ス る プ ロ マ に ポ リ シ ー な 能 を 力 達	人間力	
科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解					
授業コード	111034				ケア・スピリット	
授業科目名	疾病治療論Ⅳ（小児・母性）				実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 前期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	尾藤長雄【実務家該当教員】、近藤直実【実務家該当教員】			多職種連携		
講義概要						
（概要）看護学を学ぶ上で必要な疾患・治療についての基礎的知識を修得することを目的とする。本科目では、前半は周産期の異常と婦人科疾患について、その病因、症状、検査、治療について学ぶ。後半は小児期の疾患、障害の特徴について理解し、小児期の循環器系、呼吸器系、消化器系、染色体異常等の代表的な疾患と治療の概要について学ぶ。 （オムニバス方式 全15回） （尾藤長雄9回） 周産期の異常と婦人科疾患及びその病因、症状、検査、治療 （近藤直実／6回） 小児の疾患と障害及びその病因、症状、検査、治療						
授業内容						
母性：周産期の異常と婦人科疾患およびその原因、症状、検査、治療						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
国試過去問をしっかりと解いておく。なお、本科目は予習及び復習時間として120分を設定している。						
教材						
第1回～第9回（尾藤担当分） テキスト 女性生殖器（松岡浩他 医学書院 2,530円） 母性看護各各論（森恵美他 医学書院 3,300円） サブノート 女性生殖器講義サブノート、母性看護講義サブノート 第10回～第15回（近藤担当分） テキスト（小児） 以下のテキストは小児看護学の一部と同じ ナーシンググラフィカ 小児看護学 （3）小児の疾患と看護2023 第3版 中村編 メディカ出版 3,200円						
授業計画及び学習課題（予習・復習）						
回	内容			学習課題（予習・復習）		遠隔授業
第1回	医療の動向と看護 女性生殖器の構造と機能（尾藤）			女性生殖器サブノートを読み返す		可
第2回	診察・検査と治療・処置（尾藤）			女性生殖器サブノートを読み返す		可
第3回	疾患の理解（尾藤）			女性生殖器サブノートを読み返す		可
第4回	疾患の理解（尾藤）			女性生殖器サブノートを読み返す		可
第5回	出生前診断 遺伝学（尾藤）			母性看護講義サブノートを読み返す		可
第6回	妊娠の異常と看護（尾藤）			母性看護講義サブノートを読み返す		可
第7回	妊娠の異常と看護（尾藤）			母性看護講義サブノートを読み返す		可
第8回	分娩の異常と看護（尾藤）			母性看護講義サブノートを読み返す		可
第9回	分娩の異常と看護（尾藤）			母性看護講義サブノートを読み返す		可
第10回	小児の成長と発達（近藤）			小児の成長と発達につき修得する。		可
第11回	新生児と疾患（近藤）			新生児と疾患につき修得する。		可
第12回	遺伝性疾患、染色体異常、代謝、内分泌疾患（近藤）			出生前小児科学、代謝、内分泌疾患につき修得する。		可
第13回	免疫、アレルギー疾患、膠原病、感染症（近藤）			免疫、アレルギー疾患、感染症につき修得する。		可
第14回	循環器疾患、腎泌尿器疾患（近藤）			循環器疾患、腎泌尿器疾患につき修得する。		可
第15回	消化器疾患、血液腫瘍疾患、神経、筋、精神疾患（近藤）			消化器疾患、血液腫瘍疾患、神経、筋、精神疾患につき修得する。につき修得する。		可
評価方法						
母性：最終試験100%により評価する。 小児：期末試験（80%）および小テスト（20%）により評価する。						
オフィスアワー						
講義時に指定する。						

講義科目				
科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解			要をデ な達イ 能成プ 力すロ るマ たボ めリ にシ 必
授業コード	111035			人間力
授業科目名	栄養治療学（健康へのアプローチ）			ケア・スキル
配当学年/ 学期	2年 前期 必修	単位数	1	実践的理解
担当教員	藤原奈佳子【実務家該当教員】			プロフェッショナリズム
				多職種連携

講義概要			
健康へのアプローチとして、食べ物に含まれる栄養素の働き、消化と吸収、生体内での代謝など、栄養学の基礎について学修するとともに、健康な生活を送るための生活習慣病予防やライフステージ別の栄養管理について学ぶ。また、病院における栄養管理の概要や、代表的な疾患別の食事療法、についても理解を深める。			
授業内容（到達目標を含む）			
1. 日本人の食事摂取基準を説明でき、表を利用して各栄養素の摂取量が適切か調べることができる。 2. 各年齢層別の栄養管理、妊娠時の栄養管理、生活習慣病予防のための栄養管理、疾患時に注意すべき食事の制限や病院における栄養管理の概要、代表的な疾患別の食事療法について理解を深める。 3. 栄養状態の評価方法と対応、栄養指導、栄養素の働き、消化吸収について学び、それらの発展として、疾患別の栄養管理や食事指導、経管栄養について説明できる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
各回の授業終了ごとに教科書に付属する整理ノート各章の確認問題に解答しておくこと			
教材			
テキスト わかりやすい栄養学（第5版） 編集：中村美智子・長谷川恭子 ノーヴェルヒロカワ 2,200円（税別） 参考図書 栄養生化学（第5版） 編集：脊山洋右、島野仁、松島照彦 メジカルフレンド 2,700円（税別）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	健康と栄養（第1章）： 食生活の評価、栄養状態の評価、看護と栄養について理解を深める。	予習30分：教科書の第1章を読む。 復習30分：各自の1日の食事内容を食事記入表（教科書p5）に記入する。肥満度の測定法、判定基準を説明する。栄養評価のための血液検査を説明する。	可
第2回	日常生活と栄養（第2章）： 基礎代謝量、摂取基準、活動と必要エネルギー量の計算について理解する。	予習30分：教科書の第2章を読む。 復習30分：前回の授業の各自の食事記入表を用い、日本人の食事摂取基準2020版を使って各自の食事摂取量の過不足を判定する。メッツ表を理解する。	可
第3回	栄養指導・保健指導（第3章）： 栄養指導方法と病院食、保健指導方法の概略を理解する。	予習30分：教科書の第3章を読む。 復習30分：栄養サポートチーム（NST）について説明する。栄養指導の実施のポイントを説明する。SOAPの記入について説明する。病院食について説明する。	可
第4回	食物と栄養（第4章）： 食品に含まれる栄養素とその働き・役割を理解する。食物の摂取と吸収・排泄について理解する。	予習30分：教科書の第4章を読む。3大栄養素、ビタミン、ミネラルの生理的役割を調べる。 復習30分：各種の食品の栄養素について説明する。各栄養素の消化・吸収を説明する。	可
第5回	ライフステージと健康教育（第5章）： 各ライフステージにおける健康と食生活の変化について理解を深める。	予習30分：教科書の第5章を読む。 復習30分：妊娠期・授乳期、乳幼児期、学童期、成人期、老年期に必要な食事について説明する。	可

第6回	疾患別の栄養指導（第6章）： 栄養代謝疾患、循環器疾患、肝疾患、腎疾患、 消化器系疾患の病態と栄養療法について理解する。	予習30分：教科書の第6章を読む。 復習30分：糖尿病、高血圧、脂質異常症、虚血性 心疾患、脳卒中、COPD、肝炎・肝硬変、膵炎・胆 石症、慢性腎臓病、潰瘍性大腸炎・クローン病の 病態と食事指導のポイントを説明する。	可
第7回	疾患別の栄養指導（第7章）： 経管栄養・静脈栄養・在宅栄養について理解する。	予習30分：教科書の第7章を読む。 復習30分：胃切除の周術期、摂食・嚥下障害、褥 瘡における食事指導のポイントを説明する。経管 栄養と中心静脈栄養について説明する。	可
第8回	フレイル（虚弱）の予防： フレイルを予防する栄養について理解する。	予習30分：フレイルについて調べる。 （参考）国立長寿医療研究センター、健康長寿教 室テキスト第2版、2020 https://www.ncgg.go.jp/ri/news/documents/chojutext_2020.pdf 復習30分：第1回から第8回でふれた内容がこれか らの実習などでも役立てるように授業内容をまと めておく。	可
評価方法			
期末試験（80%）、課題レポート（20%）により評価する。			
オフィスアワー			
講義後 15分間 研究室			

講義科目						
科目区分	専門教育関連科目-健康と健康障害の理解			要 を デ イ な 達 イ 能 成 ブ 力 す ロ マ た ポ め リ に シ 必	人間力	○
授業コード	111036				ケア・スピリット	
授業科目名	健康と運動				実践的理解	○
配当学年/ 学期	1年 後期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	青井俊久【実務家該当教員】				多職種連携	
講義概要						
様々な運動・スポーツの実践を通して、生涯に亘って健康の保持増進を図るための基礎知識と技能を身につけるとともに、仲間との交流を通して、コミュニケーション能力の向上や協働の精神の醸成を図る。						
授業内容（到達目標を含む）						
1. スポーツ医・科学と健康について理解する。 2. 様々な運動（トレーニングやレクリエーション）及びスポーツを実践するための基礎知識を習得し、健康の保持増進を図る。						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
1. 運動の実践では運動のできる服装と体育館シューズ・運動靴を着用し、アクセサリ類の着用は避けること。 2. 出席回数が開講回数の3分の2に達しない者は評価の対象外とする。 3. 怪我や病気などで運動の実践に支障がある場合はその都度申し出ること。						
教材			場所			
指定しない			教室・講堂・グラウンド・柔道場（その都度連絡）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）						
回	内容		学習課題（予習・復習）			遠隔授業
第1回	ガイダンス 各種運動の実践①	変 内 容 況 更 容 況 あ ・ に り 種 よ り 目 り の	本講義の目的・意義及び授業展開について 集団行動・身体づくり・身体ほぐし運動			
第2回	各種運動の実践②		集団行動 身体づくり・身体ほぐし運動			
第3回	スポーツ実践①		アルティメットの基礎と実践			
第4回	スポーツ実践②		アルティメットの基礎と実践			
第5回	スポーツ実践③		アルティメットの基礎と実践			
第6回	スポーツ実践④		ソフトバレーボールの基礎と実践			
第7回	スポーツ実践⑤		ソフトバレーボールの基礎と実践			
第8回	スポーツ実践⑥		ソフトバレーボールの基礎と実践			
第9回						
第10回						
第11回						
第12回						
第13回						
第14回						
第15回						
評価方法						
出席・授業態度・終末レポートを総合的に判断						
オフィスアワー						
月曜～金曜日 8:45～17:35 6号館1階						

講義科目				成 達 す る プ ロ モ ー シ ョ ン に 必 要 な 力 を 達 す		
科目区分	専門教育関連科目-社会と環境の理解				人間力	
授業コード	111037				知・スキル	
授業科目名	公衆衛生学				実践的理解	○
配当年次 / 学期	2年 前期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	船橋香緒里【実務家該当教員】			多職種連携	○	
講義概要						
公衆衛生の概念と歴史について学び、併せてプライマリ・ヘルスケア、ヘルスプロモーションの理念を踏まえて、集団を対象とした健康の保持、増進、疾病予防の全体像について理解を深める。公衆衛生の健康指標、保健医療福祉制度について理解し、地域、学校及び産業の場における公衆衛生と保健所の業務、食品衛生管理や労働衛生管理など、様々な公衆衛生活動と看護師・保健師の役割について学ぶ。						
授業内容（到達目標を含む）						
1. 公衆衛生は、生活の質を向上させるための集団を対象とした健康の保持、増進、疾病予防を担う分野であり、法律、行政、社会環境、実務的な公衆衛生の仕組みと疾病との関連を知る。 2. 食中毒を含む病原微生物による感染を防止する方法を理解する。						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
教科書の講義範囲を予習して概略を理解し、授業に臨むこと。また、教科書に付属の整理ノートを中心に復習し、確認問題を行うこと。						
教材						
テキスト：公衆衛生看護学. JP 、インターメディカル 参考図書1：「国民衛生の動向2022/2023」、厚生労働統計協会、（1年次後期に購入済） 参考図書2：「令和4年版厚生労働白書」ダウンロードURL：https://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/						
授業計画及び学習課題（予習・復習）						
回	内容			学習課題（予習・復習）		遠隔授業
第1回	公衆衛生とは 1) 目的と機能 2) 法的根拠			公衆衛生の定義を理解する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 復習時間：90分		可
第2回	健康の概念 1) ヘルスプロモーション 2) 一次予防、二次予防、三次予防			予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分		可
第3回	1) 疫学的方法に基づく公衆衛生 2) 健康に関する指標に基づく公衆衛生			予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分		可
第4回	感染症の基本 1) 感染症の成立と予防 2) 主な感染症			予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分		可
第5回	地球環境 1) 地球温暖化、水質汚染、大気汚染 2) 土壌汚染、アスベスト、放射性物質			予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分		可
第6回	食品および食の安全 1) 食中毒の種類と予防 2) 健康食品、特別用途食品			予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分		可
第7回	ごみ・廃棄物 1) 一般・産業廃棄物と感染性廃棄物 2) 上下水道			予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分		可
第8回	産業保健 1) 職場環境、公害健康被害 2) 職業病			予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分		可
評価方法						
期末試験（80％）、小テストおよび課題レポート（20％）により評価する。						
オフィスアワー						
学内にいる限りは対応します。 メールでの対応可。連絡先 k-funahashi@gifuhoken.ac.jp						

講義科目							
科目区分	専門教育関連科目-社会と環境の理解				る デ イ プ の た め に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す	人間力	
授業コード	111038					ケア・スピリット	
授業科目名	保健統計学					実践的理解	
配当学年/ 学期	1年 後期 必修	単位数	1			プロフェッショナリズム	○
担当教員	高久道子【実務家該当教員】，國澤英雄【実務家該当教員】					多職種連携	

講義概要			
国民の健康、生活衛生の動向を把握するために国レベルの統計データの解説や関連する健康指標について学修する。「国民衛生の動向」を用いて、わが国の人口動態、国民生活基礎調査、患者調査などの主要統計、疾病構造の変化、生活習慣病の罹患状態を示す統計等について系統的に学修し、国民の生活と健康の特徴を理解する。			
授業内容（到達目標を含む）			
「国民衛生の動向」を用いて、わが国の人口動態、人口動態、国民健康調査などの主要統計、疾病構造の変化、生活習慣病の罹患状態を示す統計をもとにデータの観察の視点について講義する。健康に関連した指標を理解し、人口動態統計が示す人口構成、人口動態統計が示す出生や死亡に関連した統計、国民生活基礎調査、患者調査から国民の生活と健康の特徴を把握する。 到達目標： 1) 保健統計データで用いられる各指標の意味を理解し、他の人に説明できる。 2) 保健統計データから現代社会の現状や課題を把握することができる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
この科目の単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。シラバスを熟読して学習を進めること。2/3以上の出席がない場合は最終試験の受験権利がなく、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。			
教材			
教科書：厚生労働統計協会「厚生統計協会 国民衛生の動向・厚生指標」最新号、2,695円（税込） 参考図書：福富和夫・橋本修二「保健統計・疫学」南山堂、2,640円（税込）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	講義の目標と内容について 人口動態統計：国勢調査・日本の人口・世界の人口	予習120分：教科書 第2編第1章を熟読する。 復習120分：人口動態統計、人口動態統計について300字程度にまとめ、グレксаに提出する。	可
第2回	人口動態統計：出生の動向と死亡の動向	予習120分：教科書 第2編第2章を熟読する。 復習120分：日本の出生と死亡の動向について300字程度にまとめ、グレксаに提出する。	可
第3回	人口動態統計：死亡の動向（粗死亡率・年齢調整死亡率）	予習120分：教科書 第2編第2章を熟読する。 復習120分：粗死亡率と年齢調整死亡率について300字程度にまとめ、グレксаに提出する。	可
第4回	人口動態統計：主要死因とその動向	予習120分：教科書 第2編第2章を熟読する。 復習120分：日本の男女の主要死因について300字程度にまとめ、グレксаに提出する。	可
第5回	人口動態統計：妊娠・出産関連と乳児死亡①	予習120分：教科書 第2編第2章を熟読する。	可
第6回	人口動態統計：妊娠・出産関連と乳児死亡②	復習120分：平均余命、平均寿命についてについて300字程度にまとめ、グレксаに提出する。	可
第7回	人口動態統計：平均余命・平均寿命・死因分析	予習120分：教科書 第2編第3章を熟読する。 復習120分：平均余命、平均寿命についてについて300字程度にまとめ、グレксаに提出する。	可
第8回	健康状態と受療状況：国民生活基礎調査・患者調査	予習120分：教科書 第2編第4章を熟読する。 復習120分：国民生活基礎調査、患者調査について300字程度にまとめ、グレксаに提出する。	可

評価方法
復習課題の提出20%、最終試験80%により評価する。 S (100～90点)：保健統計に関する指標を十分に理解し、これらの統計指標から人々の健康状態を把握できる。 A (89～80点)：保健統計に関する指標を理解し、これらの統計指標から人々の健康状態を把握できる。 B (79～70点)：保健統計に関する指標や統計指標から人々の健康状態を把握することの基本的な理解がある。 C (69～60点)：保健統計に関する指標や統計指標から人々の健康状態を把握することへの基本的な理解がある。 D (60点未満)：Cのレベルに達していない。
オフィスアワー
木曜以外（研究日）以外の平日。昼休み対応可。 できれば事前にメールで連絡ください。連絡先 m-takaku@gifuhoken.ac.jp

講義科目						
科目区分	専門教育関連科目-社会と環境の理解			す デ イ た ま に マ 必 要 リ ン ー を 達 成	人間力	
授業コード	111039				ケア・スピリット	
授業科目名	社会保障論				実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 前期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	船橋香緒里【実務家該当教員】				多職種連携	
講義概要						
社会保障は「生活の基本的必要の不充足による困難」を解決する方法として制度化されたものであり、具体的には医療保険、年金保険、介護保険といった社会保険制度、生活保護制度、社会福祉制度がある。本講義では、社会保障の基本的考え方、わが国における社会保障制度の歴史、現行の社会保障制度の現状およびその課題、社会保障に関する法律と制度、社会保障における行政の役割と財政上の問題等、社会保障制度の基本的知識を学修する。						
授業内容（到達目標を含む）						
到達目標 1. 日本の社会保障についての基本的知識を身につける。 2. 日本の社会保障制度の現状と課題を理解する。 3. 医療従事者としての視点を意識しながら社会保障の課題について考えることができる。						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
この科目の単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要であり、シラバスを熟読して学習を進めること。						
教材						
教科書：ナーシンググラフィカ「健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障」3300円+税 参考図書1：「国民衛生の動向2022/2023」、厚生労働統計協会、（1年次後期に購入済） 参考図書2：「令和4年版厚生労働白書」ダウンロードURL：https://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/						
授業計画及び学習課題（予習・復習）						
回	内容			学習課題（予習・復習）		遠隔授業
第1回	オリエンテーション、 社会保障制度とは			公衆衛生の定義を理解する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 復習時間：90分		可
第2回	社会保険の理念 1) 目的と機能 2) 国民皆保険 3) 年金制度 4) 雇用保険法他			予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分		可
第3回	社会保険制度：健康保険法 高齢者医療制度 被用者保険 国民健康保険 公費医療制度			予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分		可
第4回	介護保険制度：介護保険法 要介護認定と給付の仕組み 介護予防・日常生活支援総合事業			予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分		可
第5回	社会福祉の理念：社会福祉法 1) 関係機関：児童相談所他 2) 関係職員：民生児童委員			予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分		可
第6回	生活保護法 1) 生活保護法及び関連法 2) 扶助の種類と内容			予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分		可
第7回	児童・高齢者福祉 1) 児童福祉法 2) 老人福祉法			予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分		可
第8回	障害者福祉：身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法 発達障害者支援法、その他関連法			予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分		可
評価方法						
復習の課題提出20%、最終試験80%により評価する。						
オフィスアワー						
学内にいる限りは対応します。 メールでの対応可。連絡先 k-funahashi@gifuhoken.ac.jp						

講義科目				
科目区分	専門教育関連科目-社会と環境の理解			人間力
授業コード	111040			ケア・スピリット
授業科目名	日本国憲法（法と人権）			実践的理解
配当学年/ 学期	2年 前期 必修	単位数	2	プロフェッショナリズム
担当教員	市川 季夫			多職種連携

講義概要			
法は私たちが共同生活を行うルールを定めたものです。看護の仕事は人間の生命と健康に深く関わり「保健師助産師看護師法」という法律に定められています。この授業では、法を通して看護の仕事を学びます。			
授業内容（到達目標を含む）			
日本における法の基本は日本国憲法です。憲法は最高法規と言われ、あらゆる法律は、憲法に則り作成されています。憲法は一人ひとりの人権と自由の尊さを定めています。人権は人間の生命と健康を守り実現することを含めた考え方で、看護師の仕事と深い関係があります。授業では最高法規である憲法を通して看護の仕事を学びます。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
1 日本国憲法を学ぶ。 2 保健師助産師看護師法を学ぶ。 3 看護師の倫理綱領を学ぶ。			
教材			
1 伊藤 真著 「伊藤 真の憲法入門」（講義再現版第7版） 日本評論社 2022年 1800円+税			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	看護学生として憲法を学ぶ	いのちの重みを考える	可
第2回	法とは何か	法は、人間が共同生活を行うためのルールである	可
第3回	憲法も法の仲間	憲法は「最高法規である」	可
第4回	憲法の前文を読む	憲法の内容。平和主義。民主主義、主権在民主義	可
第5回	基本的人権 1	人権とは誰の権利のことか？	可
第6回	基本的人権 2 § 13 § 14	すべての国民は個人として尊重され、平等である	可
第7回	基本的人権 3 § 24	L G B T、夫婦別姓の問題を考える	可
第8回	基本的人権 4 § 25	すべての国民は生存権が保障されている	
第9回	基本的人権 5 § 27	非雇用など働き方の問題を考える	
第10回	保健師助産師看護師法	保健師助産師看護師法から学ぶ	
第11回	看護師の倫理綱領	看護師の倫理綱領から学ぶ	
第12回	事例 1	認知症に対する看護師の爪ケア事件	
第13回	事例 2	褥瘡裁判	
第14回	事例 3	エタノール誤注入と看護師の責任	
第15回	まとめ	授業の振り返り	
評価方法			
復習の課題提出20%、最終試験80%により評価する。			
オフィスアワー			
木曜以外（研究日）以外の平日。昼休み対応可。 できれば事前にメールで連絡ください。連絡先 m-takaku@gifuhoken.ac.jp			

講義科目						
科目区分	専門教育関連科目-環境の理解			能達 ディ 力成 イ す ブ る ロ マ め ボ に リ 必 シ ー な を	人間力	
授業コード	111041				ケア・スピリット	○
授業科目名	家族看護論				実践的理解	
配当学年/ 学期	2年 後期 必修	単位数	1		プロフェッショナルリズム	○
担当教員	野田 みや子【実務家該当教員】				多職種連携	
講義概要						
感偽における家族の概念、家族を理解するための諸理論、家族アセスメントの視点について概説する。 家族の病気体験の理解をもとに、家族への支援のあり方を考える。						
授業内容（到達目標を含む）						
1. 家族を単位として援助することの意義を説明できる。 2. 家族員が病気になることによる家族への影響について説明できる。 3. 理論を活用しながら、家族像を描くことができる。 4. 家族との援助関係の形成や支援について、考えることができる。						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
この科目の単位修得には、約30時間の授業時間以外の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要であり、シラバスを熟読して学習を進めること。						
教材						
テキスト 特に指定しない（授業ごとに、必要な資料を配布する） 参考図書 「家族看護学」（改訂第3版）山崎あけみ著、南江堂、2022年、2,750円（税込）						
授業計画及び学習課題（予習・復習）						
回	内 容			学習課題（予習・復習）		遠隔授業
第1回	・ガイダンス ・家族の定義、家族の機能、家族看護とは			予習：家族が病気になった時の体験をまとめる。(120分) 復習：配布された資料を基に、課題をまとめる。(120分)		可
第2回	・家族看護に活用できる理論 ・グループワーク①			予習：家族の病気体験をグループでまとめる。(120分) 復習：配布された資料を基に、課題をまとめる。(120分)		可
第3回	・家族の情報収集、アセスメントの視点 ・グループワーク②			予習：家族の病気体験をグループでまとめる。(120分) 復習：配布された資料を基に、課題をまとめる。(120分)		可
第4回	・疾病が患者・家族に与える心理・社会的影響 ・グループワーク③			予習：家族の病気体験をグループでまとめる。(120分) 復習：配布された資料を基に、課題をまとめる。(120分)		可
第5回	・家族員が病気になることによる家族の体験の理解 ・グループワーク③			予習：家族の病気体験をグループでまとめる。(120分) 復習：配布された資料を基に、課題をまとめる。(120分)		可
第6回	・家族支援のシステム、理論 ・グループワーク④			予習：家族の病気支援をグループでまとめる。(120分) 復習：配布された資料を基に、課題をまとめる。(120分)		可
第7回	・家族支援の実際 ・グループワーク⑤			予習：家族の病気支援をグループでまとめる。(120分) 復習：配布された資料を基に、課題をまとめる。(120分)		可
第8回	・グループワークのまとめ ・発表、相互評価			予習：家族の病気支援をグループでまとめる。(120分) 復習：配布された資料を基に、課題をまとめる。(120分)		可
評価方法						
復習の課題提出20%、グループワーク・最終発表20%、最終試験40%により評価する。						
オフィスアワー						
火曜・木曜・金曜の16:10分から17:00まで、研究室（2） 事前にアポイントメントを取ってください。連絡先 e-mail m-noda@gifuhoken.ac.jp						

講義科目					能達 力成 イ す プ る ロ マ め ポ に リ 必 シ ー な を	人間力	○
科目区分	専門教育関連科目-社会と環境の理解						
授業コード	111042					ケア・スピリット	
授業科目名	保健看護情報学					実践的理解	○
配当学年 / 学期	2年 前期 必須	単位数	1			プロフェッショナリズム	
担当教員	永坂和子【実務家該当教員】，吉崎純夫【実務家該当教員】					多職種連携	○
講義概要							
医療における情報科学の発達により、看護職者には情報通信技術 (ICT) の活用能力が求められている。インターネットを活用した地域医療連携システム、電子カルテなどのICTの仕組み、データの収集と情報処理、個人情報を取り扱う上での倫理と法律、個人情報の管理と漏えい防止について学習する。看護職者の取り扱う医療情報について、患者の疾病管理や看護ケアを構ずるうえでの重要性を理解し、看護実践に活かす能力を養う。							
授業内容（到達目標を含む）							
1. 看護職者が患者・家族中心のケア実践するために取り扱う保健医療に関する情報通信技術（ICT）の仕組みが理解できる。 2. エビデンスに基づくデータ収集、利点とリスク、情報倫理、法律、医療安全等の視点が理解できる。 3. 医療および施設、在宅ケアにおける電子カルテの仕組みや多職種による情報共有が理解できる。 4. 地域における医療介護情報や連携の媒体を理解し、実際の情報収集ができる。							
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）							
臨床場面や看護学実習においては、電子カルテやコミュニケーション等を通じて、患者・家族の情報収集が必須となる。予習(テキストを読む、地域医療情報等)と講義内容（資料）を復習することで、事前の地域医療の情報収集を行うことで円滑な領域実習の情報収集に結び付く。							
教材							
テキスト	中山和弘他：系統看護学講座, 別巻, 看護情報学, 医学書院						
参考図書	太田勝正, 前田樹海：エッセンシャル, 看護情報学, 医歯薬出版 太田勝正, 猫田泰敏：Nursing Informatics看護情報学, 医学書院						
授業計画及び学習課題（予習・復習）							
回	内容				学習課題（予習・復習）		遠隔授業
第1回	情報とは：情報の特性、情報とコミュニケーション、 医療における情報、看護における情報と活用（永坂）				予習：テキスト第1・第3章P4～P21、P40～P61を読み、200字程度でまとめる。 復習：各200字程度にまとめる。 予習時間：60分、復習時間：60分		可
第2回	医療情報システム：臨床に必要な看護データ、看護用語の標準化や看護の質指標、情報に翻弄される患者・市民、意思決定支援、チーム医療における情報, 電子カルテについてグループワーク（吉崎）				予習：テキスト第4章P64～P86を読み、200字程度でまとめる。 復習：各200字程度にまとめる。 予習時間：60分、復習時間：60分		
第3回	医療における情報システム：入院患者ケアシステム：医療記録における法令上の記載、医療情報システム導入の実際、看護過程による情報処理、看護記録の構成要素（永坂）				予習：テキスト第5章P90～P127を読み、200字程度でまとめる。 復習：各200字程度にまとめる。 予習時間：60分、復習時間：60分		可
第4回	電子カルテによる記録：カンファレンス等の多職種連携と記録、診療録記録の開示とガイドライン、病院情報システムと記録の仕方、クリニカルパス、DPC(診断群分類)、医療過誤防止システム、入院患者化システム、看護管理・業務支援システム（吉崎）				予習：配布資料を読み、各200字程度でまとめる。 復習：各200字程度にまとめる。 予習時間：60分、復習時間：60分		可
第5回	情報倫理と医療倫理とは：情報倫理、医療倫理、看護倫理、患者に権利と自己決定への支援、インフォームドコンセント、セカンドオピニオン、診療情報の開示、レセプト開示、医療訴訟（永坂）				予習：テキスト6章～7章P132～P158を読み、200字程度でまとめる。復習：各200字程度にまとめる。 予習時間：60分、復習時間：60分		可
第6回	個人情報とは：医療従事者・看護学生としての義務、看護学生における患者情報の取り扱い、看護学生が起こしやすい実習中の情報トラブル、研究における個人情報保護（吉崎）				予習：テキスト第8章P160～P174を読み、200字程度でまとめる。 復習：各200字程度にまとめる。 予習時間：60分、復習時間：60分		可
第7回	調査とは：調査の目的、調査の準備・設計、倫理的配慮、実際の地域医療・介護に関する情報収集、発表（吉崎）				予習：テキスト第11章P224～P225を読み、200字程度でまとめる。 自分が住んでいる医療圏内の病院、病床区分、診療科、施設等の数や偏在を調査してくる。 復習：各200字程度にまとめる。 予習時間：60分、復習時間：60分		
第8回	自分が住む地域医療福祉等の情報収集と発表：演習の中で情報共有（永坂）				予習：自分が住んでいる地域の医療福祉に関する情報連携媒体、電子連絡帳等を調べ、レポート用紙1枚まとめる。 復習：各200字程度にまとめる。 予習時間：60分、復習時間：60分		
評価方法							
最終試験 (60%)、小テスト（20%）、課題レポート（20%）							
オフィスアワー							
事前にアポイントを取って下さい。 永坂和子：月～木曜日（9:00～17:00）連絡先 e-mail k-nagasaka@gifuhoken.ac.jp 吉崎純夫：月～水曜日、金曜日（9:00～17:00）連絡先 e-mail s-yoshizaki@gifuhoken.ac.jp							

講義科目				ディプロマポリシーを達成するために必要な能力		
科目区分	専門教育科目 -看護の基本				人間力	
授業コード	111043				ケア・スピリット	○
授業科目名	看護学概論				実践的理解	○
配当学年/ 学期	1年 前期 必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	○
担当教員	山本澄子【実務家該当教員】				多職種連携	○

講義概要			
これから学ぶ看護学全ての導入科目である。「看護とは・看護の対象者とは・看護師とは・専門職とは・看護ケアとは」何かを学ぶとともに、看護の目的や看護教育制度から看護学生に何が求められているかを理解して、専門科目の学修や臨地実習に取り組むことができるようにする。また、人間の生命・尊厳・生活に関わる権利を尊重するための倫理観を養う。さらに、看護の歴史的発展を踏まえて看護の代表的な理論や看護モデルを学び、自己の看護観の形成に役立てる。			
授業内容（到達目標を含む）			
看護とは何か、看護に必要な知識を身につけ、個人・家族・集団・地域について幅広く理解し、根拠に基づいた看護実践の必要性を教授する。 到達目標 ①看護の本質を論じることができる。②健康の捉え方を述べることができる。③主体的に学ぶ姿勢を獲得できる。④看護の対象、看護の場、看護の機能と役割を述べることができる。⑤保健・医療・福祉提供システムと看護、チーム医療の重要性を関連づけることができる。⑥看護専門職としての課題と、これからの展望を論じることができる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
1. シラバス内容から講義予定部分のテキスト部分を2時間程度学習し、講義により理解を深め、授業後はテキスト、配布資料から見直しを2時間程度行ない次の授業に備える。 2. 20分以上の遅刻は遅刻は欠席とみなす。			
教材			
テキスト ナーシング・グラフィカ基礎看護学①看護学概論、志自岐康子他編、メディカ出版、3,080円（税込）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	授業の概要・授業の進め方、看護とは、看護の本質と責務	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：30分、復習時間：30分	可
第2回	看護の定義、看護の理論家たち	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：30分、復習時間：30分	可
第3回	対象の理解：統合体としての人間、個人・家族・コミュニティ・地域社会	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：30分、復習時間：30分	可
第4回	対象の理解：健康障害をもつ対象の理解、ストレスと適応、人間の暮らし	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：30分、復習時間：30分	可
第5回	健康の捉え方：健康の定義、障がいの定義、社会状況の変遷と健康観の変化	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：30分、復習時間：30分	可

第6回	看護の歴史の変遷：原始～古代～中世～近世の看護	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：30分、復習時間：30分	可
第7回	看護の歴史の変遷：アメリカ・ヨーロッパの看護	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：30分、復習時間：30分	可
第8回	看護の歴史の変遷：日本の看護	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：30分、復習時間：30分	可
第9回	看護の機能と役割：看護の目標・看護の活動	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：30分、復習時間：30分	可
第10回	看護の機能と役割：看護の機能・役割、医療チームの中の役割	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：30分、復習時間：30分	可
第11回	看護倫理とは：倫理学と看護学、価値とQOL、看護関係用語	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：30分、復習時間：30分	可
第12回	看護における法的側面：看護実践と医療安全、医療の質保証と医療過誤	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：30分、復習時間：30分	可
第13回	職業としての看護：看護の専門分化、看護職養成制度	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：30分、復習時間：30分	可
第14回	日本の看護教育の歴史の変遷、看護教育とキャリア開発	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：30分、復習時間：30分	可
第15回	看護の継続性、保健・医療・福祉サービスと看護活動、看護の課題と展望	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：30分、復習時間：30分	可
評価方法			
定期試験80%、課題レポート20%により評価する。			
実務経験のある教員による授業内容			
総合病院、大学病院での病棟看護師、企業での保健管理部保健師の経験を活かして、看護を多角的な視点から考えることの理解ができるよう教授していきたい。			
オフィスアワー			
研究室在室時は可能な限り対応しますので、他者が在室中でもとにかくノックしてください。			
連絡先：e-mail sumi-yamamoto@gifuu.ac.jp			

講義科目				る デ イ ブ の た め に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の基本				人間力	
授業コード	111044				ケア・スピリット	
授業科目名	看護援助方法論Ⅰ				実践的理解	○
配当学年/ 学期	1年 前期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	山本澄子【実務家該当教員】、原田英子【実務家該当教員】				多職種連携	○

講義概要

看護活動の場において、様々な健康段階・発達段階にある人々への看護の基盤となる。生活行動の援助としての看護技術について学修し修得する。具体的には、有害なものに対する防御を支援するケア、身体機能を支援するケア、身体機能を支援するケア、ヘルスケアシステムの有効な利用を支援するケア、心理機能を支援しライフスタイルの変容を促進するケアを実践するための基本的な看護介入の技術の方法を修得する。

授業内容（到達目標を含む）

コミュニケーション技法（基本的かかわり技法）、感染防御（スタンダードプリコーション、ガウン・手袋の着脱法）、ベッドメイキング（リネン類のたたみ方、オープンベッド・クローズドベッドの作製法）を教授する。到達目標
①基本的かかわり技法を通して、援助的対人関係について論じることができる。 ②感染予防の意義と手指消毒の必要性を述べることができる。 ③オープンベッドとクローズドベッドの基本に基づいたベッドを作製することができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1. シラバス内容から講義予定部分のテキスト部分を2時間程度学習し、講義により理解を深め、授業後はテキスト、配布資料から見直しを2時間程度行ない次の授業に備える。
2. 20分以上の遅刻は遅刻は欠席とみなす。

教材

テキスト：看護技術 講義・演習ノート上巻、山口瑞穂子編著、サイオ出版、3,960円（税込）
参考図書：・ナーシンググラフィカ基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ、松尾ミヨ子他編、メディカ出版、3,740円（税込）
・看護技術 講義・演習ノート下巻、山口瑞穂子編著、サイオ出版、3,960円（税込）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	授業の概要・授業の進め方、看護援助方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの構成と内容の関連性、看護技術援助の意義と必要性、生活行動援助技術と診療に伴う援助技術は、コミュニケーション技術（講義）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第2回	コミュニケーション技術（基本的かかわり技法）、プロセスレコードとは（講義・演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第3回	場面設定による基本的かかわり技法（ロールプレイ）、プロセスレコード作成（演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第4回	患者と家族への支援、カウンセリング（講義・演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第5回	環境調整技術、病床環境とは、環境アセスメント、患者（対象者）の生活の場の必要条件（講義）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第6回	環境を整える技術、テリトリーと個人空間、病院・病棟の構造と設備（講義）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	

第7回	感染防御技術、感染防御に必要な基礎知識、感染症に関する法律（講義）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第8回	感染防御アセスメント、実習室の使用法（講義・演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第9回	衛生学的手洗いの法、スタンダードプリコーション、ディスポーザブルエプロン・手袋の着脱法（演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第10回	衛生学的手洗いの法、スタンダードプリコーション、ディスポーザブルエプロン・手袋の着脱法（演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第11回	リネン類・タオル類・寝衣のたたみ方、三角コーナー・四角コーナー・横シーツの作製法（演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第12回	ベッドメイキング（オープンベッド・クローズドベッド）（演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第13回	ベッドメイキング（オープンベッド・クローズドベッド）（演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第14回	ベッドメイキング（オープンベッド・クローズドベッド）、エプロン・手袋の着脱法（演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第15回	ベッドメイキング（オープンベッド・クローズドベッド）、エプロン・手袋の着脱法（演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
評価方法			
定期試験50%、技術到達状況30%、課題レポート20%で評価する。技術到達状況（技術チェック）は別日に設ける。			
オフィスアワー			
研究室在室時は可能な限り対応しますので、他者が在室中でもとにかくノックしてください。			
山本連絡先：e-mail sumi-yamamoto@gifuuoken.ac.jp			
原田連絡先：e-mail e-harada@gifuuoken.ac.jp			

講義科目						
科目区分	専門教育科目－看護の基本			る デ イ め プ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す	人間力	
授業コード	111045				ケア・スピリット	
授業科目名	看護援助方法論Ⅱ				実践的理解	○
配当学年/ 学期	1年 後期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	山本澄子【実務家該当教員】，原田英子【実務家該当教員】				多職種連携	○

講義概要			
看護援助方法論Ⅰで学んだエビデンスに基づいた看護介入の方法の知識を活用し、看護活動の場において様々な健康段階・発達段階にある人々への看護の基盤となる生活行動の援助としての看護技術について学内の実習室にて演習を行なう。具体的には衛生手洗い、擦式アルコール手指消毒、感染性廃棄物取扱い、防御用装具、ベッドメイキング、基本的体位・良好な体位、体位変換、車椅子への移乗・移送、ストレッチャーへの移乗・移送、療養上の環境調整、臥床患者のリネン交換、寝衣交換、摂食介助および口腔ケア、清拭、部分浴、洗髪、排泄ケアの技術を修得する。			
授業内容（到達目標を含む）			
活動・休息援助技術、食事・排泄援助技術、清潔援助技術について教授する。 到達目標 ①科学的根拠に基づいた看護技術を説明することができる。 ②原理・原則に基づいた看護基本技術を実施することができる。 ③対象者の安全・安楽を踏まえた看護援助を述べるすることができる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
1. シラバス内容から講義予定部分のテキスト部分を2時間程度学習し、講義により理解を深め、授業後はテキスト、配布資料から見直しを2時間程度行ない次の授業に備える。 2. 20分以上の遅刻は遅刻は欠席とみなす。			
教材			
テキスト：ナーシンググラフィカ基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ、松尾ミヨ子他編、メディカ出版、3,740円（税込） 参考図書：・看護技術 講義・演習ノート上巻、山口瑞穂子編著、サイオ出版、3,960円（税込） ・看護技術 講義・演習ノート下巻、山口瑞穂子編著、サイオ出版、3,960円（税込）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	授業の概要・授業の進め方、体位の安定性、人間工学とボディメカニクス（講義）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第2回	活動・休息援助技術：体位変換の原理・法則、移乗と移送の意義と必要性、休息と睡眠への援助（講義）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第3回	体位変換法：4つの原理・法則（演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第4回	体位変換法：4つの原理・法則法則（演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第5回	移乗と移送法：車椅子・ストレッチャー・杖歩行（演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	

第6回	移乗と移送法：車椅子・ストレッチャー・杖歩行（演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第7回	食事援助技術：栄養と食事、食欲と空腹感、栄養状態の評価、消化と吸収、非経口的栄養法（講義）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第8回	排泄援助技術：排泄の意義、排泄の生理、排尿・排便の異常（講義）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第9回	食事の介助と体位・口腔ケア、排泄介助法（演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第10回	食事の介助と体位・口腔ケア、排泄介助法（演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第11回	清潔援助技術：身体清潔の意義と必要性、皮膚の生理作用、清潔法の種類（講義）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第12回	清潔援助技術：部分清拭、寝衣交換、足浴（演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第13回	清潔援助技術：部分清拭、寝衣交換、足浴（演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第14回	清潔援助技術：洗髪（演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第15回	清潔援助技術：洗髪（演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
評価方法			
定期試験50%、技術到達状況30%、課題レポート20%で評価する。技術到達状況（技術チェック）は別日に設ける。			
実務経験のある教員による授業内容			
山本：総合病院、大学病院の病棟看護師、企業での保健管理部保健師の経験を活かして、看護を多角的な視点から考えることの理解ができるよう教授していきたい。 原田：臨床にて、根拠に基づいた看護ケアがいかに重要であるか痛切に感じました。患者さんにとって必要な看護ケアは何か、安全・安楽・自立に向けた生活援助、検査・治療に伴う基本的な看護技術の知識と方法について、一緒に修得していきましょう。			
オフィスアワー			
研究室在室時は可能な限り対応しますので、他者が在室中でもとにかくノックしてください。 山本連絡先：e-mail sumi-yamamoto@gifuhoken.ac.jp 原田連絡先：e-mail e-harada@gifuhoken.ac.jp			

講義科目				ディプロマポリシーを達成するために必要な能力		
科目区分	専門教育科目－看護の基本				人間力	
授業コード	111046				ケア・スピリット	
授業科目名	看護援助方法論Ⅲ				実践的理解	○
配当学年/ 学期	1年 後期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	山本澄子【実務家該当教員】，原田英子【実務家該当教員】				多職種連携	○

講義概要

看護活動の場において、様々な健康段階・発達段階にある人々の診療援助にかかわる看護技術とそのエビデンスについて演習を通じて学修する。具体的には、生命の兆候を観察する技術、感染予防技術、検査に伴う看護技術、与薬の技術、創傷管理技術等を通じて、リスク管理、身体機能調節を支援するケア、ヘルスケアシステム、恒常性調節を支援するケアを実践するための基本的な看護介入の方法を修得する。

授業内容（到達目標を含む）

医師の指示のもとで行なう診療に伴う援助技術を中心とした内容である。感染防御技術、安楽を促す援助技術、与薬と看護、呼吸を整えるための看護、排泄援助技術について教授する。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

1. シラバス内容から講義予定部分のテキスト部分を2時間程度学習し、講義により理解を深め、授業後はテキスト、配布資料から見直しを2時間程度行ない次の授業に備える。2. 20
分以上の遅刻は遅刻は欠席とみなす。

教材

テキスト：看護技術 講義・演習ノート下巻、山口瑞穂子編著、サイオ出版、3,960円（税込）
参考図書：・ナースングラフィカ基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ、松尾ミヨ子他編、メディカ出版、3,960円（税込）
・看護技術 講義・演習ノート上巻、山口瑞穂子編著、サイオ出版、3,960円（税込）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	授業の概要・授業の進め方、診療における看護師の役割、診療（診察・検査）に伴う看護、滅菌物の取扱い・無菌操作について（講義）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第2回	創傷保護管理、安楽を促す援助（講義）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第3回	与薬と看護：薬物療法の基礎知識、薬物療法と看護師の役割（講義）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第4回	与薬と看護：注射法の基礎知識、注射法の種類と適応、輸血について（講義）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第5回	呼吸を整えるための看護：酸素吸入法、吸引法（講義・演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	

第6回	排泄援助技術：導尿法、浣腸法（講義）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第7回	ガウンテクニック（清潔区域と汚染区域）、滅菌物の取扱い、滅菌手袋の着脱法、創傷処置（演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第8回	ガウンテクニック（清潔区域と汚染区域）、滅菌物の取扱い、滅菌手袋の着脱法、創傷処置（演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第9回	温罨法、冷罨法（演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第10回	包帯法、三角巾、腹帯（演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第11回	与薬の技術：注射針・シリンジ・真空採血管の取扱い、注射液の吸い上げ（演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第12回	与薬の技術：アンプルカット、採血法（演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第13回	与薬の技術：皮下注射法、筋肉内注射法、静脈内注射法（演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第14回	排泄を促す援助技術：導尿法、浣腸法 与薬の技術：採血法、注射法（演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
第15回	排泄を促す援助技術：導尿法、浣腸法 与薬の技術：採血法、注射法（演習）	予習：指定されたテキストに目を通す。 復習：配布資料を読み返す。 予習時間：90分、復習時間：90分	
評価方法			
定期試験50%、技術到達状況30%、課題レポート20%で評価する。技術到達状況（技術チェック）は別日に設ける。			
オフィスアワー			
研究室在室時は可能な限り対応しますので、他者が在室中でもとにかくノックしてください。 山本連絡先：e-mail sumi-yamamoto@gifuuoken.ac.jp 原田連絡先：e-mail e-harada@gifuuoken.ac.jp			

第4回	看護過程の展開法について、記録用紙の記載法について	予習： 看護過程の展開について調べる。 復習： 課題「看護過程の構成立ての必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第5回	事例の紹介	予習： 看護過程の展開について調べる。 復習： 課題「事例の看護過程展開による看護の必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第6回	看護過程の展開法：事例の読み取り、情報収集の整理	予習： 看護過程の展開について調べる。 復習： 課題「事例の看護過程展開による看護の必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第7回	看護過程の展開法：事例の読み取り、情報収集の整理	予習： 看護過程の展開について調べる。 復習： 課題「事例の看護過程展開による看護の必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第8回	事例の基本的欲求の充足に関するアセスメント	予習： 看護過程の実際について調べる。 復習： 課題「人間の基本的欲求の未充足からくる心身の変化」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第9回	事例の基本的欲求の充足に関するアセスメント	予習： 看護過程の実際について調べる。 復習： 課題「人間の基本的欲求の未充足からくる心身の変化」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第10回	体温表の記載方、事例の全体像	予習： 看護過程の実際について調べる。 復習： 課題「患者の全体像を図式化する意味」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第11回	事例の全体像	予習： 看護過程の実際について調べる。 復習： 課題「患者の全体像を図式化する意味」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第12回	アセスメント、全体像の修正・追加	予習： 看護過程の実際について調べる。 復習： 課題「患者の全体像を図式化する意味」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第13回	看護診断、看護計画立案	予習： 看護過程の実際について調べる。 復習： 課題「患者の看護問題の明確化（看護診断）と看護計画立案の必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第14回	看護診断、看護計画立案、看護援助法	予習： 看護過程の実際について調べる。 復習： 課題「患者の看護問題の明確化（看護診断）と看護計画立案の必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第15回	事例に対する看護過程の一連の流れの確認	予習： 看護過程の実際について調べる。 復習： 課題「患者の看護問題の明確化（看護診断）と看護計画立案の必要性」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	

評価方法
定期試験50%、看護過程の展開作成30%、レポート20%により評価する。
オフィスアワー
講義時に指定する。 山本連絡先：e-mail sumi-yamamoto@gifuhoken.ac.jp 原田連絡先：e-mail e-harada@gifuhoken.ac.jp

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な リ ン シ ー を 達 成 す	人間力	
科目区分	専門教育科目 -看護の基本				ケア・スピリット	○
授業コード	111048				実践的理解	○
授業科目名	フィジカルアセスメント				プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	2年 前期 必修	単位数	1		多職種連携	
担当教員	原田英子【実務家該当教員】，山本澄子【実務家該当教員】					
講義概要						
看護の対象の健康状態や病状、看護援助に関する情報を系統的に収集し、アセスメントする技術を身につける。 看護におけるフィジカルアセスメントの位置づけ、頭部から爪先までの身体を系統的に診察する技術とそのアセスメントについて解説する。演習では、頭頸部、眼・耳・鼻・口、胸部（肺・胸郭/乳房・リンパ系/心臓・血管系）、腹部、直腸・肛門・外性器・鼠径部、四肢（筋・骨格筋系/末梢血管系、神経系）の系統別に診察を行ない、その結果のアセスメントを行なう。						
授業内容（到達目標を含む）						
フィジカルアセスメントとは何か。看護の対象である人間の健康にかかわる身体状態のアセスメント（評価・査定）技術について教授する。 到達目標 ①フィジカルアセスメントの必要性を説明できる。 ②フィジカルアセスメントに共通する技術を実施できる。 ③バイタルサイン測定技術が正確にできる。						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
1．シラバス内容から講義予定部分のテキスト部分を2時間程度学習し、講義により理解を深め、授業後はテキスト、配布資料から見直しを2時間程度行ない次の授業に備える。2．20分以上の遅刻は遅刻は欠席とみなす。						
教材						
テキスト	基礎看護技術Ⅰ（コミュニケーション／看護の展開／ヘルスアセスメント）、松尾ミヨ子編、メデイカ出版					
参考図書	看護のためのフィジカルアセスメント、守田美奈子監修、インターメディカ はじめてのフィジカルアセスメント、横山美樹著、メヂカルフレンド社					
授業計画及び学習課題（予習・復習）						
回	内容			学習課題（予習・復習）		遠隔授業
第1回	授業の概要・授業の進め方、ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーション、観察する意味			予習：ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーションとは何かについて調べる。 復習：課題「ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメント、フィジカルイグザミネーションとは」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第2回	フィジカルアセスメントの共通技術：問診、視診、聴診、触診			予習：問診・視診・聴診・触診について調べる。 復習：課題「診察技術における看護師の役割」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		
第3回	系統別アセスメント：頭部、顔面、頸部			予習：頭部、顔面、頸部のアセスメントについて調べる。 復習：課題「頭部、顔面、頸部のアセスメントのポイント」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分		

第4回	系統別アセスメント：眼、耳、鼻、口腔、咽頭	予習： 眼、耳、鼻、口腔、咽頭のアセスメントについて調べる。 復習： 課題「眼、耳、鼻、口腔、咽頭のアセスメントのポイント」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第5回	系統別アセスメント：胸部・肺、心臓・血管系	予習： 胸部・肺、心臓・血管系のアセスメントについて調べる。 復習： 課題「胸部・肺、心臓・血管系のアセスメントのポイント」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第6回	系統別アセスメント：乳房、腹部、生殖器、肛門	予習： 乳房、腹部、生殖器、肛門のアセスメントについて調べる。 復習： 課題「胸部・肺、心臓・血管系のアセスメントのポイント」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第7回	系統別アセスメント：筋・骨格系、脳・神経系	予習： 筋・骨格系、脳・神経系のアセスメントについて調べる。 復習： 課題「筋・骨格系、脳・神経系のアセスメントのポイント」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第8回	バイタルサインとは、意識状態のアセスメント：意識とは、意識状態を観察する意義	予習： 意識状態のアセスメントについて調べる。 復習： 課題「意識状態のアセスメントのポイント」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第9回	4項目のバイタルサイン測定の意義：体温・呼吸・脈拍・血圧	予習： バイタルサインとは何かについて調べる。 復習： 課題「バイタルサインの観察・測定・評価」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第10回	バイタルサイン測定：T・P・R・BP	予習： 体温のアセスメントについて調べる。 復習： 課題「体温維持のメカニズム」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第11回	バイタルサイン測定：T・P・R・BP	予習： 脈拍のアセスメントについて調べる。 復習： 課題「循環系とは何か」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	

第12回	バイタルサイン測定：T・P・R・BP	予習： 呼吸のアセスメントについて調べる。 復習： 課題「呼吸のメカニズム」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第13回	バイタルサイン測定：T・P・R・BP	予習： 血圧のアセスメントについて調べる。 復習： 課題「血圧測定時の留意事項」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第14回	バイタルサイン測定の確認	予習： バイタルサインとは何かについて調べる。 復習： 課題「バイタルサイン測定項目の測定法の留意事項」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
第15回	バイタルサイン測定の確認	予習： バイタルサインとは何かについて調べる。 復習： 課題「バイタルサイン測定項目の測定法の留意事項」について200字程度にまとめる。 予習時間：120分、復習時間：120分	
評価方法			
定期試験60%、技術到達度（技術チェック）30%、レポート10%			
オフィスアワー			
講義時に指定する。 山本連絡先：e-mail sumi-yamamoto@gifuoken.ac.jp 原田連絡先：e-mail e-harada@gifuoken.ac.jp			

講義科目					要を な達 能成 力す る た め に シ ー	
科目区分	専門教育科目 -看護の基本					
授業コード	111049					
授業科目名	看護マネジメント					○
配当学年/ 学期	3年 前期 必修	単位数	1			
担当教員	平岡翠【実務家該当教員】，永坂和子【実務家該当教員】					○

講義概要			
看護マネジメントの概念と機能、看護部門のマネジメント、医療・看護の質、看護政策などについて学び、看護マネジメントの必要性和重要性を理解する。具体的には、病院経営、看護政策、看護部門マネジメント、看護人材マネジメント、看護目標管理、医療・看護の質保証等について理解を深める。医療提供体制の中で、看護管理者の果たす役割と今日的課題についても考察する。			
授業内容（到達目標を含む）			
1. 看護者が組織の一員としての自覚を持ち、質の高い看護を提供するために必要となる「仕組み」について説明できる。 2. 医療安全に必要な看護職としての責任や役割、組織の取組みを学び、事故防止システムを説明できる。 3. 国際協力の仕組みと看護活動の展開を述べることができる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
・医療安全・国際看護活動に関する社会の動きについて関心を向けてほしい。 問題意識を持って能動的に学ぶ姿勢を期待する。			
教材			
教科書（各自準備）：フローレンス・ナイチンゲール 看護覚え書き（出版年代・出版社問わない）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	看護管理を学ぶとは	予習：教科書Ⅰ章 復習：講義内に課題を提示 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第2回	看護組織と管理	予習：教科書Ⅰ章 復習：講義内に課題を提示 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第3回	看護管理のスキル	予習：教科書第Ⅱ章 復習：講義内に課題を提示 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第4回	安全管理（医療事故とヒューマンエラー／医療事故発生のメカニズム、医療事故事例によるディスカッション）	予習：教科書第Ⅱ章 復習：講義内に課題を提示 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第5回	安全管理（医療安全への取り組み、危険予知の理論と実際 KYT）	予習：教科書第Ⅱ章 復習：講義内に課題を提示 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第6回	看護サービス管理の周辺	予習：教科書Ⅲ章 復習：講義内に課題を提示 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第7回	看護管理と倫理	予習：教科書Ⅲ章 復習：講義内に課題を提示 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第8回	看護管理の展望	予習：教科書Ⅳ章 復習：講義内に課題を提示 予習時間：120分、復習時間：120分	可

評価方法
定期試験70%、課題レポート30%
オフィスアワー
授業後に対応 秋山連絡先：e-mail n-akiyama@gifuhoken.ac.jp

第5回	看護の臨床推論、システム論とロイ適応看護理論 (内藤)	看護理論と臨床推論、理論の発展過程、ロイ適応看護モデルの形成過程 予習時間120分、復習時間120分	
第6回	看護の臨床推論 (内藤)	看護理論と臨床推論、ゴードン、ロイ適応理論の看護過程展開 予習時間120分、復習時間120分	
第7回	小児看護に活用できる理論： ①H. E. Peplau『対人関係理論』 ②D. E. Orem『セルフケア不足看護理論』 (野田)	予習：指定された資料に目を通す（120分） 復習：課題レポートを記述する（120分） ※授業開始時 5minutes test	可
第8回	老年看護に活用できる理論・アプローチ (健康の概念、ライフストーリー、レジリエンス)	予習：家族や友人・知人（高齢者）に健康とはどのようなことをいうのか事前にインタビューし、その内容を200字程度にまとめて講義に参加する。（120分） 復習：講義中に提示した課題レポートを提出する。（120分）	可
評価方法			
定期試験（レポート含む）100%＜山本35%、内藤35%、野田30%＞			
オフィスアワー			
山本：研究室在室時は可能な限り対応しますので、他者が在室中でもとにかくノックしてください。 連絡先：e-mail sumi-yamamoto@gifuuoken.ac.jp 内藤：火、水、木、金の16:10分から17:00、研究室迄、メールも可：n-naitoh@gifuuoken.ac.jp 野田：月曜・水曜・木曜・金曜の16:10から17:00まで、研究室(事前のアポイント必要：m-noda@gifuuoken.ac.jp)			

講義科目					る デ イ ブ に 必 要 な 能 力 を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の基本					人間力	○
授業コード	111051					ケア・スピリット	
授業科目名	看護倫理					実践的理解	○
配当学年/ 学期	1年 前期 必修	単位数	1			プロフェッショナリズム	○
担当教員	平岡翠【実務家該当教員】，内藤直子【実務家該当教員】					多職種連携	

講義概要

看護を実践するうえで看護倫理は基盤となることを理解し、基礎的な知識としての倫理の原理原則や看護者の倫理綱領、臨床倫理の諸問題、看護上の倫理概念（アドボカシー、責務と責任、ケアリング）などについて、事例を用いながら学ぶ。後半では、感受性を高めるためのセッション、最後に倫理的問題を解決するための方法を学び、事例を展開させながら、検討、発表会を行う。学生は、本科目の過程で自身の倫理的価値を省察する。

授業内容（到達目標を含む）

看護倫理学では、看護職に必要な倫理に関する基礎的知識を理解し、倫理的課題を考察することによって、倫理的感受性、倫理観を高めることを目指している。実際には、学生は、患者の権利を護ることに焦点をあてた事例検討を行い、倫理的感受性を養うと共に倫理観を培う。学習の到達目標として以下を目指す。

1. 倫理の意義、看護者の倫理的責任（人の尊厳と患者の権利、看護者の倫理綱領）について説明できる
2. 倫理の原理原則や看護者の倫理綱領について説明できる
3. 対象の意思決定を支える看護職の倫理的意思決定について説明できる
4. 臨床倫理の諸問題について指摘できる

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

看護実践では、看護倫理は重要であり、基礎知識を理解するには各回の授業テーマに合わせた課題に対して自己学習を行う。授業内容の理解を促進するためには、自己学習をしてから、授業に臨むこと。毎回授業でミニッツノートを渡すので、授業に関する意見や質問があればそこに記入すること。ミニッツノートの内容は、授業時間内に解説する。

教材

テキスト「系統看護学講座別巻看護倫理」第2版第5版宮坂道夫、石原逸子他、価格1,944円
参考文献授業で適宜紹介する

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	看護倫理を学ぶことの意義、なぜ学ぶのか、倫理学の基本的な考え方、生命倫理について、生命倫理の理論、看護職の責務（序章・1章・2章） （平岡）	予習：看護学概論で学習する「看護とは」について考え、講義を受ける 復習：P2～40を読み、倫理・生命倫理とはなにかについてまとめる	可
第2回	看護倫理とはなにか、看護実践上の倫理的概念、専門職に求められる倫理、専門職の倫理綱領等（6章・7章） （内藤）	予習：P96～135を読んでおく 復習：看護職の倫理綱領を熟読し、看護師の責務についてまとめる	可
第3回	看護実践における倫理的問題の特徴、倫理実践へのアプローチ（Jonsenの臨床4分割法、サラ・フライの倫理的分析）（8章） ＜事例分析＞Jonsenの臨床4分割法を用いて、事例によるグループ討議（8章） （内藤）	予習：P138～162を読んでおく 復習：P142の事例についてJonsenの臨床4分割法を用いて分析する	可
第4回	倫理的問題へのアプローチ（ナラティブアプローチ、レストによる4要素分析質問票） ＜事例分析＞検討シートに基づき事例を分析し、各グループで討議する（内藤）	予習：P138～162を読んでおく 復習：P142の事例についてナラティブアプローチ/レストによる4要素分析質問票を用いて分析する	可
第5回	性と生殖の生命倫理、生殖に対する医療的介入の課題（3章）、死について、死と医療、死と生命倫理（4章） ※課題を提示（平岡）	予習：P42～72を読んでおく 復習：P58ゼミナール「復習と課題」の①②についてまとめる	可

第6回	先端医療①移植医療・再生医療・遺伝子医療の歴史と現状②医療資源と保険制度（5章） ※課題を提示（平岡）	予習：P74～92、P147～150を読んてくる 復習：提示した課題をまとめる	可
第7回	トンプソンの意思決定モデルについて10ステップで分析（グループ）（内藤）	予習：P147～150のトンプソンの意思決定モデルについて読んてくる 復習：トンプソンの意思決定モデルの分析方法を事後学習	
第8回	看護職と研究倫理、研究における倫理的問題、倫理的配慮の要点（9章）（内藤）	予習：P164～180を読んてくる 復習：「看護研究における倫理指針」（日本看護協会）を読んて要点をまとめる	可
評価方法			
課題レポート30%、期末試験70%により評価する			
オフィスアワー			
平岡翠：連絡先s-hiraoka@gifuhoken.ac.jp ※事前にアポイントを取ってください。 内藤直子：連絡先 n-naito@gifuhoken.ac.jp ※事前にアポイントを取ってください。			

実習科目				る た め プ に 必 要 な 能 力 を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -看護の基本				人間力	
授業コード	111052				ケア・スピリット	
授業科目名	基礎看護学実習Ⅰ				実践的理解	○
配当学年/ 学期	1年 前期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	山本澄子【実務家該当教員】，原田英子【実務家該当教員】， 水木幸子【実務家該当教員】				多職種連携	○
講義概要（実習目的）						
入院生活を送る患者とのかかわりの実際を見学し、保健・医療分野における看護職者の役割と機能を学び、今後の学修への動機づけとすることをねらいとしている。同時に看護専門職者に求められる基本的な態度を修得する。						
授業内容（実習目標）						
この実習での学びは、今後積み重ねていく看護学の基盤としての側面をもつものである。看護学を学ぶ者としての自覚と看護者の倫理綱領に則った責任ある行動の自覚を促すものである。 到達目標 ①医療分野における看護職者の機能と役割を説明できる。 ②看護者の倫理綱領に則って、他者を重んじた態度・行動ができる。						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
1. 実習に臨む姿勢として、大学からの指示事項に背く場合は実習を許可しない。 （例：大学既定のユニフォームを着用しない。髪色、装飾品、靴下の色等教員の注意を無視する 等） 2. 看護を学ぶ者として倫理的な実習態度で実習に臨む。 3. 実習は原則欠席しない。出席回数が満たない者は、その単位を修得することはできない。						
教材						
授業計画及び学習課題（予習・復習）						
1 実習場所 病棟実習： 朝日大学病院、名古屋大学病院、愛知医科大学病院、大垣徳洲会病院、西美濃厚生病院、 岐阜北厚生病院、揖斐厚生病院、東濃厚生病院、可児とうのう病院 2 対象学年 岐阜保健大学看護学部看護学科1学年次生（前期）80名 3 実習期間および実習時間 実習期間：2023年（令和5年）8月7日（月）～8月10日（木）＜40名＞ 2023年（令和5年）8月14日（月）～8月18日（金）＜40名＞ 実習時間： 9：00～16：00 4 実習構成 1病棟につき基本4名の学生配置 5 実習スケジュール 詳細は「2023年度基礎看護学実習Ⅰ実習要項」参照のこと						
評価方法						
実習記録・実習内容80%、事前課題学習20%により評価する。						

オフィスアワー

山本連絡先：e-mail sumi-yamamoto@gifuhoen.ac.jp
原田連絡先：e-mail e-harada@gifuhoen.ac.jp

実習科目						
科目区分	専門教育科目 -看護の基本			る デ イ め ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す	人間力	
授業コード	111053				ケア・スピリット	○
授業科目名	基礎看護学実習Ⅱ				実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 後期 必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	原田英子【実務家該当教員】，山本澄子【実務家該当教員】，水木幸子【実務家該当教員】				多職種連携	
講義概要（実習目的）						
医療機関において健康障害により入院生活を送っている患者を受け持ち、看護過程を展開する基礎的な能力を修得する。看護に必要な情報を適切にアセスメントし、看護上の問題を明確化し、それを言動化する能力、また看護計画を立案し実践できる能力を身につける。これらの看護過程を通して、看護職として必要な態度を修得する。						
授業内容（実習目標）						
入院生活を送る患者を受け持ち、患者のニーズに沿った看護を提供できるように、看護過程の展開の基礎を身につけることができるように、また看護過程の展開から必要な看護援助法を考え導き出せるよう教授する。						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
1. 実習に臨む姿勢として、大学からの指示事項に背く場合は実習を許可しない。 （例：大学既定のユニフォームを着用しない。髪色、装飾品、靴下の色等教員の注意を無視する 等） 2. 看護を学ぶ者として倫理的な実習態度で実習に臨む。 3. 実習は原則欠席しない。出席回数が満たない者は、その単位を修得することはできない。						
教材						
授業計画及び学習課題（予習・復習）						
1 実習場所 病棟実習： 大垣徳洲会病院、岐阜厚生病院、可児とうのう病院 津島市民病院、増子記念病院、岐阜清流病院 など 岐阜清流病院 岐阜保健大学看護学部看護学科2学年次生（後期）60名程度 3 実習期間（予定）および実習時間 実習期間（予定）： 2023年（令和5年）1月29日（月）～2月9日（金） 2023年（令和5年）2月12日（月）～2月23日（金） 2023年（令和5年）2月26日（月）～3月8日（金） 2023年（令和5年）3月11日（月）～3月22日（金） 実習時間： 9：00～16：00 4 実習メンバー：1病棟につき基本3-5名の学生配置 5 実習スケジュール 具体的なスケジュールは別途、説明する 詳細は「2023年度基礎看護学実習Ⅱ実習要項」参照のこと						
評価方法						
実習記録・実習内容70%、事前課題学習10%、ケース発表20%により評価する。						

オフィスアワー

研究室在室時は可能な限り対応しますので、他者が在室中でもとにかくノックしてください。

山本連絡先：e-mail sumi-yamamoto@gifuuoken.ac.jp

原田連絡先：e-mail e-harada@gifuuoken.ac.jp

講義科目				力 た シ デ め ー イ に を ブ 必 達 ロ 要 成 マ な す ポ 能 る リ	人間力	
科目区分	専門教育科目 -地域・在宅看護学				ケア・スピリット	○
授業コード	111054				実践的理解	○
授業科目名	地域・在宅看護学概論				プロフェッショナリズム	
配当学年 / 学期	1年 後期 必修	単位数	2		多職種連携	○
担当教員	鈴木岸子【実務家該当教員】					

講義概要			
本授業は、地域で暮らす様々な人々の生活を理解するとともに、地域包括ケアシステムの中で提供される多様な看護と、多職種連携について学ぶことに視点を置く。具体的には、地域に暮らす人々の生活と健康全体を俯瞰する力を養うための理論と保健・医療・福祉制度を学ぶ。さらに、地域で療養する人々と家族が、その人らしい生活を送るために必要な看護の倫理的視点、知識・技術を修得する。同時に、在宅ケアを支える看護サービスは、多職種との連携協働を通して提供されていることを理解し、その中で提供される看護の役割と看護観を深めていく。			
授業内容（到達目標を含む）			
地域で生活する人々とその家族が「望む生活」を実現するために必要な、看護の基礎的知識や倫理観、理念に関して広く学び、地域で展開される様々な看護サービスを通して看護の役割と機能を考察する。到達目標は以下の6つである。 1．生活の場である地域を理解するための手法を学ぶことができる。 2．地域療養を支える基盤、在宅看護の基本理念や制度およびしくみが説明できる。 3．地域包括ケアシステムの中で展開される様々な看護と多職種との連携協働について説明できる 4．在宅療養者と家族の特性と、在宅看護における支援の基本となる知識・技術、倫理的配慮について説明できる。 5．在宅療養を支える訪問看護を通して、地域における看護の役割や機能について説明できる。 6．地域・在宅看護の動向と今後の課題について説明できる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
履修にあたり、看護・医学・法制度に関する基礎的な知識・用語の理解が予備知識として求められる。学習課題は「課題ノート」として、提出を求める。無断遅刻・無断欠席等の大学のルールを逸脱する行為があった場合は、改善レポートの提出を求める。本授業は2/3以上の出席が認められない場合は定期テストの受験を認めない。ただし、授業への出席は可能である。			
教材			
テキスト 臺有佳編『地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』メディカ出版、最新版、3400円（税別）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	ガイダンス、 <u>地域・在宅看護の概念①</u> （地域と生活、地域・在宅看護の背景）	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：資料を復習するとともに、講義内で課す課題をノートにまとめる。	可
第2回	同②（地域・在宅看護の基盤、療養を支える在宅看護の役割・機能）	予習：同上 復習：同上	可
第3回	同③（地域・在宅看護を展開するための基本理念）	予習：同上 復習：同上	可
第4回	同④（地域・在宅看護における倫理）	予習：同上 復習：同上	可
第5回	<u>在宅療養者と家族の支援①</u> （地域・在宅看護の対象者と、在宅看護の成立要件）	予習：同上 復習：同上	可
第6回	同②（在宅療養の場における家族のとらえかたと家族への看護）	予習：同上 復習：同上	可
第7回	<u>地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護①</u> （地域アセスメント）	予習：同上 復習：同上	可
第8回	同②（地域包括ケアシステムと多職種連携）	予習：同上 復習：同上	可
第9回	同③（療養の場の移行に伴う看護と在宅看護におけるケアマネジメント）	予習：同上 復習：同上	可
第10回	<u>地域療養を支える制度①</u> （社会資源、医療保険制度、介護保険制度）	予習：同上 復習：同上	可
第11回	同②（生活保護制度から高齢者施策まで）	予習：同上 復習：同上	可
第12回	<u>在宅療養を支える訪問看護①</u> （訪問看護の特徴と訪問ステーション）	予習：同上 復習：同上	可
第13回	同②（訪問看護サービスの展開）	予習：同上 復習：同上	可
第14回	在宅看護における安全と健康危機管理	予習：同上 復習：同上	可
第15回	地域・在宅看護の今後の動向と今後の発展	予習：同上 復習：同上	可

評価方法
定期試験（80％）、課題ノート（20％）により評価する。
オフィスアワー
鈴木岸子：毎週月曜日 12:10～13:00 連絡先 e-mail kishiko-suzuki@gifuhoken.ac.jp

講義科目				要 を デ イ な 達 能 成 プ 力 す ロ マ た ポ め リ に シ 必！	人間力	
科目区分	専門教育科目 -地域・在宅看護学				ケア・スピリット	○
授業コード	111055				実践的理解	○
授業科目名	地域・在宅看護援助論Ⅰ				プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	2年 前期 必修	単位数	1		多職種連携	○
担当教員	鈴木岸子【実務家該当教員】、栗津昌枝【実務家該当教員】					

講義概要			
本授業は、地域で療養する人々とその家族の安定した生活の維持や意思決定を支援するために必要な看護過程の展開を学ぶ。具体的には、国際生活機能分類（ICF）をアセスメントツールとして用いて、情報収集、課題分析、看護計画、実施、評価のPDCAサイクルを展開する。病院等の施設におけるPDCAサイクルとは異なる視点での、在宅療養における看護過程の特徴を修得する。同時に、リスクマネジメントに対応できる臨床判断能力について教授する。			
授業内容（到達目標を含む）			
8コマの授業を通して、在宅療養者と家族のストレングスを生かす看護過程の展開に必要な、知識・技術を講義と演習方式で学習する。学習の到達目標は以下の5つとする。 1. 介護保険制度におけるケアマネジメントの理念と目的から、看護過程の展開が説明できる。 2. 在宅療養者と家族に対する看護過程の基本的な考え方が説明できる。 3. ICFを用いた情報収集、ヘルスアセスメントの特徴や視点等が説明できる。 4. 在宅療養者と家族の望む生活を支援するため看護計画の立案ができる。 5. リスクマネジメントに求められる臨床判断能力が説明できる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
本授業はパソコンを用いて資料を作成しその提出を求める。そのため、パソコンの操作ができるようにしておくこと。毎回提示する学習課題（予習・復習）には、レポートおよび課題ノートの提出が必要である。なお、2/3以上の出席が認められない場合は定期試験の受験を認めない。ただし、授業への出席は可能である。無断遅刻・無断欠席等大学のルールを逸脱する行為があった場合は、改善レポートの提出を求める。			
教材			
テキスト 臺有佳編『地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術』メディカ出版、最新版、2800円（税別） 参考図書 臺有佳編『地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』メディカ出版、2023、3400円（税別）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	ガイダンス、介護保険制度におけるケアマネジメントと在宅療養における看護計画の特徴	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：資料を復習するとともに、講義内で課す課題をノートにまとめる。	可
第2回	在宅看護で用いる国際生活機能分類（ICF）の理解 事例の紹介	予習：ICFについて、ノートにまとめる。 復習：事例を読み込んで、全体像を理解する。	可
第3回	看護過程の展開①事例の確認、記録用紙の説明と記録物の作成、情報収集	予習：ICFの考え方を理解する。 復習：事例の情報を記録用紙にまとめ、次週提出①	可
第4回	看護過程の展開②疾患の理解、アセスメント	予習：同上、疾患についてまとめる。 復習：疾患の理解を記録用紙にまとめ、次週提出②	可
第5回	看護過程の展開③アセスメント（分析解釈のまとめ）と課題抽出	予習：アセスメント、課題を記録物にまとめる。 復習：記録物の提出③	可
第6回	看護過程の展開④看護計画の作成と記録の提出	予習：課題の抽出を行う。 復習：看護計画を作成し、当日提出④	可
第7回	看護過程の展開⑤発表	予習：発表できるように、記録物を見直す。 復習：計画の修正	可
第8回	看護過程の展開⑥リスクマネジメントのための臨床判断能力	予習：質問できるように、自分の考えをまとめる。 復習：臨床判断についてノートにまとめる。全体を復習しまとめる。	可

評価方法		
期末試験40%、看護過程を展開した記録物50%、課題ノート10%により評価する。		
オフィスアワー		
鈴木岸子：月曜日12：10～13：00	連絡先：e-mail	kishiko-suzuki@gifuhoken.ac.jp
栗津昌枝：火曜日12：10～13：00	連絡先：e-mail	m-awazu@gifuhoken.ac.jp

講義科目				能達 力成 イ す る ロ マ た め に リ 必 要 な		
科目区分	専門教育科目 -地域・在宅看護学				人間力	
授業コード	111056				ケア・スピリット	
授業科目名	地域・在宅看護援助論Ⅱ				実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 後期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	鈴木岸子【実務家該当教員】，栗津昌枝【実務家該当教員】，石井英子【実務家該当教員】				多職種連携	○

講義概要			
本授業では、地域で療養する人々と家族の生活を支えるため住宅環境整備および訪問看護サービスの基本的看護技術を学ぶ。具体的には、安全な在宅環境を支えるための住宅改修や福祉用具の活用、医療的ケアに関連する看護技術、日常生活を支える看護技術、訪問看護師による健康危機・災害時対応に求められる看護技術を学ぶ。さらに、保健医療福祉制度の中で、多職種の連携協働を通して療養者と家族の生活を支援する看護に求められる役割や機能について修得する。同時に、学びを通して、今後の在宅看護に期待される看護の役割や独自性などについて学生自らが思考を深める機会とする。			
授業内容（到達目標を含む）			
本授業は、地域で療養する人々と家族の健康を支える訪問看護師の役割や基本的看護技術について、講義・演習・グループワークを通して修得する。また、安全な住宅環境の整備や危機管理など多職種連携で行う支援の中での看護の役割と独自性について、学生自身が思考を深める場とする。到達目標は以下の6つである。 1. 保健医療福祉制度における看護サービスの役割が理解できる。 2. 介護保険制度および医療保険制度の中での訪問看護師の役割と機能について説明できる。 3. 在宅療養生活を支えるためのサービスについて説明ができる。 4. 在宅療養を支える日常生活支援としての看護技術が修得できる。 5. 在宅で展開される医療ケアを支える看護技術について説明ができる。 6. 訪問看護師による健康危機管理や災害時対応について説明ができる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
履修にあたり、社会的背景・看護・医学・法制度に関する基礎的な知識・用語の理解が予備知識として求められる。学習課題は「課題ノート」として、提出を求める。無断遅刻・無断欠席等の大学のルールを逸脱する行為があった場合は、改善レポートの提出を求める。本授業は2/3以上の出席が認められない場合は定期試験の受験を認めない。ただし、授業への出席は可能である。			
教材			
テキスト 臺有佳編『地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術』メディカ出版、最新版、2800円（税別） 参考図書 臺有佳編『地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』メディカ出版、2023、3400円（税別）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	ガイダンス、訪問看護サービスの理解（鈴木）	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：資料を復習するとともに、講義内で課す課題をノートにまとめる。	
第2回	訪問看護の技術（家庭訪問）（鈴木）	予習：同上 復習：同上	
第3回	訪問看護の技術（コミュニケーション）（鈴木）	予習：同上 復習：同上	
第4回	在宅療養を支える基本的な技術①（活動と生活リハビリテーション）（栗津）	予習：同上 復習：同上	
第5回	同② 住宅環境の整備に活用する社会資源（石井）	予習：同上 復習：同上	
第6回	同③ 住宅改修（石井）	予習：同上 復習：同上	
第7回	日常生活を支える看護技術（清潔と感染予防）（栗津）	予習：同上 復習：同上	
第8回	療養を支える看護技術①（医療ケアの原理原則、薬物療法）（鈴木）	予習：同上 復習：同上	
第9回	同②（排痰ケア、気管カニューレ）（栗津）	予習：同上 復習：同上	

第10回	同③（在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法）（栗津）	予習：同上 復習：同上	
第11回	同④（ストーマ、排尿ケア）（鈴木）	予習：同上 復習：同上	
第12回	同⑤（在宅経管栄養法、輸液管理）（鈴木）	予習：同上 復習：同上	
第13回	同⑥（足病変のケア、インシュリン自己注射）（鈴木）	予習：同上 復習：同上	
第14回	在宅療養を支える健康危機・災害時の対応（鈴木）	予習：同上 復習：同上	
第15回	在宅療養におけるターミナルケア（鈴木）	予習：同上 復習：同上	
評価方法			
期末試験60%、小テスト20%、課題ノート20%により評価する。			
オフィスアワー			
鈴木岸子：月曜日12：10～13：00 連絡先：e-mail kishiko-suzuki@gifuhoken.ac.jp 栗津昌枝：火曜日12：10～13：00 連絡先：e-mail m-awazu@gifuhoken.ac.jp 石井英子：事前にアポイントメントを取ってください。 連絡先：e-mail h-ishii@gifuhoken.ac.jp			

講義科目				力たシデ めーイ にをプ に達ロ 要成マ なすポ 能るリ	人間力	
科目区分	専門教育科目 -地域・在宅看護学				ケア・スピリット	
授業コード	111057				実践的理解	○
授業科目名	地域包括ケア・多職種連携論				プロフェッショナリズム	○
配当学年/ 学期	3年 前期 必修	単位数	1		多職種連携	○
担当教員	鈴木岸子【実務家該当教員】					

講義概要			
本授業では、地域包括ケアシステム構築の歴史的背景や制度政策を学ぶことを通して、医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けるとの意義を考える。具体的には、地域で暮らす人々の生活を支える様々な制度を用いて、展開される多職種間、多機関との連携から、看護の役割と機能の理解を深める。その理解から、地域で療養する人々と家族の生活の質を高める支援のあり方を考察する。さらに、海外の地域包括ケアの現状等を学びながら、今後の地域包括ケアのあり方やその中で働く看護師の役割や求められる看護観等について考えを深める。			
授業内容（到達目標を含む）			
本授業は、講義以外にグループワークや自己学習の発表等を行い、8コマで修得する。到達目標は以下の5つである。 1. 地域包括ケアシステムの歴史的背景を通して目的、役割について説明できる。 2. 地域包括ケアの中で人々の暮らしを支える制度 3. 地域包括ケアの中 政策、社会資源について説明できる。 で展開される多職種・多機関連携から看護の役割や独自性について考えを深めることができる。 4. 医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けるとの意義について考えることができる。 5. 海外の地域包括ケアの現状を説明することができる。 6. 自己学習、グループ学習を通して今後必要となる地域包括ケアについて意見を述べるすることができる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
履修にあたり、1,2学年での既習科目全般の基礎的な知識・用語の理解が予備知識として求められる。毎回提示する学習課題は事前・事後の学習が必要である。なお、学習課題は「課題ノート」として、提出を求める。無断遅刻・無断欠席等の大学のルールを逸脱する行為があった場合は、改善レポートの提出を求める。本授業は8コマの授業である。2/3以上の出席が認められない場合は定期試験の受験を認めない。ただし、授業への出席は可能である。			
教材			
テキスト 臺有佳編『地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』メディカ出版、最新版、3400円（税別）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	ガイダンス、地域包括ケアシステムの目的と歴史的背景	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：資料を復習するとともに、講義内で課す課題をノートにまとめる。	
第2回	地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携	予習：同上＋講義内で課す課題をノートにまとめる。 復習：同上	
第3回	地域包括ケアにおける健康づくりと疾病予防 自助、互助、共助、公助	予習：住んでいる地域で行われている健康づくり、疾病予防のための取り組みについて調べ、発表できるようノートにまとめる。 復習：同上	
第4回	地域包括ケアを支える地域包括支援センターの役割や機能と、生活保護制度	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：同上	

第5回	地域包括ケアと療養生活を支える制度① (在宅療養者の権利を擁護する制度と高齢者施策)	予習：同上、地域での認知症に関する取り組みを調べ、発表できるようにノートにまとめる。 復習：同上	
第6回	同② (障害者に関連する法律と子どもの療養を支える制度)	予習：テキストの該当部分を熟読してくる。 復習：同上	
第7回	海外に見る地域包括ケアの現状	予習：海外の保健医療福祉の現状について調べ、発表できるようにまとめる。 復習：同上	
第8回	まとめ&グループワーク：7回までの学習をふまえて、日本の地域包括ケアのこれからの発展を考える。	予習：グループワークに備え、自分の意見が言えるようにまとめておく。復習：同上	
評価方法			
期末試験70%、課題ノート30%により評価する。			
オフィスアワー			
鈴木岸子：月曜日12：10～13：00 連絡先：e-mail kishiko-suzuki@gifuhoken.ac.jp			

講義科目					能力 達成 する ため に 必 要 な		
科目区分	専門教育科目 -地域・在宅看護学					人間力	
授業コード	111058					ケア・スピリット	
授業科目名	岐阜県の地域医療					実践的理解	
配当学年/ 学期	4年 後期 必修	単位数	1			プロフェッショナリズム	○
担当教員	石井英子, 青木成広, 渡邊芳久, 豊田雅孝, 額額正浩, 玉木ひとみ 【全員実務家該当教員】					多職種連携	○

講義概要			
(概要) 岐阜県は、岐阜、西濃、中濃、東濃、飛騨の5地域に区分され、都市部から山間部に至る多様な地域が、広大な県域に含まれている。岐阜県の地域医療について、その特色と現状を、医療、保健、住民の健康、高齢者福祉、介護等の観点から、将来の保健医療構想も含めて包括的に学修する。岐阜県における地域包括ケアシステム、岐阜県保健医療計画等の行政施策についても学び、その保健医療の地域特性について深く理解する。本講義を通じ、岐阜県の地域の実践的に理解し、医療専門職に求められるその活用方法を考察し、卒業後に地域に貢献する看護職として必要な知識を身につける。			
授業内容（到達目標を含む）			
1. 岐阜県の地域医療について、地域の医療と保健、住民の健康の観点から実際に学ぶ。 2. 岐阜県の地域医療について、高齢者福祉や介護の観点から実際に学ぶ。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
卒業後に地域に貢献する看護職として必要な知識を身につけるための情報の収集に努める。			
教材			
適宜配布する			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	地域医療構想の概 要（石井）	地 域 医 療 構 想 の位置づけを岐阜県のネットからの収集	○
第2回	安全安心な生活を送るために（渡邊）	社会の安全安心を支える技術を紹介し、自身の生活を考える。	○
第3回	岐阜県の最新の看護職能の役割（青木・石井）	岐阜県内の保健医療に関する情報収集を分析する	○
第4回	岐阜県の地域歯科医療の現状（豊田）	岐阜県の歯科医療の状況をネットから収集しておこ	○
第5回	岐阜県の福祉サービスの現状課題（額額）	岐阜県の福祉サービスを調べる	○
第6回	岐阜県の児童福祉の現状課題（玉木）	児童福祉施設について調べる	○
第7回	岐阜県の赤十字血液駅センターの役割（高橋所長）	血液の世界的状況と岐阜県における位置づけを調べる	○
第8回	将来あるべき医療提供体制を実現するための施策の内容（5つの柱）（石井）	課題レポートの提出	○
評価方法			
課題レポート			
オフィスアワー			
h-ishii@gifuuoken.ac.jpへ連絡			

講義概要（実習目的）
本実習の目的は、地域・在宅で療養する様々な人々の、健康を支える保健医療福祉制度をはじめとした社会資源について広く学修することにより、人々の暮らし現状を理解し、多職種と連携して地域の健康づくりに貢献する看護の役割と独自性について思考することにある。
授業内容（実習目標）
本実習は、臨地実習と学内実習の両方を用いた1週間の集中実習である。臨地で健康支援に当たる様々な専門職の講義や事業に参加すること、その地域に暮らす人々へのインタビューを行うこと、グループワーク等を通して地域の健康を支える社会資源と看護の役割を学ぶ。実習目標は以下の6つである。 1. 地域包括支援センターの事業である認知症サポーター養成講座への参画を通して、地域に暮らす人々の健康を守る制度やシステムが理解できる。 2. 地域・在宅で提供される各種サービスの現状を学び、多職種連携の意義と看護の役割が思考できる。 3. 地域で生活する人々の健康支援を通して、地域・在宅で提供される看護のあり方が検討できる。 4. 実際に地域に赴き住民から直接話を聞くことを通して、生活状況や課題を把握する。 5. 西洋薬や和漢薬の歴史や創薬知識を修得し、在宅療養における薬物療法の役割と意義が説明できる。 6. グループ実習から、チームの役割や連携の意義を理解し、地域・在宅看護学実習Ⅱに生かすことができる。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）
実習前学修として、①1,2学年での既習科目全般の復習、②地域・在宅看護学概論および地域・在宅看護援助論1、Ⅱの復習、③事前課題の自己学習および実習要項の熟読をすること。本実習においては、無断遅刻、無断欠席が認められた場合は、これ以降の実習は継続することができない（科目履修不可）。また、やむを得ない事由がない限り、臨地・学内を問わず、遅刻は欠席扱いとなる。なお、地域・在宅看護学概論および地域・在宅看護援助論1、Ⅱの単位を取得していなければ、本科目を履修することができない。
教材
臺有佳編『地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術』メディカ出版、最新版、2800円（税別） 臺有佳編『地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』メディカ出版、2023、3400円（税別） その他、既習科目のテキスト全般
授業計画及び学習課題（予習・復習）
1. 事前学習 1) 居住する地域の社会資源について調べ、資料化する。 2) 地域・在宅看護に関連する各種制度について復習しておく。 2. 実習場所 1) 学外：内藤記念くすり博物館（各務原市）および周辺地域の地区踏査 2) 学内：高齢者認知症予防センター等 3. 実習内容 1) 地域包括支援センターの業務内容および支援の現状について（笠松町地域包括支援センター） 2) 高齢者施設（介護老人保健施設、特別養護老人ホーム）における看護師の役割と多職種連携（介護老人保健施設 寺田ガーデンおよび喜の里、特別養護老人ホーム サンライズ彦坂） 3) 岐阜市における認知症の現状と認知症サポーター養成講座（地域包括支援センター境川） 4) 創薬の歴史と西洋薬・和漢薬等の薬物療法の在宅療養における役割と意義の理解（内藤記念くすり博物館） 5) 地域包括ケアシステムにおける訪問看護サービスの役割と多職種連携（小児、医療的ケア、児童発達関連の訪問看護ステーション） 6) 地域包括ケアシステムの中での障害者支援制度の理解（障害者総合福祉施設 あいそら羽島） 7) グループ間での学内発表 その他、詳細は『2023年度地域・在宅看護学実習要項』を参照のこと

評価方法		
実習記録および成果発表により評価する（100％）。		
オフィスアワー		
鈴木岸子：月曜日12：10～13：00	連絡先：e-mail	kishiko-suzuki@gifuhozen.ac.jp
栗津昌枝：火曜日12：10～13：00	連絡先：e-mail	m-awazu@gifuhozen.ac.jp

実習科目				めシ にーイ 必をブ 要達ロ な成マ 能すポ 力るリ た	人間力	
科目区分	専門教育科目 -地域・在宅看護学				ケア・スピリット	
授業コード	111060				実践的理解	○
授業科目名	地域・在宅看護学実習Ⅱ				プロフェッショナリズム	○
配当学年/ 学期	3年 後期 必修	単位数	1		多職種連携	○
担当教員	鈴木岸子【実務家該当教員】，栗津昌枝【実務家該当教員】					

講義概要（実習目的）

本実習では、在宅において安全安心な療養生活の継続を支援するために必要な看護の知識と技術、臨床判断能力について実践的に学ぶ。さらに、多職種が地域で療養する様々な人々とその家族の望む生活を支援する方法や視点について学び、理解を深める。同時に、地域包括ケアシステムの中での看護の役割と機能について思考しながら、学生自身の看護観を深める。

授業内容（実習目標）

本実習は、訪問看護ステーションにて、1週間の臨地実習を行う。実習目標は以下の6つである。

1. 地域で療養する様々な人々とその家族の生活から、自分らしく生きることの意義を説明できる。
2. 訪問看護ステーションの機能と役割から、地域に提供される看護の意義と役割が説明できる。
3. あらゆる療養者と家族の健康を支える訪問看護師の臨床判断能力の視点を学ぶことができる。
4. 在宅療養支援における社会資源の活用の実際からその必要性を説明できる。
5. 療養者とその家族が地域で暮らすための課題について述べることができる。
6. 本臨地実習を通して、自らの看護観を育成することができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

実習前学修として、①1,2学年での既習科目全般の復習、②地域・在宅看護学概論および地域・在宅看護援助論Ⅰ、Ⅱの復習、③事前課題の自己学習および実習要項の熟読をすること。特に、地域で療養する様々な人々と家族に看護支援を提供する訪問看護サービスは、幅広い知識と技術、それに裏付けられた臨床判断能力が求められる。そのため、既習科目の内容を整理し、理解して実習に臨むことが必要である。本実習においては、無断遅刻、無断欠席が認められた場合は、これ以降の実習は継続することができない（科目履修不可）。また、やむを得ない事由がない限り、臨地・学内を問わず、遅刻は欠席扱いとなる。なお、地域・在宅看護学概論および地域・在宅看護援助論Ⅰ・Ⅱ、地域・在宅看護学実習Ⅰの単位を取得していなければ、本科目を履修することができない。

教材

臺有佳編『地域・在宅看護論②在宅療養を支える技術』メディカ出版、最新版、2800円（税別）
 臺有佳編『地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア』メディカ出版、2023、3400円（税別）
 その他、既習科目のテキスト全般

授業計画及び学習課題（予習・復習）

1 実習場所
 訪問看護ステーション
 2. 対象学生
 岐阜保健大学3年次生（後期）および4学年次生（前期）80名
 3. 実習期間および実習時間
 実習時間：原則8:30～16:30（実習時間は実習施設により若干異なる）
 学内は原則9:00～16:00
 4. 実習メンバー
 各訪問看護ステーションにつき2名
 5. 実習スケジュール
 月曜日：オリエンテーション（学内および訪問看護ステーション）
 火曜日から木曜日：訪問看護ステーション（同行訪問、最終カンファレンス）
 金曜日：学内発表と記録物の提出
 その他、詳細は『2023年度地域・在宅看護学実習要項』を参照のこと

評価方法

実習記録および成果発表により評価する（100％）。

オフィスアワー

鈴木岸子：月曜日12:10～13:00 連絡先：e-mail kishiko-suzuki@gifuhoken.ac.jp
 栗津昌枝：火曜日12:10～13:10 連絡先：e-mail m-awazu@gifuhoken.ac.jp

講義科目						要 を デ イ 能 成 ブ 力 す ロ マ た ポ め リ に シ 必		
科目区分	専門教育科目－精神看護学						人間力	○
授業コード	111061						ケア・スピリット	○
授業科目名	精神看護学概論						実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 前期 必修	単位数			1		プロフェッショナリズム	
担当教員	多喜田恵子【実務家該当教員】					多職種連携		

講義概要			
精神看護・精神保健の役割について、人が自己実現へと向かう過程を支えるために、心のしくみと発達、人間関係のダイナミクスなどの心の働きなどを前提に、人の精神的・身体的・社会的な援助の考え方を教授する。また、精神科で出会う人々の状態像や治療過程を学び、対象者の状況に対応した援助の根拠を学ぶ。最終講では、精神医療・保健福祉における今日的な課題を考察する。			
授業内容（到達目標を含む）			
精神の健康や健康障害について、心の働きや人間関係、文化、社会、歴史とのつながりから理解するとともに講義で紹介する文献や資料を通して各自の考え方を深める。学習の到達目標として以下を目指す。 1. 精神看護の基本概念や精神保健の意味を説明できる。 2. 人間の心のはたらきや関係におけるパーソナリティの発達を説明できる。 3. 精神看護の場では出会う人々や精神科での治療看護の特徴を説明できる。 4. 精神看護における身体ケアの意味や精神療法的アプローチを説明できる。 5. 社会における精神保健医療福祉の現状や精神医療における今日的課題を指摘できる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
精神看護に幅広い視野をもつため、本科目では、予習や復習を前提としているため、教科書だけでなく授業で紹介する図書などを読み、自己学修をしてから授業に臨むこと。学修課題（予習・復習）レポートは毎回提出すること。毎回授業でミニツツノートを渡す。授業に対する意見や質問などあればそこに記入すること。ミニツツノート・小テストの内容は授業時間内に解説する。また、各自の理解度を確認するための小テストを行う。なお、本科目の単位を取得しなければ、精神看護学実習を履修することができない。			
教材			
テキスト「系統看護学講座専門科目Ⅱ精神看護学①精神看護の基礎」（第6版）、武井麻子編、医学書院、2,530円（税込） 参考図書「系統看護学講座別館 精神保健」（第3版）、末安民生編、医学書院、2,620円（税込）			
授業計画及び学修課題（予習・復習）			
回	内容	学修課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	精神看護学で学ぶこと：精神看護学とはなにか、精神障害をもつ人の病いの体験、精神看護の課題	予習：事前課題レポート①を行う 復習：学修振り返りレポート①を行う。 予習時間：60分、復習時間120分	可
第2回	精神保健の考え方：精神の健康とは、心身の健康に及ぼすストレス、精神障害のとらえ方	予習：事前課題レポート②を行う 復習：学修振り返りレポート②を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第3回	心的外傷（トラウマ）と回復：心的外傷体験とサバイバーの心理、トラウマ反応、レジリエンス	予習：事前課題レポート③を行う 復習：学修振り返りレポート③を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第4回	心のはたらき：意識、認知機能、感情、学習と行動、知能、心の理論	予習：事前課題レポート④を行う 復習：学修振り返りレポート④を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第5回	心のしくみと人格の発達：人格と気質、意識と無意識、精神分析と精神力動理論、対象関係論、	予習：事前課題レポート⑤を行う 復習：学修振り返りレポート⑤を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第6回	ライフサイクルとアイデンティティ：エリクソンの漸成的発達、愛着と心の安全基地、自己愛、甘え	予習：事前課題レポート⑥を行う 復習：学修振り返りレポート⑥を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可

第7回	生活の場と精神的危機：家庭・学校・職場・地域における精神的危機の特徴と危機介入	予習：事前課題レポート⑦を行う。 復習：学修振り返りレポート⑦を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第8回	家族の精神の健康：多様化した家族と精神の健康、家族内コミュニケーション、システムとしての家族	予習：事前課題レポート⑧を行う。 復習：学修振り返りレポート⑧を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第9回	人間と集団：集団と個人、グループプロセス、全体としてのグループ、組織のダイナミクス	予習：事前課題レポート⑨を行う。 復習：学修振り返りレポート⑨を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第10回	精神科で出会う人々：精神を病むことと生きること、精神症状論と状態像、特異症状と非特異症状	予習：事前課題レポート⑩を行う。 復習：学修振り返りレポート⑩を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第11回	当事者に学ぶ病いの体験①：精神障害との出会い、生きにくさの意味	予習：事前課題レポート⑪行う。 復習：学修振り返りレポート⑪を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第12回	当事者に学ぶ病いの体験②：精神障害とともに生きる意味	予習：事前課題レポート⑫を行う。 復習：学修振り返りレポート⑫を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第13回	精神障害と治療の歴史：西洋における精神障害と治療の歴史、日本における精神医療の流れ	予習：事前課題レポート⑬を行う。 復習：学修振り返りレポート⑬を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第14回	精神障害と文化：精神障害の多様性と普遍性、精神障害と社会	予習：事前課題レポート⑭を行う。 復習：学修振り返りレポート⑭を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第15回	精神障害と法制度：精神看護の基本となる法律、精神科領域で必要な法制度、精神保健医療福祉対策	予習：事前課題レポート⑮を行う。 復習：学修振り返りレポート⑮を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
評価方法			
期末試験（50％）、小テスト（30％）、課題レポート（20％）により評価する。			
オフィスアワー			
多喜田：月曜・火曜・水曜・金曜の12:30から17:00まで 事前にアポイントメントを取ってください。 連絡先 e-mail k-takita@gifuhoken.ac.jp			

講義科目						要 を 達 成 す る た め に シ 必 し	人間力	
科目区分	専門教育科目 -精神看護学						ケア・スキル	○
授業コード	111062						実践的理解	○
授業科目名	精神看護援助論Ⅰ						プロフェッショナリズム	○
配当学年/ 学期	2年 後期 必修	単位数		1			多職種連携	○
担当教員	多喜田恵子【実務家該当教員】，小野 悟【実務家該当教員】							

講義概要			
精神看護の基本的な援助の方法論を教授する。精神の状態像を理解する方法や対人関係論を基盤とした精神看護を通して、患者－看護師関係を形成する対人援助技術を演習する。さらに、グループダイナミクスを活用した援助技術の演習を通して、精神障害をもつ人や家族へのアプローチを理解する。これらの内容を通して、精神看護に必要な基本的なスキルやアプローチを学び、精神看護援助論Ⅱの具体的な精神看護の展開につなげる。			
授業内容（到達目標を含む）			
精神看護実践の基盤となる患者－看護師関係や看護の役割の理論・知識をもとに、精神障害をもつ人や家族に対する援助の理解を深める。本科目の到達目標は以下を目指す。 1. 精神看護における援助の方法や場の特徴について説明できる。 2. 精神障害をもつ人のアセスメントの視点が説明できる。 3. 精神障害をもつ人の回復過程を踏まえた看護のアプローチを説明できる。 4. 精神障害をもつ人の地域生活支援の方法を説明できる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
精神看護実践を具体的に理解するため、教科書だけでなく授業で紹介する図書やVTRなどで自己学習を行う。本科目では予習や復習を前提としているため、自己学修をしてから授業に臨むこと。学修課題（予習・復習）については、毎回提出すること。毎回授業でミニッツノートを渡す。授業に対する意見や質問などあればそこに記入すること。ミニッツノートやレポート内容は授業時間内に解説する。なお、本科目の単位を取得しなければ、精神看護学実習を履修することができない。			
教材			
テキスト「系統看護学講座専門科目Ⅱ精神看護学②精神看護の展開」（第6版）、武井麻子編、医学書院2,530円(税込) 「系統看護学講座専門科目Ⅱ精神看護学①精神看護の基礎」（第6版）、武井麻子編、医学書院2,530円(税込) 参考図書「精神神経疾患ビジュアルブック」落合慈之監修、学研メディカル秀潤社、2015年、3,600円（税別）			
授業計画及び学修課題（予習・復習）			
回	内容	学修課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	精神看護とは：ケアの前提、ケアの原則、ケアの方法（多喜田）	予習：事前課題レポート①を行う 復習：学修振り返りレポート①を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第2回	患者－看護者の治療的関係とコミュニケーション：患者－看護者関係の発展段階、治療的コミュニケーション、プロセスレコードの活用（多喜田）	予習：事前課題レポート②を行う 復習：学修振り返りレポート②を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第3回	精神疾患と治療の理解①：代表的な精神疾患(障害)のとらえ方、精神科における検査と診断（小野）	予習：事前課題レポート③を行う 復習：学修振り返りレポート③を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第4回	関係のアセスメント：さまざまな精神症状と生活への影響、患者－看護者関係の感情体験、チームのダイナミクス（多喜田）	予習：事前課題レポート④を行う 復習：学修振り返りレポート④を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第5回	精神疾患と治療の理解②：精神科における治療（身体療法、精神療法）、多職種協働、回復の意味、精神科リハビリテーション（小野）	予習：事前課題レポート⑤を行う 復習：学修振り返りレポート⑤を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第6回	回復を支援する：入院治療の目的、入院形態、精神科病院の特徴、精神科アセスメント、ケアの方向性、退院支援（小野）	予習：事前課題レポート⑥を行う 復習：学修振り返りレポート⑥を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可

第7回	地域におけるケアと支援：地域における生活支援の方法、地域生活を支えるシステム（多喜田）	予習：事前課題レポート⑦を行う。 復習：学修振り返りレポート⑦を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第8回	安全をまもる一行動制限とケア、緊急事態への対処、精神科における身体ケア（小野）	予習：事前課題レポート⑧を行う。 復習：学修振り返りレポート⑧を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
評価方法			
課題レポート（30%）、期末試験（70%）により評価する。			
オフィスアワー			
多喜田：月曜・火曜・水曜・金曜の12:30から17:00まで 事前にアポイントメントを取ってください。連絡先 e-mail k-takita@gifuhoken.ac.jp 小野：火曜・水曜・木曜・金曜の12:30から17:00まで 事前にアポイントメントを取ってください。連絡先 e-mail s-ono@gifuhoken.ac.jp			

講義科目				要 な 達 イ 能 成 ブ 力 す る マ た ポ め リ に シ 必	人間力	
科目区分	専門教育科目－精神看護学				ケア・スピリット	
授業コード	111063				実践的理解	○
授業科目名	精神看護援助論Ⅱ				プロフェッショナル	
配当学年/ 学期	3年 前期 必修	単位数	1		多職種連携	○
担当教員	多喜田恵子【実務家該当教員】，小野 悟【実務家該当教員】					

講義概要			
「精神看護学概論」、「精神看護援助論Ⅰ」での学びを前提に、代表的な精神疾患や精神障害を持つ人の治療や看護を教授する。精神看護を実践するうえで基盤となる理論（ストレングスモデル）や精神状態の判断プロセスを用いて、事例の特徴に対応した看護展開の演習を行う。さらに、ロールプレイを通して治療的コミュニケーション技術を学ぶ。これらを通して、精神看護実践の基礎的な能力を養う。			
授業内容（到達目標を含む）			
精神看護実践の基盤となるアセスメントや患者－看護師の治療的関係をもとに、演習を通して精神障害をもつ人や家族への精神看護の展開方法の理解を深める。また、グループワークで当事者の立場になった地域生活支援のあり方を理解する。本科目の到達目標は以下を目指す。 1. 精神障害をもつ人の看護を展開するためのアセスメント・治療的関係を説明できる。 2. 精神障害をもつ人の回復過程を踏まえた看護のアプローチを説明できる。 3. 精神障害をもつ人の地域生活を支える制度や社会資源や方法を説明できる。 4. 精神科以外の精神看護と看護職者を支援する方法を説明できる			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
精神看護実践を具体的に理解するため、教科書だけでなく授業で紹介する図書やVTRなどで自己学習を行う。本科目では、予習や復習を前提としているため、自己学修をしてから授業に臨むこと。学修課題（予習・復習）については毎回提出すること。毎回授業でミニッツノートを渡す。授業に対する意見や質問などあればそこに記入すること。演習はレポートおよび演習評価表で学修の振り返りを行う。ミニッツノートやレポート内容は授業時間内に解説する。なお、本科目の単位を取得しなければ、精神看護学実習を履修することができない。			
教材			
テキスト「系統看護学講座専門科目Ⅱ精神看護学②精神看護の展開」（第6版）、武井麻子編、医学書院2,530円(税込) 「系統看護学講座専門科目Ⅱ精神看護学①精神看護の基礎」（第6版）、武井麻子編、医学書院2,530円(税込) 参考図書「精神神経疾患ビジュアルブック」落合慈之監修、学研メディカル秀潤社、2015年、3,600円(税別)			
授業計画及び学修課題（予習・復習）			
回	内容	学修課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	精神看護実践の基盤（1）：ストレングスモデルの特徴、家族療法の考え方、家族支援の方法、家族心理教育（多喜田）	予習：事前課題レポート①を行う 復習：学修振り返りレポート①を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第2回	精神看護実践の基盤（2）セルフケアモデルの特徴、回復段階に応じた支援-行動療法、環境療法、社会療法（小野）	予習：事前課題レポート②を行う 復習：学修振り返りレポート②を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	可
第3回	精神看護の看護展開の特徴：精神科・生活アセスメントの特徴と実際（小野）	予習：事前課題レポート③を行う 復習：グループワーク課題レポート①を行う。 予習時間：90分、復習時間90分	
第4回	精神障害をもつ人への看護展開の実際①：事例を通して看護展開を学ぶ【グループワーク】事例提示、患者の背景・環境（多喜田・小野）	予習：事前課題レポート④を行う 復習：グループワーク課題レポート②を行う。 予習時間：90分、復習時間90分	
第5回	精神障害をもつ人への看護展開の実際②：事例を通して看護展開を学ぶ【グループワーク】精神症状・診断・治療・入院の目的と意味（多喜田・小野）	予習：事前課題レポート⑤を行う。 復習：グループワーク課題レポート③を行う。 予習時間：90分、復習時間90分	

第6回	精神障害をもつ人への看護展開の実際③：事例を通して看護展開を学ぶ【グループワーク】アセスメント（多喜田・小野）	予習：事前課題レポート⑥を行う。 復習：グループワーク課題レポート④を行う。 予習時間：90分、復習時間90分	
第7回	精神障害をもつ人への看護展開の実際④：事例を通して看護展開を学ぶ【グループワーク】精神障害の回復過程とストレングス（多喜田・小野）	予習：事前課題レポート⑦を行う。 復習：グループワーク課題レポート⑤を行う。 予習時間：90分、復習時間90分	
第8回	精神障害をもつ人への看護展開の実際⑤：事例を通して看護展開を学ぶ【グループワーク】統合アセスメント（多喜田・小野）	予習：事前課題レポート⑧を行う。 復習：グループワーク課題レポート⑥を行う。 予習時間：90分、復習時間90分	
第9回	精神障害をもつ人への看護展開の実際⑥：事例を通して看護展開を学ぶ【グループワーク発表①】全体像・援助の方向性（多喜田・小野）	予習：事前課題レポート⑨行う。 復習：グループワーク課題レポート⑦を行う。 予習時間：90分、復習時間90分	
第10回	精神障害をもつ人への看護展開の実際⑦：事例を通して看護展開を学ぶ【グループワーク発表②】全体像・援助の方向性（多喜田・小野）	予習：事前課題レポート⑩行う。 復習：グループワーク課題レポート⑧を行う。 予習時間：90分、復習時間90分	
第11回	治療的コミュニケーション技法の特徴：プロセスレコードの目的と活用方法（小野）	予習：事前課題レポート⑪を行う 復習：学修振り返りレポート⑪を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	
第12回	精神障害をもつ人への看護展開の実際⑨：事例を通して看護展開を学ぶ【演習】再構成法の活用、シナリオ・ロールプレイによる体験学習（多喜田・小野）	予習：事前課題レポート⑫を行う。 復習：演習課題レポートを行う。 予習時間：90分、復習時間90分	
第13回	回復を支える技術①【演習】：SST（小野・多喜田）	予習：事前課題レポート⑬を行う。 復習：演習課題（SST）レポートを行う。 予習時間：60分、復習時間60分	
第14回	回復を支える技術②【演習】：コラージュ（多喜田・小野）	予習：事前課題レポート⑭を行う。 復習：演習課題（コラージュ）レポートを行う。 予習時間：60分、復習時間60分	
第15回	精神科病院での看護の実際：実習病院の紹介（高木）	予習：事前課題レポート⑮を行う。 復習：学修振り返りレポート⑮を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	
評価方法			
課題レポート（45%）、期末試験（55%）により評価する。			
オフィスアワー			
多喜田：月曜・火曜・水曜・金曜の12:30から17:00まで 事前にアポイントメントを取ってください。連絡先 e-mail k-takita@gifuhoken.ac.jp 小野：火曜・水曜・金曜の12:30から17:00まで 事前にアポイントメントを取ってください。連絡先 e-mail s-ono@gifuhoken.ac.jp			

実習科目				要 な 能 力 を デ イ ブ ロ マ た め に シ 必 ず		
科目区分	専門教育科目－精神看護学Ⅰ				人間力	○
授業コード	111064				ケア・スピリット	○
授業科目名	精神看護学実習				実践的理解	○
配当学年/ 学期	3年 後期 必修	単位数	1		プロフェッショナルリズム	○
担当教員	多喜田恵子【実務家該当教員】，小野 悟【実務家該当教員】				多職種連携	○

講義概要（実習目的）					
本臨地実習では、精神看護学実習の対象者の体験に添って、精神健康上の問題の陰にある生きにくさについて、その人の生活上の文脈において理解し、その人がその人らしく生きるための援助として、自らをケアの道具として発揮し関係性を発展させていく能力を修得する。また、対象者の発達段階、状態像、回復過程を統合的に判断し、リカバリーに焦点を当てた看護実践方法を修得する。さらに、地域で生活するために必要な支援や多職種連携の実際を通して、精神科看護師の役割を修得する。					
授業内容（実習目標）					
精神障害をもつ人が体験している生きにくさについて、その人の生活上の文脈において理解し、その人がその人らしく生きるための援助として、自らをケアの道具として最大限に活かし、対象と関わることを学ぶ。 1. 精神障害をもつ人が日常生活を送る上でどのような課題を抱えているのか、また、それはその人にとってどのような生きにくさの体験なのかを理解することができる。 2. 精神障害をもつ人が体験している生きにくさを、その人の生育史や生活背景から捉え、その人がもつレジリエンスに着目した援助の方向性を明らかにすることができる。 3. 精神障害をもつ人と関わる中で生じた自らの気持ちを言語化し、患者－看護師の治療的関係の視点からやりとりを解釈し、関わりの方向性を考察することができる。 4. 治療的環境が、精神障害をもつ人にどのような相互作用を生み出しているのかを捉え、そうした場を作り出す一員として、自らの役割を意識して行動することができる。 5. 精神障害をもつ人々を取り巻く状況において、その人がその人らしく生きるための地域生活支援について、その人の立場に考え、今後の支援を考察することができる。					
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）					
実習前学修として、テキスト及び精神看護学概論、精神看護援助論Ⅰ、精神看護援助論Ⅱで学修した内容をもとに、実習目標及び学習内容について各自学習すること。精神障害をもつ人が利用する地域生活支援施設の機能と役割について事前に調べ、まとめておくこと。なお、精神看護学概論、精神看護援助論Ⅰ、精神看護援助論Ⅱの単位を取得していなければ、本科目を履修することができない。					
教材					
テキスト「系統看護学講座専門科目Ⅱ精神看護学②精神看護の展開」（第6版）、武井麻子編、医学書院2,530円（税込） 「系統看護学講座専門科目Ⅱ精神看護学①精神看護の基礎」（第6版）、武井麻子編、医学書院2,530円（税込） 参考図書「精神神経疾患ビジュアルブック」落合慈之監修、学研メディカル秀潤社、2015年、3,600円（税別）					
授業計画及び学習課題（予習・復習）					
1. 実習場所 公益社団法人 岐阜病院 （岐阜市日野東3丁目13番6号）および関連施設 2. 対象学生 岐阜保健大学看護学部3学年次生 3. 実習期間及び実習時間 実習期間：令和5（2023）年9月11日（月）～ 令和6（2024）年3月1日（金） 実習時間：原則として9時00分～16時00分（15時30分～カンファレンス） 4. 実習メンバー 1病棟につき4名の学生配置 5. 実習スケジュール 実習中2日間は、地域生活支援実習として精神科デイケアで実習を行い、地域生活支援の学修後に病棟実習を行う。 病棟実習最終日に実習病院でカンファレンス（ケース発表）を行う。 その他、詳細は「令和5年度実習要項」を参照のこと。					
評価方法					
実習記録（50％）、実習レポート（30％）、ケース発表（20％）評価する。					
多喜田：月曜・火曜・水曜・金曜の12:30から17:00まで。ただし、実習・会議等で不在になることがあるため、事前にアポイントメントを取ってください。連絡先 e-mail k-takita@gifuhoken.ac.jp 小野：火曜・水曜・木曜・金曜の12:30から17:00まで 事前にアポイントメントを取ってください。連絡先 e-mail s-ono@gifuhoken.ac.jp					

講義科目				る デ イ め プ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -成人・老年看護学				人間力	
授業コード	111065				ケア・スピリット	○
授業科目名	成人・老年看護学概論				実践的理解	○
配当学年/ 学期	1年 後期 必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	
担当教員	永坂和子【実務家該当教員】，梶原志保子【実務家該当教員】				多職種連携	

講義概要

成人老年各期の発達段階、身体的特徴、心理・社会的特徴、家族・社会的役割を学修する。また、成人老年各期の患者とその家族の看護援助に必要な概念や理論について学修し、この時期にある患者の特徴を踏まえた看護について理解し、その意義や方法について考察する。

授業内容（到達目標を含む）

1. 成人老年各期の定義と身体・心理・社会的特徴を理解できる。
2. 成人老年各期の成長発達、家族・社会における役割、健康問題の特徴を理解できる。
3. 成人老年患者の理解と看護に有効な概念や理論を理解できる。
4. 成人老年各期の身体機能および生活・健康観の視点に関するアセスメント方法を理解できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

成人・老年看護学概論を受講済みが履修条件である。事前学習を通して学び、講義に参加しないと講義受講の効果が減弱するため、必ず予習を行った上で受講すること。

教材

テキスト：①ナーシング・グラフィカ, 成人看護学①成人看護学概論, メディカ出版, 2021.
 ②ナーシング・グラフィカ, 高齢者の健康と障害, メディカ出版, 2023.
 ※成人・老年看護援助論Ⅰと共通
 参考図書：成人看護学, 成人看護学概論, 第2版, NOUVELLE HIROKAWA,
 ナーシング・グラフィカ, 成人看護学③セルフマネジメント, メディカ出版, 2019.

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	成人であるということ：成人の定義、成人であることの自覚、成人の特徴 成長発達の特徴：成人の成長発達、成人の役割、各期の健康問題、成人と死（永坂）	予習：テキスト①P11～P50を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第2回	成人の身体機能の特徴と看護：安定性と変化、身体機能の理解に基づく看護、変化を分析する視点、変化に着目した看護、個人の身体機能を理解する方法（梶原）	予習：テキスト①P52～P79読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第3回	成人の生活を理解する視点と方法：生活とは、成人の生活の理解 健康観の多様性と看護：健康観、健康観に影響を及ぼす要因、健康観を理解する方法、保健行動と健康観（梶原）	予習：テキスト①P82～P114読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第4回	成人の学習の特徴と看護：学びの特徴、成人教育学の概念（アンドラゴジーモデル）、学びの目標、健康状態と学習方法の関係（永坂）	予習：テキスト①P116～P151を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第5回	病の軌跡：慢性の病と人間、考え方、看護への適用、事例で考える（永坂）	予習：テキスト①P216～P228を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第6回	セルフケア：セルフケアとは、オレムの看護理論（セルフケア不足理論）、セルフケアと成人看護、事例で考える（永坂）	予習：テキスト①P230～P240を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可

第7回	自己効力：自己効力とは、事例で考える自己効力理論 (永坂)	予習：テキスト①P278～P285を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第8回	ストレス：ストレスとは、ストレス・コーピングプロセスに関連する主要な概念、ストレスマネジメント (梶原)	予習：テキスト①P242～P254を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第9回	危機：危機とは、危機の特徴、危機介入、フィソクモデル (梶原)	予習：テキスト①P256～P264を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第10回	適応：適応とは、ロイ適応看護モデル (梶原)	予習：テキスト①P266～P276を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第11回	高齢者の理解① (高齢者とは、高齢者の特徴と理解、高齢者にとっての健康、高齢者とQOL) (永坂)	予習：テキスト②P18～P58を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第12回	高齢者の理解② (加齢に伴う変化) (永坂)	予習：テキスト②P59～P86を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第13回	高齢者をとりまく社会 (高齢者の生活と家族、高齢者が生活する場) (永坂)	予習：テキスト②P88～P106を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第14回	高齢者看護の基本① (高齢者看護の特性、高齢者に関わる諸理論) (永坂)	予習：テキスト②P186～P208を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
第15回	高齢者看護の基本② (高齢者看護における倫理、高齢者に対するフィジカルアセスメント) (永坂)	予習：テキスト②P208～P241を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。 予習時間：120分、復習時間：120分	可
評価方法			
定期試験80%、レポート20%により評価する。			
オフィスアワー			
永坂和子：月～木（9:00～17:00）事前にアポイントを取って下さい。e-mail k-nagasaka@gifuuoken.ac.jp 梶原志保子：月～水、金（9:00～17:00）事前にアポイントを取って下さい。e-mail s-kajiwara@gifuuoken.ac.jp			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な シ ン を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -成人・老年看護学				人間力	
授業コード	111066				ケア・スピリット	○
授業科目名	成人・老年看護援助論Ⅰ（成人・老年期の保健活動）				実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 前期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	永坂和子【実務家該当教員】，梶原志保子【実務家該当教員】				多職種連携	○

講義概要

日本の成人老年保健の動向を解説し、成人老年各期に関連する保健医療福祉活動について学修する。さらに、この時期にある患者や家族を取り巻く医療システムと看護について学修する。

授業内容（到達目標を含む）

1. 生活習慣と健康障害の関連を理解できる。
2. 労働と健康障害の関連を理解できる。
3. 性に関連する健康障害を理解できる。
4. 成人老年各期の健康課題の特徴を踏まえた保健医療福祉活動の必要性を理解できる。
5. 成人老年各期の様々な健康状態にある人々への保健医療福祉制度を理解できる。
6. 成人老年各期にある人々を対象とする保健医療福祉活動の目的と看護方法を理解できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

成人・老年看護学概論を受講済みが履修条件である。事前学習を通して学び、講義に参加しないと講義受講の効果が減弱するため、必ず予習を行った上で受講すること。

教材

テキスト：①ナーシング・グラフィカ，成人看護学①成人看護学概論，メディカ出版，2021.

②ナーシング・グラフィカ，高齢者の健康と障害，メディカ出版，2023.

※成人・老年看護学概論と共通

参考図書：成人看護学，成人看護学概論，第2版，NOUVELLE HIROKAWA、
ナーシング・グラフィカ，成人看護学③セルフマネジメント，メディカ出版，2019.〃□

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	生活習慣に関連する健康障害：生活習慣に関連する健康課題、生活習慣の是正 ワーク・ライフ・バランスと健康障害：健康障害の関連、職業と健康障害、生活ストレスと健康障害、身体活動と健康障害 (永坂)	予習：テキスト①P138～P185を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習時間：120分、復習時間：120分	可
第2回	セクシュアリティとジェンダーに関連する健康障害：関連する概念、性的健康の指標および実態、健康障害の予防及び対応 更年期にみられる健康障害：更年期障害とは、原因、症状、予防と治療 (梶原)	予習：テキスト①P188～P214を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習時間：60分、復習時間：60分	可
第3回	ヘルスプロモーション：ヘルスプロモーションとは、ヘルスプロモーションの目標・プロセス・方法、トータルヘルスプロモーション、健康日本21、健康増進法、がん対策基本法 (梶原)	予習：テキスト①P288～P293を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習時間：60分、復習時間：60分	可
第4回	高齢者を支える制度／高齢者を支える社会資源 (永坂)	予習：テキスト②P106～P139を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習時間：120分、復習時間：120分	可
第5回	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護①（地域包括ケア、在宅） (永坂)	予習：テキスト②P142～P158を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習時間：120分、復習時間：120分	可

第6回	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護②（介護保険施設、地域密着型サービス、デイサービス、デイケア） (永坂)	予習：テキスト②P159～P184を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習時間：120分、復習時間：120分	可
第7回	高齢者のヘルスプロモーション (梶原)	予習：テキスト②P282～P303を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習時間：120分、復習時間：120分	可
第8回	成人・老年保健医療福祉活動の実際（演習） (梶原)	予習：居住地域の保健医療福祉活動を下調べしておく。 復習：課題レポート 予習時間：240分、復習時間：240分	
評価方法			
定期試験80%、レポート20%により評価する。			
オフィスアワー			
永坂和子：月～木（9:00～17:00）事前にアポイントを取って下さい。e-mail k-nagasaka@gifuhoken.ac.jp 梶原志保子：月～水、金（9:00～17:00）事前にアポイントを取って下さい。e-mail s-kajiwara@gifuhoken.ac.jp			

講義概要			
成人老年期における急性期や重症な状態にある患者の特徴を理解し、生命維持、身体的リスクの低減と症状緩和、安全と安楽の保持等のための看護を学修する。生命危機的な状況にある対象者の呼吸・循環管理、フィジカルアセスメントを用いた全身状態の観察法、必要な看護技術を学修する。また回復期にある患者の心身の回復過程を理解し、個の特性に応じて生きることを支える看護を学ぶ。			
授業内容（到達目標を含む）			
1. 急性疾患および治療・変化している療養環境の特徴、看護の役割、チーム医療の重要性について理解する。 2. 急性疾患を有する人の身体・心理・社会的特徴と発達課題を関連させて理解する。 3. 急性疾患による障害からの回復を心理過程に沿って理解する。 4. 急性疾患を有する人の家族の特徴、家族のセルフケアマネジメント方法、マネジメントを促進する教育を理解する。 5. 急性疾患を有する人と家族の健康を維持・増進するために必要な社会資源である医療保健福祉制度やサービスおよびその活用方法について理解する。 6. 急性疾患の代表的な治療、援助について理解する。 7. 代表的な急性疾患を有する人の身体的・心理・社会的特徴について理解し、看護アセスメント、看護援助について理解できる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
成人・老年看護学概論を受講済みが履修条件である。授業の疾患に関する解剖生理・病態生理・検査・診断基準、看護等については、必ず予習してくること。また各自でノートを整理し、復習すること。			
教材			
テキスト：①臨床外科看護総論，矢永勝彦，高橋則子編集，医学書院，2022 ②写真でわかる臨床看護技術②，本庄恵子，インターメディカ，2020 ※成人・老年看護援助論Ⅳと共通 参考図書：ナーシング・グラフィカ，成人看護学④周術期看護，メディカ出版，2022			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	オリエンテーション 急性期疾患看護の特徴 ショック、熱傷、熱中症 (梶原)	成人・老年看護援助論Ⅱのシラバスを確認して授業に参加する。急性期看護の特徴について、テキストや参考図書を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可
第2回	循環器疾患患者の看護（心筋梗塞、狭心症） (梶原)	循環器疾患看護について、テキストや参考図書を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可
第3回	循環器疾患患者の看護（心電図の基礎、不整脈） (梶原)	循環器疾患看護について、テキストや参考図書を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可
第4回	呼吸器疾患患者の看護（肺がん、急性呼吸不全） (吉崎)	呼吸器疾患看護について、テキストや参考図書を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可

第5回	気管吸引、体位ドレナージの基礎 (梶原)	呼吸状態を観察するのに必要な観察項目と気管吸引の手技について、テキストや参考図書を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可
第6回	人工呼吸器装着患者の看護 (吉崎)	呼吸のメカニズムと人工呼吸器について、テキストや参考図書を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可
第7回	消化器疾患患者の看護（胃がん、胆石症） (梶原)	消化器疾患看護について、テキストや参考図書を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可
第8回	消化器疾患患者の看護（大腸がん） (梶原)	消化器疾患看護について、テキストや参考図書を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可
第9回	消化器疾患患者の看護（急性膵炎） (吉崎)	消化器疾患看護について、テキストや参考図書を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可
第10回	運動器疾患患者の看護（大腿骨頸部骨折、脊椎圧迫骨折） (吉崎)	運動器疾患看護について、テキストや参考図書を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可
第11回	脳神経疾患患者の看護（脳出血、頭蓋内圧亢進、脳ヘルニア） (吉崎)	脳神経疾患看護について、テキストや参考図書を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可
第12回	急性期における特殊な治療と看護（ダビンチ） (吉崎)	特殊な治療と看護について、テキスト①P. 166を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可
第13回	感覚器疾患患者の看護（突発性難聴、メニエール病） (吉崎)	感覚器疾患看護について、テキストや参考図書を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可
第14回	感覚器疾患患者の看護（白内障、網膜剥離） (梶原)	感覚器疾患看護について、テキストや参考図書を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可
第15回	病態関連図作成 (吉崎)	病態関連図の作成に必要な資料準備を予習とする。関連図の修正を復習とする。 予習：30分 復習30分	可
定期試験80%、レポート20%により評価する。			
オフィスアワー			
梶原志保子：月～水、金（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。s-kajiwara@gifuuoken.ac.jp 吉崎純夫：月～水、金（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。s-yoshizaki@gifuuoken.ac.jp			

講義科目				る デ イ ブ に 必 要 な リ ン を 達 成 す	人間力	
科目区分	専門教育科目 -成人・老年看護学				ケア・スピリット	○
授業コード	111068				実践的理解	○
授業科目名	成人・老年看護援助論Ⅲ（疾患別健康援助看護２）				プロフェッショナリズム	○
配当学年/ 学期	2年 後期 必修	単位数	1		多職種連携	○
担当教員	永坂和子【実務家該当教員】，梶原志保子【実務家該当教員】， 吉崎純夫【実務家該当教員】					

講義概要			
疾病をもちながら生きる対象の思いや生活、治療過程を理解し、セルフケアを伴う社会生活を支える看護実践を学ぶ。慢性病を持つ対象者の健康障害・疾病の特徴とライフヒストリーを理解し、その人のQOLを尊重した自己管理に繋がる看護援助法を修得する。健康状態の変化によって引き起こされる患者の身体的、心理的变化を理解し、慢性病を受容し主体的に生きるための看護援助方法を学ぶ。がん患者の看護（手術後、化学療法、放射線療法、緩和ケア等）、長期療養を必要とする慢性疾患の看護についても学ぶ。			
授業内容（到達目標を含む）			
1. 慢性疾患および治療・変化している療養環境の特徴、看護の役割、チーム医療の重要性について理解する。 2. 慢性疾患を有する人の身体・心理・社会的特徴と発達課題を関連させて理解する。 3. 慢性疾患による障害からの回復を心理過程に沿って理解する。 4. 慢性疾患を有する人の家族の特徴、家族のセルフケアマネジメント方法、マネジメントを促進する教育を理解する。 5. 慢性疾患を有する人と家族の健康を維持・増進するために必要な社会資源である医療保健福祉制度やサービスおよびその活用方法について理解する。 6. 慢性疾患の代表的な治療、援助について理解する。 7. 代表的な慢性疾患を有する人の身体的・心理・社会的特徴について理解し、看護アセスメント、看護援助について理解できる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
成人・老年看護学概論を受講済みが履修条件である。授業の疾患に関する解剖生理・病態生理・検査・診断基準、看護等については、必ず予習してくる。また各自でノートを整理し、復習すること。随時、課題レポートを課す場合がある。			
教材			
テキスト：成人看護学，慢性期看護，病気とともに生活する人を支える，改定第3版，鈴木久美，南江堂，2019 参考図書：ナースング・グラフィカ，成人看護学①成人看護学概論，安酸史子，メディカ出版，2019 慢性期看護論，第3版，鈴木志津枝，NOUVELLE HIROKAWA，2014			

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	慢性期看護の特徴：動向・社会の変化、 治療・療養環境の特徴、看護の役割 (永坂)	成人・老年看護援助論Ⅲのシラバスを確認して授業に参加する。慢性期看護の特徴について、テキストP.2～39を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可
第2回	呼吸器系の障害を有する人とその家族への看護（気管支喘息） (永坂)	呼吸器疾患看護について、テキストP.218～224を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可
第3回	呼吸器系の障害を有する人とその家族への看護（慢性閉塞性肺疾患・慢性呼吸不全） (吉崎)	呼吸器疾患看護について、テキストP.225～232を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可

第4回	循環器系の障害を有する人とその家族への看護（慢性心不全） (永坂)	循環器疾患看護について、テキストP. 271～280を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可
第5回	消化器系の障害を有する人とその家族への看護（肝硬変） (梶原)	消化器疾患看護について、テキストP. 296～306を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可
第6回	代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族の看護（糖尿病1） (永坂)	代謝・内分泌疾患看護について、テキストP. 328～339を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可
第7回	代謝・内分泌系の障害を有する人とその家族の看護（糖尿病2） (永坂)	代謝・内分泌疾患看護について、テキストP. 328～339を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可
第8回	インスリン療法を受ける患者の援助（演習） (永坂・梶原・吉崎)	インスリン療法について、テキストP. 130～139を読む演習準備を予習とする。演習後のレポート作成を復習とする。 予習：30分 復習60分	
第9回	腎・泌尿器系の障害を有する人とその家族への看護（慢性腎不全） (永坂)	腎・泌尿器疾患看護について、テキストP. 357～367を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可
第10回	人工透析を受ける患者の援助 (永坂)	人工透析を受ける患者の看護について、テキストP. 140～150を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可
第11回	脳・神経系の障害を有する人とその家族への看護（脳梗塞） (吉崎)	脳・神経系疾患看護について、テキストP. 418～425を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可
第12回	脳・神経系の障害を有する人とその家族への看護（パーキンソン病） (吉崎)	脳・神経系疾患看護について、テキストP. 426～432を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可
第13回	脳・神経系の障害を有する人とその家族への看護（筋委縮性側索硬化症） (梶原)	脳・神経系疾患看護について、テキストP. 433～439を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可
第14回	がんを有する人とその家族への看護 疼痛コントロール 緩和ケア (永坂)	疼痛コントロール・緩和ケアについて、テキストP. 5～7、P. 235～237を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可
第15回	がんを有する人とその家族への看護 化学療法を受ける患者の看護 放射線治療を受ける患者の看護 (永坂)	化学療法・放射線治療について、テキストP. 169～191を読んで予習する。復習として、講義後内容を各自でまとめる。 予習：30分 復習：30分	可

評価方法
定期試験80%、レポート20%により評価する。
オフィスアワー
永坂和子：月～木（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。k-nagasaka@gifuhoken.ac.jp 梶原志保子：月～水、金（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。s-kajiwara@gifuhoken.ac.jp 吉崎純夫：月～水、金（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。s-yoshizaki@gifuhoken.ac.jp

講義科目				る デ イ プ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 ー成人・老年看護学				人間力	
授業コード	111069				ケア・スピリット	○
授業科目名	成人・老年看護援助論Ⅳ（周手術期看護とクリティカルケア）				実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 後期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	梶原志保子【実務家該当教員】，吉崎純夫【実務家該当教員】				多職種連携	

講義概要			
成人老年期における生命の危機的状態、周手術期にある患者の特徴を理解し、生命維持、身体的リスクの低減と症状緩和、安全と安楽の保持等のための看護を学ぶ。生命危機的な状況にある対象者の呼吸・循環管理、フィジカルアセスメントを用いた全身状態の観察法、救急看護法やクリティカルケアに必要な看護技術を学修する。			
授業内容（到達目標を含む）			
1. 周手術期にある対象者の急激な変化について理解し説明できる。 2. 手術を受ける対象者を理解するためのアセスメント方法が理解できる。 3. 手術を受ける対象者に必要な看護技術を理解できる。 4. クリティカルな状態にある対象者に対する具体的な看護方法について理解できる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
成人・老年看護学概論を受講済みが履修条件である。事前学習を通して学び、講義に参加しないと講義受講の効果が減弱するため、必ず予習を行った上で受講すること。			
教材			
テキスト：①臨床外科看護総論、矢永勝彦、高橋則子編集、医学書院：2800円 ②写真でわかる臨床看護技術②、本庄恵子、インターメディアカ、2020 ※成人・老年看護援助論Ⅱと共通 参考図書：ナース・グラフィカ、成人看護学④周術期看護、メディカ出版、2022。 クリティカルケア看護学、道又元裕、医学書院：2100円 救急看護学、山勢博彰、医学書院：2500円			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	周手術期看護1 術前の看護と麻酔の基礎 (梶原)	術前オリエンテーション、麻酔について事前に予習して授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：120分、復習：120分	可
第2回	周手術期看護2 術中の看護 (梶原)	手術室の環境、手術中の看護師の役割について事前に予習して授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：120分、復習：120分	可
第3回	周手術期看護3 術直後の看護 帰室時のアセスメント (梶原)	術直後の看護、帰室直後に必要な観察項目を事前に予習して授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：120分、復習：120分	可
第4回	周手術期看護4 術後合併症予防の看護 (呼吸・循環) (梶原)	術後の呼吸器合併症、循環動態の変化について予習して授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：120分、復習：120分	可
第5回	周手術期看護5 術後合併症予防の看護 (疼痛、消化機能、術後せん妄) (梶原)	疼痛のメカニズム、せん妄のメカニズム、消化器官の機能について復習して授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：120分、復習：120分	可
第6回	周手術期看護6 術後合併症予防の看護 (感染、離床、退院支援) (梶原)	スタンダードプリコーション、感染症について復習して授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：120分、復習：120分	可

第7回	クリティカルケア看護 (吉崎)	クリティカルケアについて予習をして授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：120分、復習：120分	可
第8回	救急看護 (吉崎)	救急看護とクリティカルケア看護の違いを予習して授業に参加し、講義後内容をまとめる 予習：120分、復習：120分	可
評価方法			
定期試験80%、レポート20%により評価する。			
オフィスアワー			
梶原志保子：月～水、金（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。s-kajiwara@gifuhoken.ac.jp 吉崎純夫：月～水、金（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。s-yoshizaki@gifuhoken.ac.jp			

実習科目				る デ イ ブ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -成人・老年看護学				人間力	
授業コード	111070				ケア・スピリット	
授業科目名	成人・老年看護援助論Ⅴ（機能障害の看護）				実践的理解	○
配当学年/ 学期	3年 前期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	永坂和子【実務家該当教員】，梶原志保子【実務家該当教員】， 吉崎純夫【実務家該当教員】				多職種連携	○

講義概要（実習目的）

高齢者とその家族を生活機能の視点から考え、高齢期特有の疾患や症状・機能障害の特徴とその要因・誘因を知り、生活機能の未充足を満たす具体的な看護について創造的・実践的に理解する。それらの疾患や障害が、高齢者の生活にどのように影響するのかを理解し、高齢者のセルフケアの促進や予防を含めた看護について探求し、高齢者が“その人らしい生活”を実現できるための基本的な看護技術を学ぶ。

授業内容（実習目標）

1. 高齢期特有な疾患や症状を踏まえた必要なアセスメント方法が理解できる。
2. 高齢者の残存機能を維持・向上するための看護の必要性が理解、実施できる。
3. 高齢者体験を通じて、加齢に伴う、身体的・精神的・社会的機能の変化について説明できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

成人・老年看護学概論を受講済みが履修条件である。事前学習を通して学び、講義に参加しないと講義受講の効果減弱するため、必ず予習を行った上で受講すること。

教材

テキスト：①ナーシング・グラフィカ, 老年看護学②高齢者看護の実践, メディカ出版, 2023.

②生活機能からみた老年看護過程(第4版), 医学書院

※成人・老年看護援助論Ⅵと共通

参考図書：看護実践のための根拠がわかる老年看護技術(第3版), メヂカルフレンド社

高齢者の臨床検査値の見方・考え方 臨床病理レビュー 特集第156号 ラボ検査研究会編集, 克誠堂出版

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	排泄機能障害：排泄障害を有する疾患と症状、検査・治療、看護、尊厳、倫理の基本的な考え方 (永坂)	予習：資料を読んで各200字程度でまとめる。 復習：資料より課題レポートを各200字程度で記述する。 予習：120分、復習：120分	可
第2回	排泄機能障害のアセスメント(身体、心理、社会)、多職種の役割と連携、診療報酬、排尿チーム、実際の評価、演習（超音波を用いた残尿測定） (永坂)	予習：資料を読んで各200字程度でまとめる。 復習：資料より課題レポートを各200字程度で記述する。 予習：120分、復習：120分	可
第3回	排泄機能障害を有する人への援助（オムツ装着体験、オムツ交換演習） (永坂・吉崎・梶原)	予習：オムツ装着体験レポートをまとめる。 復習：演習後課題レポートをまとめる。 予習：120分、復習：120分	
第4回	食生活を支える看護（食事、脱水、摂食嚥下障害、低栄養） (吉崎)	予習：テキスト①P12～P40を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習：120分、復習：120分	可
第5回	清潔・衣生活を支える看護（清潔・衣生活、掻痒、痛み・しびれ、感染症） (吉崎)	予習：テキスト①P64～P89を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習：120分、復習：120分	可
第6回	活動と休息を支える看護（活動と休息、視覚・聴覚の障害、睡眠障害） (梶原)	予習：テキスト①P90～P113を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習：120分、復習：120分	可

第7回	歩行・移動を支える看護（歩行・移動、骨粗鬆症、骨折、廃用症候群） （梶原）	予習：テキスト①P114～P141を読み、各200字程度でまとめる。 復習：課題レポート 各200字程度で記述する。予習：120分、復習：120分	可
第8回	高齢者体験（演習） （吉崎・永坂・梶原）	予習：演習資料を熟読し、これまでの講義内容を復習し、演習に向けて準備をする。 復習：演習後課題レポートをまとめる。 予習：120分、復習：120分	
評価方法			
定期試験80%、レポート20%により評価する。			
オフィスアワー			
永坂和子：月～木（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。k-nagasaka@gifuhoken.ac.jp 梶原志保子：月～水、金（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。s-kajiwara@gifuhoken.ac.jp 吉崎純夫：月～水、金（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。s-yoshizaki@gifuhoken.ac.jp			

実習科目						
科目区分	専門教育科目 ー成人・老年看護学			る デ イ プ ロ マ ポ リ シ ー を 達 成 す	人間力	
授業コード	111071				ケア・スピリット	
授業科目名	成人・老年看護援助論Ⅵ（老年期による看護）				実践的理解	○
配当学年/ 学期	3年 前期 必修	単位数	1		プロフェッショナルイズム	
担当教員	永坂和子【実務家該当教員】，梶原志保子【実務家該当教員】， 吉崎純夫【実務家該当教員】				多職種連携	○

講義概要（実習目的）

高齢期特有の疾患や症状・機能障害の特徴とその要因・誘因を知り、高齢者が築いてきた生活史や持てる力に着目して、豊かな人生の統合へと向かっていけるような支援方法を学ぶ。特に認知症高齢者の自己決定を支える看護や、権利擁護とその家族の支援について学びを深め、高齢者とその家族のQOLを高める看護活動について考え、高齢者が人生の最期まで尊厳を持って生活するための支援について学修する。

授業内容（実習目標）

1. 高齢期特有な疾患や症状の特徴とその要因を理解し予防のための看護方法が理解できる。
2. 治療を受ける高齢者の特徴とその看護が理解できる。
3. 様々な健康状態にある人々を支えるチーム医療について理解できる。
4. 認知症や障害があっても最期までその人らしく尊厳を持った生活を支援することの重要性が理解できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

成人・看護学概論を受講済みが履修条件である。事前課題を通して学び、講義に参加しないと講義受講の効果が減弱するため、必ず課題を行った上で受講すること。

教材

テキスト：①ナーシング・グラフィカ, 老年看護学②高齢者看護の実践, メディカ出版, 2023
②生活機能からみた老年看護過程（第4版）, 医学書院

※成人・老年看護援助論Ⅴと共通

参考図書：看護実践のための根拠がわかる老年看護技術（第3版）, メヂカルフレンド社
高齢者の臨床検査値の見方・考え方 臨床病理レビュー 特集第156号 ラボ検査研究会編集、克誠堂出版
ナーシング・グラフィカ, 老年看護学①高齢者の健康と障害, メディカ出版, 2023

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	高齢者に特有な症候、高齢期疾患の特徴 (永坂)	成人・老年看護援助論Ⅵのシラバスを確認して授業に参加する。 予習：資料を読んで各200字程度でまとめる。 復習：資料より課題レポートを各200字程度で記述する。 予習：120分 復習：120分	可
第2回	フレイル サルコペニア 廃用症候群 脱水 (永坂)	予習：テキスト①P. 29～35、P. 45、P. 105、P. 152～157、参考図書を読んで各項目200字程度でまとめる。 復習：課題レポートを200字程度で記述する。 予習：120分 復習：120分	可
第3回	リハビリテーションを受ける高齢者への看護 薬物療法を受ける高齢者への看護 (吉崎)	予習：テキスト①P. 139～141、P. 148～150、P. 182、P. 323～329、P. 304～309を読んで各項目200字程度でまとめる。 復習：課題レポートを200字程度で記述する。 予習：120分 復習：120分	可
第4回	認知症の高齢者への看護 (梶原)	予習：テキスト①P. 242～287を読んで200字程度でまとめる。 復習：課題レポートを200字程度で記述する。 予習：120分 復習：120分	可

第5回	認知症ケアメソッド（パーソンセンタードケア・バリデーション・ユマニチュード） （梶原）	予習：テキスト①P. 242～287を読んで200字程度でまとめる。 復習：課題レポートを200字程度で記述する。 予習：120分 復習：120分	可
第6回	チーム医療 （吉崎）	予習：テキスト①P. 270～273、参考図書を読んで200字程度でまとめる。 復習：課題レポートを200字程度で記述する。 予習：120分 復習：120分	可
第7回	エンドオブライフケア （永坂）	予習：テキスト①P. 350～368を読んで200字程度でまとめる。 復習：課題レポートを200字程度で記述する。 予習：120分 復習：120分	可
第8回	ACP 終末期 エンゼルケア グリーフケア （永坂）	予習：テキスト①P. 350～368を読んで200字程度でまとめる。 復習：課題レポートを200字程度で記述する。 予習：120分 復習：120分	可
評価方法			
定期試験80%、レポート20%により評価する。			
オフィスアワー			
永坂和子：月～木（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。k-nagasaka@gifuoken.ac.jp 梶原志保子：月～水、金（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。s-kajiwara@gifuoken.ac.jp 吉崎純夫：月～水、金（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。s-yoshizaki@gifuoken.ac.jp			

講義科目				デイ プ ロ マ ポ リ シ ー を 達 成 す る た め に 必 要 な 能 力	人間力	
科目区分	専門教育科目 一人・老年看護学				ケア・スキル	○
授業コード	111072				実践的理解	○
授業科目名	成人・老年看護学演習（成人・老年看護技術看護）				プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	3年 前期 必修	単位数	2		多職種連携	
担当教員	永坂和子【実務家該当教員】，梶原志保子【実務家該当教員】， 吉崎純夫【実務家該当教員】					

講義概要

健康障害を抱え治療や検査を受ける成人老年期にある患者とその家族が、健康障害から回復または健康障害に適応して、社会復帰や自立した生活を継続するための看護実践を紙面事例を用いた演習を通して習得する。

授業内容（到達目標を含む）

1. 慢性疾患を抱え疾患と共に生活する患者とその家族を理解するためのアセスメントおよび看護援助が実践できる。
2. 侵襲の大きい治療や検査を受ける急性期・回復期にある患者とその家族を理解するためのアセスメントおよび看護援助が実践できる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

成人・老年看護学概論を受講済みが履修条件である。事前学習を通して学び、講義に参加しないと講義受講の効果が減弱するため、必ず予習を行った上で受講すること。

教材

テキスト：NANDA-I看護診断 定義と分類2021-2023、上鶴重美訳、医学書院
参考図書：鈴木久美：看護学テキストNiCE，成人看護学，慢性期看護，病氣とともに生活する人を支える，改定第3版，南江堂，2019
安酸史子：ナーシング・グラフィカ，成人看護学①成人看護学概論，メディカ出版，2019
鈴木志津枝：慢性期看護論，第3版，NOUVELLE HIROKAWA，2014□

授業計画及び学習課題（予習・復習）

回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	オリエンテーション ゴードンの機能的パターンに基づく看護過程 （情報のアセスメント、情報の解釈と統合、 看護問題の明確化、看護計画立案、実施、評価 修正）、関連図（永坂）	予習：基礎看護学で学んだ看護過程を復習する。 復習：講義内容をまとめる。 予習：120分、復習：120分	
第2回	看護過程の展開（事例紹介・情報収集） （永坂・梶原・吉崎）	予習：第1回の講義で学んだ看護過程を復習する。 復習：情報の分類を完成させる。 予習：60分、復習：60分	
第3回	看護過程の展開（アセスメント） （永坂・梶原・吉崎）	予習：情報の分類を修正する。アセスメントに必要な知識を復習する。 復習：アセスメントをする。 予習：120分、復習：180分	
第4回	看護過程の展開（アセスメント） （永坂・梶原・吉崎）	予習：アセスメントに必要な知識を復習する。アセスメントをする。 復習：アセスメントを完成する。 予習：180分、復習：180分	
第5回	看護過程の展開（関連図） （永坂・梶原・吉崎）	予習：アセスメントの修正をする。関連図の描き方を復習する。 復習：関連図を完成させる。 予習：120分、復習：180分	

第6回	看護過程の展開（問題の明確化、看護計画） （永坂・梶原・吉崎）	予習：アセスメントに関連したNANDA看護診断項目を熟読する。看護計画（指導）に必要な知識を復習する。 復習：看護診断を修正する。看護計画を完成する。 予習：120分、復習：60分	
第7回	看護過程の展開（実施、評価：ロールプレイ） （永坂・梶原・吉崎）	予習：指導媒体を作成する。 復習：演習後課題レポートを記述する。評価を完成させる。 予習時間：240分、復習時間：180分	
第8回	看護過程の展開（実施、評価：ロールプレイ） （永坂・梶原・吉崎）		
第9回	看護過程の展開（事例紹介・情報収集） （梶原・吉崎・永坂）	予習：第8回までの講義・演習で学んだ看護過程を復習する。 復習：情報の分類を完成させる。 予習：60分、復習：60分	
第10回	看護過程の展開（アセスメント） （梶原・吉崎・永坂）	予習：情報の分類を修正する。アセスメントに必要な知識を復習する。 復習：アセスメントを完成する。 予習：120分、復習：180分	
第11回	看護過程の展開（関連図） （梶原・吉崎・永坂）	予習：アセスメントの修正をする。関連図の描き方を復習する。 復習：関連図を完成させる。 予習：120分、復習：180分	
第12回	看護過程の展開（問題の明確化・観察計画） （梶原・吉崎・永坂）	予習：アセスメントに関連したNANDA看護診断項目を熟読する。術後の観察について復習する。 復習：看護診断を修正する。 予習：120分、復習：60分	
第13回	看護過程の展開（術後の観察） （梶原・吉崎・永坂）	予習：術後の観察計画を完成させる。 復習：術後の観察レポートをまとめる。 予習：120分、復習：120分	
第14回	看護過程の展開（看護計画） （梶原・吉崎・永坂）	予習：術後合併症予防のためのケアを復習する。 復習：看護計画を完成する。 予習：120分、復習：120分	
第15回	看護過程の展開（評価・修正） （梶原・吉崎・永坂）	予習：看護計画を修正する。看護過程演習（評価の内容）を復習する。 復習：評価を完成させる。看護計画を修正する。第9回～15回のレポートをまとめる。 予習：120分、復習：180分	
評価方法			
課題レポート100%により評価する。			
オフィスアワー			
永坂和子：月～木（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。k-nagasaka@gifuuoken.ac.jp 梶原志保子：月～水、金（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。s-kajiwara@gifuuoken.ac.jp 吉崎純夫：月～水、金（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。s-yoshizaki@gifuuoken.ac.jp			

実習科目						
科目区分	専門教育科目 -成人・老年看護学			る デ イ タ メ に 必 要 な 能 力 を 達 成 す	人間力	
授業コード	111073				ケア・スピリット	
授業科目名	成人・老年看護学実習Ⅰ（施設）				実践的理解	○
配当学年/ 学期	3年 後期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	永坂和子【実務家該当教員】、梶原志保子【実務家該当教員】、吉崎純夫【実務家該当教員】				多職種連携	○
講義概要（実習目的）						
施設で生活する高齢者の特徴を理解し、その人らしく安定した生活を送るための支援について学ぶ。						
実習内容（実習目標）						
1. 高齢者を尊重した態度で接することができる。 2. 施設で生活する高齢者の特徴が理解できる。 3. 施設で生活する高齢者がその人らしく安定した生活を送るための支援が理解できる。 4. 施設で生活する高齢者を支援するための多職種連携の必要性について理解できる 5. 看護専門職者を目指すものとしての自覚を持ち責任ある言動ができる。						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
成人・老年看護学概論および成人・老年看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶの単位が取得済みであることが履修条件である。これら講義・演習で培った知識・技術を十分に復習し、事前学習を通して学び、実習に臨むこと。						
教材						
参考図書：①ナーシング・グラフィカ, 老年看護学②高齢者看護の実践, メディカ出版, 2023 ②生活機能からみた老年看護過程（第4版）, 医学書院						
授業計画及び学習課題（予習・復習）						
詳細は成人・老年看護学実習Ⅰ要項を参照のこと						
評価方法						
実習記録60%、実習態度・実践内容40%により評価する。						
オフィスアワー						
永坂和子：月～木（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。k-nagasaka@gifuhoken.ac.jp 梶原志保子：月～水、金（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。s-kajiwara@gifuhoken.ac.jp 吉崎純夫：月～水、金（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。s-yoshizaki@gifuhoken.ac.jp						

実習科目						
科目区分	専門教育科目－看護の展開			る デ イ タ イ プ に 必 要 な ボ リ シ ー を 達 成 す	人間力	
授業コード	111074				ケア・スピリット	
授業科目名	成人・老年看護学実習Ⅱ （急性期・慢性期・看護過程と看護技術）				実践的理解	
配当学年/ 学期	3年 後期 必修	単位数	3		プロフェッショナリズム	
担当教員	永坂和子【実務家該当教員】，梶原志保子【実務家該当教員】， 吉崎純夫【実務家該当教員】				多職種連携	
講義概要（実習目的）						
様々な健康レベルにある成人期老年期の対象の特徴、健康障害、治療、およびそれらの相互作用を総合的に理解し、対象およびその家族に適した援助の実践を通して、様々な健康レベルにある成人期老年期の看護に必要な基本的能力を養う。						
授業内容（実習目標）						
1. 対象の身体的・精神的・社会的・スピリチュアルの特徴が理解できる 2. 対象の健康問題が理解できる 3. 対象とその家族の特徴をふまえ、問題解決へ向けた看護過程が展開できる 4. 多職種連携による対象への支援と看護の役割が理解できる 5. 退院後の生活に向けた継続看護の援助ができる 6. 学生の倫理観に基づいた責任ある行動がとれる						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
成人・老年看護学概論および成人・老年看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶの単位が取得済みであることが履修条件である。これら講義・演習で培った知識・技術を十分に復習し、事前学習を通して学び、実習に臨むこと。						
教材						
参考図書：NANDA-I看護診断 定義と分類2021-2023、上鶴重美訳、医学書院 成人看護学，慢性期看護，病気とともに生活する人を支える，改定第3版，鈴木久美，南江堂，2019 ナーシング・グラフィカ，成人看護学①成人看護学概論，安酸史子，メディカ出版，2019						
授業計画及び学習課題（予習・復習）						
詳細は成人・老年看護学実習Ⅱ要項を参照のこと						
評価方法						
実習記録68%、実習態度・実践内容32%により評価する。						
オフィスアワー						
永坂和子：月～木（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。k-nagasaka@gifuhoken.ac.jp 梶原志保子：月～水、金（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。s-kajiwara@gifuhoken.ac.jp 吉崎純夫：月～水、金（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。s-yoshizaki@gifuhoken.ac.jp						

講義科目						要 を デ イ な 達 能 成 ブ 力 す ロ る マ た ボ め リ に シ 必 ー	人間力	
科目区分	専門教育科目 -母性看護学						ケア・スピリット	○
授業コード	111075						実践的理解	○
授業科目名	母性看護学概論						プロフェSSIONナリズム	
配当学年/ 学期	2年 前期 必修	単位数	2				多職種連携	
担当教員	野田みや子【実務家該当教員】							

講義概要			
学生は、リプロダクティブヘルス・ライツの視点から、女性の生理心理社会的変化を学び、それに伴う家族の変化や適応へのケアが必要である。その特性に適応した援助への理解を深めつつ、人間のライフサイクルで性科学を学び、生殖期の女性の健康問題をwell-beingに看護実践できる方法論と母性看護の基本的概念を修得する。また学生が内在化する母性観・父性観を確認し対象への共感的理解能力を高め、社会的変遷や国際化社会における看護を理解する。			
授業内容（到達目標を含む）			
1. 人間のライフサイクルで性科学を学び、学生自身の「母性と父性」概念を培う 2. 対象へwellness型思考で母性看護の実践ができる方法論と基本概念を修得する 3. 女性の生涯を通じて家族の健康問題と社会的変遷や国際化社会で看護行動がとれる基礎知識を修得する。 4. 授業形態は書籍やPC視聴覚で一斉講義やクリティカルなPBL討議で展開し適時資料・ビデオ教材を活用する。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
この科目の単位を修得するにあたり、約60時間の授業時間外の学修（予習・復習）が必要である。確認テストや課題のフィードバックはその都度、講義時間内に行う。			
教材			
テキスト 母性看護学概論 1、系統看護学講座、森恵美他、医学書院 2021、第14改訂、2750円 参考図書 「あっ！そうかロイとゴードンの母性小児看護過程11事例」、内藤直子他、ふくろう出版、3000円+税			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	ガイダンス 母性看護の対象を取り巻く環境や社会の変遷 母性看護の歴史的変遷と現状 母子を取り巻く環境	予習：母性性・父性性・親性について考える(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：課題についてレポートする(120分)	可
第2回	妊娠期からの切れ目ない支援に関する法や施策 働く妊産婦への支援に関する法や施策 女性の健康支援に関する法や施策	予習：妊婦を守る法律について考える(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：課題についてレポートする(120分)	可
第3回	リプロダクティブ・ヘルスに関する概念 母性・父性・家族に関する概念 女性や母子へのケアに関する概念	予習：リプロダクティブ・ヘルスについて考える(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：課題についてレポートする(120分)	可
第4回	母性看護における倫理、・性の多様性 思春期・成熟期女性の健康維持への看護 思春期・成熟期女性の健康課題	予習：女性の健康について考える(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：課題についてレポートする(120分)	可
第5回	更年期・老年期女性の健康と看護 正常な妊娠経過と妊娠期の異常 母性看護における看護過程	予習：更年期について考える(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：課題についてレポートする(120分)	可
第6回	母性看護で有用な理論、女性の意思決定支援 妊婦の健康生活とアセスメントポイント 妊娠期の健康問題に対する看護	予習：妊娠期の生活について考える(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：課題についてレポートする(120分)	可
第7回	正常な分娩の経過と分娩期の異常 産婦の健康に関するアセスメントポイント 正常な分娩の経過と分娩期の異常	予習：分娩の異常について考える(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：課題についてレポートする(120分)	可
第8回	確認試験と振り返り 性感染症とその予防 性暴力を受けた女性への支援	予習：思春期のアイデンティティについて考える(120分) 復習：課題についてレポートする(120分)	可

第9回	分娩期の健康問題に対する看護 産婦の健康に関するアセスメントポイント 分娩期の健康問題に対する看護	予習：正常分娩について考える(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：課題についてレポートする(120分)	可
第10回	正常な産褥の経過と産褥期の異常 褥婦の健康と生活のアセスメントポイント 産褥期の健康問題に対する看護 正常な産褥の経過と産褥期の異常	予習：正常産褥について考える(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：課題についてレポートする(120分)	可
第11回	褥婦の健康と生活のアセスメントポイント 産褥期の健康問題に対する看護 早期新生児の生理的变化と異常	予習：母性性・父性性・親性について考える(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：課題についてレポートする(120分)	可
第12回	早期新生児期のアセスメント 早期新生児の健康問題への看護 国際化社会と母子看護	予習：産褥期の異常について考える(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：課題についてレポートする(120分)	可
第13回	グループワーク① 事例の検討(思春期～更年期までの6つの事例に基づき、グループで話し合い)	予習：産後うつについて考える(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：課題についてレポートする(120分)	可
第14回	グループワーク② 事例の検討(思春期～更年期までの7つの事例に基づき、グループで話し合い)	予習：新生児の生理について考える(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：課題についてレポートする(120分)	可
第15回	まとめ、発表、相互評価	予習：新生児期の異常について考える(120分) 授業開始時：5minutes test 復習：課題についてレポートする(120分)	可
評価方法			
課題レポート(20%)、5minutes test(10%)、グループワーク発表(10%)、定期試験成績(60%)、により評価する			
オフィスアワー			
火曜・木曜・金曜の16:10～17:00まで、研究室(2) 事前にアポイントメントを取ってください。連絡先 e-mail m-noda@gifuhoken.ac.jp			

講義科目					能達力 成 イ す プ る た ま め に リ シ ー に 必 要 な を	人間力	
科目区分	専門教育科目 -母性看護学					ケア・スピリット	○
授業コード	111076					実践的理解	○
授業科目名	母性看護援助論Ⅰ					プロフェッショナリズム	○
配当学年/ 学期	2年 後期 必修	単位数	1			多職種連携	
担当教員	野田みや子【実務家該当教員】，近藤邦代【実務家該当教員】， 石田美知【実務家該当教員】，高木由美【実務家該当教員】						

講義概要	
周産期の女性及び新生児の心身の健康現象（生理的变化と病態生理・心理社会的変化）を理解し、対象の健康レベルをウェルネスな視点でアセスメントし、健康ニーズを充足する能力を身につける。対象の健康レベルのアセスメント能力と、看護実践を支える基本技術と日常生活への適応促進の援助技法、ハイリスク状況時の妊娠期・分べん期の女性に対するクリティカルな援助技法も修得し、母性看護の臨床看護実践に必要な基本的技術の修得を目指す。学生が内在化する母性観・父性観を確認し、対象を共感的に理解する視点も醸成する。	
授業内容（到達目標を含む）	
本講義では、妊娠期から分べん期の正常経過にある対象の看護について学修する。妊産婦の身体的特性や心理社会的特性、各期の看護に必要な情報やアセスメントの視点を理解し、母性看護を実践するための基礎的な知識を修得する。子育てをする母親・父親への親役割取得に必要な看護について理解し、新しい家族形成に向けて看護を実践できる具体的な援助方法を学修する。学生は、周産期の女性の生理的心理的变化のアセスメントでは、正常と異常の違いの観察力と看護的判断力能力を培う。 <到達目標> 1. 妊産婦の身体的特性や心理社会的特性および看護に必要な情報、アセスメントについて説明できる。 2. 子育てをする母親・父親への親役割取得に必要な看護について説明できる。 3. 妊婦および産婦に必要な基本的な看護技術について修得できる。	
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
本科目の履修学生は、講義を積極的に受講することが条件である。予習・復習は60時間程度が必要で、資料や教科書の熟読を求める。課題へのフィードバックは講義時間内に行う。適時2回位事前連絡し補講があるので参加を求める。	
教材	
テキスト：1. 母性看護学各論②：系統看護学講座 森恵美他、医学書院、第13版、2020、3,000円+税 参考図書： 1. 「あつ！そうか ロイとゴードンの母性小児看護過程11事例」内藤直子他、ふくろう出版第2版、2014、3000円 2. 母性看護学概論：系統看護学講座 森恵美他、医学書院 第13版、2018、2640円 3. 他は、適宜に提示する。	

授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	リプロダクティブヘルス概念と看護；①子どもを産み育てることと看護。②出生前からリプロダクティブヘルスケア・生殖補助医療、③不妊治療と看護、出生前診断と倫理的課題、④不妊治療の女性と家族看護（内藤）	予習：教材1の1章1-9p、2章12-56p熟読し受講。 復習：リプロダクティブヘルス概念と看護が述べられる。不妊治療と看護、遺伝相談など倫理的課題が述べられる。予習：50分、復習：50分	可
第2回	妊娠期の看護を学ぶ。 A・妊娠期の身体的特徴 B・妊娠期の心理と社会的特徴、①妊婦の心理、②妊婦と家族と社会（近藤）	予習：3章A・Bの58-86p 妊娠の生理、胎児の発育と生理、母体の生理的变化、妊娠期の不安や葛藤、親になることの準備、夫婦、兄弟、祖父母、地域社会、職場などを理解する。 復習：資料を再読す。予習：50分、復習：50分	可
第3回	C・妊婦と胎児のアセスメントについて学ぶ。 ①妊娠とその診断、②妊娠期の検査とその目的、③胎児の発育と健康状態の診断、④妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント⑤日常生活のアセスメント（近藤）	予習：3章Cの87-126p、妊娠と診断、基礎体温、つわり、胎児の発育と評価法、胎児触知、胎位、胎向、レオポルド触診法、妊娠経過と基本的情報のアセスメントを理解する。 復習：妊婦と胎児アセスメントが述べられる。 予習：50分、復習：50分	
第4回	妊婦と家族の看護について学ぶ。 ①妊婦が受ける母子保健サービス、 ②妊婦の保健相談の実際、 ③親になるための準備教育（近藤）	予習：3章Dの126-174p、妊娠届出と母子健康手帳、健康診査、保健指導、食生活、トラブル予防、嗜好品、排泄、清潔衣生活、マイナートラベル、活動休息、勤労、親準備教育、家族役割を理解。 復習：妊婦の保健指導の実際を述べられる。 予習：50分、復習：50分	可
第5回	妊娠の異常と看護について学ぶ。 G・ハイリスク妊婦の看護、①高年妊婦・若年妊婦の看護、ART後の妊婦、合併症の妊婦、流産時ケア、妊娠高血圧症候群妊婦の看護、多胎妊婦の看護、異所妊娠、（近藤）	予習：7章A～Fを読み返す。Gの393-400p、①高年・若年妊婦、肥満、ART後の妊婦、合併症の妊婦、切迫流・早産妊婦、異所妊娠看護を理解。 復習：ハイリスク等異常経過妊婦看護を理解。 予習50分、復習50分 *10分間ミニ確認テスト	
第6回	分娩期の看護について学ぶ。 A・分娩の要素、分娩の機序、B・分娩経過、進行と産婦の身体変化、産痛、分娩第1期2期3期4期の産婦の心理・行動（石田）	予習：4章のA～Bの178-199p、分娩の3要素、分娩経過を理解する。 復習：分娩の要素と分娩経過を述べられる。 予習：50分、復習：50分	
第7回	分娩期の看護について学ぶ。 ①産婦の心理・社会的変化、②産婦・胎児の健康のアセスメント、③産婦と家族の心理・社会面のアセスメント④分娩レビュー、産婦の自己概念、（石田）	予習：4章のB～CのP199-219を予習して受講し、産婦の心理・社会的変化、産婦家族のアセスメントが理解できる。 復習：産婦の心理・社会的変化からアセスメント視点を述べられる。予習：50分、復習：50分	可

第8回	分娩期の看護について学ぶ。 産婦と家族の看護、①看護目標と産婦のニード、②安産分娩、安楽な分娩の看護、陣痛緩和のケア・無痛分娩③分娩が肯定的になる看護・自己概念・夫立ち合い分娩、④基本的ニードの看護、⑤家族発達への看護(石田)	予習：4章のDのP220-239を予習し、産婦と家族の看護、安全安楽な分娩への基本的ニードへの看護、出産体験が肯定的になる看護を理解。 復習：安全安楽な分娩への看護ポイントを述べられる。予習：50分、復習：50分 *10分間ミニ確認テスト	
第9回	分娩期各期の看護の実際について学ぶ。 ①分娩第1期の活動期の看護、②分娩第1期活動期の終盤の看護、③分娩第2期の看護、④分娩第3期・4期の看護の実際	予習：4章のEの240-253pを予習し分娩期各期の看護を理解する。 復習：産婦の身体的、心理・社会的特徴と看護の実際が述べられる。予習：50分、復習：50分*10分ミニ確認テスト	
第10回	1. 演習オリエンテーション： ①資料の配布 ②紙上看護過程展開事例 ③NST紙上事例 2. 目で見る母性看護3 (DVD) 視聴覚、(内藤・石田・近藤)	予習：今までの資料を読み知識の確認。 復習：正常な妊娠・分娩の経過を配布資料から確認しその看護を学習する。予習50分、復習50分	
第11回	1. 演習デモンストレーション (内藤・石田・近藤)	予習：演習デモンストレーション時の資料を理解しておく。分娩ラボ・シミュレーションセンターで実施、*AグループとBグループ交代で参加・*分べんの (DVD) 視聴覚	
第12回	周産期の看護実践とスキル演習 (1) レオポルド触診法、胎児心音聴取、子宮底と腹囲測定法、分娩べん台体験、母子健康手帳の活用、(内藤) 周産期の看護実践とスキル演習 (2) 胎児心拍数モニタリング・判読、妊娠歴 妊婦体験ジャケットと日常ケア、(石田、近藤)	(実践演習) ①援助技法の意義や方法・留意点のレポート作成。②妊娠後期のアセスメントと測定法、③事例にて胎児心拍数モニタリング実施・判読とケア、NFRS時ケアを理解する。 <u>Aグループ スキル演習とBグループ ロイ看護過程</u> 復習：課題レポートを作成する。 (演習はPBL形式で6-10人グループのアクティブラーニング) 予習：120分、復習：120分	
第13回	周産期の看護実践とスキル演習 (1) レオポルド触診法、胎児心音聴取、子宮底と腹囲測定法、分娩べん台体験、母子健康手帳の活用、(内藤) 周産期の看護実践とスキル演習 (2) 胎児心拍数モニタリング・判読、妊娠歴 妊婦体験ジャケットと日常ケア (石田、近藤)	(実践演習) ①援助技法の意義や方法・留意点のレポート作成。②妊娠後期のアセスメントと測定法、③事例にて胎児心拍数モニタリング実施・判読とケア、NFRS時ケアを理解する。 <u>Aグループ スキル演習とBグループ ロイ看護過程</u> 復習：課題レポートを作成する。 (演習はPBL形式で6-10人グループのアクティブラーニング) 予習：120分、復習：120分	

第14回	周産期の看護実践とスキル演習 (1) レオポルド触診法、胎児心音聴取、子宮底と腹囲測定法、分娩べん台体験、母子健康手帳の活用、(内藤)	(実践演習) ①援助技法の意義や方法・留意点のレポート作成。②妊娠後期のアセスメントと測定法、③事例にて胎児心拍数モニタリング実施・判読とケア、NFRS時ケアを理解する。<u>Aグループ スキル演習とBグループ ロイ看護過程</u>	
	周産期の看護実践とスキル演習 (2) 胎児心拍数モニタリング・判読、妊娠歴 妊婦体験ジャケットと日常ケア、(石田, 近藤)	復習：課題レポートを作成する。 (演習はPBL形式で6-10人グループのアクティブラーニング) 予習：120分、復習：120分 * <u>看護過程の展開を提出</u>	
第15回	妊産婦ケアのまとめ、ロイ看護過程展開の個別指導、確認テスト、評価(内藤・石田・近藤)	妊娠期から分べん期までの確認テストを実施する。理解不十分な学習を行う。課題レポートの見直しをする。予習：120分、復習：120分	
評価方法			
1. 定期試験 (65%)、2. 課題レポート (10%)、3. 看護過程レポート (10%)、4. 授業内ミニ確認テスト (15%) により評価する。			
オフィスアワー			
内藤：火・水・木・金の16:10から17:00、事前連絡は：n-naitoh@gifuuoken.ac.jp 石田：月・水・木・金の16:10分から17:00、事前連絡は：m-ishida@gifuuoken.ac.jp 近藤：月・火・水・金の16:10から17:00、事前連絡は：k-kondo@gifuuoken.ac.jp			

講義科目					成 達 す い る プ た め に ポ に 必 り 要 し な 能 を 力 達	人間力	
科目区分	専門教育科目 -母性看護学					ケア・スピリット	○
授業コード	111077					実践的理解	○
授業科目名	母性看護援助論Ⅱ					プロフェッショナリズム	○
配当学年/ 学期	2年 後期 必修	単位数	1			多職種連携	○
担当教員	野田みや子【実務家該当教員】，近藤邦代【実務家該当教員】，石田美知【実務家該当教員】，高木由美【実務家該当教員】						

講義概要			
周産期の女性と新生児の心身の健康現象（生理的・心理社会面）を理解し、対象の健康レベルをウェルネスの視点からアセスメントし、健康ニーズを充足する能力を理解し、ロイ適応看護理論で看護過程を展開し、看護倫理を判断した基本的母性看護実践能力を修得する。授業では母性看護実践に必要な基本的技術の修得や看護過程の演習を重点化し、ビデオ教材、保健指導媒体を活用する。			
授業内容（到達目標を含む）			
本講義では、産褥期及び新生児期の正常経過にある対象の看護について学修する。褥婦及び新生児の身体的特性や心理社会的特性を踏まえた、看護に必要な情報とアセスメントの視点を理解し、母性看護を実践するため基礎的な知識を修得する。子育て中の母親・父親への親役割取得に必要な看護を理解し、新しい家族形成に向け看護を実践できる具体的な援助方法を学修する。 〔到達目標〕①褥婦及び新生児の身体的特性、心理社会的特性について説明できる。 ②カリスタ・ロイの適応看護モデルの看護理論を用いて紙上事例での看護過程展開ができる。 ③褥婦及び新生児に提供する看護ケアについての必要な基本的技術の修得ができる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
本科目の履修では十分な予習と復習をする努力を期待している。特に、カリスタ・ロイの適応看護モデルの看護理論を導入した紙上事例で看護過程展開してレポート課題を作成する。その中で、看護理論に親しむ学習姿勢を望む。重要な専門用語が多いので、講義を積極的に受講することが条件である。各回の授業内容を自己学習で良く咀嚼して授業内容を理解しておく事が望ましい。この単位を修得するにあたり、およそ60時間の授業時間外の学修が必要である。確認テストや課題のフィードバックはその都度講義時間内に行う。			
教材			
必携：1. 母性看護学各論②：系統看護学講座 森恵美他、医学書院、第13版、2020、3,000円+税 2. 関連図の書き方をマスターしよう 蔵谷範子、サイオ出版、第1版2刷、2016、3,520円税込 3. 「あっ！そうか ロイとゴードンの母性小児看護過程11事例」内藤直子他、ふくろう出版 第2版、2014 参考文献：1. 母性看護学概論1：系統看護学講座 森恵美他、医学書院、第14版、2019、2,640円+税 他は、適宜に提示する			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	ガイダンス： ロイ適応看護モデルを用いて紙上事例で、看護過程を展開する。ロイの4様式で情報収集、アセスメント、関連図、ウェルネス看護診断、看護目標、看護計画を学ぶ (1) (内藤)	科目の目標を確認する。 予習：教材1の第1章を熟読する。既習の看護過程の構成要素を再度確認する。 復習：提示の紙上事例から1事例選択、ロイ適応看護モデルの4様式で情報収集、アセスメント、関連図まで理解する。予習：50分、復習：50分	

第2回	分娩期の異常と看護について学ぶ。 産道・娩出力の異常、胎児・付属物異常と分娩障害、胎児機能不全、分娩時損傷、分娩直後の異常、分娩時異常出血・産科ショック・DIC、産科処置と手術・会陰切開、帝王切開	予習：7章A・B・C・D・E・F・G・H・Iの401-432 pを予習し既習講義から分娩期の異常を理解する。 復習：分娩期の異常について異常分娩と正常分娩の経過の違いその看護を学習する。 予習：50分、復習：50分	
第3回	異常のある産婦の看護 破水、分娩遷延、胎児機能不全リスクの産婦・術前・术中・術後看護、骨盤位分娩、急速遂分娩の看護、分娩時異常出血のある産婦の看護	母性看護援助論Ⅰの8回目～11回目の分娩期の看護（必携1. p178-250および講義資料）を復習し受講する。分娩期の正常と異常を理解する。ハイリスク産婦の看護を学ぶ。予習：50分、復習：50分 *10分間ミニ確認テスト	
第4回	産褥期の看護、身体的変化と適応・褥婦フィジカルアセスメント、退行性と進行性現象を学ぶ。授乳時ケア、乳房トラブル時の看護 (石田)	6章A・Bの308-331 pを予習し受講する。産褥経過の身体的・心理・社会的変化と適応の促進、進行現象における看護ケアを学ぶ。 予習：50分、復習：50分	可
第5回	褥婦と家族の看護、 ①フィジカルアセスメント、②褥婦のセルフケア不足の看護、③家族関係構築の看護、④施設退院後の看護、⑤職場復帰 (石田)	6章C・Dの331-354 pを予習し受講する。前回の講義内容および講義資料を復習し受講する。子宮の復古現象とその異常を理解し、看護実践能力の基礎的演習の方法を学ぶ。 予習：50分、復習：50分	可
第6回	褥婦の異常と看護、 ①子宮復古不全、②産じょく期発熱、③産褥血栓症、④精神障害⑤異常のある褥婦の看護 (石田)	7章の484-501 pを予習し受講する。褥婦と家族形成期の心理社会的側面を理解。児を亡くした褥婦・家族の看護を学ぶ。 *10分間ミニ確認テスト予習：50分、復習：50分	
第7回	新生児期の看護 ①新生児の生理と新生児健康状態のアセスメント、②基礎的情報・バイタルサイン測定、③宫外生活の適応アセスメント、新生児の看護・出生直後から退院・退院後 (近藤)	関連の既習を確認。5章A・B・Cの254-305 p、新生児期の看護、哺乳状態、母子同質性、清潔・ドライテクニック/沐浴技術、新生児の栄養について理解できる。*10分間ミニテスト、 予習：50分、復習：50分	可
第8回	新生児期の異常と看護 ①新生児仮死・分娩外傷、②低出生体重児の看護、③高ビリルビン血症児の看護、ビタミンK欠乏性出血症 (近藤)	7章の456-483 pの予習後に受講。新生児に起こりうる異常とその看護について理解する。特に新生児の生理的経過とアセスメント方法学び、正常と異常の違いが理解できる。看護、アセスメント方法、沐浴・ドライテクニックの技術を学び、セルフトレーニングする。*10分間ミニテスト、 予習：50分、復習：50分	可

第9回	新生児の異常と看護を学び、看護過程を理解する（近藤） <u>*演習の資料配布と説明</u>（石田） *講義後、3階演習室で、沐浴デモンストレーション	付章の535-540 pを予習後に受講する。新生児の生理的経過と異常の違いを理解し、新生児の看護過程を学びセルフトレーニングする。 *演習の資料配布 ※講義後に看護過程を提出。沐浴デモンストレーションを受ける	
第10回	看護実践演習の説明・デモンストレーション演習① 産じょく・子宮復古、創部、乳房乳頭観察とケア、授乳法とラッチオン、衣類とおむつケア、清潔ケアとドライテクニック、間接受乳法、排気法など（内藤・石田・朝岡・近藤・助手）	第5－6章（p254-354）を予習する。提示される演習前の自己学習に取り組む。産褥乳房のアセスメントを行い、授乳技術、介助方法のケア技術を実践する。演習前後における自己学習で演習②のケア技術を修得する。 予習：50分、復習：50分	
第11回	看護実践演習② 産じょく・子宮復古、創部、乳房乳頭観察とケア、授乳法とラッチオン、衣類とおむつケア、清潔ケアとドライテクニック、間接受乳法、排気法など（内藤・石田・近藤）	第5－6章（p254-354）を予習する。提示される演習前の自己学習に取り組む。産褥乳房のアセスメントを行い、授乳技術、介助方法のケア技術を実践する。演習前後における自己学習で演習②のケア技術を修得する。 予習：50分、復習：50分	
第12回	看護実践演習③ 産じょく・子宮復古、創部、乳房乳頭観察とケア、授乳法とラッチオン、衣類とおむつケア、清潔ケアとドライテクニック、間接受乳法、排気法など（内藤・石田・朝岡・近藤）	産褥子宮のアセスメントを行い、産褥復古のケア技術を実践する。演習前後における自己学習で演習③のケア技術を修得する。新生児のフィジカルアセスメントを行い、清潔ケア（沐浴）を実践する。演習前後における自己学習で演習④のケア技術を修得する。予習：50分、復習：50分	
第13回	事例によるロイ適応モデルの看護過程の紙上展開（2） ・4様式情報収集とアセスメント ※講義後、看護過程提出②（内藤・石田・近藤）	ロイ適応モデルを用いた母性看護におけるウェルネス看護診断を理解する。提出した課題のロイ適応モデルの看護過程の展開における4様式（情報収集とアセスメント）について展開する。 予習：120分、復習：120分	
第14回	事例によるロイ適応モデルの看護過程の紙上展開（3） ・関連図・第1、第2アセスメント・アセスメント&プランニング演習（内藤・石田・近藤）	予習：課題のロイ適応モデルの看護過程の展開で4様式（情報収集とアセスメント&プランニング）、関連図まで担当教員に提出する。 復習：本時の指導内容を追加学習し、母性看護過程展開を実施し、更に提出した課題の指導コメントを追加修正し再度提出する。 予習：120分、復習120分	

第15回	事例によるロイ適応モデルの看護過程の紙上展開 (4) ・個別指導 ・まとめ・ 評価 (内藤・石田・近藤)	予習：課題の看護診断、看護目標、看護計画までをロイ適応モデル看護過程の展開で4様式（情報収集とアセスメント）、関連図まで担当教員に提出し、個別指導を受ける。 復習：本時の指導内容を追加学習する。 予習：120分、復習120分	
評価方法			
期末筆記試験 65%、看護過程と演習のレポート 20%、ミニテスト 15%			
オフィスアワー			
内藤：火・水・木・金の16:10から17:00、事前連絡は：n-naitoh@gifuoken.ac.jp) 石田：月・水・木・金の16:10分から17:00、事前連絡は：ishida@gifuoken.ac.jp) 近藤：月・火・水・金の16:10から17:00、事前連絡は：k-kondo@gifuoken.ac.jp			

実習科目					要を な達 能成 力す るマ たポ めリ にシ 必	人間力	○
科目区分	専門教育科目 -母性看護学					ケア・スピリット	○
授業コード	111078					実践的理解	○
授業科目名	母性看護学実習Ⅰ学内（妊娠～分娩期保健管理）					プロフェッショナルリズム	○
配当学年/ 学期	3年 後期 必修	単位数	1			多職種連携	○
担当教員	野田みや子【実務家該当教員】，近藤邦代【実務家該当教員】， 石田美知【実務家該当教員】，高木由美【実務家該当教員】						

講義概要（実習目的）
本臨地実習は、地域の周産期医療の中核病院で周産期看護を実地に学び、妊娠期・分娩期・産褥期の母児の特徴と正常な経過を理解し、対象の社会生活を支える母性看護の基礎的実践能力を既修の科学的知識・技術・態度から修得する。妊産褥婦や早期新生児をロイ適応看護理論から母児や家族をアセスメントし看護過程を展開する。周産期の母子関係や家族への支援の重要性を理解し、切れ目のない包括的援助方法を修得する。実習を通し、生命の尊厳と生命を守り育てる大切さや、学生自身の母性や父性の理解を深める。
授業内容（実習目標）
1. 周産期にある母性及び新生児の生理的変化と病態生理を関連づけ、母と子の健康診査に参加できるようになる。 2. wellnessな視点から周産期にある母性および新生児の健康レベルを明確にし、健康維持および増進を促す看護介入ができるようになる。 3. 母子関係、及び家族関係の成立状況や心理的变化を観察し看護介入が実施できるようになる。 4. 母子保健医療チームの一員として母子保健の関連法規、多職種の役割、多職種と相互連携を理解できる。 5. 受け持ち対象をとおして、人格の尊重、人間としての尊厳、プライバシーの擁護、自己決定権の擁護など、倫理的観点に基づいて行動できるようになる。 6. 周産期にある女性と新生児のロイ適応看護理論を用い看護過程が展開できるようになる。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）
実習は、教科書だけでなく授業で紹介した参考図書などを読み自己学習を行う。本科目は、予習や復習を前提としており、自己学習をして授業に臨むこと。また、各自の理解度を確認するため小テストを適宜行う。授業では関係する実習指導者および教員と積極的に関わり学修する。詳細は、学生便覧の89-91頁及び「看護学実習の手引きー母性看護学実習」を参照。。尚、本科目は、母性看護援助論Ⅰ・Ⅱの単位を取得していなければ履修することはできない。
教材
テキスト 母性看護学各論 母性看護学② 森恵美他、第13版、2020、3,000円+税 参考書 1. 母性看護学概論1 系統看護学講座 森恵美他、医学書院 2020、第13改訂、2640円 2. 「あっ！そうかロイとゴードンの母性小児看護過程11事例、内藤直子他、ふくろう出版、3,000円+税 3. マタニティ診断ガイドブック 第6版 4. 他は適宜時に提示する

授業展開			
回	内容	学習課題	遠隔授業
1日目	実習オリエンテーション： プレテスト、技術確認演習・4名のPBL方法で実習2週間を展開	看護実践能力の基本的看護技術について実習前のプレテスト及び基本的知識のミニテストを学内で実施し評価する	
2日目□	病棟オリエンテーション： 4名のPBL方法で実習2週間を展開	① 妊娠期の生理的経過と健康レベルの変化（刺激）から、対象の適応状況をロイ適応看護理論で展開し看護介入を評価する	
3日目	1) 妊婦の看護実践	②胎児期の生理的経過と健康レベルの変化（刺激）から、対象の適応状況を評価する	
4日目	受持ち対象にロイ適応理論で看護過程を展開	③妊婦の看護の必要性和その適応状態から必要な看護介入の方法を工夫し実施する	
5日目	2)産婦の看護：ロイ適応看護理論で看護過程を展開	④妊婦をとおして関わった他職種の役割、相互依存について理解する	
6日目□		①分娩期の生理的経過と健康レベルの変化（刺激）から、対象の適応状況を評価する	
7日目		②産婦の看護の必要性を見いだし、適応状態に合致した看護介入の方法を理解する	
8日目	3)褥婦の看護実践	③産婦をとおして関わった他職種の役割、相互依存について理解する	
9日目		①産褥期の生理的経過とそれに伴う健康レベルの変化（刺激）から、対象の適応状況を評価する	
10日目	受持ち対象にロイ適応理論で看護過程を展開	②褥婦の看護の必要性、その適応状態から、必要な看護介入の方法を工夫し実施する	
11日目		③褥婦の心理社会状況を理解し、褥婦と新生児との母子関係や母子相互作用、家族関係の現象を観察し、看護介入のあり方を評価する	
12日目	4)新生児の看護実践	④褥婦をとおして関わった他職種の役割、相互依存、継続看護の重要性を理解する	
13日目	受持ち対象にロイ適応理論で看護過程を展開	①新生児期の生理的経過とそれに伴う健康レベルの変化を理解する	
14日目	事例レポート発表：カンファレンス資料作成	②新生児の看護の必要性を見いだし、看護介入の方法を理解する	
15日目	まとめ：自己評価・指導教員評価・確認面接	③ロイ適応看護理論で看護過程レポートの個別指導	
評価方法			
母性看護学実習の評価基準表に基づく形成評価と絶対評価の総合評価（100%） ＜実習内容・実習記録の提出、事前学習レポート、学生自己評価・教員評価を含む＞			
オフィスアワー			
内藤：火・水・木・金の16:10から17:00、事前連絡は：n-naitoh@gifuhoken.ac.jp) 石田：月・水・木・金の16:10分から17:00、事前連絡は：ishida@gifuhoken.ac.jp) 近藤：月・火・水・金の16:10から17:00、事前連絡は：k-kondo@gifuhoken.ac.jp			

実習科目						
科目区分	専門教育科目－看護の展開			成 達 す い る プ ラ マ に 必 り 要 な シ ン を 力 達	人間力	○
授業コード	111079				ケア・スピリット	○
授業科目名	母性看護学実習Ⅱ				実践的理解	○
配当学年/ 学期	3年 後期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	野田みや子【実務家該当教員】，近藤邦代【実務家 該当教員】，石田美知【実務家該当教員】，高木由 美【実務家該当教員】				多職種連携	○

講義概要（実習目的）

本臨地実習は、地域の周産期医療の中核病院で周産期看護を実地に学び、妊娠期・分娩期・産褥期の母児の特徴と正常な経過を理解し、対象の社会生活を支える母性看護の基礎的実践能力を既修の科学的知識・技術・態度から修得する。妊産褥婦や早期新生児をロイ適応看護理論から母児や家族をアセスメントし看護過程を展開する。周産期の母子関係や家族への支援の重要性を理解し、切れ目のない包括的援助方法を修得する。実習を通し、生命の尊厳と生命を守り育てる大切さや、学生自身の母性や父性の理解を深める。

授業内容（実習目標）

1. 周産期にある母性及び新生児の生理的变化と病態生理を関連づけ、母と子の健康診査に参加できるようになる。
2. wellnessな視点から周産期にある母性および新生児の健康レベルを明確にし、健康維持および増進を促す看護介入ができるようになる。
3. 母子関係、及び家族関係の成立状況や心理的变化を観察し看護介入が実施できるようになる。
4. 母子保健医療チームの一員として母子保健の関連法規、多職種の役割、多職種と相互連携を理解できる。
5. 受け持ち対象をとおして、人格の尊重、人間としての尊厳、プライバシーの擁護、自己決定権の擁護など、倫理的観点に基づいて行動できるようになる。
6. 周産期にある女性と新生児のロイ適応看護理論を用い看護過程が展開できるようになる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

実習は、教科書だけでなく授業で紹介した参考図書などを読み自己学習を行う。本科目は、予習や復習を前提としており、自己学習をして授業に臨むこと。また、各自の理解度を確認するため小テストを適宜行う。授業では関係する実習指導者および教員と積極的に関わり学修する。詳細は、学生便覧の89-91頁及び「看護学実習の手引きー母性看護学実習」を参照。尚、本科目は、母性看護援助論Ⅰ・Ⅱの単位を取得していなければ履修することはできない。

教材

テキスト 母性看護学各論 母性看護学② 森恵美他、第13版、2020、3,000円+税
参考書
1. 母性看護学概論1 系統看護学講座 森恵美他、医学書院 2020、第13改訂、2640円
2. 「あっ！そうかロイとゴードンの母性小児看護過程11事例、内藤直子他、ふくろう出版、3,000円+税
3. マタニティ診断ガイドブック 第6版
4. 他は適宜時に提示する

授業展開

回	内容	学習課題	遠隔授業
1日目	実習オリエンテーション：プレテスト、技術確認演習・4名のPBL方法で実習2週間を展開	看護実践能力の基本的看護技術について実習前のプレテスト及び基本的知識のミニテストを学内で実施し評価する	

2日目□	病棟オリエンテーション： 4名のPBL方法で実習2週間を展開	① 妊娠期の生理的経過と健康レベルの変化（刺激）から、対象の適応状況をロイ適応看護理論で展開し看護介入を評価する	
3日目	1) 妊婦の看護実践 受持ち対象にロイ適応理論で看護過程を展開	②胎児期の生理的経過と健康レベルの変化（刺激）から、対象の適応状況を評価する ③妊婦の看護の必要性とその適応状態から必要な看護介入の方法を工夫し実施する	
4日目		④妊婦をととして関わった他職種の役割、相互依存について理解する	
5日目	2) 産婦の看護：ロイ適応看護理論で看護過程を展開	①分娩期の生理的経過と健康レベルの変化（刺激）から、対象の適応状況を評価する	
6日目□		②産婦の看護の必要性を見だし、適応状態に合致した看護介入の方法を理解する	
7日目		③産婦をととして関わった他職種の役割、相互依存について理解する	
8日目	3) 褥婦の看護実践	①産褥期の生理的経過とそれに伴う健康レベルの変化（刺激）から、対象の適応状況を評価する	
9日目		②褥婦の看護の必要性、その適応状態から、必要な看護介入の方法を工夫し実施する	
10日目	受持ち対象にロイ適応理論で看護過程を展開	③褥婦の心理社会状況を理解し、褥婦と新生児との母子関係や母子相互作用、家族関係の現象を観察し、看護介入のあり方を評価する	
11日目		④褥婦をととして関わった他職種の役割、相互依存、継続看護の重要性を理解する	
12日目	4) 新生児の看護実践	①新生児期の生理的経過とそれに伴う健康レベルの変化を理解する	
13日目	受持ち対象にロイ適応理論で看護過程を展開	②新生児の看護の必要性を見だし、看護介入の方法を理解する ③ロイ適応看護理論で看護過程レポートの個別指導	
14日目	事例レポート発表：カンファレンス資料作成	PBLグループワーク：まとめ	
15日目	まとめ：自己評価・指導教員評価・確認面接	個別面接指導と総合評価学生（便覧89-91頁、母性看護学実習要項を参照）	
評価方法			
母性看護学実習の評価基準表に基づく形成評価と絶対評価の総合評価（100%） <実習内容・実習記録の提出、事前学習レポート、学生自己評価・教員評価を含む>			
オフィスアワー			
内藤：火・水・木・金の16:10から17:00、事前連絡は：n-naitoh@gifuuoken.ac.jp) 石田：月・水・木・金の16:10分から17:00、事前連絡は：ishida@gifuuoken.ac.jp) 近藤：月・火・水・金の16:10から17:00、事前連絡は：k-kondo@gifuuoken.ac.jp			

講義科目				デイ ため プ 必要 ポリ シー を達 成す	人間力	
科目区分	専門教育科目 -小児看護学				ケア・スキル	○
授業コード	111080				実践的理解	○
授業科目名	小児看護学概論				プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	2年 前期 必修	単位数	2		多職種連携	
担当教員	平岡翠【実務家該当教員】，野田みや子【実務家該当教員】					

講義概要			
現在の小児と家族がおかれている状況について、諸統計や小児看護の変遷などから概観し、小児の権利擁護の視点から小児看護の目標や役割、課題について理解する。小児各期の成長・発達の特徴を理解し、あらゆる健康レベルや発達段階に応じた小児と家族への援助について学ぶ。また、小児がひとりの人間として尊重され、その子らしく生活できるような支援のあり方について理解し、小児看護の役割と看護上の倫理を学ぶ。			
授業内容（到達目標を含む）			
小児看護の対象者である子どもの成長発達上の特徴及び小児看護の基本となる理念、子どもの人権、現代の子どもと家族の概況や倫理的観点から子どもの健康問題、小児看護の役割と課題について講義する。 子どもの全体像をイメージするために、各期の子どもの成長・発達及び栄養の特徴、健康、家族、看護の特徴について説明する。小児と家族の諸統計から小児の健康問題の動向を知るとともに、小児に関連する保健医療福祉のシステム、および法規を知り具体的な施策について説明する。国内外の小児看護の変遷を学び包括的ケアへと発展してきている現代の小児看護の役割について倫理的観点を含み意見交換・発表する場を設ける。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
授業中に発表を求めます。分からないことがあれば積極的に質問すること。確認テストはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。			
教材			
テキスト	中野綾美：ナーシング・グラフィカ、小児の発達と看護、メディカ出版、2020年、4180円(税込)		
参考図書	ドナ・C・アグレア他：危機療法の理論と実際、川島書店、1978年、2200円(税込)		
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内 容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	ガイダンス 小児看護の理念と目標、小児看護の変遷を理解する。 (野田)	予習：指定された教科書に目を通す(120分) 復習：配布資料を読み返す (120分) ※授業開始時 5minutes test	可
第2回	小児保健統計を理解する。(野田)	予習：指定された教科書に目を通す(120分) 復習：課題レポート①を記述する (120分) ※授業開始時 5minutes test	可
第3回	小児看護に必要な発達理論と、身体の特徴について理解する。(野田)	予習：指定された教科書に目を通す(120分) 復習：課題レポート①を記述する (120分) ※授業開始時 5minutes test	可
第4回	子どもの死の受け止め方について理解する。	予習：指定された教科書に目を通す(120分) 復習：課題レポート①を記述する (120分) ※授業開始時 5minutes test	可
第5回	乳乳幼児期の健康問題に必要な看護を説明できる。幼児期の健康問題に必要な看護について意見交換できる。①～④の重要な点の出題を解答し、解説を聞く。	予習：指定された教科書に目を通す(120分) 復習：課題レポート②を記述する (120分) ※授業開始時 5minutes test	可
第6回	学童思春期の健康問題に必要な看護を説明できる。	予習：指定された教科書に目を通す(120分) 復習：課題レポート②を記述する (120分) ※授業開始時 5minutes test	可
第7回	学童思春期の健康問題に必要な看護について意見交換できる。⑤の重要な点の出題を解答し、解説を聞く	予習：指定された教科書に目を通す(120分) 復習：課題レポート②を記述する (120分) ※授業開始時 5minutes test	可
第8回	小児および家族・同胞とのコミュニケーションについて理解する。	予習：指定された教科書に目を通す(120分) 復習：課題レポート②を記述する (120分) ※授業開始時 5minutes test	可

第9回	小児の疾病理解と発達障害の支援及び社会的なシステムについて意見交換できる。⑥、⑦、⑧の重要な点の出題を解答し、解説を聞く。	予習：指定された教科書に目を通す(120分) 復習：課題レポート②を記述する (120分) ※授業開始時 5minutes test	可
第10回	小児の疾病理解と発達障害の支援及び社会的なシステムについて意見交換できる。⑨の重要な点の出題を解答し、解説を聞く。	予習：指定された教科書に目を通す(120分) 復習：課題レポート③を記述する (120分) ※授業開始時 5minutes test	可
第11回	小児の疾病理解と発達障害の支援及び社会的なシステムについて意見交換できる。⑩の重要な点の出題を解答し、解説を聞く。	予習：指定された教科書に目を通す(120分) 復習：課題レポート③を記述する (120分) ※授業開始時 5minutes test	可
第12回	小児の疾病理解と発達障害の支援及び社会的なシステムについて意見交換できる。⑪の重要な点の出題を解答し、解説を聞く。	予習：指定された教科書に目を通す(120分) 復習：課題レポート③を記述する (120分) ※授業開始時 5minutes test	可
第13回	小児の疾病理解と発達障害の支援及び社会的なシステムについて意見交換できる。⑫の重要な点の出題を解答し、解説を聞く。	予習：指定された教科書に目を通す(120分) 復習：課題レポート③を記述する (120分) ※授業開始時 5minutes test	可
第14回	小児の疾病理解と発達障害の支援及び社会的なシステムについて意見交換できる。⑬の重要な点の出題を解答し、解説を聞く。	予習：指定された教科書に目を通す(120分) 復習：課題レポート③を記述する (120分) ※授業開始時 5minutes test	可
第15回	まとめ：①～⑭の授業内容について総括する	予習：指定された教科書に目を通す(120分) 復習：課題レポート①②③をまとめる(120分) ※授業開始時 5minutes test	可
評価方法			
授業態度10%、レポート10%、最終試験80%により評価する。			
オフィスアワー			
月・水・木・金曜の16：10分～17:00, 研究室 事前にメールでアポイントを取ってください：平岡：s-hiraoka@gifuuoken. ac. jp 野田：m-noda@gifuuoken. ac. jp			

講義科目				る デ イ プ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -小児看護学				人間力	
授業コード	111081				ケア・スピリット	○
授業科目名	小児看護援助論Ⅰ				実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 後期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	平岡翠【実務家該当教員】、水木幸子【実務家該当教員】				多職種連携	

講義概要			
小児の心身の健康問題が小児とその家族に与える影響について考え、健康問題をもつ小児とその家族のニーズを把握し、適切な看護の方法を身につける。具体的には、病気・障害や入院が小児や家族に与える影響を理解し、さまざまな療養環境や疾病の経過における小児と家族への看護について基礎的な知識と技術を修得する。さらに、小児が主体的に治療・処置・検査に取り組むことができるような看護師の関わり方について理解する。			
授業内容（到達目標を含む）			
子どもとその家族に向けた適切な看護援助の在り方について、具体的理解を踏まえた基礎的な実践能力を修得する。小児期にある子どもの日常生活の援助及び健康を障害された子どもの看護支援をする基本的知識を講義する。疾病が与える子どもとその家族の身体的・精神的・社会的及び成長発達への影響、家族への影響について意見交換・レポート作成ができるようになる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
授業中に発表を求めます。分からないことがあれば積極的に質問すること。確認テストはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。			
教材			
テキスト 参考図書	・中野綾美：ナースンググラフィカ小児看護学2、メディカ出版、2020年、3200円（税込） ・中野綾美：ナースング・グラフィカ、小児の発達と看護、メディカ出版、2020年、3800円（税込） ・浅野みどり：根拠と事故防止からみた小児看護技術、医学書院、2020年、4400円（税込） ・浅野みどり：発達段階からみた小児看護過程、医学書院、2017年、4180円（税込） ・山元恵子：写真でわかる 小児看護技術、インターメディカ、2020年、3520円（税込）		
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	オリエンテーション、子どもの日常生活援助と入院の子どもへのプレパレーションやデストラクションについて学習する。	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第2回	子どもの病気認知と子どもに行われるフィジカルアセスメントについて学習する。	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート①を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第3回	演習：抱っこの仕方・衣類交換・おむつ交換、正しい身体測定の仕方について学習する。	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート①を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	
第4回	子どもの清潔ケアに関連するアセスメントの実際について学習する	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート①を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第5回	発熱が身体に及ぼす影響について学習する。（脱水・小児感染症・隔離）	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート①を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可

第6回	呼吸器疾患児の把握とその対応について学習する。（喘息・肺炎・クループ）	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート②を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第7回	小児救急の実際について学習する。 子どもの入院と家族の付き添いについて学習する。	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート②を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第8回	抑制や固定が必要な子どもへの援助について学習する。（骨折・先天性股関節脱臼）	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート②を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第9回	子どもへの声かけの仕方と点滴刺入部のシーネ固定法について学習する。 演習：子どもの点滴固定	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート②を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	
第10回	慢性的な疾患をもつ子どもの再発や悪化を防ぐ治療管理と在宅看護の援助について学習する。（ネフローゼ・急性糸球体腎炎・1型糖尿病）	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート③を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第11回	子どもの内服について学習する。 演習：子どもの与薬方法	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート③を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第12回	手術を受ける子どもの痛みについて学習する。（口唇口蓋裂・先天性心疾患・痛み・プレパレーション）	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート③を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	
第13回	障がい児をもつ子どもと家族との関わりについて学習する。（重心児・筋ジストロフィー・てんかん他）	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート③を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第14回	障がい児をもつ子どもと家族との関わりについて学習する。（重心児・筋ジストロフィー・てんかん他）	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート③を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
第15回	まとめ①～⑭の学習の総括	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート①②③をまとめる ※授業開始時 5minutes test 予習時間60分、復習時間120分	可
評価方法			
授業態度10%、レポート10%、最終試験80%により評価する。			
オフィスアワー			
月・水・木・金曜の16：10分～17：00, 研究室 事前にメールでアポイントを取ってください：平岡：s-hiraoka@gifuuoken.ac.jp			

講義科目				る デ イ プ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -小児看護学				人間力	
授業コード	111082				ケア・スピリット	
授業科目名	小児看護援助論Ⅱ				実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 後期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	平岡翠【実務家該当教員】、水木幸子【実務家該当教員】				多職種連携	○

講義概要			
小児の健康問題が小児と家族に及ぼす影響を考え、小児の発達過程の特質をふまえた主要な理論に基づいて、健康状態を的確にアセスメントすることができることを目的とする。さらに、病気や入院中であっても、小児の成長・発達を促し、小児が主体的に治療・処置に取り組めるような看護方法を選択し、実践するための知識と基本的技術を修得する。小児期によくみられる代表的な疾患の事例を通して、看護過程の展開方法について学び、小児看護援助技術を演習を通して修得する。			
授業内容（到達目標を含む）			
子どもとその家族に向けた適切な看護援助のあり方について、「小児看護学援助論1」で実施した内容を踏まえて、さらに具体性を深めた実践能力を修得する。 小児期にある子どもの日常生活の援助及び健康を障害された子どもの看護支援をする方法論を身につける。 疾病が与える子どもとその家族の身体的・精神的・社会的及び成長発達への影響、家族への影響について意見交換し、グループワークと発表を通して、思考力・判断力・チーム力を養う。 臨床実習の準備として、小児への援助技術が一定水準以上に達していることを目標とする。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
授業中に発表を求めます。分からないことがあれば積極的に質問すること。確認テストはその都度講義時間内に行います。全体のフィードバックについては講義時間内に行いますが、個別のフィードバックは時間外に設定します。			
教材			
テキスト	・中野綾美：ナースンググラフィカ小児看護学2、メディカ出版、2020年、3200円(税込) ・中野綾美：ナースング・グラフィカ、小児の発達と看護、メディカ出版、2020年、3800円(税込)		
参考図書	・浅野みどり：根拠と事故防止からみた小児看護技術、医学書院、2020年、4400円(税込) ・浅野みどり：発達段階からみた小児看護過程、医学書院、2017年、4180円(税込) ・山元恵子：写真でわかる 小児看護技術、インターメディカ、2020年、3520円(税込)		
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	オリエンテーション 子どもを対象とした看護技術：検査や処置を受ける子どもと家族への看護	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	可
第2回	急性期にある子どもと家族への看護の実際： 子どものフィジカルアセスメント（臨床推論）急性期事例	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート①を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	可
第3回	演習：抱っこの仕方・衣類交換・おむつ交換、正しい身体測定の仕方について実習する。	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート①を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	可
第4回	子どもと家族への看護過程の展開：進め方と方法	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート①を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	可

第5回	紙上事例における看護過程の展開①	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート①を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	可
第6回	1 グループ：紙上事例における看護過程の展開② 2 グループ：小児の看護技術演習① 小児の輸液管理	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート②を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	
第7回	1 グループ：紙上事例における看護過程の展開③ 2 グループ：小児の看護技術演習②保育器内の低出生体重児のケア	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート②を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	
第8回	1 グループ：紙上事例における看護過程の展開④ 2 グループ：小児の看護技術演習③プレパレーション	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート②を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	
第9回	1 グループ：小児の看護技術演習②保育器内の低出生体重児のケア 2 グループ：紙上事例における看護過程の展開③	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート②を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	
第10回	1 グループ：小児の看護技術演習③プレパレーション 2 グループ：紙上事例における看護過程の展開④	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート③を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	
第11回	保育施設での実習に関するオリエンテーション（全体概要） 病院での実習に関するオリエンテーション（保健指導案、場面記録）	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート③を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	
第12回	保健指導案に関する教員からの指導（個別）	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート③を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	
第13回	小児看護技術チェック ・フィジカルアセスメント ・小児への看護援助	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート③を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	
第14回	小児看護技術チェック ・フィジカルアセスメント ・小児への看護援助	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート③を記述する ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	
第15回	小児看護技術チェック まとめ①～⑭の学習の総括	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート①②③をまとめる ※授業開始時 5minutes test 予習時間30分、復習時間60分	
評価方法			
授業態度10%、レポート10%、最終試験80%により評価する。			
オフィスアワー			
月・水・木・金曜の16：10分～17:00, 研究室 事前にメールでアポイントを取ってください：平岡：s-hiraoka@gifuuoken.ac.jp			

実習科目				る デ イ め プ に 必 要 な ポ リ シ ー を 達 成 す		
科目区分	専門教育科目 -小児看護学				人間力	
授業コード	111083				ケア・スピリット	
授業科目名	小児看護学実習Ⅰ 学内（乳幼児・周手術期管理）				実践的理解	○
配当学年/ 学期	3年 後期 必修	単位数	1		プロフェッショナリズム	
担当教員	平岡翠【実務家該当教員】，水木幸子【実務家該当教員】				多職種連携	○

講義概要（実習目的）

本臨地実習では、健康な小児と健康障害をもつ小児の双方に関わる体験を通して、成長・発達過程にある小児の特性とその家族への関わりを理解する。小児の成長発達を促進し健康レベルに適した援助ができるよう、保育所・重症心身障がい児センター・総合病院等における2週間の臨地実習を通して、小児看護に必要な基本的な知識・技術・態度を修得する。

授業内容（実習目標）

1. 小児看護学の既習の知識・技術・経験などを基盤として小児と家族への看護を実施できる。
2. 保育所では小児の発達段階における特徴や個人差を考慮した日常生活への援助を実施し、保育の特徴とそのあり方を述べることができる。
3. 病院では健康障害のある小児の療養生活における看護上の問題に対して、看護過程の展開ができる。
4. 小児と家族への看護実習を通して専門職としての自己の課題を述べることができる。

留意事項（履修条件・授業時間外の学修）

保育所実習では9施設に分かれて、各自3日間の実習を行う。前後して、9月からは総合病院と重症心身障がい児センターの2つの医療機関での実習を行う。健康な小児とのコミュニケーションをとり成長発達を理解する。また、健康障害のある小児とその家族への看護を実践する。なお、本科目は、小児看護概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱの単位を取得していなければ履修することはできない。

教材

- テキスト ・中野綾美：ナースンググラフィカ小児看護学2、メディカ出版、2020年、3200円（税込）
 ・中野綾美：ナースング・グラフィカ、小児の発達と看護、メディカ出版、2020年、3800円（税込）
- 参考図書 ・浅野みどり：根拠と事故防止からみた小児看護技術、医学書院、2020年、4400円（税込）
 ・浅野みどり：発達段階からみた小児看護過程、医学書院、2017年、4180円（税込）
 ・山元恵子：写真でわかる 小児看護技術、インターメディカ、2020年、3520円（税込）

授業計画及び学習課題（予習・復習）

- 1 実習場所
 - 1) 保育施設実習 岐阜市の保育園、幼保園9か所
 - 2) 病院実習 長良医療センター 一宮西病院
- 2 対象学生

岐阜保健大学看護学部3年次生（後期）及び4年次生（前期）
- 3 実習期間及び実習時間

実習期間 2021年（令和3年）10月7日（月）～2022年（令和4年）6月30日（金）

実習時間 原則として、9:00～16:00（15:30～16:00カンファレンス）
- 4 実習メンバー

1施設につき4名の学生配置

5 実習スケジュール 原則として、月曜日、火曜日（または、木曜日、金曜日）は病棟実習 実習最終日は、ケース発表を行う その他、詳細は「2021年度実習要項」を参照の事 ※・保育所実習では、配置された保育所で、小児の保育を実践する。年齢別の小児の成長発達を理解するため、できるだけ異年齢のクラスに入り保育を実践する。 ・保育所実習では、3～3人で配置されるので、主体的に受け持つクラスで実習し、疑問などはタイムリーに自分から質問することが求められる。各グループで最終日に「手洗い法」等の健康指導を行う。 ・病院実習：学生は、原則1人で患児1名を受け持ち、看護計画を立案し看護過程を実践する。受け持ち患児以外の小児に行われる検査・処置にも積極的に参加する。 ・病院実習の外来実習では看護師についてシャドー実習をして指導を受ける。諸計測などは積極的に実施する。
評価方法
原則100%出席すること。 実習態度、実習内容、受け持ち患者の看護過程、ケース発表、ファイナルレポートで、総合的に評価する。
オフィスアワー
月・水・木・金曜の16：10分～17:00, 研究室 事前にメールでアポイントを取ってください：野田；m-noda@gifuhoken.ac.jp 平岡；s-hiraoka@gifuhoken.ac.jp

実習科目				
科目区分	専門教育科目 -小児看護学			要をデ な達イ 能成プ 力すロ るマ たポ めリ にシ 必ー
授業コード	111084			人間力
授業科目名	小児看護学実習Ⅱ			ア・スピリット
配当学年/ 学期	3年 後期 必修	単位数	1	実践的理解
担当教員	平岡翠【実務家該当教員】、水木幸子【実務家該当教員】			プロフェッショナリズム
				多職種連携

講義概要（実習目的）
本臨地実習では、健康な小児と健康障害をもつ小児の双方に関わる体験を通して、成長・発達過程にある小児の特性とその家族への関わりを理解する。小児の成長発達を促進し健康レベルに適した援助ができるよう、保育所・重症心身障がい児センター・総合病院等における2週間の臨地実習を通して、小児看護に必要なとなる基本的な知識・技術・態度を修得する。
授業内容（実習目標）
1. 小児看護学の既習の知識・技術・経験などを基盤として小児と家族への看護を実施できる。 2. 保育所では小児の発達段階における特徴や個人差を考慮した日常生活への援助を実施し、保育の特徴とそのあり方を述べるができる。 3. 病院では健康障害のある小児の療養生活における看護上の問題に対して、看護過程の展開ができる。 4. 小児と家族への看護実習を通して専門職としての自己の課題を述べるができる。
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）
保育所実習では8施設に分かれて、各自3日間の実習を行う。前後して、9月からは総合病院と重症心身障がい児センターの2つの医療機関での実習を行う。健康な小児とのコミュニケーションをとり成長発達を理解する。また、健康障害のある小児とその家族への看護を実践する。なお、本科目は、小児看護概論、小児看護援助論Ⅰ・Ⅱの単位を取得していなければ履修することはできない。
教材
テキスト ・中野綾美：ナーシンググラフィカ小児看護学2、メディカ出版、2020年、3200円(税込) ・中野綾美：ナーシング・グラフィカ、小児の発達と看護、メディカ出版、2020年、3800円(税込) 参考図書 ・浅野みどり：根拠と事故防止からみた小児看護技術、医学書院、2020年、4400円(税込) ・浅野みどり：発達段階からみた小児看護過程、医学書院、2017年、4180円(税込) ・山元恵子：写真でわかる 小児看護技術、インターメディカ、2020年、3520円(税込)
授業計画及び学習課題（予習・復習）
1 実習場所 1) 保育施設実習 岐阜市の保育園、幼保園9か所 2) 病院実習 長良医療センター 一宮西病院 一宮市民病院 2 対象学生 岐阜保健大学看護学部3年次生（後期） 3 実習期間及び実習時間 実習期間 2023年（令和5年）10月～2024年（令和6年）3月 実習時間 原則として、9:00～16:00（15:30～16:00カンファレンス） 4 実習メンバー 1施設（1グループ）につき3名～5名の学生配置 5 実習スケジュール 原則として、月曜日～金曜日 病棟実習 実習最終日は、ケース発表を行う その他、詳細は「2023年度小児看護学実習要項」を参照の事 ※・保育所実習では、配置された保育所で、小児の保育を実践する。年齢別の小児の成長発達を理解するため、できるだけ異年齢のクラスに入り保育を実践する。 ・保育所実習では、3～3人で配置されるので、主体的に受け持つクラスで実習し、疑問などはタイムリーに自分から質問することが求められる。各グループで最終日に「手洗いや」等の健康指導を行う。 ・病院実習：学生は、原則1人で患児1名を受け持ち、看護計画を立案し看護過程を実践する。 受け持ち患児以外の子に行われる検査・処置にも積極的に参加する。 ・病院実習の外来実習では看護師についてシャドー実習をして指導を受ける。諸計測などは積極的に実施する。

評価方法
原則100%出席すること。 実習態度、実習内容、受け持ち患者の看護過程、ケース発表、ファイナルレポートで、総合的に評価する。
オフィスアワー
月・水・木・金曜の16：10分～17:00, 研究室 事前にメールでアポイントを取ってください：平岡：s-hiraoka@gifuuoken.ac.jp

講義科目					る デ イ ブ ロ マ ポ リ シ ー を 達 成 す の た め に 必 要 な 能 力		
科目区分	専門教育科目 -看護の統合と実践専門教育科目 -看護の展開					人間力	○
授業コード	111085					ケア・スピリット	
授業科目名	災害看護論					実践的理解	○
配当学年/ 学期	4年 後期 必修	単位数	1			プロフェッショナリズム	○
担当教員	船橋香緒里【実務家該当教員】，野田みや子【実務家該当教員】					多職種連携	○

講義概要			
災害が人々の健康と生活に及ぼす影響、災害の発生時から直後、中期、長期にわたって必要となる看護について学ぶ。災害の概念や災害サイクル、災害の疾病構造、救急医療と災害医療の異なり、災害看護の特殊性について説明する。次いで、防災の重要性とその実際、災害時における人々の生命や健康障害を支えるために必要な災害看護実践の基礎的知識・技術について理解を深め修得する。最後に、災害時の国際的な協力活動について考察を深める。			
授業内容（到達目標を含む）			
① 防災と減災、地域防災計画、災害の種類や災害サイクル、支援体制について理解できる。 ② 健康危機管理と災害各期における看護支援活動をイメージできる。 ③ 被災状況や放射線災害が及ぼす健康影響について把握する方法を理解できる。 ④ 災害時の医療救護活動の基本である（CSCATTT）について理解できる。 ⑤ 災害時の医療と看護（災害拠点病院、災害派遣チームと看護の連携及び役割を理解する。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
履修にあたり、各領域別看護学及び在宅看護学を十分に復習しておくこと。予習においてはテキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、復習においてはテキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める			
教材			
テキスト 酒井明子編ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践(3)『災害看護』 第4版 3,080円（税込み） 参考図書 小原真理子監修 南山堂 災害看護：心得ておきたい基本的な知識 改訂3版 3,080円（税込み）			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	防災と減災、地域防災計画、災害関連法 （船橋） 1) 災害看護とは 2) 災害医療に関する国の政策と法律 3) 地域防災計画（防災と減災）	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。予習時間：90分、復習時間：90分	可
第2回	災害時の医療を支えるしくみ(船橋) 1) 災害の定義と分類 2) 災害サイクルとその支援	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。予習時間：90分、復習時間：90分	可
第3回	健康危機管理(船橋) 1) 健康危機管理の概念と現状 2) 集団感染症対策 3) 健康被害：公害・被害・食品被害・放射能被害	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。予習時間：90分、復習時間：90分	可
第4回	災害各期の特徴と支援（1） （フェーズ0～1）（野田） 1) 災害時の医療救護活動の基本CSCATTT 2) DMATの活動	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。予習時間：90分、復習時間：90分	可
第5回	災害各期の特徴と支援（2） （フェーズ2～3）（船橋） 1) 救護所、避難所、福祉避難所、仮設住宅、被災した医療施設等）における生活支援 2) DHEATの活動	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。予習時間：90分、復習時間：90分	可
第6回	災害各期の特徴と支援（3） （フェーズ4～5）（船橋） 1) 多職種との連携・協働による看護の必要性 2) まちづくり支援	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。予習時間：90分、復習時間：90分	可
第7回	災害時の被災者・支援者の身体反応と心理過程（野田） 1) 被災者の心理状態 2) DPATの活動	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。予習時間：90分、復習時間：90分	可
第8回	災害看護の意義（船橋） 1) 災害各期における要支援者を含むすべての被災者への看護 2) 平常時の重要性	予習：災害各期に必要な支援をまとめる。 復習：平常時に必要なことをまとめておく。 予習時間：90分、復習時間：90分	可

評価方法
レポートにより評価する。
オフィスアワー
船橋香緒里 : 講義当日16:10~17:00(左記以外は事前に連絡を取って下さい) 連絡先e-mail:k-funahashi@gifuhoken.ac.jp 野田みや子 : 講義当日16:10~17:00(左記以外は事前に連絡を取って下さい) 連絡先e-mail:m-noda@gifuhoken.ac.jp

講義科目						
科目区分	専門教育科目 -看護の統合と実践			能 達 デ イ 力 成 イ ス ブ る た マ め ポ に リ 必 シ 要 な を	人間力	○
授業コード	111086				ケア・スピリット	
授業科目名	薬物療法と看護				実践的理解	○
配当学年/ 学期	3年 前期 選択	単位数	1		プロフェッショナリズム	○
担当教員	永井博式【実務家該当教員】，高木由美【実務家該当教員】， 小野悟【実務家該当教員】，吉崎純夫【実務家該当教員】				多職種連携	○
講義概要						
正確で安全な薬物療法を実施するための看護師の役割という観点で、主な薬物の作用や薬物動態の基礎的な理解を目的とする。また、事例により、用量、用法による違いや作用、副作用の意味を学び、リスクも踏まえて実際に薬物療法を行う際の援助の留意点に結びつけられるような基礎知識の獲得を目的とする。						
授業内容（到達目標を含む）						
1．主な薬物の作用や薬物動態について説明できる。 2．与薬法：経口、点滴、直腸内、点眼、経皮などの投与経路による作用や薬物動態の特徴を記述できる。 3．神経系に作用する薬剤、呼吸器・消化器・循環器疾患に用いる薬剤、疼痛緩和に用いる薬剤、化学療法の特徴や注意点を説明できる。						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
この科目の単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要であり、シラバスを熟読して学習を進めること。2/3以上の出席がない場合は課題レポート提出の権利がなく、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。						
教材						
後日周知						
授業計画及び学習課題（予習・復習）						
回	内容			学習課題（予習・復習）		遠隔授業
第1・2回	薬物療法と看護。①薬物の体内動態と相互作用の理解②薬物の剤形とその特徴に応じた患者教育指導の理解③薬物の体内動態とハイリスク患者の看護 (永井)			薬物管理学での学修を行う		可
第3回	①服薬支援と与薬（社会復帰に向けた自己管理、在宅での管理）、②薬物療法における看護師役割理解（統合失調症、うつ病）（小野）			基礎看護学の教本を熟読する		可
第4回	②薬物療法における看護師役割理解（事例：パーキンソン病、脳梗塞後遺症患者、心臓病、高齢者） (吉崎)			基礎看護学の教本を熟読する		可
第5回	③薬物療法における看護師役割理解（事例：女性のライフサイクルと疾患） (高木)			基礎看護学の教本を熟読する		可
第6回	対象に応じた自己管理①妊婦が薬を服用するときの心理的援助、②胎児への影響と危険度と使用時期、③服薬行動に向けた指導（高木）			薬物管理学での学修を行う		可
第7回	事例応じた薬物治療の基礎的知識に基づいた安全管理についての指導案作成			指導案に積極的に行動する		
第8回	薬物治療における安全管理の発表					
評価方法						
試験（80％）、課題（20％）						
オフィスアワー						
教員にアポイントを取って、オフィスアワーに質問等を行ってください。 永井博式：h-nagai@gifuhoken.ac.jp 月曜から水曜日の間、いつでも良いですが、前もって連絡ください。 高木由美：火・木・金(9:00—17:00) 事前にご連絡下さい。 y-takagi@gifuhoken.ac.jp 小野悟：火・水・木・金(12:30-17:00) s-ono@gifuhoken.ac.jp 吉崎純夫：s-yoshizaki@gifuhoken.ac.jp						

講義科目						要 を デ イ 能 成 ブ 力 す ロ マ た ポ め リ に シ 必		
科目区分	看護専門教育科目-看護の統合						人間力	○
授業コード	111087						ケア・スピリット	
授業科目名	チームワークとリーダーシップ						実践的理解	○
配当学年/ 学期	4年 後期 選択	単位数	1				プロフェッショナルリズム	○
担当教員	平岡 翠【実務家該当教員】						多職種連携	

講義概要			
人はさまざまなチームの中で仕事をしており、最大限に効果的・効率的にチームが機能していくためには、チームワークとリーダーシップの問題を避けて通ることはできず、将来の看護の職務においても重要な概念である。チームの中で各メンバーはどうふるまうか、リーダーの行動が全体にどう影響するかなど、チームワークとリーダーシップの各機能を学修し、各個人の資質や持ち味を活かすアプローチになるのかを事例を交えて講義する。 人はさまざまなチームの中で仕事をしており、最大限に効果的・効率的にチームが機能していくためには、チームワークとリーダーシップの問題を避けて通ることはできず、将来の看護の職務においても重要な概念である。チームの中で各メンバーはどうふるまうか、リーダーの行動が全体にどう影響するかなど、チームワークとリーダーシップの各機能を学修し、各個人の資質や持ち味を活かすアプローチになるのかを事例を交えて講義する。			
授業内容（到達目標を含む）			
チームの中で各メンバーはどうふるまうか、リーダーの行動が全体にどう影響するかなど、チームワークとリーダーシップの各機能を学修し、各個人の資質や持ち味を活かすアプローチについて理解することができる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
基礎知識を理解するには各回の授業テーマに合わせた課題に対して自己学習を行う。授業内容の理解を促進するためには、自己学習をしてから、授業に臨むこと。毎回授業でミニッツノートを渡すので、授業に関する意見や質問があればそこに記入すること。ミニッツノートの内容は、授業時間内に解説する。2/3以上の出席がない場合は、定期試験を受けることができず、単位を取得することができない。			
教材			
テキスト：「チーム・ビルディング」堀公俊、加藤彰、加留部貴行、日本経済新聞出版社、2016、価格2,200円 「ナースングラフィカ看護の統合と実践①看護管理」吉田千文、志田京子他編、メディカ出版、2018、価格3,080円参考図書：授業で適宜紹介する			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	オリエンテーション：チームとは何か、チームに求められること、メンバーシップについて	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す 予習時間30分、復習時間60分	可
第2回	効果的にチームを作るために必要な基本的な事項について	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す 予習時間30分、復習時間60分	可
第3回	チーム医療について：4つの要素、役割分担における看護の専門性	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す 予習時間30分、復習時間60分	可
第4回	演習①：現在の医療における「チーム医療」として重要な要素及びそのための行動についてグループ討議を行い、グループでの考えをまとめる	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート①を記述する 予習時間30分、復習時間60分	不可
第5回	組織とリーダーシップ、リーダーシップ論について	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す 予習時間30分、復習時間60分	可
第6回	マネジメントとリーダーシップについて	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す 予習時間30分、復習時間60分	可
第7回	演習②：非常時のリーダーシップについてグループ討議を行い、グループでの考えをまとめる	予習：指定された教科書に目を通す 復習：配布資料を読み返す 予習時間30分、復習時間60分	不可
第8回	演習①、演習②の発表と意見交換まとめ	予習：指定された教科書に目を通す 復習：課題レポート②を記述する 予習時間30分、復習時間60分	可

評価方法
課題レポート30%、期末試験70%により評価する
オフィスアワー
平岡翠　：授業後30分　連絡先s-hiraoka@gifuhoken.ac.jp　※これ以外は事前にアポイントを取ってください。

講義科目						要 を デ イ な 達 イ 能 成 プ 力 す ロ る マ た ポ め り に シ 必 ！	人間力	
科目区分	看護専門教育科目-看護の統合						ケア・スピリット	○
授業コード	111088						実践的理解	○
授業科目名	感染看護論						プロフェッショナリズム	○
配当学年/ 学期	3年 前期 選択	単位数	1				多職種連携	
担当教員	平岡 翠【実務家該当教員】							

講義概要			
感染上の問題を持つ感染症患者および易感染患者の看護について、看護上の必要や特徴に基づき、①感染症ならびに感染対策の歴史を踏まえた感染症患者や家族への看護のあり方、②地域および病院における感染症の発生要因と防止方法、③国際感染症と感染防止対策、④感染症患者のQOLの維持、向上のための看護と家族への支援を学ぶ。また、HIV感染者の生活について考えを深める。			
授業内容（到達目標を含む）			
1. 国内外での感染症の動向、日本における関連法規と地域及び病院における感染症発生状況を把握する 2. 感染成立のメカニズムと標準予防策、感染経路別予防策について説明できる 3. 適切な手指衛生と个人防护具の適正な着脱が実践できる 4. 医療関連感染を防止するための組織的な取り組みについて説明できる 5. 看護場面での感染防止ケアについて説明できる 6. 感染対策や感染症患者に生じやすい倫理的な問題を述べるができる			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
感染看護は、どんな場でも重要であり、基礎知識を理解するには各回の授業テーマに合わせた課題に対して自己学習を行う。授業内容の理解を促進するためには、自己学習をしてから、授業に臨むこと。毎回授業でミニッツノートを渡すので、授業に関する意見や質問があればそこに記入すること。ミニッツノートの内容は、授業時間内に解説する。2/3以上の出席がない場合は、定期試験を受けることができず、単位を取得することができない。			
教材			
テキスト：「ナーシンググラフィカ疾病の成り立ち⑧臨床微生物・医動物」矢野久子、安田陽子編集、メディカ出版、2018、価格3,520円 参考図書：授業で適宜紹介する			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	オリエンテーション、国内外での感染症の動向、日本における感染症関連法規と地域及び病院における感染症の発生状況を把握する、医療関連感染、標準予防策、と感染経路別予防策	予習：P183～P187を読んでおく 復習：配布した資料を読み返す 予習時間120分、復習時間120分	可
第2回	感染成立のメカニズムと看護の役割、アセスメント ※課題①を提示	予習：P188～P194を読んでおく 復習：配布した資料を読み返す、レポート課題①に取り	可
第3回	医療関連感染を防止するための組織的な取り組み①療養環境整備、職業感染予防、ワクチン接種	予習：P196～P212を読んでおく 復習：配布した資料を読み返す、レポート課題①に取り 組む 予習時間120分、復習時間120分	可
第4回	演習：手指衛生、个人防护具の適正な着脱法 ※課題①を提出	予習：演習項目について、これまでに学んだ内容を復習しておく 復習：習得できるまで演習内容を自己反復する	
第5回	医療関連感染を防止するための組織的な取り組み②洗浄・消毒・滅菌、医療廃棄物の取り扱い	予習：P203～P212を読んでおく 復習：配布した資料を読み返す 予習時間120分、復習時間120分	可
第6回	看護場面での感染防止ケア①肺炎予防、尿路感染予防、手術部位感染予防 ※課題②提示	予習：P163～P177を読んでおく 復習：配布した資料を読み返す、レポート課題②に取り 組む 予習時間120分、復習時間120分	可
第7回	看護場面での感染防止ケア②血流感染予防、感染症検査、薬物療法における看護ケア	予習：P214～P239を読んでおく 復習：配布した資料を読み返す、レポート課題②に取り 組む 予習時間120分、復習時間120分	可
第8回	感染対策や感染症患者に生じやすい倫理的な問題と看護の役割、HIV感染者等の事例によるグループ討議 授業全体を通してのまとめ ※課題②提出	予習：感染者の生活、倫理的問題について起こっていることに対して考えてくる 復習：配布した資料を読み返し、倫理的な問題への看護者としての役割について自分の考えをまとめる 時間120分、復習時間120分	
評価方法			
授業態度10%、課題レポート30%、期末試験60%により評価する			
オフィスアワー			
平岡翠 ：授業後30分 連絡先s-hiraoka@gifuhoken.ac.jp ※これ以外は事前にアポイントを取ってください。			

講義科目	看護専門教育科目-看護の統合			要を 達成 する ため に 必 ず	人間力		
科目区分					ケア・スピリット	○	
授業コード					111089	実践的理解	○
授業科目名					医療安全管理論		
配当学年/ 学期	4年 後期 選択	単位数	1		プロフェッショナルイズム	○	
担当教員	藤原奈佳子【実務家該当教員】，水木幸子【実務家該当教員】，水田恵利子【実務家該当教員】，石井英子【実務家該当教員】				多職種連携		

講義概要			
医療安全における基本的な知識、看護職の責務と役割について学習する。また、医療現場における危険の予知と回避、事故防止などの安全対策の理論と方法を学習する。			
授業内容（到達目標を含む）			
1. 医療安全の基本的な知識とは何かを説明できる。 2. 看護業務の範囲と責任について説明できる。 3. ヒューマンエラーの知識を生かした事故防止策について説明できる。 4. 事故報告の意味と必要性について説明できる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
日常のヒューマンエラー、臨地実習での経験を基にした事前課題に取り組んでから授業に参加する。予習ではテキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。復習ではテキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。			
教材			
ナーシング・グラフィカ、看護統合と実践②医療安全 メディカ出版第4班			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	医療安全と看護の理念（藤原）	予習：看護の定義、業務独占、名称独占、法的責任の種類について調べる	可
第2回	医療安全への取り組みと医療の質の評価（藤原）	予習：今、なぜ医療安全が注目されるのか 復習：基礎看護学実習や文献を通して、医療安全について自分の考えをレポートする。 「看護師に必要な基本的態度について」提出	可
第3回	事故発生のメカニズムとリスクマネジメント／チームで取り組む安全文化の醸成（藤原）	予習：人間の特性、「事故発生などについて」レポートする 復習：ヒューマンエラーとはを調べる	可
第4回	看護業務に関連する事故と安全対策①（水木）医療機関における感染管理の看護師の役割。①基本的な感染予防策、・標準予防策・個人防護具の説明・感染経路別予防策など	予習・復習：病院実習を通して感染管理の組織的取り組みがどのようにされていたかを振り返る	可
第5回	看護業務に関連する事故と安全対策②（水木）職業感染対策①針差し事故・切り傷、粘膜部位暴露対策②流行性ウイルス感染症対策【関連動画】 ・点滴静脈内注射、・経口与薬、・患者確認、・針刺し事故防止、・転倒転落防止策①、・転倒転落防止策②、・呼吸と嚥下、・医療事故対策適合品、・アラームが鳴ったときの対処法、・輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い	予習：教科書や資料から判例を調べる（文献、）インターネット、新聞など）	可
第6回	在宅看護における医療事故と安全対策／医療従事者の安全を脅かすリスクと対策（石井）【関連動画】・住宅改修の一例、・高齢者の住環境整備、・介護ベッドでの事故、・福祉現場で働く看護職	予習：在宅における医療安全事故が起こる背景を調べる	可

第7回	看護学生の実習と安全（水木）・過失と結果 予見義務 p. 226 ・ KYTの実際～事故予防のために～ p. 229 ・ 実習前に知っておきたいチェックポイント p. 234	復習：・実習中の事故に関する法的責任につ いて説明できる。 ・実習中の事故への備え（補償）について説 明できる。	可
第8回	演習、まとめ（藤原、石井）【関連動画】 ・ KYTの実際～事故予防のために～ ・ シミュレーション学習 p. 237	・看護実践に潜む危険性を判断し、危険を回 避するための方策を修得できる。	
評価方法			
授業態度10%、課題レポート60%、期末試験30%により評価する			
オフィスアワー			

講義科目						
科目区分	看護専門教育科目-看護の統合			要なを 能達 力成 すプ るロ るマ たポ めリ にシ ー 必	人間力	
授業コード	111090				ケア・スピリット	○
授業科目名	国際保健医療活動論				実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 後期 必修	単位数	2		プロフェッショナルズム	
担当教員	高久道子【実務家該当教員】				多職種連携	○

講義概要			
国や地域によって政治、経済、文化は異なり、人々生活や健康状況や問題も様々だが、世界で起こっている問題は日本で暮らす私たちにも影響する。本講義では、グローバルヘルスの歴史、概念、世界・国内・地方規模の取り組みについて事例を通して学修する。開発途上国での感染症、乳幼児や妊産婦の健康、環境、衛生問題について、WHOなど保健医療分野で支援を行う国際機関、日本の政府開発援助や国際協力機構、民間団体など、組織の役割や取り組み、事例について学修する。			
授業内容（到達目標を含む）			
世界の健康課題とそれらに対する取り組みを、国際情勢と関連づけて理解する。国際保健の基本となる概念を理解し、国際保健活動の現状と課題について考察する。 到達目標： 1) 現代の国際社会における健康課題の特徴とその背景を理解し、他の人に説明できる。 2) 現代の国際社会における健康課題に対する国際的な取り組みを具体的に挙げ、その課題を分析することができる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
この科目の単位修得には約30時間の授業時間以外の学修（学習課題：予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。シラバスを熟読して学習を進めること。2/3以上の出席がない場合は評価を受ける権利を得られず、単位を取得することができない。20分以上の遅刻は欠席とみなす。 注意）JICAなごや地球ひろばの訪問日時については、決まり次第連絡します。			
教材			
教科書：「知って考えて実践する 国際看護」、近藤麻里、医学書院（1,800円+税）（1年時に購入済） 参考図書：外務省ホームページ、JAPAN SDGs Action Platform SDGs達成に向けた分野別取り組み 「平和と健康のための基本方針」 https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/pdf/000099126.pdf			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	国際保健とは？プライマリ・ヘルスケア、ヘルスプロモーション	予習120分：教科書第1章を熟読する。 復習120分：プライマリ・ヘルスケア、ヘルスプロモーションについて各200字程度にまとめ、グレксаに提出する。	可
第2回	グローバルヘルス・ガバナンス、人間の安全保障、持続可能な開発目標（SDGs）	復習240分：人間の安全保障、SDGsについて各200字程度にまとめ、グレксаに提出する。	可
第3回	国境を越える健康課題1：三大感染症、その他感染症	復習240分：講義内容を200字程度にまとめ、グレксаに提出する。	可
第4回	国境を越える健康課題2：HIV感染予防対策の取り組み	予習120分：教科書第2章を熟読する。 復習120分：講義内容を200字程度にまとめ、グレксаに提出する。	可
第5回	国境を越える健康課題3：移民の健康	予習120分：第2章を熟読する。 復習120分：講義内容を200字程度にまとめ、グレксаに提出する。	可
第6回	日本の中の国際保健：日本で暮らす外国人の健康課題	予習120分：教科書第1章を熟読する。 復習120分：講義内容を200字程度にまとめ、グレксаに提出する。	可
第7回	異文化看護の実践（JICAなごや地球ひろば訪問）	予習120分：教科書第1、2、4章を熟読する。 復習120分：講義内容をまとめ、課題レポートにまとめる。	不可
第8回	国際保健を担う組織とその活動：国際機関、政府開発援助（JICAなごや地球ひろば訪問）	予習120分：教科書第3章と参考図書を熟読する。 復習120分：体験訪問について課題レポートにまとめる。	不可

キーワード	グローバスヘルス、国際協力、持続可能な開発目標（SDG s）、政府開発援助（ODA）	
評価方法		
復習提出20%、小テスト40%、レポート40%により評価する。 S（100～90点）：到達目標をほぼ完全に達成している。 A（89～80点）：到達目標を相応に達成している。 B（79～70点）：到達目標を相応に達しているが、不十分な点がある。 C（69～60点）：到達目標の最低限は満たしている。 D（60点未満）：Cのレベルに達していない。		
オフィスアワー		
木曜（研究日）以外の平日。昼休み対応可。 できれば事前にメールで連絡ください。連絡先 m-takaku@gifuuoken.ac.jp		

実習科目						
科目区分	看護専門教育科目-看護の統合			要をデ な達イ 能成プ 力すロ るマ たポ めリ にシ 必	人間力	
授業コード	111091				ケア・スピリット	
授業科目名	国際看護活動論実践看護				実践的理解	○
配当学年/ 学期	4年 前期 選択	単位数	1		プロフェッショナルizm	
担当教員	高久道子【実務家該当教員】、小萱康德【実務家該当教員】				多職種連携	○

講義概要（実習目的）					
本臨地実習では、在日外国人や性的マイノリティ（LGBTIQ+）の健康課題等、国際保健分野における看護を 実践できる機会とする。約1週間の臨地実習を通して、異文化看護の基本的な知識・技術・態度を修得する。					
授業内容（実習目標）					
複数の実習先に分かれて、各自3日間の実習を行う。 1. 在日外国人の健康課題を理解し、異文化看護を実践するための知識・技術・態度を修得する 2. 性的マイノリティの健康課題を理解し、異文化看護を実践するための知識・技術・態度を修得する					
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）					
本科目は、国際保健医療活動論の単位を取得していなければ履修できない。					
教材					
教科書1:「知って考えて実践する 国際看護」、近藤麻里、医学書院（1,800円+税）（1年時に購入済み） 教科書2:厚生労働統計協会「厚生統計協会 国民衛生の動向・厚生指標」（購入済みのもので良し）					
授業計画及び学習課題（予習・復習）					
1 実習先（予定） 1) 在日外国人の集う施設 2) 性的マイノリティの集う施設またはイベント ※1) か2) に分かれて実習を行う。 2 対象学生 看護学部4年次生（前期） 3 実習期間及び実習時間 実習期間 後日提示 実習時間 原則として9:00～17:50（1～5限） 4 実習スケジュール 臨地実習1週間のなかで、3日間を実習とし、実習最終日はケース発表を行う。					
評価方法					
原則100%出席すること。実習態度、実習内容、実習過程、ケース発表、ファイナルレポートで、総合的に評価する。					
オフィスアワー					
高久：研究日以外の平日、昼休みも対応します。連絡先 m-takaku@gifuuoken.ac.jp 小萱：メールで対応します。連絡先 y-kogaya@gifuuoken.ac.jp					

実習科目					要 を デ イ 能 成 ブ カ す ロ マ た ポ め リ に シ 必		
科目区分	看護専門教育科目-看護の統合					人間力	
授業コード	111092					ケア・スピリット	
授業科目名	医療的ケア論実践看護（小児・母性）					実践的理解	○
配当学年/ 学期	4年 前期 選択	単位数	1			プロフェッショナリズム	
担当教員	野田みや子, 近藤邦代, 石田美和, 高木由美, 平岡翠【全員実務家該当教員】					多職種連携	○

講義概要（実習目的）	
学校における医療的ケアの現状と学校に勤務する看護師の役割について学ぶ	
授業内容（実習目標）	
①経管栄養や導尿等を通じた生活のリズムの形成②吸引や姿勢変換の必要性など自分の意思や希望を伝える力を学ぶ ③排痰の成功などによる自己肯定感・自尊感情の向上を理解する④安全で円滑な医療的ケアの実施による信頼関係の構築を理解する	
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
全ての回数を参加する	
教材	
授業計画及び学習課題（予習・復習）	
週	実習計画 例（各施設の方針や体制に合わせて日時・内容を決定する）
第1日目	学校において教員等が行うことのできる医療的ケアの内容と範囲
第2日目	学校における医療的ケア特定行為（・口腔内の喀痰吸引、鼻腔内の喀痰吸引、気管カニューレ内の喀痰吸引、胃ろう又は腸ろうによる経管栄養、経鼻経管栄養）と特定行為以外の医行為看護師等の免許を持った者が実施）違い
第3・4日目	栄養：●経管栄養（鼻腔に留置されている管からの注入）、●経管栄養（胃ろう）、●経管栄養（腸ろう）、経管栄養（口腔ネラトン法）、I V H中心静脈栄養
第5・6・7日目	呼吸：●口腔・鼻腔内吸引（咽頭より手前まで）、口腔・鼻腔内吸引（咽頭より奥の気道） ●気管切開部（気管カニューレ内）からの吸引、気管切開部（気管カニューレ奥）からの吸引、経鼻咽頭エアウェイ内吸引、気管切開部の衛生管理、ネブライザー等による薬液（気管支拡張剤等）の吸入、経鼻咽頭エアウェイの装着、酸素療法、人工呼吸器の使用
第8日目	まとめレポート
評価方法	
オフィスアワー	

講義科目				要 な 達 イ 能 成 プ 力 す ロ る マ た ポ め リ に シ 必	人間力	○
科目区分	看護専門教育科目-看護の統合				ケア・スピリット	
授業コード	111093				実践的理解	○
授業科目名	災害看護活動実践看護（公衆衛生・小児）				プロフェッショナリズム	○
配当学年/ 学期	4年 後期 選択	単位数	1		多職種連携	○
担当教員	野田みや子【実務家該当教員】，船橋香緒里【実務家該当教員】					
講義概要						
災害時に適切な看護ケアを提供するために、災害が人々の健康や生活に及ぼす影響を理解し、人々の健康や生活のニーズに応じた看護の果たす役割について学修する。授業内容は災害の種類と疾病構造、災害サイクルにおけるフェーズの特徴、災害に関する社会の仕組みや個人の備え、災害が人々に及ぼす影響と災害サイクルにおける看護活動等とし、災害発生時の被災者に向けた安全なケア環境の提供を行うための能力を身につける。						
授業内容（到達目標を含む）						
被災者の生活の場の特性、被災者のニーズについて、教科書等を基にグループワークを行う。避難所の設営と運営の一環として、避難所に居住する被災者の時期別健康障害、生活上の課題について学ぶ。要配慮者の法制度、健康障害、災害関連死の予防対策等について学ぶ。避難所の設営と運営を実践的に行う。						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
履修にあたり、災害看護論講義資料及びテキストを十分に復習しておくこと。復習においてはテキスト、講義資料、参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。予習については必要時示す。						
教材						
テキスト 酒井明子編ナースিং・グラフィカ看護の統合と実践(3)『災害看護』 第4版 3,080円（税込み） 参考図書 小原真理子監修 南山堂 災害看護：心得ておきたい基本的な知識 改訂3版 3,080円（税込み）						
授業計画及び学習課題（予習・復習）						
回	内容		学習課題（予習・復習）		遠隔授業	
第1回	1)本演習科目のオリエンテーションを行う。 2)岐阜県広域防災センターについて		予習：災害看護論を復習しておく 復習：病院で被災した場合と自宅で被災した場合の行動を考えておく。 予習90分復習90分		不可	
第2回	岐阜県広域防災センターの見学と体験① 地震体験 避難所体験		予習：災害看護論を復習しておく 復習：体験で感じたことをまとめておく。 予習90分復習90分		不可	
第3回	岐阜県広域防災センターの見学と体験② 濃煙迷路体験		予習：災害看護論を復習しておく 復習：体験で感じたことをまとめておく。 予習90分復習90分		不可	
第4回	岐阜県広域防災センターの見学と体験③ 展示パネル等の見学		予習：災害看護論を復習しておく 復習：体験で感じたことをまとめておく。 予習90分復習90分		不可	
第5回	グループワーク1 岐阜県広域防災センターの見学と体験から 岐阜県の特徴を考える。		予習：自分自身の防災をまとめておく 復習：避難所の問題を考える。岐阜県の災害の特徴をまとめる。		不可	
第6回	グループワーク2 岐阜県広域防災センターの見学と体験から 平常時必要な準備を考える。		予習：ハイリスク被災者にあたる人はどんな人か 考えておく 復習：平常時必要なことをまとめる。		不可	
第7回	グループワーク3 岐阜県広域防災センターの見学と体験から 発災時に必要な支援を考える。		予習：災害時必要な看護を考えておく 復習：長期間にわたる支援をまとめる		不可	
第8回	1 から3についてプレゼンテーションと 意見交換		予習：プレゼンテーション資料の作成 復習：災害に必要な看護活動をまとめる		不可	
評価方法						
課題レポート 30% 演習参加度 70%						
オフィスアワー						
船橋香緒里 講義当日16:10～17:00(左記以外は事前に連絡を取って下さい) 連絡先e-mail:k-funahashi@gifuuoken.ac.jp 野田みや子 ：講義当日16:10～17:00(左記以外は事前に連絡を取って下さい) 連絡先e-mail:m-noda@gifuuoken.ac.jp						

実習科目				要を ディ な達 イ 能成 ブ 力す ロ るマ たポ めリ にシ 必！	人間力	
科目区分	看護専門教育科目-看護の統合				ケア・スピリット	
授業コード	111094				実践的理解	○
授業科目名	シミュレーション実践看護（基礎）				プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	3年 前期 選択	単位数	1		多職種連携	○
担当教員	原田英子【実務家該当教員】，水木幸子【実務家該当教員】， 吉崎純夫【実務家該当教員】					
講義概要（実習目的）						
本実習は基礎看護学実習ⅠとⅡを終え、3年後期から開始される領域実習を前にシミュレーションセンター室を活用して、看護実践力を育成します。具体的には、今までの技術・知識の振り返りを行い、看護技術の研鑽を行います。実習中に知識を問う試験とOSCE（Objective Structured Clinical Examination;客観的臨床能力試験）を看護共用試験（3年次、領域実習前）として行います。判断力・技術力・マナーなど実践の現場で必要とされる臨床技術の修得状況を評価し、自己の学修課題や疑問を明確にし、解決した上であることを目指します。						
授業内容（実習目標）						
この実習を受講前までに学んだ全ての技術・知識について、技術・知識の定着を図ることができる。OSCEを通して、看護としてのエビデンスに基づくアセスメント、アセスメントに基づく観察や看護の提供を一連のプロセスとして提供できる。自分の意見を述べ、相手の意見を尊重する姿勢で積極的な意見交換が行える。自己の学習課題や疑問を明確にし、解決に導く方策を述べることができる。						
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）						
3年後期からの実習を前に、今まで学習してきたことを丁寧に復習することができる貴重な機会です。実習時間数は1単位45時間です。対面での実習時間を含め、1日9時間の学修が行えるよう行動計画を立てて下さい。自己の課題を明確にして、自己研鑽がつめるよう積極的な姿勢を求めます。						
教材						
特に指定しない。今まで購入した看護系教科のテキストを必要に応じて持参すること。						
授業計画及び学習課題（予習・復習）						
週	実習計画 例（各施設の方針や体制に合わせて日時・内容を決定する）					
第1日目	オリエンテーション、シミュレーションセンター室・演習室を使用した技術演習・知識確認①					
第2日目	シミュレーションセンター室・演習室を使用した技術演習・知識確認②					
第3日目	OSCE①（実技試験）、フィードバック					
第4日目	OSCE②（実技試験）、フィードバック					
第5日目	受講前までに学んだ技術・知識の復習（知識を問う試験と解説）					
評価方法						
原則100%出席すること。 知識を問う試験結果、及び、OSCE①②の評価合わせて100%。						
オフィスアワー						
原田：e-harada@gifuuoken.ac.jp 吉崎：s-yoshizaki@gifuuoken.ac.jp						

実習科目					能力達成 のための プログラム に 必要 な を	人間力	
科目区分	看護専門教育科目-看護の統合					ケア・スピリット	
授業コード	111095					実践的理解	○
授業科目名	健康と運動実技（市民スポーツ教室実習）成人・老年					プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	3年 前期 選択	単位数	1			多職種連携	○
担当教員	永坂和子【実務家該当教員】、梶原志保子【実務家該当教員】、吉崎純夫【実務家該当教員】						

講義概要（実習目的）	
地域社会で行われるスポーツ大会等行事にボランティアスタッフとして参加することで、健康の維持・増進に深く関わる看護職の役割を学び、学生自身の健康についても考える機会とする。	
授業内容（実習目標）	
1. 運動が健康に及ぼす影響を理解できる。 2. 運動時に起こりうる健康障害について理解できる。 3. 救護活動の基礎知識と留意点について理解できる。 4. 心肺蘇生法を修得できる。 5. 救護ボランティアとして活動できる。 6. 自身の健康について考えを述べるができる。	
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）	
1. 該当領域の単位を取得。 2. 実習要項に準ずる。	
教材	
1. 救命講習テキスト（消防署）	
授業計画及び学習課題（予習・復習）	
詳細は健康と運動実技（市民スポーツ教室実習）要項を参照のこと	
評価方法	
実習態度・実践内容60%、課題レポート40%により評価する。	
オフィスアワー	
永坂和子：月～木（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。k-nagasaka@gifuuoken.ac.jp 梶原志保子：月～水、金（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。s-kajiwara@gifuuoken.ac.jp 吉崎純夫：月～水、金（9:00～17:00）事前にアポイントを取ってください。s-yoshizaki@gifuuoken.ac.jp	

講義科目				要 を デ イ 能 成 ブ 力 す ろ る マ た ポ め リ に シ 必	人間力	
科目区分	看護専門教育科目-看護の統合				ケア・スピリット	○
授業コード	111096				実践的理解	○
授業科目名	癒やしとタッチケア				プロフェッショナリズム	
配当学年/ 学期	3年 前期 必修	単位数	1		多職種連携	○
担当教員	野田みや子【実務家該当教員】，石田美知【実務家該当教員】					

講義概要			
看護現場において癒しをもたらすケアの方法とその実践について、実際の臨地施設での事例を用いて、科学的見地から学び、将来の看護実践に役立てる。看護の役割と癒しのケアとの関連や、近年その効果が広く注目されているタッチケアの概念やホルモン効果を基盤として、有用な基本手技を学び、看護の対象者に癒やしをもたらすためのタッチケアが実践でき、その効果が考察できる能力を修得する。本科目を通じて、看護職者がその対象者に癒やしをもたらす技法を、実践的に身につける。			
授業内容（到達目標を含む）			
癒しとタッチケアに関するテキストで該当する章や項目を読み解く。 履修学生は、講義で実施される演習時間を有効に学習し、臨床看護実践能力を獲得する基礎知識となるよう、積極的に参加する。 履修学生は、想像力・考察力を高めるために演習項目ごとに、課題レポートを作成して提出する。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
臨床看護で癒しとタッチケアは、対象の心理的・身体的な理解による看護実践を行うために、本科目は重要である。履修学生は、本科目の基礎知識を理解するよう各回の授業テーマにあわせた課題の予習と復習を行う。この科目の単位修得には約15時間の授業時間以外の学修（学習課題；予習・復習に示されている内容の学修）が必要である。			
教材			
テキスト 特に指定しない、適宜提示する 参考図書 ・母子の健康科学特・基礎助産学3、医学書院、2020、3800円(税別) ・森恵美他著、「系統看護学講座 母性看護学概論」、医学書院、2020、2640円(税込) ・奈良間美保他著、「系統看護学講座 小児看護学概論」、医学書院、2020、3190円(税込) ・北川公子他著、系統看護学講座 老年看護学」、医学書院、2020、2970円(税込)			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	ガイドライン 癒しとは：タッチケアとは 補完代替医療について（野田）	予習：健康な人の癒し、病気になった人の癒しについてまとめる(120分) 復習：提示された代替医療の日々の実践(120分)	可
第2回	小児の代表的疾患と代替医療(野田)	予習：実践した代替医療の効果に関するまとめ(120分) 復習：提示された代替医療の日々の実践(120分)	可
第3回	母性の代表的疾患と代替医療(野田)	予習：実践した代替医療の効果に関するまとめ(120分) 復習：提示された代替医療の日々の実践(120分)	可
第4回	成人の代表的疾患と代替医療(野田)	予習：実践した代替医療の効果に関するまとめ(120分) 復習：提示された代替医療の日々の実践(120分)	可
第5回	高齢者の代表的疾患と代替医療(野田)	予習：実践した代替医療の効果に関するまとめ(120分) 復習：提示された代替医療の日々の実践(120分)	可
第6回	タッチケアの効果 新生児、乳児へのタッチケア(石田)	予習：実践した代替医療の効果に関するまとめ(120分) 復習：提示されたタッチケアの家庭での実践(120分)	可
第7回	幼児・小児へのタッチケア(石田)	予習：実践したタッチケアの効果に関するまとめ(120分) 復習：提示されたタッチケアの家庭での実践(120分)	可
第8回	女性・母性へのタッチケア(石田) まとめ（野田・石田）	予習：実践したタッチケアの効果に関するまとめ(120分) 復習：提示された課題のレポート作成(120分)	可
評価方法			
課題レポート60%、演習のミニテスト40%より評価する。			
オフィスアワー			
石田：火・水・木・金の16:10から17:00、事前連絡は：@gifuhoken.ac.jp) 野田：月・水・木・金の16:10分から17:00、研究室(事前のAppointment必要：m-noda@gifuhoken.ac.jp)			

講義科目						要 を デ イ 能 成 ブ 力 す る マ た ポ め リ に シ 必		
科目区分	専門教育科目 -看護の展開						人間力	
授業コード	111197						ケア・スピリット	
授業科目名	公衆衛生看護学概論						実践的理解	○
配当学年/ 学期	2年 後期 必修	単位数	1				プロフェッショナルリズム	
担当教員	船橋香緒里【実務家該当教員】						多職種連携	○

講義概要			
公衆衛生看護の理念と目的、公衆衛生看護の原則、公衆衛生看護の対象について、地域保健法下における保健師の役割について教授する。また、公衆衛生看護活動のはじまりと歴史的な発展についての理解と住民との協同による地域づくり、ヘルスケアづくりについて教授する。さらには、地域保健、学校保健、産業保健の健康戦略とヘルスプロモーションの促進についても教授する。			
授業内容（到達目標を含む）			
1. 公衆衛生看護学の基本的な理念を理解できる。 2. 地域で生活する個人・家族・特定集団・コミュニティについて、対象者の特徴と支援の基本的な考え方を理解できる。 3. 多様な公衆衛生看護活動の対象と場への保健師の役割と活動内容を理解できる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
・配布資料した資料と講義の内容を教科書・参考書を使用してノートに整理し、復習しておくこと（想定復習時間は 60 分程度）。			
教材			
公衆衛生看護学 JP インターメディカル 参考図書1：「国民衛生の動向2022/2023」、厚生労働統計協会、（1年次後期に購入済） 参考図書2：「令和4年版厚生労働白書」ダウンロードURL：https://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	公衆衛生看護の概念 1) 公衆衛生看護の定義と役割 2) 公衆衛生看護活動とは	公衆衛生の定義を理解する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 復習時間：90分	可
第2回	社会・家族機能と生活基盤の変化 1) 生活単位の変化 2) 家族機能の変化 3) ライフスタイルの変化	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分	可
第3回	地域や職場における機能 1) ソーシャルサポートネットワーク 2) フォーマルサポート、インフォーマルサポート 3) 地域活動への参加	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分	可
第4回	労働と健康 1) 産業保健 2) 労働衛生の3管理 3) 産業保健における健康診断と管理	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分	可
第5回	保健活動の基盤と制度① 1) 地域保健：保健所・保健センター 2) 母子(親子)保健：乳幼児健康診査、 3) 健やか親子21	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分	可
第6回	保健活動の基盤と制度②成人保健 1) 健康増進法・健康日本21 2) がん対策 3) 循環器疾患の予防、糖尿病の予防	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分	可
第7回	生活習慣病の予防 1) 主な生活習慣病の現状 2) 栄養、運動、休息、喫煙・飲酒対策 3) 特定健診・特定保健指導	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分	可

第8回	保健活動の基盤と制度③高齢者保健ほか 1) 高齢者対策（介護保険を除く） 2) 難病対策 3) その他支援が必要な人々	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分	可
第9回	保健活動の基盤と制度④精神保健 精神保健医療福祉の施策 精神障害者（児）の医療と福祉 こころの健康対策、自殺対策	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分	可
第10回	保健活動の基盤と制度⑤学校保健 1) 健康診断、健康相談 2) 感染症対応 3) 学校環境衛生	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分	可
第11回	職場の健康管理 1) 業務上疾病の予防 2) 労働衛生 3 管理 3) 仕事と家庭の両立支援	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分	可
第12回	理論モデル 1) 活用できる理論モデル 2) どこでどう使うか 3) 保健指導とは	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分	可
第13回	サービスの提供体制① 1) 福祉分野：地域包括ケアの構築 2) 在宅ケア：地域連携	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分	可
第14回	サービスの提供体制② 1) 医療と医療行政（医療圏） 2) 医療保険と受領状況（患者調査から）	予習：指定されたページをを熟読する。 復習：講義で配布した資料と教科書を見直す。 予習時間：90分、復習時間：90分	可
第15回	これからの公衆衛生 看護 1) 最近のトピックス 2) まとめ	予習：1～14回の講義内容で疑問があればまとめておく 復習：看護師国家試験過去問題で復習をする	可
評価方法			
レポート（課題）10%、最終試験90%により評価する。			
オフィスアワー			
学内にいる限りは対応します。 メールでの対応可。連絡先 k-funahashi@gifuuoken.ac.jp			

実習科目				る た め に 必 要 な 能 力 を 達 成 す	人間力	
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				ケア・スピリット	
授業コード	111098				実践的理解	○
授業科目名	統合実習 I				プロフェッショナリズム	○
配当学年 / 学期	4年 前期 必修	単位数	4		多職種連携	○
担当教員	石井英子, 野田みや子, 山本澄子, 内藤直子, 夢喜田恵子, 船橋香緒里, 藤原奈佳子, 小萱康德, 鈴木岸子, 栃本千鶴, 永坂和子, 平岡翠, 栗津昌枝, 小野悟, 石田美和, 近藤邦代, 梶原志保子, 吉崎純夫, 高久道子, 高木由美, 水木幸子, 原田英子, 安田仁代【全員実務家該当教員】					

講義概要（実習目的）		
本臨地実習では、既習の知識と技術を統合し、専門職業人としての自覚と倫理観に基づく看護の対象者への看護実践能力を習得することを目的とする。複数の看護の対象者に対し、限られた時間内で必要なケア提供や保健福祉医療チームの中で、安全かつ質の高い看護を効率的に提供していくための看護管理・多職種との連携・協働について理解し、専門職業人として必要なスキルを明確にする。		
授業内容（実習目標）		
1. 学生4名で1グループを編成し、2週間の集中実習を行う。 2. 看護の総合的実践能力を高めるために、組織における看護マネジメントの実際を理解することができる。 3. 組織の看護管理者（看護部長・副部長・師長・副師長等）や専門看護師/認定看護師/各分野の専門職の 看護の役割を理解し、実践を学ぶことができる。 4. 医療安全・質の高い看護を提供するための仕組みを学ぶことができる。 5. 多職種との連携・協働の実際を学び、保健医療福祉チームの看護師の役割を理解することができる。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
1. 該当領域の単位を取得。 2. 実習要項に準ずる。		
教材		
なし		
授業計画及び学習課題（予習・復習）		
週	曜日	実習計画 例（各施設の方針や体制に合わせて日時・内容を決定する）
第1週目	月	・看護部長等の臨床講義(理念・方針・看護体制・組織の仕組み・病院経営・地域包括ケアシステム・ワークライフバランス・教育体制・看護方式等) ・組織内の専門的看護（医療安全・感染対策・専門看護師・認定看護師・院内認定等） ・病棟看護責任者の講義(方針・病棟の仕組み・勤務表作成・委員会・多職種連携) ・病棟看護責任者の勤務の実際の見学 ・病棟主任またはリーダーの勤務の実際の見学 ・受け持ち患者の決定、情報収集、計画立案 ・カンファレンスや委員会等の参加
	火	
	水	
	木	
	金	
第2週目	月	・病棟のケアプランに沿って見学実習 ・優先度を考慮した看護ケアの実践と評価（3日間） ・他部門の見学 ・管理者または専門看護に携わる看護師にインタビュー
	火	
	水	
	木	・施設内実習成果報告会
	金	・学習成果発表会、記録整理・提出
評価方法		
原則として実習担当者が評価する。		
オフィスアワー		
実習指導教員とのアポイントにより、時間調整をしてください。		

実習科目					る デ イ め ブ に 必 マ 要 ポ ナ リ 能 シ 力 を 達 成 す	人間力	
科目区分	専門教育科目－看護の展開					ケア・スピリット	
授業コード	111099					実践的理解	○
授業科目名	統合実習Ⅱ					プロフェッショナリズム	○
配当学年/ 学期	4年 前期 必修	単位数	2			多職種連携	○
担当教員	石井英子, 野田みや子, 山本澄子, 内藤直子, 多喜田恵子, 船橋香緒里, 藤原奈佳子, 小萱康德, 鈴木岸子, 栃本千鶴, 永坂和子, 平岡翠, 栗津昌枝, 小野悟, 石田美和, 近藤邦代, 梶原志保子, 吉崎純夫, 高久道子, 高木由美, 水木幸子, 原田英子, 安田仁代【全員実務家該当教員】						

講義概要（実習目的）		
統合実習Ⅱでは、岐阜県の医療構想の実現と地域包括ケアシステム等の推進のために、岐阜保健大学研究センターにおいて多職種との連携・協働の実現性をめざして行う実習である。 「地域貢献実習」は、成育支援実習（「母性看護学・小児看護学」）、「地域生活支援実習」（「地域・在宅看護学」「精神看護学」）「成人・老年看護学」である。それぞれの実習は1単位とし、必修である。		
授業内容（実習目標）		
「地域貢献実習」（「地域・在宅看護学」「精神看護学」）、「成育支援実習」（「母性看護学・小児看護学」）、「地域生活支援実習」（「成人・老年看護学」及び「基礎看護学」：（1単位 必修）、シミュレーションセンターと研究センターにおける専門性に応じた目標に沿って実施する。該当学生に応じてグループ分けされる。それぞれ、25人グループさらに小グループを区分する。シミュレーションおよび研究センターの分類は、10日間を3分割し、3日間とし、1日は統括発表とする。		
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）		
1．該当領域の単位を取得。 2．実習要項に準ずる。		
教材		
適時配布する		
授業計画及び学習課題（予習・復習）		
週	曜日	実習計画 例（各施設の方針や体制に合わせて日時・内容を決定する）
第1週目	月	「地域貢献実習」、「成育支援実習」、「地域生活支援実習」のオリエンテーションを行い、各実習期間は3日間、最後の日は統括発表会とする。
第2週目	火	
評価方法		
原則として実習担当者が評価する。		
オフィスアワー		
実習指導教員とのアポイントにより、時間調整をしてください。		

実習科目				る デ イ ブ に 必 要 な 能 力 を 達 成 す		
科目区分	看護専門教育科目-看護の統合				人間力	
授業コード	111100				ケア・スキル	
授業科目名	看護の統合と実践				実践的理解	○
配当学年/ 学期	4年 通年 必修	単位数	2		プロフェッショナリズム	○
担当教員	石井英子, 野田みや子, 山本澄子, 内藤直子, 多喜田恵子, 船橋香緒里, 藤原奈佳子, 小萱康徳, 鈴木岸子, 栃本千鶴, 永坂和子, 平岡翠, 栗津昌枝, 小野悟, 石田美和, 近藤邦代, 梶原志保子, 吉崎純夫, 高久道子, 高木由美, 水木幸子, 原田英子, 安田仁代【全員実務家該当教員】				多職種連携	○

講義概要（実習目的）			
本学部で学修した看護の理論と実践の知識について、各看護領域のテーマを掘り下げて包括的かつ統合的に学ぶ科目である。看護領域の各テーマについて、具体的な事例を用いたケーススタディを通じて、看護実践の理解と考察を深める。担当教員は、看護職として必要となる実践的な知識や知見を教授し、看護職としての問題解決能力を養成する。原則として全ての専任教員が担当し、少人数での演習方式でクラス運営を行い、学生の能動的な学修を促す。			
授業内容（実習目標）			
1. 各看護領域のテーマを掘り下げて包括的かつ統合的に学び、看護領域の看護実践の理解と考察を深める。 2. 現代における看護職の活動やその多彩な場面を学び、社会の中で看護職が果たす役割やマネジメントの重要性を理解することができる 3. 看護職としてのキャリアマネジメントをについて理解し、自己のキャリア形成を考察することができる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
基礎知識を理解するには各回の授業テーマに合わせた課題に対して自己学習を行う。授業内容の理解を促進するためには、自己学習をしてから、授業に臨むこと。 授業は、グループワークを中心とした自己学習と、ポイントでの確認試験と振り返りを実施する。			
教材			
適宜提示する。			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	ガイダンス 担当者・担当領域説明	予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	可
第2回 ～ 第4回	看護におけるマネジメントの目的と方法 医療看護における質の保証と評価、改善の仕組み 看護業務のマネジメント 看護師の働き方のマネジメント	予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	可
第5回	確認試験と振り返り	予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	可
第6回 ～ 第9回	災害時の医療を支えるしくみ 災害各期の特徴と看護 発災からの経過に応じて被災者に提供される診療や支援を促進するための看護	予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	可
第10回	確認試験と振り返り	予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	可
第11回 ～ 第14回	グローバル化に伴う世界の健康目標と課題 グローバルな社会における看護 基礎医学領域の理解と考察を深める	予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	可

第15回	確認試験と振り返り	予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	可
第16回 ～ 第19回	複合的な状況にある対象や、複合的に提供されている看護の状況を判断し、危険を回避する取り組み	予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	可
第20回	確認試験と振り返り	予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	可
第21回 ～ 第24回	看護の提供者が、看護場面において自身の安全を確保するための総合的な判断や対応	予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	可
第25回	確認試験と振り返り	予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	可
第26回 ～ 第29回	多職種連携、地域包括ケア健康支援と社会保障制度	予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	可
第30回	確認試験と振り返り	予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	可
第31回 ～ 第34回	成人老年看護学領域の看護実践の理解と考察を深める	予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	可
第35回	確認試験と振り返り	予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	可
第36回 ～ 第39回	母性小児看護学領域の看護実践の理解と考察を深める	予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	可
第40回	確認試験と振り返り	予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	可
第41回 ～ 第44回	在宅・精神看護学領域の看護実践の理解と考察を深める 最終確認試験	予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	可
第45回	振り返り、まとめ	予習：指定された資料に目を通す 復習：配布資料を読み返し、課題を整理する	可
評価方法			
試験70%、参加状況20%、担当者全員による最終評価10%とする。			
オフィスアワー			
実習指導教員とのアポイントにより、時間調整をしてください。			

講義科目				る デ イ め ブ に 必 マ 要 な 能 力 を 達 成 す	人間力	
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				ケア・スピリット	
授業コード	111101				実践的理解	○
授業科目名	看護研究Ⅰ				プロフェッショナリズム	○
配当学年/ 学期	3年 前期 必修	単位数	1		多職種連携	○
担当教員	石井英子, 野田みや子, 山本澄子, 内藤直子, 多喜田恵子, 船橋香緒里, 藤原奈佳子, 小萱康德, 鈴木岸子, 栃本千鶴, 永坂和子, 平岡翠, 栗津昌枝, 小野悟, 石田美和, 近藤邦代, 梶原志保子, 吉崎純夫, 高久道子, 高木由美, 水木幸子, 原田英子, 安田仁代【全員実務家該当教員】					

講義概要			
「看護研究Ⅰ」では、大学における研究の定義、研究における基礎的手法、倫理的配慮、文献検索、研究方法の種類、質的研究・量的研究、文献クリティークなど、看護研究に関する基礎的知識を学ぶとともに、4年次の「看護研究Ⅱ」に向け、学生自身が選んだテーマについてそれぞれの探究を深め、授業はその発表や意見交換を中心に行う。少人数での演習形式で授業を行い、原則として全ての専任教員が担当する。			
授業内容（到達目標を含む）			
本科目では、看護職者の研究力を身につけるために、到達目標として以下を目指す。 1. 看護研究の目的と意義を説明できる。 2. 看護研究のプロセスを説明できる。 3. 文献検索の目的と方法を説明できる。 4. 文献のクリティークと文献レビューを実施できる。 5. 研究における倫理的配慮を説明できる。 6. 「看護研究Ⅱ」に向けて自身の研究課題をイメージできる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
本科目は、看護研究の進め方を実践的に学ぶために、講義を演習（ゼミナール）を組み合わせた授業を行う。また、課題に基づく予習や復習を前提とした授業を行うため、教科書だけでなく授業で紹介する文献などを読み、自己学修をしてから授業に臨むこと。 本科目の第1回から第7回までは、講義を中心に看護研究の基礎的プロセスを学修する。授業では毎回、学修課題（予習・復習）を提示する。学修課題はその都度提出すること。毎回授業でミニッツノートを渡す。授業に対する意見や質問などあればそこに記入すること。ミニッツノート・小テストの内容は授業時間内に解説する。また、各自の理解度を確認するための小テストを行う。 第8回から15回までは、自身の興味や関心のあるテーマごとに分かれて、担当教員の指導のもとで学修を進める。なお、本科目の単位を取得しなければ、4年次の「看護研究Ⅱ」を履修することができない。			
教材			
テキスト「改訂5版 看護研究サポートブッカー研究計画書がラクラク完成！」足立はるゑ著、メディカ出版、20年、2,800円（+税込） 参考図書 適宜、紹介する。			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	看護研究とは：看護研究の目的、意義、特徴、歴史	予習：事前課題レポート①を行う 復習：学修振り返りレポート①を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	
第2回	看護研究のデザインと種類：看護研究の問いの立て方、研究デザイン	予習：事前課題レポート②を行う 復習：学修振り返りレポート②を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	
第3回	研究プロセスの方法①：研究課題の明確化、文献検索と文献検討の目的と方法（多喜田）	予習：事前課題レポート③を行う 復習：学修振り返りレポート③を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	

第4回	研究プロセスの方法②：研究論文の批評（クリティーク）、文献レビューの記述	予習：事前課題レポート④を行う 復習：学修振り返りレポート④を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	
第5回	研究デザイン：研究の設定と方法の選択、量的研究の特徴、質的研究の特徴	予習：事前課題レポート⑤を行う 復習：学修振り返りレポート⑤を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	
第6回	看護研究における倫理的配慮：研究倫理とは、研究倫理ガイドライン	予習：事前課題レポート⑥を行う 復習：学修振り返りレポート⑥を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	
第7回	文献レビューの実際：医学中央雑誌Web・J-STAGE・OPACなどの和文献、Pub Med・MEDLINE・CINAHLなどの欧文献検索	予習：事前課題レポート⑦を行う 復習：学修振り返りレポート⑦を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	
第8回	関心のある研究課題の検討	予習：事前課題⑧を行う 復習：事後課題⑧を行う。 予習時間：60分、復習時間60分	
評価方法			
小テスト（50％）、レポート（30％）、プレゼンテーション（20％）			
オフィスアワー			
多喜田：毎週月曜日16時10分から17時30分 事前にアポを取って下さい。 (連絡先) k-takita@gifuuoken.ac.jp			

講義科目				す デ イ ブ に マ ホ リ シ ー を 達 成	人間力	
科目区分	専門教育科目 -看護の展開				ケア・スピリット	
授業コード	111102				実践的理解	○
授業科目名	看護研究Ⅱ				プロフェッショナリズム	○
配当学年/ 学期	4年 通期 必修	単位数	2		多職種連携	○
担当教員	石井英子, 野田みや子, 山本澄子, 内藤直子, 多喜田恵子, 船橋香緒里, 藤原奈佳子, 小萱康德, 鈴木岸子, 栃本千鶴, 永坂和子, 平岡翠, 栗津昌枝, 小野悟, 石田美和, 近藤邦代, 梶原志保子, 吉崎純夫, 高久道子, 高木由美, 水木幸子, 原田英子, 安田仁代【全員実務家該当教員】					

講義概要			
「看護研究Ⅱ」では、「看護研究Ⅰ」で修得した基礎的研究能力を踏まえて、学生一人ひとりが、臨地実習等を含めた4年間の看護の学びから関心のあるテーマを設定し、文献検索・データ収集・分析・考察を進め、研究成果としてまとめる。本科目での研究への取り組みを通じて、卒業後も生涯持続的に学び続ける姿勢も身につける。指導教員による少人数指導を演習形式で行い、原則として全ての専任教員が担当する。			
授業内容（到達目標を含む）			
1 看護研究の意義と主な研究方法の特徴を説明できる。 2 看護研究における学術情報の探索方法を説明できる。 3 看護研究の過程で学術情報を探索し活用できる。 4 自ら関心ある研究テーマを設定できる。 5 研究計画書を作成できる。 6 研究計画に基づいて、研究を実施できる。 7 研究成果をもとに、論文を作成できる。 8 研究成果を発表し、相互評価を行うことができる。			
留意事項（履修条件・授業時間外の学修）			
・「看護研究Ⅰ」で学習したことを踏まえ、「看護研究Ⅱ」では、将来の研究活動の基盤となる研究に関する基礎の知識・技術を体得しましょう。 ・系統的な学術情報検索を通して研究課題に関する文献を吟味しましょう。 ・各自の研究計画に沿って研究を実施し、指示された期限までに、担当の先生の指導に基づいて、論文作成や発表の準備を進められるよう、授業以外の時間を計画的に活用しましょう。			
教材			
必要に応じて資料を配布する。			
授業計画及び学習課題（予習・復習）			
回	内容	学習課題（予習・復習）	遠隔授業
第1回	・オリエンテーション ・担当教員決定 ・研究Ⅱの、方法と進め方	担当教員との打ち合わせにより、今後の方向性を検討する	可
第2回	研究の実施	指導教員の助言を得て研究テーマを決定し、研究計画に従って研究を進める	可
第3回	研究の実施	指導教員の助言を得て研究テーマを決定し、研究計画に従って研究を進める	可
第4回	研究の実施	指導教員の助言を得て研究テーマを決定し、研究計画に従って研究を進める	可
第5回	研究の実施	指導教員の助言を得て研究テーマを決定し、研究計画に従って研究を進める	可
第6回	研究の実施	指導教員の助言を得て研究テーマを決定し、研究計画に従って研究を進める	可

第7回	研究の実施	指導教員の助言を得て研究テーマを決定し、研究計画に従って研究を進める	可
第8回	研究の実施	指導教員の助言を得て研究テーマを決定し、研究計画に従って研究を進める	可
第9回	研究の実施	指導教員の助言を得て研究テーマを決定し、研究計画に従って研究を進める	可
第10回	研究論文の作成	指導教員の助言のもと、論文を作成する。	可
第11回	研究論文の作成	指導教員の助言のもと、論文を作成する。	可
第12回	研究論文の作成	指導教員の助言のもと、論文を作成する。	可
第13回	研究論文の作成	指導教員の助言のもと、論文を作成する。	可
第14回	研究成果の発表 【ポスター発表、プレゼンテーション】	研究成果の発表会を実施する	不可
第15回	研究成果の発表 【ポスター発表、プレゼンテーション】	研究成果の発表会を実施する	不可
評価方法			
研究への取り組みおよび論文作成過程とその発表を通して評価する。			
オフィスアワー			
各担当教員にアポイントを取って、指導を受けてください。			